569-156
1200501517713
569
156

五十三次
大尾
京
廣重画

帝國圖書館藏

改版

日本案内記

近畿篇 上

納本

鐵道省

改版 日本案内記 近畿篇 上

569
156

例言

一本篇は昭和七年に刊行した近畿篇上を増補改版したものである。

一本篇上巻には京都府、滋賀縣の大部分を記載し、交通線の關係上兵庫縣の一部を附記した。

一概説は近畿地方全般に亙つて記述し、これを上巻の始めに置いた。而して近畿地方は我が國美術の淵叢であるから特に「美術」の一項を設けて各時代の推移を説いた。

一案内編記事はまづ京都及び近郊を記し、次いで京都米原間、京都鳥取間に及んだ。

一假名遣は參考語彙、索引を除くの外、從來の假名遣を用ゐた。

一度量衡はメートル法と在來の度量衡法を併用した。尙參考の爲め、メートル

ル法換算表を附した。

一　主要なる史蹟、名勝、社寺、温泉等には★印を附して旅行者の參考に供することゝした。

一　旅館名の下の宿泊料はジャパン・ツーリスト・ビューロー（日本旅行協會）クーポン加盟旅館の料金である。以て一般旅館宿泊料の參考となることゝ思つて記入した。

一　本篇には案内記事中に見ゆる美術、建築、社寺、宗教、武事、遺蹟その他に關する主なる用語に就いて簡單なる説明を加へた參考語彙と年號索引を附錄とした。近畿篇上下のみならず、日本案内記各篇を讀まるゝ際の參考となろうと思ふ。

一　線路記事中驛名の下に示せる粁程は前驛からの距離である。

一　檢索の便を圖り、巻末に索引を附した。

昭和十六年五月

改版　日本案内記近畿篇上　目次

一　口繪　調馬圖

一　例言

一　概説……………………一―九〇

位置　區域……………………一
地形　地質……………………一
氣候……………………二
動植物……………………三
行政區劃……………………五
風俗……………………七
方言……………………一二
産業……………………一四
沿革と史蹟……………………一五
社寺……………………四三
御陵……………………四五
美術……………………五〇
學術上の施設……………………七八
名勝と溫泉……………………七九
交通……………………八六

一　案内篇

京都市及近郊……………………九一―二八五

京都驛……………………九一
京都市　御所及び離宮　觀光案内所その他　會館　倶樂部　公園、動植物園、博物館　競馬場　ゴルフ場　劇場、寄席　映畫館　能舞臺　百貨店　ホテル　旅館　日本料理店　西洋料理店　支那料理店　土産物　西陣織物　友禪染　刺繡　淸水燒　粟田燒　漆器　年中行事　京都附近の交通機關

一　中央部……………………一〇五

市設京都觀光案内所　東本願寺　渉成園　藪の内氏茶亭　西本願寺　本圀寺　興正寺　龍谷大

學東寺 觀智院客殿 西寺址 羅城門址 壬生寺 壬生狂言 新選組壬生屯所址 六角牢屋址 長講堂 御影堂 平等寺 佛光寺 光薗院 大行寺 賀茂川 高瀨川 高瀨川一之船入 五條大橋 四條大橋 大雲院 新京極 染殿地藏 坂本龍馬遭難地 誓願寺 和泉式部寺 三條大橋 鴨川踊 矢田寺 池田屋騷動舊址 本能寺 佐久間象山遭難碑 大村益次郎殉難碑 妙滿寺 下御靈神社 六角堂 神泉苑 恩賜元離宮二條城 伊藤仁齋舊宅址竝書庫 護王神社 京都御所 明治天皇行幸所木戶邸 革堂 賴山陽書齋 橫井小楠殉節地 京都府立醫科大學 立命館大學 梨木神社 清淨華院 大久保利通舊邸 遺仰院 同志社大學 相國寺 上御靈神社 大光明寺 賀茂御祖神社 京都植物園 賀茂別雷神社 太田の澤のかきつばた發生地 深泥池水生植物群落 白峯神宮 瑞光院 興聖寺 三時知恩寺 地藏立像板碑 妙覺寺 妙顯寺 本法寺 千家茶亭 寶慈院 堀川 名和長年碑 戾橋 西陣織物館 妙蓮寺 般舟院 大報恩寺 石像寺 西方寺 北野神社 御土居 椿寺 紙屋川 野寺址 平野神社 金閣寺 船岡山 建勳神社・今宮神社 西向寺 紫野 大德寺 黃梅院本堂 眞珠庵 聚光院 總見院 大仙院本堂 大仙院書院庭園 龍光院 孤篷庵 孤篷庵庭園 大德寺の墓碑 大谷大學 神光院 正傳寺 鐘打山光悅寺

二 東山方面(賀茂川以東)……一五四

三十三間堂 養源院 大興德院 新熊野神社の樟 今熊野觀音 恩賜京都博物館 豐國神社 大佛殿 耳塚 智積院 妙法院 西大谷 梅田雲濱墓 淸閑寺 鳥部山 淸水寺 六波羅蜜寺 建仁寺 禪居院襖繪 珍皇寺 八坂の塔 高臺寺 靈山護國神社 正法寺 東大谷 圓山公園 祇園の枝垂櫻 雙林寺 將軍塚 八坂神社 祇園祭 仲源寺 南座 都踊 知恩院 市設無料休憩所 靑蓮院 檀王法林寺 寂光寺 本妙寺 粟田神社 岡崎公園 記念動物園 府立圖書館 公會堂 大日本武德會本部 平安神宮 時代祭 相輪樘 南禪寺 南禪寺庭園 金地院 天授庵 禪林寺 若王子神社 如意ヶ岳 大文字送火 安樂寺 法然院 銀閣寺 眞正極樂寺 金戒光明寺 聖護院 聖護院舊假皇居 陽成天皇神樂岡東御陵 宗忠神社 吉田神社 京都帝國大學 京都帝大文學部陳列館 東方文化學院京都研究所 知恩寺 白河

三 叡山、鞍馬方面……二〇三

石川丈山墓 詩仙堂 曼殊院 修學院離宮 林丘寺 赤山禪院 蓮華寺 八瀨遊園地 比叡山 比叡山鳥類蕃殖地 三千院 後鳥羽天皇大原御陵 順德天皇大原御陵 勝林寺 來迎院 寂光院 三宅八幡宮 實相院 岩倉具視幽棲舊宅 心光院 栗栖野瓦窯址 貴船神社 鞍馬寺 由伎社拜殿 鞍馬山 峯定寺 福田寺

四 嵐山、三尾、愛宕方面……二一六

等持院 衣笠山 龍安寺庭園 妙心寺 玉鳳院 靈雲院書院 天球院本堂及襖繪 春光院南蠻寺 銅鐘 法金剛院 雙ヶ岡 仁和寺 御室櫻 了德寺 常樂院 五智山石佛群 地藏堂 高雄神護寺 槇尾西明寺 栂尾高山寺 天塚古墳 廣隆寺 太秦の牛祭 西光寺 車折神社 遍照寺 廣澤池 天龍寺 臨川寺 鹿王院 小督塚 嵐山公園 嵐山 大悲閣 嵐山鑛泉 法輪寺 松尾神社 月讀神社 西芳寺 長福寺 梅宮神社 野宮神社 落柿舍 常寂光寺多寶塔婆 二尊院 小倉山 厭離庵 淸凉寺 棲霞寺 小楠公首塚 大覺寺 大澤池 直指庵 愛宕念佛寺 淸瀧川 愛宕山 月輪寺

五 稻荷、桃山方面……二三八

東福寺 同聚院 永明院 海藏院 靈源院 退耕庵 靈雲院 桂昌院 願成寺 仲恭天皇九條御陵 藤原俊成墓及明兆墓 法性寺 泉涌寺

戒光寺　月輪御陵及後月輪御陵　孝明天皇後月
輪東山御陵　稻荷神社　荷田東滿舊宅　石峰寺
寶塔寺　瑞光寺　深草北御陵　雀のお宿　安樂
壽院　鳥羽天皇安樂壽院御陵　近衞天皇安樂壽
院南御陵　白河天皇成菩提院御陵　眞幡寸神社
藤森神社　佛國寺黃檗高泉和尙碑　御香宮神社
桓武天皇柏原御陵　桃山城址　明治天皇伏見桃
山御陵　伏見桃山東御陵　乃木神社　大光明寺
御陵　京橋　寺田屋騷動の碑　觀月橋　三夜莊
巨椋池

六　醍醐、山科方面……二五三
花山天文臺　日の岡　天智天皇山科御陵　安祥
寺　奴茶屋　毘沙門堂　山科御坊　京都カンツ
リークラブゴルフ場　坂上田村麻呂墓　大石良
雄隱宅址　大石神社　勸修寺　牛尾觀音法嚴寺
隨心院　醍醐寺　光臺院　一言寺觀音　醍醐天
皇後山科御陵　朱雀天皇醍醐御陵　小栗栖明智
藪　法界寺　日野誕生院

七　宇治、南山城方面……二六四
能化院　許波多神社　西導寺　黃檗山萬福寺
蜻蛉石　三室戶寺　十八神社　宇治川　宇治町
宇治橋　橋寺　宇治神社　宇治上神社　興聖寺
朝日燒　朝日山　宇治茶　平等院鳳凰堂　十三
重石塔婆　淨土院客殿　扇の芝　縣神社　禪定
寺　地藏院　白山神社　久津川車塚古墳　雙栗
神社　稱名寺　久世神社　荒見神社　水度神社
靑谷梅林　井手玉川　壽寶寺　佐牙神社本殿
法泉寺石塔婆　觀音寺　蟹滿寺　神童寺　松尾
神社　若王寺　酬恩庵　大住の車塚

八　桂、向日町、山崎、八幡方面……二七八
桂離宮　天皇の杜古墳　寶菩提院　大原野神社
勝持寺　長岡宮址　向神社　善峰寺　遊龍松
乙訓寺　光明寺　長法寺　長岡天滿宮　楊谷寺
妙喜庵　天王山　寶積寺三重塔婆　酒解神社神
輿庫　淀町　淀川　石淸水八幡宮　藥薗寺
神應寺　神應寺の大樟　圓福寺　八角院　橋
木

京都、米原間……二八六—三八八
大津驛……二八六
大津市　乘念寺　平野神社　義仲寺　逢坂山と
逢坂關址　安養寺　長等山　尾藏寺　近松寺
長等公園　大練寺　園城寺　フェノロサ墓　弘
文天皇長等山前御陵　近江神宮　崇福寺址　梵
釋寺址　臨湖實驗所　琵琶湖　八景巡り　島巡
り　竹生島　寶嚴寺　都久夫須麻神社　多景島
白石　滋賀里百塚　寶光寺　盛安寺　日吉神社
比叡山延曆寺　求法寺　滋賀院　乘實院　惠日
院　玉蓮院　寶藏坊　安樂律院　西敎寺　生
源寺　唐崎の松　眞光寺　來迎寺　雄琴鑛泉
福領寺　眞迎寺　專念寺　堅田町　滿月寺　伏
龍祠　新知恩院　慈眼院　神田神社本殿　西岸
寺　天皇神社本殿　小野篁神社　小野道風神社
小野妹子墓　還來神社　明王院　地主神社　比
良山　比良登山　志賀淸林墓　雄松崎　楊梅瀑
布　白鬚神社　近藤重藏墓　稻荷山古墳　藤樹
書院址　藤樹神社　正法寺　大善寺　保福寺
朽木溪谷　朽木スキー場　興聖寺　舊秀隣寺庭
園　洞照寺　饗庭野
琵琶湖線……三二六
藥師堂　牧野スキー場　宗正寺　天神社法華
經　知內鱒孵化場　海津大崎　長緣寺　稱福
寺
石山驛……三二七
膳所　杉浦重剛邸　梅仙窟　羅漢堂釋迦像　篠
津神社表門　淸德院　膳所神社表門　和田神社
本殿　石座神社神像　茶臼山古墳　粟津原　瀨
田橋　建部神社　石山寺　石山寺硅灰石　田上
山　不動寺本堂　安樂寺　正法寺　正法寺　春
日神社本殿　立木觀音　法樂寺　若王寺　正願
寺　宇治川探勝
草津驛……三三四
草津町　うばもち家　明治天皇草津行在所　常

善寺　光傳寺　藥師堂藥師坐像　老杉神社　新
宮神社　野路の玉川　鞭崎神社　矢橋浦　石津
寺　伊砂砂神社　淨光寺　蓮臺寺　大寶神社
草津線……三三七
宇和宮神社社殿　安養寺　地藏院　新善光寺
吉御子神社　常樂寺　長壽寺　善勝寺　金體
寺　大野神社　春日神社表門　山口寺　正德
寺　金勝寺　善提禪寺　廢小菩提寺石造多寶
塔及石佛　正福寺　永嚴寺　天保義民碑　三
雲村美松自生地　永照院　上乘寺　妙感寺
善水寺　智禪院　泉福寺　持寶寺　福照寺
永昌寺　飯道寺　飯道神社　紫香樂宮址　信
樂町　信樂燒　鹽野、宮乃鑛泉　淨福寺　新
宮神社表門　正福寺　嶺南寺　伊勢廻寺　福
龍寺　誓蓮寺　藥師堂　妙音寺　安樂寺　大
福寺　龍福寺　長福寺　光明寺　油日神社
大鳥神社　長福寺　常光寺　櫟野寺　阿彌陀
寺

龜草線……三四八
水口町　大岡寺　水口神社　願龍寺　千光寺
八坂神社　土山町　明治天皇土山行在所　賀
茂神社　常明寺　清凉寺　田村神社　長松寺
大平寺　鈴鹿峠　鈴鹿舊街道　坂下不斷櫻

福林寺　源氏螢發生地　一里塚　東福寺　東門
院　勝部神社　安樂寺　藥師堂佛頭　觀音寺
常敎寺　蓮海寺　寶光寺　懸所寶塔　小津神社
觀音堂聖觀音坐像　野洲町　宗泉寺　悠紀齋
田　御上神社　三上山　聖應寺阿彌陀坐像　報
恩寺　眞福寺　稻荷神社舊本殿　生和神社社殿
常念寺　安樂寺　圓光寺　蓮乘寺　佛性寺
錦織寺　觀音堂十一面觀音立像　法藏寺　佛法
寺　兵主神社　藥師堂藥師坐像　莊嚴寺　上野
神社神像　光照寺　來迎寺　大日堂大日坐像
藥師堂藥師坐像　小田神社　西願寺　鏡神社社
殿　鏡山窯址及古墳　鏡山　大篠原神社　岩藏

寺
近江八幡驛……三六〇
長樂寺　光明寺　太郎坊
八幡線……三六〇
八幡町　八幡神社　圓滿寺　寶珠寺　專稱寺
大嶋神社、奧津嶋神社　長命寺　伊崎寺　沖
島　願成就寺　願福寺　生蓮寺　水莖岡　西
光寺　馬見岡神社　八幡社社殿　觀音堂聖觀
音立像　福壽寺　冷泉寺　西來寺　正光寺
龍王寺十二神將立像　苗村神社　正覺院　毘
沙門堂藥師坐像　阿彌陀堂天部形立像　勝手
神社　吉祥寺　西榮寺

沙沙貴神社　淨嚴院　安土城址　總見寺　會勝
寺觀音堂　東光寺　桑實寺　觀音正寺　慈恩寺
老蘇森　伊庭內湖　伊庭村遊園地　寄須ヶ濱
石馬寺　觀道寺　宇曾川堤の櫻
彥根驛……三七二

彥根市　井伊大老像　護國神社　彥根城址　玄
宮園、樂々園　來迎寺　水產試驗場　松原內湖
佐和山城址　大洞辨財天　井伊神社　天寧寺
許六五老庵址　少林寺　上品寺　摺針峠　多賀
神社　多賀神社奧書院庭園　眞如寺　胡宮神社
社務所庭園　河內の風穴　多賀スキー場　甲良
神社　勝樂寺　西明寺　矢取地藏堂　金剛輪寺
明壽院　常照庵　大行社社殿　豐滿神社　押立
神社　善明寺　春日神社本殿　百濟寺　南花澤
及北花澤花の木自生地　八日市町　生蓮寺　瓦
屋寺　興福寺　永源寺　慈眼寺　石塔寺三重塔
婆　法光寺　誓安寺　竹田神社神像　高木神社
梵釋寺　法雲寺　金剛定寺　光明院　日野町
比都佐神社石造寶篋印塔　金剛寺　正明寺　毘
沙門堂十一面觀音立像　西明寺　西大路の左卷
榧　綿向神社　綿向山　鎌掛谷石楠花群落地
安樂寺
京都鳥取間……三八九―四二一

京鶴線……………………三八九
山國村　山國神社　常照寺の九重櫻　福德寺　中道寺
保津川下り　龜岡城址　穴太寺　金剛寺　神藏寺　薭田野村菫青石假晶　國分寺　丹波國分寺址　出雲神社　極樂寺　普濟寺　寶林寺
園部驛……………………三九五
園部天滿宮　春日神社
園篠線……………………三九六
九品寺　摩氣神社　琉璃溪
園福線……………………三九七
九手神社　生野の里
大福光寺　光明寺
綾部驛……………………三九八
綾部町　養蠶神社　並松遊船場　楞嚴寺　質志鍾乳洞
舞鶴線……………………三九九
安國寺　岩王寺
舞鶴驛……………………四〇〇
舞鶴市　舞鶴公園　圓隆寺　朝代神社
東舞鶴驛……………………四〇二
東舞鶴市　毘沙門堂　おほみづなぎどり蕃殖地　金剛院　松尾寺
宮津線……………………四〇三
由良海水浴場　宮津町　智恩寺　天橋立　籠神社　傘松公園　成相寺　成相山スキー場　金剛心院　禪海寺　妙立寺　丹後國分寺址　與佐內海
大內峠　板列八幡神社　蛭子山古墳　作山古墳　銚子山古墳　神明山古墳　鄉村斷層　木津溫泉　函石濱遺物包含地　濱詰海岸　久美濱湖　神谷神社　宗雲寺　本願寺　小天橋海水浴場　文常寺
福知山驛……………………四一二
福知山市　福知山城址　御靈神社　一宮神社　天寧寺　元伊勢皇大神社　才の神の藤　大江山
夜久野スキー場
名草神社　妙見の大杉　鉢伏山スキー場　神鍋山スキー場　黑野神社　東樂寺　出石神社　鶴山　中島神社
豐岡驛……………………四一五
豐岡町　大石良雄夫人墓　柳の宮　雅成親王御墓
玄武洞　城崎溫泉　溫泉寺　竹野海水浴場　香住海岸　鎧ノ袖　大乘寺　帝釋寺　射添スキー場　小代スキー場　平家村　但馬御火浦　相應峯寺　湯村溫泉　扇の山

一附　錄

年號索引……………………四二二
參考語彙……………………四三一

一索　引

挿圖目次

一　京都中央部……………………一九六
二　東山方面……………………一六〇
三　三尾、愛宕、嵐山方面……………二二四
四　稻荷、桃山方面………………二四〇
五　京都から米原へ………………二九九
六　京都から鳥取へ………………三九〇

寫眞目次

一　京の友禪……………………九六
二　京人形……………………九六
三　東本願寺……………………九六
四　西本願寺飛雲閣………………九六
五、東寺觀智院虛空藏像……………九六
六　二條城……………………九六
七　下賀茂神社…………………九六
八　上賀茂神社…………………九六
九　葵祭……………………九六
一〇　北野神社…………………九六
一一　金閣……………………九六
一二　大德寺孤篷庵庭園……………九六
一三　三十三間堂內………………一六〇
一四　養源院杉戸繪………………一六〇
一五　六波羅蜜寺傳運慶像…………一六〇
一六　靈雲院傳元信筆山水圖…………一六〇

一七　妙心寺友松筆三酸圖屛風………一六〇
一八　大德寺牧溪筆猿………………一六〇
一九　勸修寺刺繡釋迦說法圖…………一六〇
二〇　妙法院二十八部衆像…………一六〇
二一　知恩寺顏輝筆鐵枴圖…………一六〇
二二　神護寺傳隆信筆源賴朝…………一六〇
二三　建仁寺宗達筆風神屛風…………一六〇
二四　智積院襖繪………………一六〇
二五　豐國神社唐門………………一七六
二六　清水寺……………………一七六
二七　高臺寺蒔繪………………一七六
二八　圓山公園枝垂櫻……………一七六
二九　八坂神社表門………………一七六
三〇　八坂神社狛犬………………一七六
三一　祇園鉾……………………一七六
三二　都踊……………………一七六
三三　知恩院御影堂………………一七六
三四　知恩院庭園………………一七六
三五　平安神宮…………………一七六
三六　南禪寺虎の間………………一七六
三七　銀閣……………………一七六
三八　吉田神社大元宮………………一七六
三九　大原女……………………二二四
四〇　龍安寺庭園………………二二四
四一　妙心寺天球院襖繪……………二二四
四二　仁和寺の櫻………………二二四
四三　高雄の紅葉………………二二四
四四　廣隆寺如意輪觀音像…………二二四
四五　天龍寺境內………………二二四
四六　渡月橋……………………二二四
四七　嵐山……………………二二四
四八　松尾神社男神像………………二二四
四九　西芳寺湘南亭………………二二四
五〇　清凉寺釋迦像………………二二四
五一　大覺寺襖繪………………二二四
五二　東福寺三門………………二二四

五三　東福寺明兆筆聖一國師像……三二四
五四　稻荷神社千本鳥居……三二四
五五　伏見桃山御陵……三二四
五六　桃山乃木神社……三二四
五七　醍醐三寶院……三二四
五八　三寶院宗達筆扇面散屏風の一部……三二四
五九　醍醐寺五重塔婆……三二四
六〇　法界寺阿彌陀堂……三二四
六一　萬福寺山門……三二四
六二　宇治橋の展望……三二四
六三　平等院鳳凰堂……三二四
六四　鳳凰堂阿彌陀像……三二四
六五　善峯寺……三二四
六六　石清水八幡宮……三二四
六七　三井寺本堂……三〇四
六八　近江神宮……三〇四
六九　日吉神社三ッ橋……三〇四
七〇　日吉神社樓門……三〇四
七一　日吉神社神樂……三〇四
七二　大津膳所羅漢堂釋迦像……三〇四
七三　石山寺……三〇四
七四　石山寺多寶塔婆……三〇四
七五　石塔寺石塔婆……三〇四
七六　彦根城……三〇四
七七　出石鶴山……四一六
七八　玄武洞……四一六
七九　城崎溫泉……四一六
八〇　湯村溫泉……四一六

改版

日本案內記　近畿篇　上

概説

位置　區域

近畿地方は中部地方の西南に隣接して、內地樞要の位置を占める。この地方には山城、大和、河內、和泉、攝津、伊賀、伊勢、志摩、近江、丹波、丹後、但馬、播磨、紀伊、淡路の十五箇國あり、行政上京都、大阪の二府と兵庫、滋賀、三重、奈良、和歌山の五縣に分れ、西は中國地方に連り、播磨灘、紀伊水道を隔てゝ四國に對し、北は日本海に、南は太平洋に面し、東南は伊勢海に臨んで居る。全面積約三,000方粁で、關東地方よりやゝ大である。

地形　地質

概觀　近畿地方は我が南彎山系の內帶と外帶とを占め、この兩帶の境は紀の川、櫛田川の谷に當る。

北部　北部にある中國山脈の東部は內帶に當り、殆ど古生層、中生層の水成岩から成り、多年の水蝕を受けてよく切開され、高原狀に變じ、老年期の地貌を呈する。その主山地は丹波高原で、その北部に白山火山脈が通じて居る。

南部　南部にある紀伊山系は外帶に當り、北から南にかけて三波川系、秩父古生層、中生層、第三紀層排列し、土地峻險で壯年期の地貌を呈する。

中部　中部は內帶の一部に當り陷沒地帶多く、近江盆地、山城盆地、大和盆地、大阪平野、大阪灣等がある。また殘存した地塊には淡路島、金剛山脈、笠置山脈、比叡山脈、鈴鹿山脈、伊吹山脈あり、多くは南北に延びて居るが、和泉山脈の如きは東西に連つて居る。

河川　河流はこれ等の山地から發源し、日本海、瀨戶內海、太平洋、伊勢海の四斜面に分れる。紀伊半島では紀の川(一三四粁)、有田川(一〇三粁)、日高川(一六二粁)等は縱谷を成し、熊野川(一六一粁)の本支流は壯大なる橫

谷を成して居る。淀川（七九粁）は琵琶湖に發源する宇治川と、伊賀盆地から流下する木津川と、龜岡盆地から流下する桂川等を合せ、山崎の狹隘部を破つて大阪灣に注ぎ、その三角洲上には大阪の市街がある。なほ瀨戸內海斜面では大和川、武庫川、加古川、市川、揖保川、日本海斜面では由良川、朝來川、伊勢海斜面では宮川（一二四粁）、櫛田川、雲出川が著しく、瀨戸內海斜面に播磨平野、伊勢海斜面に伊勢平野が開けて居る。

琵琶湖　近江の陷沒地は伊吹、鈴鹿、比叡、笠置諸山脈の間にあつて、その大部分を占めるのは琵琶湖である。これは我が國第一の淡水湖で、面積約七〇〇方粁、湖中には地體の殘址たる奧、沖、多景、竹生等の諸島があつて、古火成岩から成つて居る。湖水の水面は海拔僅に八五米で、その水は瀨田川の峽流を成し、山城盆地に出て居る。湖に注ぐ諸川は山地の土砂を運んで沖積平野を作り、三角洲の發達が著しい。

氣候

概觀　近畿地方は溫帶の中央よりやゝ南部に位し、我が國で最も溫和適順の地であるが、位置地形の關係で各地の氣候は多少の差異を見、大體南北中の三部に分れる。

氣溫　一月平均氣溫は北部に二度以上、中部に四度、南部に六度以上であり、七月平均氣溫は各地概して二六度以上である。年平均氣溫は各地概ね一四度以上で、南部では一六度以上である。

氣壓　氣壓は概して西部に高く、東部に低く、等壓線は東方に彎出する傾向がある。梅雨頃の低氣壓は東支那海を經て北東に進み、夏秋の低氣壓はマリヤナ群島から北々東に進んで、本地方を襲ふことがあり、特に紀伊半島附近を通過するものが多い。冬季は北西の季節風有力であるが、夏季は南偏りの風が多い。

雨量　一月の雨量は北部の日本海岸地方に多いが、七月の雨量はこれに反して南部の紀伊半島に多い。年雨量は紀伊半島に最も多量で、三、〇〇〇粍を超える所あり、日本海沿岸地方は二、〇〇〇粍乃至二、五〇〇粍であるが、中部の瀨戸內海沿岸地方は著しく寡少で一、五〇〇粍未滿である。

降雪　初雪は十二月に見る所が多いが、高地では十一月に、暖地では一月に見る所もある。終雪も同一ではないが大體三月で、これより早い所もあり、遲い所もある。

動植物

植物　近畿地方の平地は北部暖帶林に屬し、かし、しひ、つばき、くす等の常綠濶葉樹の老樹の殘存を見るが、人口の增加、交通の發達につれて林相が大に變化して居る。山地は暖帶林から次第に溫帶林に移る。概して溫暖多濕な南部は植物が盛に生長し、木（紀伊）の國の名はそのために起つたと云ふ。高野山、吉野地方、大臺原山等には美林廣く連り、山城盆地の竹林も名高い。

左に近畿地方の天然記念物として指定された植物を示す。（中部篇既載の分を除く）

三雲村美松自生地	滋賀縣甲賀郡三雲村
西大路村左卷榧	同縣蒲生郡西大路村
鎌掛谷ほんしやくなげ群落	同縣同郡鎌掛村
南花澤及北花澤の花の木	同縣愛知郡東押立村
深泥池水生植物群落	京都市上京區下賀茂深泥池町
大田の澤のかきつばた群落	同市同區上賀茂
新熊野神社の樟	同市東山區今熊野椥ノ森町
祇園の枝垂櫻	同市同區祇園町
遊龍松	京都府乙訓郡大原野村
神應寺の大樟	同府綴喜郡八幡町
オノ神の藤	同府加佐郡有路上村
常照寺の九重櫻	同府北桑田郡山國村
和泉葛城山ぶな林	大阪府泉南郡西葛城村、岸和田市
妙國寺の蘇鐵	堺市材木町
磯良神社のいぼざくら	大阪府三島郡三島村
富壽榮の松	同府同郡富田町
薰蓋樟	同府北河內郡二島村
高羽の樟	神戶市
六甲くろがねもち	芦屋市
蘆屋の松	同
尾上の松	兵庫縣加古郡尾上村

曾根の松　兵庫縣印南郡曾根町
生島樹林　同縣赤穗郡坂越町
妙見の大杉　同縣養父郡八鹿町
八代の大欅　同縣朝來郡山口村
日置村裸椪　同縣多紀郡日置村
淡路國道松並木　同縣三原郡
千手の松　同縣同郡加集村
知足院奈良八重櫻　奈良市
春日神社境内竹柏樹林　同
春日山原始林　同
吐山すずらん群落　奈良縣山邊郡都介野村
室生山暖地性羊齒群落　同縣宇陀郡室生村
三本松　同縣同郡三本松村
向淵すずらん群落　同　上
佛經嶽原始林　同縣吉野郡上北山村、天川村
しんらん群落　同縣同郡上北山村
おほやまれんげ自生地　同縣同郡天川村
妹山樹叢　同縣同郡龍門村
三の公川とがさはら原始林　同縣同郡川上村
西濱の根上り松　和歌山市西濱
新宮蔺澤浮島植物群落　新宮市
熊野速玉神社のなぎ　新宮市新宮
ゆのみねしだ自生地　和歌山縣東牟婁郡四村
那智原始林　同縣同郡那智町
照源寺の金龍梅　桑名市
東阿倉川いぬなし自生地　四日市市
西阿倉川あひなし自生地　同
白子不斷櫻　三重縣河藝郡白子町
椋本の大椋　同縣同郡椋本村
金生水沼澤植物群落　同縣同郡飯野村
不動院むかでらん群落　同縣飯南郡大石村
鬼ケ城暖地性羊齒群落　同縣度會郡穗原村
細谷暖地性羊齒群落　同縣同郡同村
齋宮村花菖蒲群落　同縣多氣郡齋宮村
高倉神社の無澁椪　同縣阿山郡新居村
果號寺の無澁椪　同縣同郡同村
九木神社樹叢　同縣北牟婁郡九鬼村

動物　近畿地方の動物は主に古北區東亞帶に屬し、「さる」、「ゐのしし」、「くま」、「しか」、「きつね」等廣く分布する。

鳥類の分布は中國四國に近似し、特に啄木鳥類では「しこくこげら」、「なみえげら」多く、尾張、敦賀以北の「こげら」、「おほあかげら」の多い地方と著しく異なつて居る。渡り鳥は概ね東北から西南に向ふ。

水產動物は主に南方種で、朝來河口は北方種の「さけ」の南限に當り、潮岬は南方種の「あなご」の北限と稱せられる。琵琶湖は淡水性の特產魚類多く「こあゆ」は幼魚を「ひを」（氷魚）と云ひ、生產最も多い魚類である。「げんごろぶな」、「ひがひ」は世に名高い。

左に當地方の指定天然記念物中、動物に關するものを掲げる。

源氏螢發生地　滋賀縣野洲郡守山町　栗太郡物部町
おほみづなぎどり蕃殖地　京都府加佐郡東大浦村、西大浦村
鶴山鶴蕃殖地　兵庫縣出石郡室埴村
るうみすしじみ棲息地　奈良市春日野町、川上町
大鰻棲息地　和歌山縣西牟婁郡北富田村　南富田村
比叡山鳥類蕃殖地　京都府、滋賀縣
かもしか
紀州犬

行政區劃

近畿地方に屬する山城、大和、河內、和泉、攝津、近江、伊賀、伊勢、志摩、紀伊、丹波、丹後、但馬、播磨、淡路の十五國は現今の行政區劃ではこれを二府五縣に分ける。

府縣	面積（方粁）	人口 總員（萬）	人口 一方粁の人口
滋賀	四、〇五一	七一	一七六
京都	四、六二一	一七〇	三六八
奈良	三、六九四	六二	一六八
三重	五、七六五	一一七	二〇三
和歌山	四、七一九	八六	一八三
大阪	一、八一四	四三〇	二三六九
兵庫	八、三二三	二九二	三五一
合計	三二、九八七	一二二九	三七三

滋賀縣は近江を占め、京都府は山城、丹後と丹波の大部より成り、奈良縣は大和を、三重縣は伊賀、伊勢、志摩と紀伊の一部を、和歌山縣は紀伊の大部を管轄し、大阪府は河內、和泉と攝津の大部を、兵庫縣は播磨、淡路、但馬と攝津の一部、丹波の一部を占めて居る。

左に各縣の市郡の名稱を掲げる。

滋賀縣
大津市、彦根市、滋賀郡、栗太郡、野洲郡、甲賀郡、蒲生郡、神崎郡、愛知郡、犬上郡、坂田郡、東淺井郡、伊香郡、高島郡

京都府
京都市、福知山市、舞鶴市、東舞鶴市、愛宕郡、葛野郡、乙訓郡、宇治郡、久世郡、綴喜郡、相樂郡、南桑田郡、北桑田郡、船井郡、天田郡、何鹿郡、加佐郡、與謝郡、中郡、竹野郡、熊野郡

奈良縣
奈良市、添上郡、生駒郡、山邊郡、磯城郡、宇陀郡、高市郡、北葛城郡、南葛城郡、宇智郡、吉野郡

三重縣
津市、四日市市、桑名市、松阪市、宇治山田市、桑名郡、員辨郡、三重郡、鈴鹿郡、河藝郡、安濃郡、一志郡、飯南郡、多氣郡、度會郡、阿山郡、名賀郡、志摩郡、北牟婁郡、南牟婁郡

和歌山縣
和歌山市、海南市、新宮市、海草郡、那賀郡、伊都郡、有田郡、日高郡、西牟婁郡、東牟婁郡

大阪府
大阪市、堺市、岸和田市、布施市、吹田市、豐中市、池田市、三島郡、豐能郡、泉北郡、泉南郡、南河內郡、中河內郡、北河內郡

兵庫縣
神戸市、芦屋市、西宮市、伊丹市、尼崎市、明石市、姫路市、飾磨市、洲本市、武庫郡、川邊郡、有馬郡、明石郡、美嚢郡、加東郡、多可郡、加西郡、加古郡、印南郡、飾磨郡、神崎郡、揖保郡、赤穗郡、佐用郡、宍粟郡、城崎郡、出石郡、養父郡、朝來郡、美方郡、氷上郡、多紀郡、津名郡、三原郡

東海道線で西行すると關ヶ原驛と柏原驛の間で岐阜縣から滋賀縣に入り、大津驛と山科驛との間で京都府に進み、山崎驛を過ぎた後大阪府に入り、神崎川を渡ると兵庫縣に進み、山陽線の上郡驛と三石驛の間で岡山縣に入る。山陰線で西行すると上夜久野驛と梁瀬驛との間で、京都府から兵庫縣に入り、居組驛と岩美驛の間で鳥取縣に進む。關西線で西行すると彌富、長島兩驛間の木曾川から三重縣に入り、島ヶ原驛と大河原驛の間で京都府に入り、木津、奈良驛間で奈良縣に進み、王寺驛と河內堅上驛間で大阪府に入る。北陸線では柳ヶ瀬驛と刀根驛の間で滋賀縣から福井縣に入り、小濱線では若狹高濱驛と松尾寺驛の間が福井縣と京都府との境、福知山線では丹波竹田と福知山兩驛間が兵庫縣と京都府の境となる。また和歌山線では大和二見驛と隅田驛との間で奈良縣から和歌山縣に入る。

風俗

氣風　近畿地方は氣候溫和、風景優美の影響を受けて概して溫順怜悧の風がある。京都は古風を保存し、優雅の趣味が普及して居る。大阪は商工業が盛で進取活動の氣風が見え、神戸は外人との接觸多く明るい感じを起さしめる。十津川地方は山國の氣風と古武士の面影を存し、强剛の風がある。旅客の往來繁き地方はその影響を受けて居るが、概して質素で、山地は何れも質實であり、南紀、志摩地方は暖國の氣風が見える。大阪商人の東洋南洋への商域開拓、南紀人の外國出稼、近江商人、奈良賣藥商人は世に聞え、丹後の大浦半島からは女の行商人が多く出る。

家屋　近畿地方の平野には集村式の聚落多く、家構には垣內式が廣く行はれ、奈良市法蓮の民家は特に名高い。町屋には京都風の通庭、格子戸が廣く行はれる。概して土壁多く白壁の夕日に輝くのは近畿以西の聚落の異觀である。潮岬などの風强い海岸では石垣を高くめぐらして居る。新宮川下流の河原に建てられた假小屋の町や、橋立附近の舟倉も珍らしい。瓦葺の屋根は都市に多く、農村には稻藁、麥藁葺も見え、山地には茅葺、柾葺、杉皮葺等行はれ、石置屋根は稀に山村漁村に見られるのみである。近畿地方には入母屋造が廣く行はれ、近江には棟飾の珍らしいのが見える。

衣服　衣服は村落では質素であるが、商工地帶は華美で、特に京都は服飾の優美華奢で名高い。八瀬大原の物賣女、白川の花賣女、高尾地方の畑の姥の服裝は世に聞えて居る。頭上に物をのせて歩く風は八瀬大原、白川地方の外に南紀、志摩の漁村にも往々行はれる。近畿地方の農村では勞働の際「ぱつち」をはくことが多い。十津川の山地では踏込または裁著をはく。踏込

は「づぼん下」に似て、立付は下部を「こはぜ」で留める。滋賀縣の西北の三谷、朽木地方は雪が深いので「かるさん」をはく。

食物　食物は概して質素であるが、都會では食物の料理が進步して居る。大阪の古い豪商では古來の氣風を守つて質素な食物の家もあるが、一般に奢つて居る。京都の一部には高尙な料理が行はれるが、一般には高野豆腐、乾物の煮附「はも」など多く用ゐられ、淡白な食物が多い。近畿地方の粥は世に名高い。特に大和、伊賀の茶粥、河內の芋粥は世にも知られて居る。志摩から新宮の山奧にかけては甘諸を常食代用とする所が少くない。

年中行事　年中行事は正月に關することを始とし、節分、盂蘭盆會、火祭、年占、豐作祈り、雨祈り、厄除け等、地方によつて多少異なつて居る。

敬神　近畿地方は古くから開けた所で有名な神社多く、官國幣社の數に於いて各地方の首位を占める。伊勢の神宮のことは申すも畏し、皇室の御崇敬あつきは云ふまでもなく、全國民の尊崇の的で一生の中に必ず參拜するを例とする。滋賀縣の多賀神社は壽命の神として尊信せられる。京都府の賀茂神社の葵祭の古風の行裝は世に聞え、石淸水八幡宮は武勇の神、北野神社は文學致富の神として尊信せられ、松尾神社は造酒家の信仰があつい。梅宮神社は安產の神、稻荷神社は富德の神、貴船神社は降雨、緣結びの神として崇拜せられ、祇園祭や平安神宮の時代祭などは人出が多い。奈良縣の廣瀨神社は五穀の神として信奉せられ、春日神社の大祭、若宮祭等には人出が多い。大阪府の住吉大神は海神、和歌の神として崇信せられ、和歌山縣熊野坐神社の牛王神符は除疫の符として尊信せられ、椰の葉御守は海上安全のために信奉せられる。大阪の天滿の天神祭は七月二十五日に行はれ、大阪第一の大祭である。神戶の湊川神社は參拜者多く、多武峯の談山神社は風色に富んで居る。伏見の乃木神社は參拜者多く、近江の藤樹神社は學者を祀つた神とて珍らしい。

崇佛　近畿地方は佛教各派の本山が多い。奈良縣には東大寺(華嚴宗)、興福寺(法相宗)、西大寺(眞言律宗)、唐招提寺(律宗)、長谷寺(新義眞言宗豐山派)等があり、東大寺の大佛は世に名高い。三重縣には眞宗の專修寺があり、滋賀縣には延曆寺(天台宗)、三井寺(天台宗寺門派)、和歌山縣には高野山金剛峯寺(古義眞言宗)、根來の大傳法院(新義眞言宗)、大阪府には大念佛寺(融通念佛宗)がある。

京都市の內外には寺塔甚だ多く、淨土宗には知恩院を總本山とし、西山派に禪林寺、光明寺、誓願寺等がある。眞宗には西本願寺、東本願寺、佛光寺、興正寺等の本山があり、臨濟宗には相國寺、建仁寺、南禪寺、妙心寺、東福寺、大德寺、天龍寺の本山がある。その他智積院(新義眞言宗智山派)、醍醐寺(眞言宗醍醐派)、敎王護國寺(眞言宗東寺派)、泉涌寺(眞言宗泉涌寺派)、勸修寺(眞言宗山階派)、妙滿寺(顯本法華宗)、本隆寺(本妙法華宗)、壬生寺(律宗)、淸水寺(法相宗)等がある。また宇治の萬福寺は黃檗宗の大本山で珍らしい堂宇を見せて居る。

役の行者の開いた修驗道は山上ケ嶽から紀伊の熊野に亙り修驗者の苦行する靈場で、山上ケ嶽には白衣の參詣者が初夏から陸續として登山し、ほら貝の響が山谷にこだまして居る。

今左に主なる神社の祭日、寺院の緣日及び年中行事の日と關係の驛名とを示す。(京都市及び近郊並に大阪、奈良の二市は上篇或は下篇案內編夫々の市の年中行事の項參照)

一月九、十日	蛭子神社十日戎	西宮
一月十七日	立木觀音緣日	石山(每月十七日緣日)
一月十七日	楊谷觀音緣日	向日町(同)
一月二十四日—二十八日	天理敎春季大祭	丹波市
一月初寅日	信貴初寅祭	王寺
二月初午日	多賀神社初午祭	多賀
二月十八日	厄除神社祭	柏原
二月十七、八、九日	當勝神社例祭	梁瀨
二月二十二日	惠比須神社祭	三輪
二月二十五日	北山天滿宮祭	高槻
二月中	觀梅及スキー	各地
三月三日	伊太祁曾神社卯杖祭	布施屋　東和歌山
三月十二日	二月堂御水取	奈良

三月十四、五日	左義長祭（八幡神社例祭）	近江八幡
三月二十二日—二十四日	法隆寺會式	法隆寺
舊初午日	長田觀音初午	粉河、長田假驛
同	赤岩の觀音初午	箕島
四月八、九日	興國寺會式	紀伊由良
同 九日	大神神社祭	三輪
同 十四日	日吉神社大祭	大津
同 十四、五日	八幡神社例祭	近江八幡
同十五日—二十一日	中山寺無緣法會	中山寺
四月十八日	寶積寺追儺式	山崎
四月十九日	金刀比羅祭	豐岡
四月十九日—二十五日	光明寺法要	向日町
四月二十二日	多賀神社例祭	彥根、多賀
四月二十七日	金刀比羅祭	峯山
四月二十七、八日	道成寺會式	道成寺
四月中	觀櫻	各地
五月一日—十日	野崎觀音會式	野崎
五月八日	花湯	城崎
五月十四、五日	當麻寺會式	下田、高田
五月十五日	葵祭	京都
五月中	保津川下り	龜岡
六月十四日	住吉神社田植祭	大阪
六月十五、六日	千團子祭	大津
六月二十三、四日	太郎坊千日會	近江八幡
六月中	螢狩	守山、石山
七月一日	多賀神社田植祭	彥根、多賀
七月九、十日	岩屋神社祭	明石
七月十一、十二日	石採祭	桑名
七月十二日	湊川神社例祭	神戸
七月十四日	彌伽宜神社祭	新舞鶴
七月十五日	興玉神社祭	二見浦
七月十七日	長田神社夏祭	神戸、兵庫
七月二十五日	天神祭	大阪
七月二十六日	高倉神社祭	綾部、梅迫
七月丑の日	丑湯	有馬、城崎
七月三十一日—八月三日	長命寺千日會	近江八幡
七、八月中	海水浴、登山	各地
八月一日	丹生神社祭	粉河
八月九、十日	中山寺星祭	中山寺
八月十六日	燈籠流し	宮津、天橋立
八月二十二、三日	粉河寺施餓鬼	粉河
八月二十八日—三十一日	粉河寺不斷經會	粉河
八月上旬	競漕	大津
九月十九日—二十三日	生田神社秋祭	神戸
舊八月十五日	觀月	石山、須磨
十月一、二日	福知山御靈祭	福知山
十月三日—十二日	淨嚴院緣日	安土
十月五、六日	鹿の角伐	奈良
十月九日	高倉神社祭	綾部、梅迫
十月十日	四宮祭	大津
十月十日	大宮祭	岩出、船戸
十月十一、二日	高砂祭	明石
十月十一、二、三日	海神社例祭	垂水
十月十三日	住吉神社例祭	栗田
十月十三、四日	岩屋神社秋祭	明石
十月十四日	千田宮秋祭	箕島
十月十四、五、六日	隅田神社祭	隅田
十月十五日	白濱宮祭	明石
十月十六日	立神神社祭	箕島
十月十七、十八日	津市祭	津
十月十七、八、九日	長田神社祭	神戸
十月二十二、三日	朝代神社祭	舞鶴
十月二十四日、五、六日	湊川神社秋祭	神戸
十月二十四日—二十八日	天理教秋季大祭	丹波市
十一月中	觀楓、茸狩	各地
十一月十八日—二十一日	惠比壽講	彥根
十二月十七日	春日神社祭	奈良
十二月三十一日	多賀神社年越祭	彥根、多賀

社寺の地方的尊信　産業その他の關係で地方的に尊信せられる社寺も少くない。三重縣の香良洲神社は養蠶織縫の神として崇拜せられ、滋賀縣北杣の廣德寺には眞鍮を業とするもの多く參詣し、宇治山田の猿田彥神社は建築關係者の信仰が厚い。近江の竹生島の辨財天女は美の神、音樂の神として、淡路の伊弉諾神社境内の岩楠神社は安產の神として信奉せられ、播磨の高砂神社の神符は緣結びに靈驗ありと信ぜられる。丹波國境の愛宕神社は火災除けの神、但馬の養父神社境内の山口神社は盜難除けの神、紀伊の玉津島神社は和歌の神、加太神社は海神として崇められる。姬路の廣峯神社、奈良縣纒向村江包の素盞嗚神社は農業の神、明石の人丸神社は安產の神、武庫郡の本住吉神社は商業の

神、川邊郡の多田神社は武事の神として信奉せられる。戎、觀音、地藏などの崇拜も各地に行はれる。

祭祀舞踊　京都紫野の今宮神社では四月十日「やすらひ祭」が行はれて疫神をはらひ、壬生寺では四五月頃壬生狂言が行はれる。空也堂では踊念佛が行はれ、太秦の廣隆寺では十月十二日の夜に牛祭が行はれ、北野神社では十月四日豐作を喜ぶための瑞饋祭が行はれ、鞍馬山では十月二十日火祭が行はれ、生田神社では四月十五日頃提灯祭が行はれる。播磨の飾磨濱の喧嘩祭、紀伊士生の八幡宮の奴踊、川上村の丹生神社の笑祭、兵庫縣の地方頭八幡社の泣祭、旭陽村宮内の魚吹八幡宮の喧嘩祭もその地方で名高く、丹波篠山町在の城北村澤田の鱧切祭も珍らしい。奈良の二月堂では三月一日から修二會行はれ、水汲の式があつてその行裝は古風である。京都の日野藥師阿彌陀堂では一月十六日裸踊が行はれる。紀伊の那智には鳥祭の式後に鳥神璽を參詣者に分ける。

盆踊、舞踊等も著名なものがある。伊勢の伊勢音頭、近江の江州音頭は廣く行はれ、伊勢の宮川筋の村々の羯鼓踊も世に知られ、播州網干邊では切音頭が行はれる。また播磨の吉川音頭も行はれる。六齋念佛も各地に行はれる。滋賀縣の大津繪も名高い。丹波篠山の「でかんしよ節」、淡路の八木節、宮津の丹後節、丹後の竹野節、古代地節、和歌山縣の串本節、新宮節、田邊節等古くから行はれ、京都の都踊、鴨川踊、大阪のあしべ踊、浪花踊、この花踊等は觀者多く、寶塚の少女歌劇團、大阪の松竹少女歌劇團では、常に新作の歌劇を作つて人を集めて居る。

方言

近畿地方は本州西部方言に屬し、東部方言で「しよう」、「行かなかつた」、「食べろ」、「犬だろう」、「買つた」、「書かした」、「鮪だ」など云ふのを、近畿地方では「せう」、「行かなんだ」、「食べよ」、「犬ぢやろう」、「買うた」、「書かせた」「鮪ぢや」と云ふ。また東部方言で「せんたく」(洗濯)、「はじ」(端)と云ふのを、近畿では「せんだく」、「はし」と云つて居る。

近畿地方の方言には古形が往々殘つて居る。また古くから文化開け、廣く關西一帶にその言語が勢力を有し、文學上の用語ともなつた。京阪を中心として近畿に廣く行はれる言葉の中には

あかん(不可)　いとさん(娘)
いぬる(歸る)　かつて行く(借りてゆく)
げうさん(澤山)　しんどい(疲れた)
こけた(倒れた)

などがある。

京都を中心として行はれるいはゆる京都言葉には次の如きものがある。

あて(私)　あーさよか(左樣でございますか)
あきやしまへん(だめです)　あかへんえ(駄目ですよ)
いわはる(おつしやる)　いにまほか(歸りませうか)
いちまはん(お人形さん)　おいでやす(お出でなさい)
おくれやす(下さい)　おーきに(有難う)
おいきやすと(いらつしやると)　ごりよさん(奥樣)
結構です(澤山です)　そうどす(そーです)
そやさかいに(それだから)　ほんま(ほんと)
ゆかはります(行きなさる)　よろしおす(よろしうございます)
どこへお行きやす(どこへ行くんです)

京都で道筋を尋ねた時によく聞く言葉に

あがりやして(或は下りやして)ずつと(まつすぐに)
おいきやすと(お行きになりますと)

など云ふのがある。

大阪を中心として行はれる言葉の内には

あんじよう(都合よく)　あきまへん(よくありません)
いてはる(居る)　いつかき(竹爪)
えらいことだつせ(大變なことですぜ)
おまへんか(御座りませぬか)　きなはれ(御出なさい)
けつたいな(變なこと)　ぬくい(溫い)
そうだつか(左樣ですか)　そやさかい(そーですから)
おいでやす(御出でなさい)　いきやはつた(行きなされた)
どづく(なぐる)　てんとあきまへん(とんとよくありません)

などがある。

産業

概觀　昭和十一年の調査に據ると、近畿地方の生産總額は四十一億二千萬圓に近く、關東その他の諸地方の上にある。

生産を種類別にすると、總額の約八割七分卽ち四十一億一千六百萬圓餘は工産が占め、農産は九分六厘餘でこれに次ぎ、水産、畜産、林産が順次その下に位し、鑛産が最も少い。昭和十二年の工場生産額は五十三億圓を越え、府縣中大阪は第一、兵庫は第三に位し、阪神地方は我が國最要の工業地區である。

名産　地方の名産で旅客を喜ばすものは桑名の盆、時雨蛤、四日市の萬古燒、津の阿漕塗、阿漕燒、茄子團扇、浦づと(菓子)、綟子織、竹細工、松阪のタオル、宇治山田の神路燒、榊箸、春慶塗、生姜糖、赤福餅、二見浦の貝細工、石仙燒、鳥羽の海草類、伊賀の伊賀傘、丸柱の伊賀燒、名張の松茸の砂糖漬、龜甲漬、彦根の漆器、木の本の桑酒、水口の籐細工、信樂の信樂燒、草津の竹根鞭製品、姥ケ餅、大津の湖魚の飴煮、鮒鮨、歌仙松風、大津繪人形、鞍馬の鞍馬石、木芽煮、牛若豆、京都の淸水燒、粟田燒、人形、扇子、團扇、針、化粧品、八ツ橋、五色豆、宇治の茶、奈良の筆、墨、人形、根來塗、奈良漬、霰酒、扇子、團扇、靑によし、鹿角細工、三輪の素麵、松山の吉野葛、大阪の粟おこし、堺の刄物、和歌山の箸、西瓜の粕漬、煉羊羹、みかん漬、高野山の山葵漬、高野口の蜜柑漬、黑江の漆器、田邊の鹽辛、なんば燒、鯝卷鮓、古谷石、木象眼細工、南部の梅羊羹、串本の鯨細工、那智の那智黑、煉羊羹、烏翠石、新宮の燒乾鮎、鮎粕漬、勝浦の鹽もづく、和布菓子、神戸の瓦煎餅、姬路の明珍火箸、革細工、お菊飴、有馬の有馬筆、竹器、明石の蒲鉾、龍野の鮎の飴煮、網干の揖保素麵、赤穗の鹽味饅頭、橋立の智惠の餠、橋立松細工、城崎の麥稈細工、桑細工、洲本の珉平燒、鳴門蜜柑、鳴門漬、出石の陶器等がある。

沿革と史蹟

近畿地方の範圍　近畿地方とは山城、大和、河內、和泉、攝津の五箇國及びこれ等諸國を繞る十箇國、卽ち東海道に屬する伊賀、伊勢、志摩、東山道に屬する近江、山陰道の丹波、丹後、但馬、山陽道の播磨、南海道に屬する紀伊、淡路の總稱である。そのうち山城、大和、河內、和泉、攝津の五箇國は古來外國に對して內國と呼ばれ、或は後代上方と汎稱せられた。

孝德天皇大化二年の詔に畿內の境域を定めて東は伊賀名墾(名張)の橫河、西は播磨赤石(明石)の櫛淵、南は紀伊の兄山(伊都郡)、北は近江狹々波の合坂山を以て限界と定め給うたが、その後、國郡の制定まり大倭、河內、難波、山背四國を以て四畿內と稱し、元正天皇の御代河內三郡を割きて和泉監を置き、天平寶字元年改めて和泉國となすに及び五畿內となつた。

神武天皇の肇國　これ等諸國のうちで最も早く開けたのは蓋し大和國の地方で、神武天皇御東征の折には旣に天神の御子饒速日命早くこゝに降りてこの地に在したが、土酋長髓彥を誅戮して皇軍に歸順し、かくて大倭國平定し、畝火(傍)の橿原宮に天皇の御位に卽かせ給うた。この御卽位の歲を以て紀元元年とするのである。

神武天皇御東征の際に於ける聖蹟のうち近畿地方に存するもので、從來確定のもの及び昭和十三年以來文部省が調査の結果確定したものは次の通りである。

大阪府

難波之碕	大阪市
孔舍衞坂傳說地	中河內郡孔舍衙村
盾津推考地	同　同
雄水門傳說地	泉南郡樽井町、雄信達村

和歌山縣

男水門傳說地	和歌山市
竈　山	同
名草邑推考地	海草郡、和歌山市
熊野神邑	新宮市
狹　野	同

奈良縣

菟田穿邑　　宇陀郡宇賀志村
菟田高倉山傳說地　　同　政始村、神戸村
丹生川上　　吉野郡小川村
鳥見山中靈畤傳說地　　磯城郡城島村、櫻井町
磐余邑推考地　　同　櫻井町、安倍村、香久山村
狹井河之上推定地　　同　三輪町、織田村
橿原宮　　高市郡畝傍町
鵄邑　　生駒郡

第十代崇神天皇の御代に至り、皇居に祭祀した天照大神を笠縫邑の地に神籬をたてゝ遷し奉り給うた。また四道將軍を諸方に派遣し給ひ、大和朝廷の勢威漸く諸國に擴まるに至つたが、丹波國には開化天皇の御孫にあたる丹波道主命を遣はされた。次代の垂仁天皇の御代には、天照大神を大倭より更に伊勢國五十鈴川の上に遷し奉りて、永遠に鎭まります地と定め給うた。

伊勢國は東海道に屬したが、大和國に近きが故に近國と呼ばれた。神代には猿田彥命がこれを領して、五十鈴川の上に居り、後には伊勢津彥の領土となつた。神武天皇の御東征の時、別將、天日別命を遣はして服屬せしめられたものである。

國郡の制定と國造の設置　景行天皇の御代、西に熊襲東に蝦夷の征伐ありて、皇威一段と振張し、國土一先づ平定したので、神武天皇以來屢々設置せられた國造を增置せられ、諸王子を各地方に遣してこれを治めしめ、次代成務天皇の御代には專ら內治の整理を努め給ひ、國郡の制畧定まつた。近畿に置かれた國造は既に神武天皇の御代に大倭、葛城、凡河內、山代、伊勢、紀伊等があり、成務天皇の御代には伊賀、島津、近淡海安、丹波、但遲麻、二方、針間、針間鴨、熊野の各國造が新たに設置せられるに至つた。なほその後に置かれた國造には應神天皇の御代に明石國造、仁德天皇の御代に淡路國造があり、繼體天皇の御代には闘鷄國造が置かれた。

三韓の服屬と歸化人　神功皇后の三韓征服ありてより、應神天皇の御代には、三韓、任那の貢船が攝津武庫津に集ひ、難波津に輸し、天皇難波大隅宮に離宮を營み給ふに至つた。かくて大陸文化は著しく我が國に輸入せられ、且歸化の人も多數あり、秦の始皇帝の後と稱する弓月君は百二十七縣の民を率ゐ、阿智使主は後漢靈帝の曾孫と云ひ、その子都加使主と共に十七縣の民を率ゐて來朝歸化して秦氏、漢氏の祖となり、共に養蠶織絹に功勞があつた。また百濟から阿直岐、王仁等來朝して漢學を傳へ、孰れも應神天皇の太子菟道稚郎子の師となり、その裔代々文筆の業に携はり、我が文運の開發に貢獻した。雄略天皇の朝には工匠藝術家多く渡來して產業發達し、富の增殖著しく財政機關の變革を見るに至つた。

佛教傳來と聖德太子　欽明天皇十三年に百濟より佛敎公傳し、敏達、用明、崇峻の三朝を經て推古天皇に至り、英明なる聖德太子が攝政となり給ひ、冠位を定められ、十七憲法を制し、また隋國に使を遣はされ、留學生を送られたので、大陸文化の輸入が際立つて顯著となつた。太子深く佛法に歸依し、御心をこれが興隆に注ぎ給ひ、自ら率先して諸大寺を建立し給うた。卽ち四天王寺(攝津)、法隆寺(大和)、中宮寺(大和)、橘寺(大和)、蜂岡寺(山城今の廣隆寺)、葛木寺(大和今は廢絕)、池後寺(大和今の法起寺)等がそれである。

大化改新　推古天皇三十年聖德太子薨じ、次いで推古天皇崩御の後舒明天皇、皇極天皇相次いで卽位せられ、中大兄皇子、中臣鎌足と協力して蘇我氏を誅滅し給ひ、皇極天皇位を孝德天皇に讓り給ひ、中大兄皇子皇太子として政を輔け、始めて年號を建てゝ大化元年となし、翌年改新の詔勅を宣布し、豪族の土地並に部曲の人民の私有を收めて公地公民となし、國司、郡司を以て國を統べしめ、從來の氏族制度の弊を一掃した。これ卽ち大化の改新である。孝德天皇崩じて皇極天皇重祚して齊明天皇と申され、中大兄皇子また皇太子として萬機を輔佐し給ひしが、齊明天皇筑紫朝倉行宮に崩御あらせられたから自ら皇位につかせ給うた。これ卽ち天智天皇である。天皇都を近江志賀大津宮に遷し、銳意改新の政を行はせ給ひ、律令を制定せられた。これが近江令である。天武天皇これを改定せられ、後文武天皇

が撰定せしめられたのが大寶律令、その後更に修正を加へられたのが元正天皇の養老律令で、我が法制の基本となつたものである。かくてこの制度の略々完成せられたのは文武天皇の養老年間であつて、大化改新の企望は略々遂げらるゝに至つたが、尚一つ殘つて居るものがある、それは一定した都城の造築である。

上代の皇居　御歴代の皇居は神武天皇以來大和平野のうちにあつたが、景行天皇の末年、近江國志賀高穴穗宮に遷り給ひ、成務天皇、仲哀天皇まで三代こゝに都し給ひ、應神天皇は再び都を大和に遷し、高市郡畝傍町の地に輕島豐明宮を營み給うた。仁德天皇御位に卽かせ給ふに及び、都を大和から難波高津宮に遷させ給ひ、難波の堀江を通じ道路を開き、大いに土木を起し都邑を莊嚴にせられた。これは韓地服屬につれて皇居を修め皇威を輝されんため、且つその要津の通路を便にせんが爲であつた。

反正天皇は都を河內丹比に營み柴籬宮に居給うたが允恭天皇再び都を大和に遷し、遠飛鳥宮にゐましてより、推古天皇の飛鳥豐浦宮に至るまで、歴代殆ど大和國內に都された。

かくの如くに上代は殆ど御代の改まる每に皇居もまた改まつたのであつたが、支那の制度に模倣して中央集權制を確立せんとするに及んでは、都城もまた支那に倣うて壯麗ならしめんとの希望の起るは當然のことである。されば孝德天皇は前後八年を費して難波長柄豐埼宮を造營せられ、齊明天皇も一たび瓦葺の皇宮を大和の小墾田に建造せんとせられ、再び岡本宮を營んで大いに土工を興されたが、遂に功を竣らずして止み、この後皇居未だ一定せず、天智天皇は近江の大津に遷り、天武天皇は大和の飛鳥に都し、持統天皇は飛鳥京を廢して高市郡鴨公村の地なる畝傍、香久、耳成三山の間に都城を經營せられた。いはゆる藤原京で、唐の長安の都に模した新式のもので、その規模の大なりしことは萬葉集に載する役民作歌にても察せられる。次の文武天皇もまたこゝに居られ、慶雲四年に遷都を議せられたが、程なく崩じて果されなかつた。

平城京　元明天皇その遺志を繼がせられ、更に奈良（舊都跡村、今の佐紀町）の地に、大規模の都城を造營せしめ給ひ、和銅三年藤原京よりこゝに遷られた。新都を平城京と稱し、左右の兩京を分ち、坊條を立て、中央に朱雀の大路を通じ、兩京共に一條から九條に至り、後の平安京とその規模に大差なき宏大なもので、全く唐風を模したものであつた。「靑丹よし寧樂の都はさく花の薰ふが如く今盛なり」と歌はれ、爾來光仁天皇まで七代七十五年間の帝都となつた。かくて制度典章も既に備はり、新都の經營もこゝに成り、大化改新の希望は達せられ、海外との交通は頻繁となり、大陸の文化を輸入して、天平時代の盛運を開くに至つた。

佛寺建立　支那の文明は唐の時代に於いて頂點に達したが、就中最も隆盛を極めたのは玄宗の朝である。玄宗の朝は我が元明天皇、元正天皇、聖武天皇、孝謙天皇の四朝に亙り、彼と交通した我が國は獨り政治法制の方面のみでなく、文教藝術に於いても大いに彼の影響を蒙り、殊に佛教は興隆し、藝術は發達し、文學は進步するに至つた。聖武天皇は深く佛法を崇信し給ひ、國家事業として大いに造寺造像の事を興させ給うたから、佛教文化は我が國の全土に普及し、未曾有の盛觀を呈した。これより先、聖德太子が佛法興隆に力をつくし給うて以來、次第に佛寺が建立され、太子の當時寺院の數四十六箇所であつたのが、持統天皇の御代に五百四十五箇寺となり、飛鳥京內のみにても二十四箇寺を數へたが、奈良時代になつて元正天皇養老四年には四十八箇寺の多きに至り、聖武天皇の天平十三年には國分寺の創設を見るに至つた。當時三論、成實、法相、倶舍、華嚴、律の六宗が行はれた。佛教を全國に普及して國民全體の信仰を喚起せんとすることは、大化改新以來歴朝の力められた所であつたが、聖武天皇は卽位のはじめから力をこれに盡し、先づ國每に金光明經十卷を分ち、また釋迦像一軀、挾持菩薩像二軀を造り、大般若經を寫さしめた。天平十二年更に國每に法華經十部を寫し、並に七重塔を建てしめ、翌十三年には國每に僧寺、尼寺を造らしめ、僧寺を金光明四天王護國寺、尼寺

を法華滅罪寺と稱し、金光明最勝王經及び妙法蓮華經各十部を寫して安置せしめ、且つ僧寺には七重塔を建て、天皇親しく金光明最勝王經を寫してこゝに納め給うた。これが卽ち國分寺で、國分寺の寺塔そのものは一時に出來たのでなく、この前後に次第に造營せられたのであるが、全國劃一的にかゝる制度がこの時に布かれたのである。而して大和の國分寺は卽ち東大寺、尼寺は法華寺であつて、兩國分寺共昔ながらの礎石の上に今に嚴存して居るが、この他の國分僧寺は多くは礎石のみを遺して、寺塔の廢滅したものもあり、尼寺は早く亡びて、その遺址すら現今ではないものが多い。近畿地方で左記の國分寺は遺址を存して舊規の見るべきものあり、史蹟に指定せられて居る。

伊賀國分寺	阿山郡中瀨村大字西明寺
伊勢國分寺	河藝郡河曲村大字國分
丹波國分寺	南桑田郡千歲村大字國分
丹後國分寺	與謝郡府中村大字國分
播磨國分寺	飾磨郡御國野村大字國分寺
紀伊國分寺	那賀郡池田村大字東國分

なほこの他に山城、河內、淡路、但馬等の國分寺も遺址が現存して居る。

紫香樂宮 聖武天皇は壯麗なる奈良の京にも一時飽かず思召して、天平十二年山城恭仁京の造營を計畫せられ、左右兩京を定め平城の大極殿を遷造し、四年にして功を竣へるや、廢して大極殿を國分寺に施入し、東北に道を拓いて近江國甲賀郡に通ぜしめて紫香樂宮を造營せしめられ、屢々こゝに行幸あり、同十五年造像の詔を發布し給ひ、この地に大佛鑄造を試み給うたが成るに及ばずして平城京に復歸せられた。國分寺施入の恭仁大極殿址と塔址とは、相樂郡瓶原村に立派な礎石を遺し、紫香樂宮の遺址は甲賀郡雲井村黃瀨にあつて礎石遺瓦等を存し、指定史蹟となつて居る。

東大寺大佛 かくて天皇は天平十七年奈良に於いて大佛鑄造の事を始められ、八度の改鑄を經て孝謙天皇天平勝寶四年盧舍那佛の大像成り、天皇東大寺に行幸し、開眼供養が行はれた。寺は大華嚴寺と云ひ、また金光明四天王護國寺とも稱して國分寺となり、後に東

大寺と稱し、法隆寺、法興寺、大安寺、藥師寺、興福寺、西大寺と共に奈良の七大寺の一となつた。尙、これ等と前後して建立された寺に、新藥師寺、唐招提寺等がある。

平安京 光仁天皇崩じ、桓武天皇御位に卽き給ひ、都を山城平安京に奠め給ひし後は、平城京は舊都となつて南都と呼ばれるに至り、さしも壯大なりし都城も荒廢して、その當時の規模を明にすることは出來ぬが、大極殿の土壇、步廊址、礎石、敷石、朝堂址等一部の遺址が今も僅に奈良西部の佐紀町に存して指定の史蹟となつて居る。

桓武天皇は中央政府の所在地として、その位置の上からも、一國の首都たる規模の上からも、永久的都城の修築を決定せられ、藤原種繼の建議によりて、延曆三年乙訓郡長岡の地に宮殿を造營し給ひ、奈良の都から遷幸せられ、こゝに都し給ふこと十年、しかも未だ完成に至らずして更に葛野郡宇太村の地を相して遷都の議定まり、造營職を設け、新都を造るべき勅あり、長岡の宮殿を遷し、車駕屢々行幸ありて工事を督し給ひ、同十三年皇居略々成り、十月新都に遷幸し給うた。因て詔して「葛野の大宮地は山川も麗しく四方の國の百姓の參出來る事も便なり」と宣ひ、また「山背國は山河を襟帶して自然に城を作す」とて山背國を山城國と改められた、庶民は謳歌して平安京と云つた。この後新都の經營を續行せられ、延曆廿四年に及んで未曾有の大造營が全く落成を告げた。京城は北は一條より南は九條に至り、東西は京極を限る、南北一千七百五十三丈、東西一千五百八丈でその周圍には築墻、犬行、溝をめぐらし、京城の正北に宮城があり、宮城南面の朱雀門から南極の羅城門まで一大道路を開き、これを朱雀大路と云つて廣さ二十八丈、その東を左京、西を右京とし、左右兩京は各區劃して九條とし、東幾條西幾條と云ふ。一條毎に四坊あり、一坊に四保、一保に四町、一町に四行、一行に八門ある。一門は卽ち一戸で長さ十丈廣さ五丈である。左右兩京を合せて七十二坊三百保、千二百十六町である。左京に左京職、右京に右京

職を置きて、京都一切の事務を掌り、東西市司ありて商賈の事を掌り、彈正臺に檢非違使ありて糺察彈劾の事に當り、防鴨河使ありて治水の事を掌つた。かくて官民の奈良、長岡兩京より移され、また諸國より集り來りし者多く、朱雀大路は柳櫻の列樹打續き、都市の美をなした。されど右京は土地卑濕にして家居に適せず、早くより衰退の兆あり、左京はこれに反し土地高爽で風光佳に、二條、三條乃至四條の邊は比門連戸し、王公貴人の邸宅が多く造られた。

大內裏　宮城は一に大內裏とも云ひ、一條、二條の間にあり、南北四百六十丈、東西三百八十四丈、周圍には正面の朱雀門を始め、十二門あり。宮城の中には內裏を始め、大極殿、豐樂殿、武德殿等その他の官省院司が甍を並べ、內裏は建禮門を正面にして、二重にこれを廻らし、紫宸、淸涼等の殿舍がその中にある。宮城の位地は今の千本通、二條通附近の地に當るのであるが、造營後百五十年にして、村上天皇天德四年大內裏炎上の後は屢々罹災あり、これを修築せられたが復延暦當時の舊觀なく、再造營の期間、天皇は里內裏に遷り給ふを例とした。保元元年大內裏の造營ありしも平治の亂に大內裏はその戰場となり、次いで治承元年京師の大火にまた罹災して一圓燒野原となり、延暦經營の都城の規模は全く亡失した。これから京都は西は朱雀(千本通)、東は東山を限る如き形狀となり、また一條以外に擴延し、かくて左右兩京は變じて上京下京となつた。吉野朝時代には、足利尊氏が光明天皇を奉じて、東洞院通土御門の高倉殿を皇居となせしも爾後亂離相次ぎ、御所屢々變じたが、正親町天皇永祿年間こゝに造營ありしより、皇居永くこゝに定まり以て明治の初めに至つたのである。

桓武天皇はまた蝦夷征伐を大規模に實行せられ、坂上田村麻呂を遣された。田村麻呂は力を竭くして攻略に從ひ、延暦の末年膽澤、志波に鎭城を築くに至つた。

平安朝の佛教　かくて政治の中心移動し、人心作興の機運に際し、佛教の新宗派は最澄、空海の兩僧によりて輸入せられて天台、眞言の二宗開け、我が國佛教の面目を一新した。

最澄は神護景雲元年近江國志賀郡古市郷に生れ、延暦四年比叡山に入り、草庵を構へて禪居し、同七年山上に一字の堂宇を建立したが、同二十三年秋、遣唐使に從つて入唐し、天台山國淸寺に入り、天台の碩學行滿、道邃に學び、翌年歸朝して後比叡山寺に於いて天台宗を弘め、桓武天皇、平城天皇、嵯峨天皇の信任あつく、弘仁十三年示寂するや大乘戒壇の建立勅許せられ、翌年比叡山寺に延暦寺の寺號を賜ひ、貞觀八年傳教大師と諡された。

空海は寶龜五年讃岐國多度に生れ、延暦十四年東大寺に入り、大和久米寺に大日經を得て眞言祕密教を感得し、延暦二十三年最澄と共に入唐し、長安に入り、靑龍寺の惠果阿闍梨について金胎の祕法を授けられ、大同元年歸朝してこれを弘めた。弘仁七年紀伊國高野山に金剛峯寺を創建した。これより先、桓武天皇は延暦十五年羅城門の東西に東寺と西寺を建立し給うたが、弘仁十四年に嵯峨天皇から東寺を空海に賜はつた。即ち教王護國寺と名付けた。また天長二年高雄の神願寺を神護國祚眞言寺と改めて空海に賜はつた。空海は承和二年高野山に入定し、延喜二十一年弘法大師と諡せられた。

天台宗は最澄の高足に圓仁、圓珍並び出で、圓仁は承和五年入唐して滯ること十年、天台眞言の二教を究め、多數の經典を將來して歸朝し、延暦寺に於いてこれを弘めた。歿後慈覺大師と諡した。圓珍は諡して智證大師と云ひ、空海の姪で仁壽年間入唐し、歸朝後天台別院として園城寺(三井寺)を創建した。こゝに於いて天台宗に二派の別を生じ、延暦寺の山門に對し園城寺を寺門と云ひ、後代兩門徒の軋轢は頗る激しきものとなつた。この兩僧の時代に山門の勢力次第に加はり、宮廷權門の信仰を得て、山上の堂塔完備するに至つたが、承平五年中堂食堂以下四十餘宇火災のために燒亡し、次いで康保三年重ねて講堂、文殊樓、常行堂、法華堂以下多く灰燼に歸し、滿山一時荒凉を極めたが、非凡の俊髦慈慧僧正出で、殊に藤原師輔その子兼家等の歸

概説

依を得て、山上の規模舊觀に復し、叡山の勢力舊に倍するものあるに至つた。

眞言宗は空海の門下甚だ盛なりしが、就中眞雅は空海の俗弟であり、十大弟子中隨一の地位を占めた人で、その門下より逸足源仁を出し、源仁門下から益信、聖寶の兩上足を出した。益信は光孝天皇の創建し給ひし仁和寺にありて宇多天皇の御歸依を得、天皇に灌頂を授けたてまつりてより、眞言宗は益々宮中に行はれ、天皇は讓位の後落飾して法皇と稱し、仁和寺に御室を造營して如法修行せられたから、仁和寺は眞言宗の一勢力となると共に、平安朝の佛教に大なる影響を與へた。聖寶は貞觀の末年醍醐の山上に一寺を草創して修行の道場としたが、後に醍醐天皇の御歸依を得て御願寺となり、山下を連ねて堂塔の造營を見るに至つた。これが卽ち醍醐寺であつて現存の五重塔は天皇の御周忌に發願せられたのである。聖寶はまた役小角の跡を慕ひて苦修錬行し、大和金峰山に登躋して山上を再興し、吉野川に渡船を設けて入峰の便を開いたから、小角の遺風大に興り、永く修驗道の中興と稱せらるゝに至つた。益信聖寶の二人は一は廣澤派の祖となり、一は小野派の祖となつて、眞言密教の法流を益々盛ならしめた。

寺院と神社　かくて天台眞言の二宗は奈良朝佛教の如く直輸的な談理教説のものでなく、密教の加持祈禱を以て人の信仰を繫ぎ、頗る日本化せるものであつた上に、この頃になると奈良朝以來の神佛同體説は一歩を進めて本地垂迹説となり、神祇の本地は佛陀にして神祇はその垂迹なりとなし、神殿内に本地佛を安置し、神名に佛號が附會せられ、神佛自ら融合して天台眞言の二宗は平安朝の佛教界を支配し、京師の内外に大なる勢で弘通した。奈良の春日神社は奈良朝以來藤原氏の氏神として氏寺興福寺との因緣が深かつた。比叡山は夙に大比叡小比叡の神を地主神として、日吉神社と延暦寺は特別なる關係を生じ、高野山は開創の始めより丹生都比賣神社を地主神となし、稻荷神は東寺の鎭守神となつた。貞觀元年には大和大安寺の僧行教によりて、宇佐八幡が山城男山に移されて石清水八幡宮となり、八幡護國寺が建てられ、直に朝廷の尊崇厚くなり、後に武門の守神ともなつた。祇園社は貞觀十八年に播磨廣峯から移され、天台別院感神院の鎭守となり、疫神として朝野の崇敬する所となつた。かくの如く神社も自然に寺院の勢力に統制せられ、神領と寺領と倂せて大寺の莊園は膨大するにつれて、浮宕無賴の徒は圓頂緇衣に姿を變へて寺家に投じ、寺家もまた寺領の侵害に備へるためにこれを歡迎した。これが卽ち僧兵であつて、中にも延暦、園城、興福の諸寺が最も多くこれを養ひ、かれ等の意に滿たざるもののある時は、蜂起して禁闕に强訴した。かゝる場合に興福寺の僧徒は常に春日の神木を奉じ、延暦寺の山法師は日吉の神輿を振立てゝ朝廷を脅威し奉つた。

延喜の治　平安京は延暦の奠都以後凡そ一百年間、醍醐天皇の延喜の頃まで隆盛を極めたが、その間藤原氏は皇室と外戚關係を結んで、政權次第に藤原氏に歸するに至つた。太政大臣藤原良房は貞觀八年始めて人臣を以て攝政に任ぜられ、仁和三年宇多天皇御卽位の際に萬機關白の詔を良房の子基經に下された。然るに寛平三年基經薨じて後は宇多天皇親政を行ひ給ひ、醍醐天皇またこれを繼承して政治に勵精せられたから延喜の聖帝と申し、延喜の治とたゝへ奉つた。天皇延喜格を撰せしめ、次いで延喜式をも撰せしめられた。格式は律令と相俟つて律令政治を施行するに必要なもので、格は臨時必要に應じて發布した法令を集めたもの、式は官府の職務章程である。これより前に編集せられたのが弘仁格式と貞觀格式とであつて、延喜格式を合せて三代格式と云ふ。その民部式に記載された國郡のうち、近畿地方に屬するものは左の如くである。

山城國
乙訓　葛野　愛宕　紀伊　宇治　久世　綴喜　相樂

大和國
添上　添下　平群　廣瀨　葛下　忍海　宇智　吉野
葛上　城上　山邊　高市　宇陀　城下　十市

河內國

錦部 石川 古市 安宿 高安 河內 讃良 茨田 大縣
若江 志紀 交野 澁川 丹比

和泉國
大鳥 和泉 日根

攝津國
住吉 百濟 東成 西成 島下 豐島 河邊 武庫 島
上 八部 能勢 莵原 有馬

伊賀國
阿拜 山田 伊賀 名張

伊勢國
桑名 員辨 明朝 三重 河曲 鈴鹿 奄藝 安濃 壹志 飯
高 飯野 多氣 度會

志摩國
苔志 英虞

近江國
滋賀 栗太 甲賀 野洲 蒲生 神崎 愛智 犬上 坂田
淺井 伊香 高島

丹波國
桑田 船井 多紀 氷上 天田 何鹿

播磨國
明石 賀古 印南 飾磨 揖保 赤穗 佐用 宍粟 神崎 多可
賀茂 美囊

丹後國
加佐 與謝 丹波 竹野 熊野

但馬國
朝來 養父 出石 氣多 城崎 美含 二方 七美

紀伊國
伊都 那賀 名草 海部 在田 日高 牟婁

淡路國
津名 三原

藤原時代新寺院の建立 朱雀天皇の御代再び藤原忠平を攝政關白に任じ給うてから、藤原氏また全盛を得るに至り、この間、南海に藤原純友の叛あり、東國に平將門の亂ありて、地方擾亂のきざしをなし、京師にも盜賊の横行を見るに至つたが、而も京都なる公卿雲客等はこれを察せず、富貴佚樂に耽溺し、京畿の地は離宮、山莊、佛寺等の造立が益々盛で「この世をば我が世」と思ひなして榮耀榮華を盡した藤原道長の如きは寛仁四年法成寺（無量壽院）を建立し、その宏壯華麗なること祖先の造つた諸寺及び七大寺、十五大寺の美も及ぶ所でなかつた。その子賴通は宇治の別莊を改めて寺にして平等院と稱したが、その鳳凰堂は現代に遺る當時の代表的遺構である。而して京都の繁榮は鴨川を渡りて東山に連なり、京白川と稱して平安京第一の繁華の地となつた。

源平二氏 この頃源平二氏武を以て交々宮廷に仕へ屢々群盜を伐ちて功を樹てた。源平二氏はもと皇族の姓を賜うて人臣に列したもので、源氏は嵯峨天皇の皇子に源朝臣の姓を賜はりし以來、仁明天皇、文德天皇、清和天皇以下諸天皇の皇子諸源氏となり、平氏は桓武天皇皇子葛原親王の御子高棟王その他の皇族より出でたのであるが、武將として最も著れたのは桓武平氏と清和源氏とである。これ等の人々も始めは朝廷にそれぞ〳〵要職に就いて居たが、藤原氏が勢力を得て顯要の官職はその一門で占むるやうになりては、雲上の昇進は望みて得難くそれに地方官は京官よりも俸祿が豐であつたから、寧ろ地方官となつて田舍に住居することとなり、或は任期滿ちて自分は歸京しても、子弟を留めて根據地とするものも多かつた。而して皇族若しくはその子孫が地方に土着すれば、その地に於いての地位人望は重く、從つてその威勢を利用して莊園を占有し、地方の門閥家として土民から崇められ、遂には莊園の耕作者との間に主從關係を生じて、住人郎黨となり、武將、武士の關係を形成した。かゝる武力を有する豪族が諸國に蔓延するに至つた。清和天皇より出でたる攝津の多田源氏はその祖經基の子滿仲以來、賴光、賴信、賴義、義家等相繼で何れも武略あり、藤原氏の權門と誼を通じ、その爪牙として勢威を得、平忠常の亂を始めとして前九年役、後三年役に屢々武勳を樹て、勢力を東國に扶殖した。また桓武天皇の曾孫、高望王を祖とする平氏の一流は、貞盛の子維衡が驍勇を以て源賴信と並び稱せられ、伊勢の地を領して伊勢平氏の祖となり、

正盛、忠盛は武功を以て聞え、巧に院に取入つた爲にその顯達は早く源氏を凌駕するに至つた。後三條天皇は政治を親らせさせ給ひ、いたく藤原氏の勢力を押へられたが、白河天皇に至り、讓位の後院政の變態政治を開かせ給うた。かくてこの變態政治は保元、平治の兩亂を惹起した。この兩度の亂に源氏はその主なる武將を失つたのに、平氏は清盛が巧にその間に處して武功を樹て、朝家の厚き恩寵を蒙り、戰亂を經る毎に益益顯達の機會を得、仁安二年に清盛は太政大臣に陞りて以來專横を極め、一門の公卿十六人、殿上人三十餘人の多きに及び、知行は三十餘國、莊園は五百餘箇所に亙り、華奢を極めて所謂六波羅風なる流行を始むるに至つた。かの清盛以下平家の公達が意匠を競ひし巻子に、各々筆を執つて書寫せし嚴島神社奉納の經巻は實に優麗巧緻の物であるが、それだけ武人たる平家の軟化した有樣を髣髴せしめるものである。

治承四年清盛攝津福原に新都を經營し、俄に遷都を行ふの專斷をなしたが、間もなく京都に復した。かゝる間に伊豆の配所にあつた源頼朝兵を東國に擧ぐるに及び、諸國の源氏蜂起してこれに應じた。この危急の際に清盛は病死した。かくて源平二氏の戰亂となり、源義仲京都に攻入らんとしたから、壽永二年七月平家の一門は劒璽を收め、安德天皇を奉じて西國に奔り、鴨川の東なる六波羅の地にあつた平氏の諸第は悉く灰燼と化し、壽永四年(文治元年)三月廿四日壇の浦の戰を最後に平家は滅亡した。

源頼朝の開府と社寺の造立 平家をほろぼした源頼朝は幕府の基礎定まり、また奥羽も平定したので、擧兵以來十年目にして建久元年に始めて上洛し、兼て造營せしめた六波羅の亭館から參內した。頼朝は兼てより敬神崇佛の心厚かつたから、さきに平氏を討たんとした以仁王や源頼政に與したと云ふので、壽永四年平重衡に燒かれた園城、興福、東大等の諸寺の造營を助けたが、中にも東大寺の再建には俊乘坊重源の勸進に隨喜して特に力を盡し、文治元年には重源に米一萬石、沙金一千兩、上絹一千疋を贈つて、その再建の所

願を遂げしめ、その後も種々の援助を與へたが、建久五年に至つても尙落成しなかつたから、諸將に命じて工事を助成せしめた。かくてこれ等の外護と重源の非常な苦心と努力とによりて、この年功成つて翌六年に供養の式が行はれ、頼朝は政子及び頼家をも從へて西上し、後鳥羽天皇も行幸あつて盛大なる供養が大佛殿に行はれた。

北條氏と六波羅探題 頼朝の歿後頼家、實朝相次いで殺され、源氏の正統が斷絶したから、朝權の回復はこの時と思召し、承久三年義時追討の院宣が下されたが、幕軍三道より攻上り、宇治勢多の官軍を破つて京師を陷れ、泰時、時房は六波羅に入り、三上皇を各遠島に遷し奉つた。亂後幕府は六波羅探題を置き、泰時は北亭に時房は南亭にありて、洛中及び畿內關西の諸國の政務を行ひ、また內裏警衞を口實として朝廷の動靜を監視した。これが兩六波羅府の始であつて、探題は執權に次ぐ重職として、北條氏の一門を補するのが例であつた。かくて回復せんとせられし朝權は地に落ち、幕府の權威頓に盛となつた。

新佛教の興隆 佛教は平安朝中期以後になると澆季末法の思想が次第に擡頭し來り、世態の變化につれて現世に深い悲哀を感ずるやうになり、從來加持祈禱によつて現世の利益を求めて居た天台眞言の密教に滿足が出來なくなり、念佛によつて成佛せんとする淨土思想が漸く發達して來た。この時空也上人が出て天慶年間から彌陀の念佛を京都の市井に說いたので市聖と呼ばれ、念佛は非常に世に傳播した、洛東六波羅密寺は上人の建立である。次いで源信卽ち惠心僧都は叡山にあつて顯密の教を究めたが、當時一山僧徒の墮落に傾いて居るのを歎いて、天祿年間橫川の奥に屛居し念佛の行を勸め、その間に著作した往生要集はこの時代の信仰に著しい影響を及ぼした。更に良忍が融通念佛と云ふことを唱へて鳥羽上皇を始め朝野の尊信を得、大原に來迎院を創め、また攝津に大念佛寺を建てゝ廣く念佛を勸めた。この頃から時勢の轉變は甚しく保元平治の亂となり、藤原氏の權勢衰へ源氏は敗れて平氏の世

となり、世人の無常觀は一層深刻になつて來た。この時に源空（法然上人）は安元二年淨土宗を開き、洛東吉水に於いて專修念佛を說き、選擇本願念佛集を著して立教開宗の趣旨を宣言しその敎大いに世に行はれ、門弟親鸞出でて眞宗を開創した。後宇多天皇の時智眞（一遍上人）時宗を開き、西は九州より北は陸奧に至るまで、遍く諸國を周遊して廣く念佛を勸めた。日蓮は別に法華經を所依として法華宗を開き、法華題目を唱ふる功德を說き、頻に他宗を誹謗してその所信を主張した。これが日蓮宗である。これ等の新宗派が勃興すると共に禪宗がまた宋から輸入せられた。禪宗の一派なる臨濟宗は、榮西が後鳥羽天皇文治三年入宋し建久二年歸朝して弘めたもので、榮西は京都に建仁寺を立てた。また榮西の門弟道元は後堀河天皇貞應二年渡宋し、安貞元年に歸朝して曹洞宗を傳へ、宇治に興聖寺を建て、後、越前に永平寺を建てた。辨圓もまた宋に入り、歸朝して藤原道家の歸依を得て東福寺の開山となり盛に京畿の禪宗を興した。弘安三年示寂し、花園天皇勅して聖一國師の號を賜うた。これ本邦國師號の濫觴である。その門弟無關（大明國師）は龜山天皇の歸依を得て南禪寺の開山となつた。尙支那から名僧智識が渡來したので、この宗の興隆に力があつた。而して禪の修養が鎌倉時代の武士道に關係するところが多かつた。かくて新興の諸宗が一般民衆の間に大なる勢力を得たと共に、禪宗は殊に上流士人の精神を支配し、室町時代に至りて禪の感化が著しく趣味好尙に表はれた。

北條氏の滅亡と建武中興　承久の役以後は朝權衰へ幕府は皇位の繼承、攝關の交迭、叙位任官その他事毎に干涉したが、北條高時幕府の執權となるに及び、暗愚にして幕政大いに亂れ人心日に幕府より離れんとする際、後醍醐天皇は英邁の資を以て御卽位あらせられ、遂に討幕の擧に出られた。しかるに元弘元年謀洩れて六波羅の兵は內裏を襲はんとしたから、遽かに宮中を出でて奈良に行幸せられ、尋いで山城なる和束の鷲峰山に遷らせ給うたが、こゝも思はしからずして終に笠置の山寺に入らせられた。關東の大軍來りて笠置を陷れ、天皇は六波羅に入御せられた。幕府は遂に翌年天皇を隱岐に遷し奉つたが、勤王軍各地に起り、三年閏二月天皇は竊に隱岐から伯耆の船上山に行幸になり、足利尊氏歸順し、千種忠顯等と兵を併せて六波羅を攻め、南方の北條時益は戰死し、北方の北條仲時は光嚴院及び兩院（後伏見、花園）を奉じて近江に遁れたが、土兵に要擊せられ番場にて一族郞黨共に自殺した。

後醍醐天皇は京都に還御あらせられ、關東にては新田義貞が鎌倉に攻入り、高時以下の一族自殺して鎌倉幕府は滅亡したのである。

かくて建武中興となり、武家政治一旦廢せられて、天下は一統の形となつたが、中興政治は暫時にして崩壞し、足利尊氏叛し敗れて九州に走つたが、延元元年再び大軍を率ゐて東上し、官軍敗れて楠木正成湊川に戰死し、尊氏は京都に入つた。後醍醐天皇は京都より大和吉野山に行幸し給ひ、尊氏京都に別に光明天皇を擁立した。吉野には延元四年後醍醐天皇の崩御あり、後村上天皇、長慶天皇、後龜山天皇相嗣がせられ、世に吉野時代と云ふ。この間五十七年間宮方と武家方の戰爭は全國に波及し、尊氏直義兄弟の不和より、時により各宮方に歸順した等のこともあつた。

明德三年宮方武家方の和議成り、後龜山天皇吉野賀名生の行宮より京都に還幸し給ひ、洛西大覺寺に入らせられ、神器を後小松天皇に讓らせ給うた。

室町幕府　延元元年尊氏が光明天皇を擁立して、はじめて幕府を三條坊門萬里小路に開きしが、三代將軍義滿、永和四年新に室町にその第を營み、花御所或は花營と云つた。それで足利幕府を室町幕府とも稱した。室町幕府は將軍義政に至り、その秕政と將軍家の相續爭に、斯波、畠山兩家の相續爭、細川勝元、山名宗全等の爭鬪が結ばれて一團となり、應仁元年破裂して天下の大亂となつた。管領細川勝元は義政の弟義視を奉じ、山名宗全はまた義政の子義尙を奉じて相爭ひ、東軍の勝元の軍十六萬、西軍の宗全の軍十一萬にて洛內に市街戰起り、以後十一年間、京都は擧げて修羅の巷となり、爲に內裏を初め天龍寺、相國寺等の大

寺や公私の屋舍は兵燹にかゝり、王公貴族より庶民に至るまで四散し、洛中は荒凉たる燒野原となり果て、累代の寶物典籍殆ど烏有に歸した。かくて幕府の威信地に墜ち、群雄割據の戰國時代を現出するに至つた。

禪宗の隆盛　されば文物は擧げて地に委し學藝は僅かに禪僧によつて維持せられた。臨濟宗は歷代將軍これを崇信し、皇室公卿の信仰をも得たので最も勢力があつた。それで鎌倉時代から漸次に大刹が建てられたが、五山は特にその內でも大きく且つ榮えた寺である。最初は建仁、東福、萬壽及び鎌倉の圓覺、建長の五箇寺であつたが、後に足利義滿は京五山、鎌倉五山を定め、南禪寺を五山の上とし、天龍、相國、建仁、東福、萬壽の諸寺を京都の五山とした。

臨濟宗にはまた名僧が輩出した。宗峰（大燈國師）は大德寺の開山で花園天皇、後醍醐天皇の崇敬甚だ深く、門下に徹翁（大現國師）、慧玄（關山國師）の二傑が出た、徹翁の法孫に一休宗純がある。慧玄は妙心寺の開山である。就中夢窓國師（疎石）は最も著はれ、公武の崇信をあつめ、足利尊氏の歸依を受けて、天龍寺の開山となつた。夢窓國師は尊氏の佛事作善を助けたのみならず、政治にも關與する事多く、その門に妙葩、義堂、絕海等七十餘人を出し、室町時代を通じて法流最も榮えた。これ等の僧侶は一面學者として文學者として文教の護持者であり、また政治上の顧問であり外交文書の起案者であつた。

室町幕府の歷代將軍は多く風雅の道を愛し奢侈を好み、義滿は北山に金閣を建立し、義政またこれに倣ひて銀閣を東山に建立した。また禪の流行につれて靜寂閑雅な茶の湯流行し、四疊半の茶室が建てられ、閑寂な庭園が時代の趣味となつた。慈照寺東求堂の茶室は有名であり、金閣、銀閣の庭園の外に、龍安寺、大德寺、大仙院、眞珠庵、孤篷庵、天龍寺、南禪院、西芳寺、妙心寺等諸寺の庭園は何れもその遺構として史蹟に指定されてゐる。

明貿易と堺港　元寇以來一旦杜絕した海外貿易も、尊氏の天龍寺船の派遣に依つて再び開けたが、義滿は遣明使を派して明國との國交を開き、貿易に依つて莫大なる利を收めることに努め、義政以後、益々頻繁となり、諸侯もこれに倣つて使を明に出した。はじめ攝津の兵庫が貿易港として榮えたが、應仁、文明の頃より泉州堺の港これに代り、外船幅湊して戰亂もこの地に及ばず、商業繁昌の土地となつた。

織田信長の經略　さて應仁亂後、京都の衰退甚だしく、皇室の御窮乏も漸次甚しく、永祿の頃はその極に達し、紫宸殿の御築地破れて、三條橋の邊から內侍所の御あかしが見えるほどであつたが、尾張の織田信長、正親町天皇の密勅を蒙り永祿十一年兵を率ゐて上洛し三好、松永等の諸氏を降し、足利義昭の將軍職を復せしめ、同十二年皇居を修理し、退轉の公卿を復歸せしめ、離散した市人を聚めた。次いで元龜元年信長越前の朝倉義景を攻め近江の淺井長政を討つて大いにその軍を姉川に破つたが、三好三黨攝津に蜂起し、大阪石山本願寺の顯如と相應じて信長に抗したから、信長は軍を攝津に出した。すると淺井、朝倉の兩氏は京都に侵入せんとし、山門の衆徒これに黨したから、信長は翌二年に、叡山を燒打して、堂塔伽藍を一炬に附した。信長のこの果斷の處置は平安朝の末から橫暴極まりなかりし山法師に對する根本的大打擊であつた。天正元年には、淺井、朝倉二氏を滅ぼし、六角氏を降して越前、近江を平定した。石山本願寺の一向宗徒は猖獗にして信長に反抗したが、天正八年正親町天皇勅使を遣はし、信長と和解すべく諭されたので、顯如は信長と講和し紀伊鷺森に退去した。

安土城と耶蘇教の弘通　これより先、天正四年信長近江の安土山に居城を築き七年に落成した。地は京師に近く東海、東山兩道の要衝にあたり、內湖に突出した要害を占め、七層の天主は雄大を極め、金碧を鏤ばめ黑漆を塗り、前代未聞の偉觀を呈した。同時に城下町が經營せられ、一種の自由市として繁榮した。天文の頃より我が國に渡來した耶蘇教宣教師は國內に宣教し、信者次第に增加したが、信長宣教師を優遇して布教を許し、永祿十二年フロイスのために甲賀郡に五百

貫の寄進地をなし、京都に南蠻寺を創建せしめた。天正八年オルガンチノに安土城下に屋敷を與へ、ヴリニヤニには安土町に神學校を建て、大名の子弟二十餘名を教養せしめ、安土は耶蘇教宣教の中心地となるに至つた。然るに天正十年信長中國の毛利氏征伐に向ふ途次、京都四條の本能寺に於いて、突如として家臣明智光秀の弑するところとなり、安土城は兵火に燒かれて、信長の經營は一朝にして灰燼に歸した。

豐臣秀吉の事業　信長の覇業は羽柴秀吉によつて處理大成されるに至つた。秀吉先づ毛利氏と講和し、光秀と山崎に戰つてこれを亡ぼした。秀吉の勢威日に盛なるにつれて、織田氏の舊臣柴田勝家等これを悦ばず、かくて近江賤ヶ岳の合戰となり、勝家敗れて、越前北の莊に退く、秀吉攻めてこれを亡ぼし覇業その緒に就き、同年大阪本願寺の舊地に宏大な築城をなした。翌年秀吉比叡山を再興し、また京都の市衢の整理に心を用ゐ、前田玄以、細川幽齋をしてこれに當らしめ、京都の四方に大土居を築きて洛の内外を區別した。世人これを御土居と稱し、その遺址諸所に存して史蹟に指定されて居る。秀吉また佛寺の市中に散在するものを東京極に移し、民居を安住せしめた。天正十三年大内裡の舊跡なる内野に大いに邸宅を營み翌々年成り、その結構莊麗を極めた。これ即ち聚樂第である。翌十六年正親町天皇の行幸を仰ぎ、天下の諸大名を率ゐて朝覲し盛典を極めた。秀吉天正十三年内大臣に任じ、關白の宣下があり、豐臣朝臣姓を賜はり、次いで太政大臣に任ぜられた。秀吉東山に方廣寺を建立して大佛を鑄造し、文祿三年大いに伏見に築城した、城は大石を近畿諸山に求め、木材を木曾または土佐に得、建築裝飾共に時代の精髓を蒐めた。また天正文祿の間に通國檢地の擧あり、田制を改め畝段法を定め、諸侯を封ずるに高幾萬石と稱し、郡を以て村を統べしめた。これを天正の檢地と云つた。

徳川家康の創業と近畿の諸城　秀吉は慶長三年醍醐の花見の盛遊をしてから、間もなく病を以つて伏見城に薨じ、子秀頼繼いだが、徳川家康の勢威日に盛なるを以て石田三成等これを除かんとして同五年關ヶ原の大戰起り、西軍敗れて三成は斬られ、大勢益々家康に有利となり、同八年征夷大將軍に任ぜられ幕府を江戸に開いた。家康は種々の方法で豐臣氏を苦しめ、專らその勢力を殺ぐにつとめたが、大阪の財力消耗策として秀吉の關係した社寺の造營修理を秀頼に勸めてなさしめた。その内特に大工事であつたのは地震のために破損せる方廣寺大佛の再建であつた。それが慶長十九年に成つたが、鐘銘一件を云ひ懸りに事端を開き、遂に同年大阪冬の陣起り一旦和議となつたが、翌元和元年再び夏の陣の戰ひ開かれて城陷り、秀頼自殺して豐臣氏は滅亡した。

幕府は諸大名の配置に注意し、朝廷に備へ奉る上から近畿に有力なる外樣大名を置かず、多くは幕府直轄領とした。慶長七年家康二條城を築き禁裡の鎭護となし、兼て將軍上洛の折の宿所となした。また京都所司代を設置し、板倉勝重を以てその職に任じ、禁裡仙洞の守護、京都の行政の事を掌らしめ、兼て山城、大和、近江、丹波の幕府領を統べしめ、大阪城には城代を置き、兼て攝津、河内、和泉、播磨の幕府領を統べしめ、紀伊は和歌山城に二代將軍秀忠の弟頼宣を封じ、徳川御三家の一としてこゝに居城せしめた。伊賀伊勢には徳川氏の腹心であつた藤堂氏が封ぜられて、上野と津に居城があり、近江には譜代の井伊氏を彦根城に居らしめ、播磨は姫路に始めは家康の婿池田輝政、後には譜代の本多、酒井氏、明石に松平氏を封じた。これ等居城のうちで主要なるものは二條城をはじめ、彦根城、和歌山城及び姫路城（白鷺城）等で、何れも城壘宏壯、重層の樓屋今に遺存し、二條城は明治十七年以降離宮となつたが、近年京都市に下賜せられ、二條城は史蹟並に國寶に、二之丸庭園は名勝に、和歌山城は史蹟に、姫路城は史蹟並に國寶に、それ〴〵指定されて居る。

江戸時代の京都、大阪　元和偃武以降天下の太平につれて京都の人口は次第に增加し、市街は東は東山に接し、西は北野に連り、北は紫野に及び、南は伏見に

續き、人烟稠密なる地となつた。諸種の工藝盛にして佛教諸宗の本山概ねこの地にあり、殊に眞宗の本願寺は慶長七年に東本願寺建ちて、本願寺東西二派に別れ各々隆昌を競つたが、京都は遠近より詣で來る各派信徒のため市街一段と繁華を加へた。大阪も慶長元和の役後諸國より商估の移住するもの甚だ多く、文化年間には繁榮その極に達して全國經濟の中心をなした。

江戸時代京都の學藝、思想 江戸時代學問の隆昌は京阪の地より興つて江戸に及んだが、儒學は江戸時代初期、播磨の人藤原惺窩、朱子學を首唱して家康に重ぜられ、近世儒學の祖をなした。惺窩の門下には林羅山、石川丈山等がある。羅山は家康に召されて江戸に下り、丈山は洛北に隱退閑居した。その居詩仙堂は今史蹟に指定せられて居る。

朱子學はその後山崎闇齋が出たが、京都の人で惺窩と系統を異にし、別に一家をなして門人頗る多く、晩年垂加流の神道を唱道した。また寛永年間近江の儒者中江藤樹王陽明の學を唱道し、伊豫大洲侯に致仕して後は郷黨に教を垂れて感化四隣に及んだが、その書を講じた藤樹書院の址は高島郡青柳村にあり、史蹟に指定されて居る。次いで寛文の頃、京都に伊藤仁齋ありて古學を大いに主唱し、門弟甚だ多く、長子東涯また家學を繼ぎ、世に堀川學派と稱せられ、江戸に於ける古學の大家荻生徂徠と東西相對した。仁齋の家塾古義堂の址は京都市上京區東堀川通に遺つて居て、書庫と共に史蹟に指定されて居る。享保年中中井甃菴は大阪に懷德堂を興して三宅石菴を學主となし、自らその二代となり、三代五井蘭洲また有名である。その他皆川淇園、頼春水等の碩儒が門戸を京都に張つて子弟を教育したから、中國、西國の藩士の來り學ぶ者頗る多かつた。

國學は元祿の頃京都に北村季吟あり、五代將軍綱吉に召されて江戸幕府の歌學方となつた。また難波の地に下河邊長流及び契沖阿闍梨あり、契沖は萬葉學者で德川光圀の囑により注釋を著作した。また京都伏見の稻荷の神官荷田東滿は國學に精通し、八代將軍吉宗こ

れを江戸に召した。東滿の門下に賀茂眞淵が出で、次いで本居宣長、平田篤胤等が出で非常な發達を遂げた。契沖の舊庵なる圓珠庵は大阪市東區餌差町に存し、荷田東滿の舊宅址は京都市伏見區深草にあり、共に史蹟に指定されて居る。その他軟文學に井原西鶴、淨瑠璃に近松門左衞門、竹本義太夫等皆大阪の人であつた。

學問興隆の結果、大義明分次第に明かとなり、尊王論が學者間に唱へらるゝに至つたが、十代將軍家重、十一代家治の頃は江戸幕府の政綱弛緩し尊王論は漸く具體化した。享保年中越後の人竹內式部は京都に上り尊王論を鼓吹し、堂上家より地下の輩町人までその門に出入し、その學說天聽に達して叡感あらせらるゝに至つた。關東には山縣大貳、藤井右門等ありて勤王論を主張し、幕府の專橫を罵つたので、遂に幕府の忌諱に觸れて明和の大獄を惹起した。次いで寛政の三奇士と稱せらるゝ林子平、蒲生君平、高山彥九郎等出で益々勤王論を唱へ、彥九郎は屢々京都に上り王事に盡す所があつた。儒者頼山陽は春水の子にして勤王の志厚く、文化八年京都に來り住し、家塾を開きて子弟を教授し、日本外史、日本政記等を著はしたが、その結果は大いに一般の尊王思想に影響した。晩年居を賀茂河畔にトしたが、いはゆる山紫水明處で、今京都市上京區東三本木南町の地に遺構を存し史蹟に指定されて居る。

尊王論に伴なつて有志の人の頭に上つたのは山陵修理の事で、畿內に於ける御歷代の御陵墓は鎌倉時代以降戰國の亂世を經て、江戸時代には頽圮の極に達した。元祿年間柳澤吉保京都所司代に命じて、畿內所在の諸皇陵の周垣を設けしめたが、その後幕末の文久元治の間に、戸田大和守忠至山陵奉行となり、幕命を受けて皇陵修理に力を盡し略々舊に復し得た。

江戸末期近畿の海防 江戸幕府の末期、諸外國通商を逼り來り、弘化三年朝廷より幕府に海邊防備の勅諭が降つたが、嘉永六年米艦浦賀に來航し、攘夷開國の兩論交々起つた。安政元年露國軍艦大阪安治川沖に來り、尼ケ崎、岸和田等の諸藩沿岸を警備し、幕府は宮津、田邊(舞鶴)兩藩に若狹、丹後の海岸を警戒せしむると

共に和歌山、明石兩藩に命じて加太、由良、岩屋、明石に砲臺を築かしめ、紀淡、明石兩海峽を守備せしめた。同五年彦根藩主井伊直弼大老に任じ、五箇國假條約締結の調印をしたが、勅許は容易に降らず、京都は勤王志士の往來繁く、討幕攘夷の論頗る盛にして物情騷然となり、遂に安政の大獄となつて勤王志士を彈壓したが、直弼は萬延元年江戸に暗殺された。文久三年幕府は沿海防備のため、和田岬、湊川出洲、西宮、天保山等に砲臺を建設せしめたが、和田岬及び西宮の砲臺は今日その石築の遺構を存し、前者は神戸市兵庫港和田岬に、後者は西宮市西波戸にあつて何れも指定の史蹟となつて居る。

幕末京都の擾亂　當時尊攘派の公卿と志士とは、關白鷹司輔熈を動かして攘夷御親征を議し、その實討幕の兵を擧げんとした。この計畫は桂小五郎(木戸孝允)、久坂義助等の長州藩士が最も熱心で、三條實美以下の公卿がこれに參加し、遂に大和行幸の仰せ出しとなつた。一方に公武合體派と佐幕黨とのこれに反對する密計があり、殊に長州藩と薩州藩は從來暗々裏に軋轢して居たから、公卿にては近衞忠熈、二條齊敬等、武家にては薩摩、會津の聯合がなり、中川宮尊猷法親王を戴き、上奏して大和行幸の中止と共に、薩摩、會津兩藩をして禁闕を守衞せしむるに至つて、長州藩士は三條以下七卿と共に長州に退いた。この間近畿では大和に於ける天忠組の擧兵、但馬に於ける生野の擧兵があつた。元治元年長州藩は京都に失つた勢力を恢復せんとし、書を朝廷に上りて七卿の官爵を復し、毛利父子の入京を許されんことを請うたが許されなかつたから、長州兵は京都に攻め入り、禁闕守衞の薩摩、會津及び桑名諸藩の兵と戰ひ、中にも會津の守つて居た蛤門は最も激戰であつたが、薩摩藩の兵が殊に能く防いだ爲に、長州兵は大いに敗れて西奔した。この時幕軍火を民家に放ち、京洛市外多く兵火にかゝつた。これを蛤御門の變と云ふ。こゝに於いて幕府は長州征伐の議を決して兵を進め、長藩降を請うて和睦となつたが、間もなく長藩にては主戰派勢を得、幕府でも長藩に悔悟の體なしとして慶應二年長藩再征の勅を給ひ、長幕の交戰となり、幕軍は連戰連敗であつた。かゝる際に將軍家茂病を以て薨じたので、戰爭停止となり、慶喜は宣下ありて十五代將軍となつた。同年十二月孝明天皇崩御あり、翌年正月明治天皇踐祚し給ひ、五月兵庫の開港並に大阪開市が勅許せられた。十月慶喜は在京の四十藩及び群臣を二條城に會して大政奉還の旨を告げ、更に參內してこれを上奏し、政權返上の勅許があつた。次いで慶喜は上表して征夷大將軍を辭した。かくて朝廷では王政復古の大詔が仰せ出されたが、新政府には慶喜を始め幕府方の者は一人も加へられず、佐幕派の朝臣は除外せられたので、德川氏屬臣の不平甚しく遂に慶應四年(明治元年)正月會津、桑名二藩の兵と譜代諸藩の兵三萬が、鳥羽伏見の兩道から入京せんとした。こゝに於いて薩長兩藩の兵をしてこれを拒がしめ、薩兵先づ砲戰を開始し、朝廷では仁和寺宮嘉彰親王を征夷大將軍となし、錦旗節刀を賜うて出征せしめられ、幕軍は遂に朝敵たるを免れぬ事になつた。かくて幕軍の意氣沮喪し、遂に潰走するに至り、慶喜は錦旗が出たと聞き天保山沖から軍艦に乘つて江戸に歸つた。官軍の方では近畿を定めんとし、兵を以て佐幕諸藩の嚮背を問うた所、異議なく皆朝令に服したから、近畿地方では維新の變革に伴ふ兵戰はこゝに終熄した。

明治維新　これより先、新政府は未曾有の大變革に際して國家を統御すべき組織方針を定むるに忙はしかつたが、國內の動亂が鎭定すると共に、政體官制も定められ基礎が漸く固められた。かくて明治二年諸藩の版籍奉還となり、次いで四年廢藩置縣となり、全國を三府七十二縣とせられた。こゝに於いて郡縣の制始めて定まり、數百年以來の封建の制度が名實共に破れた。八月明治天皇卽位の大禮を紫宸殿に擧げさせ給ひ、江戸を改めて東京となし、九月一世一元の制を定めて明治と改元し、明治二年車駕東京に行幸し給ひ、舊江戸城を皇居となし宮城と稱せられるに至つた。

山　城

版籍奉還當時近畿の諸藩は次の如くであつた。

淀　稲葉美濃守正邦　十萬二千石

大和

高取　植村出羽守家壼　二萬五千石
郡山　柳澤甲斐守保申　十五萬一千二百石
小泉　片桐主膳正貞篤　一萬一千一百石
柳本　織田大和守信及　一萬石
柳生　柳生但馬守俊益　一萬石
芝村　織田攝津守長易　一萬石
櫛羅（新庄）　永井信濃守直哉　一萬石
田原本　平野遠江守長裕　一萬石

河内

狹山　北條相模守氏恭　一萬石
丹南　高木主水正正担　一萬石

和泉

岸和田　岡部美濃守長職　五萬三千石
伯太　渡邊丹後守章綱　一萬三千五百石餘

攝津

尼ヶ崎　松平遠江守忠興　四萬石

三田　九鬼長門守隆義　三萬六千石
高槻　永井日向守直諒　三萬六千石
麻田　青木源五郎重義　一萬石

伊勢

津　藤堂和泉守高猷　三十二萬三千九百五十石
久居　藤堂佐渡守高邦　五萬三千石
桑名　松平（久松）越中守定敬　十一萬石
神戸　本多伊勢守忠貫　一萬五千石
龜山　石川宗十郎　六萬石
長島　増山對馬守正修　二萬石
菰野　土方聟千代雄永　一萬一千石

志摩

鳥羽　稲垣信濃守長明　三萬石

近江

膳所　本多主膳正康穣　六萬石
彦根　井伊掃部頭直憲　二十五萬石
水口　加藤能登守明實　二萬五千石
大溝　分部若狹守光貞　二萬石
宮川　堀田豐前守正養　一萬三千石

三上　遠藤但馬守胤城　一萬二千石
山上　稲垣若狹守太清　一萬三千石餘
西大路　市橋下總守長義　一萬八千石

丹波

福知山　朽木伊豫守爲綱　三萬二千石
龜山　松平又七郎信正　五萬石
山家　谷大膳亮衞滋　一萬石
篠山　青山左京大夫忠敏　六萬石
綾部　九鬼大隅守隆備　一萬九千五百石
園部　小出伊勢守英尙　二萬六千七百石餘
柏原　織田英太郎信親　二萬石

丹後

宮津　松平伯耆守宗武　七萬石
舞鶴（田邊）　牧野豐前守誠成　三萬五千石
峯山　京極備中守高陳　一萬一千一百石

但馬

豐岡　京極飛驒守高厚　一萬五千石
出石　仙石讃岐守久利　三萬石
村岡　山名因幡守義濟　一萬一千石

紀伊

和歌山　紀伊中納言茂承　五十五萬五千石
田邊　安藤飛驒守直裕　三萬八千八百石
新宮　水野大炊頭中幹　三萬五千石

播磨

姫路　酒井雅樂頭忠茂　十五萬石
明石　松平左兵衞督直致　八萬石
龍野　脇坂淡路守安斐　五萬一千石
赤穂　森美作守忠儀　二萬石
林田　建部内匠頭政世　一萬石
小野　一柳對馬守末德　一萬石
三草　丹羽長門守氏中　一萬石
山崎　本多肥後守忠明　一萬石
安志　小笠原信濃守貞孚　一萬石
三日月　森對馬守俊滋　一萬五千石
福本　池田但馬守德潤　一萬五百石餘

明治元年以來明治四十一年までに亙つて、近畿地方に於いて、明治天皇が行幸の際御駐蹕御小休あらせら

れた聖蹟で、史蹟に指定せられたものを府縣別に記すと左の通りである。

滋賀縣

明治天皇別所行幸所　大津市別所
明治天皇鳥居川御小休所　同市石山鳥居川町
明治天皇大津別院行在所　同市筕屋町
明治天皇六地藏御小休所　栗太郡葉山村
明治天皇草津行在所　同郡草津町
明治天皇土山行在所　同郡土山町
明治天皇武佐行在所　蒲生郡武佐村
明治天皇北町屋御小休所　神崎郡旭村
明治天皇愛知川御小休所　愛知郡愛知川町
明治天皇高宮行在所　犬上郡高宮町
明治天皇長濱行在所　坂田郡長濱町
明治天皇長澤御小休所　同郡法性寺村
明治天皇鳥居本御小休所　同郡鳥居本村
明治天皇磨針峠御小休所　同郡同
明治天皇番場御小休所　同郡息鄕村
明治天皇長澤御小休所　同郡法性寺村
明治天皇木之本行在所　伊香郡木之本町
明治天皇柳ヶ瀨行在所　同郡片岡村
明治天皇中之鄕御小休所　同郡余吾村

京都府

明治天皇行幸所木戸邸　京都市中京區土手町通
明治天皇妙法院行在所　同市東山區妙法院前側町
明治天皇御小休所本願寺舊大教校　同市下京區大宮通七條上ル
明治天皇行幸所本願寺　同市同區　醒ヶ井通花屋町
明治天皇御小休所枳殼邸　同市同區　下珠數屋町
明治天皇御小休所安樂壽院　同市伏見區竹田內畑町

奈良縣

明治天皇奈良行在所　奈良市雜司町
明治天皇奈良大本營　同市春日野町
明治天皇田原本行在所　磯城郡田原本町
明治天皇今井行在所　高市郡今井町

三重縣

明治天皇八幡御小休所　津市八幡町
明治天皇桑名行在所　桑名市今一色町
明治天皇關行在所　鈴鹿郡關町
明治天皇一身田行在所　河藝郡一身田町
明治天皇神戸行在所　同郡神戸町

明治天皇椋本御小休所　同郡椋本村
明治天皇中山御小休所　同郡栗眞村
明治天皇鳥羽行在所　志摩郡鳥羽町

大阪府

明治天皇津村別院行在所　大阪市東區本町
明治天皇難波別院行在所　同市同區北久太郎町
明治天皇天保山御野立所　同市港區二條通
明治天皇堺行在所　堺市中之町
明治天皇守口行在所及內侍所奉安所址　北河內郡守口町

兵庫縣

明治天皇行幸所舊岩倉邸建物　神戸市葺合區葺合町
明治天皇御小休所舊神戸稅關監視部址及建物　同市神戸區海岸通、山本通
明治天皇須磨御小休所　同市須磨區須磨浦通
明治天皇明石行在所　明石市鍛冶屋町
明治天皇姬路行在所　姬路市池內町
明治天皇舞子大本營　明石郡垂水町
明治天皇大久保御小休所址及建物　同郡大久保村
明治天皇土山御小休所　加古郡平岡村
明治天皇阿彌陀御小休所　印南郡阿彌陀村
明治天皇御著御小休所　飾磨郡御國野村
明治天皇正條行在所　揖保郡神部村
明治天皇山田御小休所　同郡太田村

社寺

神社　近畿地方の京都、大阪の二府及び奈良、兵庫、三重、滋賀、和歌山の五縣下に於ける神社の總數は、三重縣宇治山田市鎭座の皇大神宮（內宮）豐受大神宮（外宮）を始めとして、約一萬二千七百五十社あり、そのうち六十二社は官國幣社に屬する。府縣社に屬するものは二百三十七社、鄕社以下は約一萬二千四百五十社を算する。延喜式のうちにその名の載せられた神社は山城國では百二十二座、大和國では二百八十六座、河內國は百十三座、和泉國は六十二座、攝津國は七十五座、伊賀國は二十五座、伊勢國は二百五十三座、志摩國は三座、近江國は百五十五座、丹波國は七十一座、丹後國は六十五座、但馬國は百三十一座、播磨國は五十座、紀伊國は三十一座、淡路國は十三座、合計一千四百五十五座の多數に上り、これ等のうち現今官國幣社に列格せられて居るものは左の通りで當時

名神大社であつたものが多い。

官幣大社

賀茂別雷神社	京都市上京區上賀茂
賀茂御祖神社	京都市左京區下鴨宮河町
松尾神社	京都市右京區松尾山
平野神社	京都市上京區平野宮本町
稻荷神社	京都市伏見區深草藪之内町
大神神社	奈良縣磯城郡三輪町
大和神社	奈良縣山邊郡朝和村
石上神宮	奈良縣山邊郡丹波市町
春日神社	奈良市春日野町
廣瀨神社	奈良縣北葛城郡河合村
龍田神社	奈良縣生駒郡三鄕村
丹生川上神社	奈良縣吉野郡川上村、小川村、丹生村
枚岡神社	大阪府中河內郡枚岡村
大鳥神社	大阪府泉北郡鳳町
住吉神社	大阪市住吉區住吉町
生國魂神社	大阪市天王寺區生玉町
廣田神社	西宮市大社
日吉神社	滋賀縣滋賀郡坂本村
建部神社	滋賀縣栗太郡瀨田町
多賀神社	滋賀縣犬上郡多賀村
日前神宮	和歌山市秋月
國懸神宮	和歌山市秋月
竈山神社	和歌山市三田
熊野坐神社	和歌山縣東牟婁郡本宮村
熊野速玉神社	新宮市
丹生都比賣神社	和歌山縣伊都郡天野村
伊弉諾神社	兵庫縣津名郡多賀村

官幣中社

梅宮神社	京都市右京區梅津
貴船神社	京都府愛宕郡鞍馬村
坐摩神社	大阪市東區渡邊町
生田神社	神戶市下山手通一丁目
長田神社	神戶市長田町
海神社	兵庫縣明石郡垂水町
伊太祁曾神社	和歌山縣海草郡西山東村
御上神社	滋賀縣野洲郡三上村

國幣中社

敢國神社	三重縣阿山郡府中村
出雲神社	京都府南桑田郡千歳村
籠神社	京都府與謝郡府中村
出石神社	兵庫縣出石郡神美村
伊和神社	兵庫縣宍粟郡神戶村

また式外ではあるが、由緒古く神德顯著な神社も尠くなく、その內で官國幣社に加列されたものには、京都府の石清水八幡宮(官幣大社)、八坂神社(官幣大社)、吉田神社(官幣中社)、北野神社(官幣中社)、和歌山縣では熊野那智神社(官幣中社)等がある。次に御歷代の天皇を奉祀した神社には奈良縣の橿原神宮を始めとして、同縣の吉野神宮、滋賀縣の近江神宮、京都府の平安神宮、白峰神宮、大阪府の水無瀨神宮があり、何れも官幣大社である。また臣下で異數の勳功を樹てゝ奉祀された神社で、別格官幣社に加列されたものに談山神社(奈良縣)、護王神社(京都府)、建勳神社(同上)、豐國神社(同上)、梨木神社(同上)、湊川神社(兵庫縣)、四條畷神社(大阪府)、阿部野神社(大阪府)、結城神社(三重縣)等がある。

寺院　近畿地方に於ける寺院總數は約一萬八千箇寺でそのうち眞宗寺院は最も多く、約六千箇寺あり、禪宗は臨濟、曹洞、黃檗三宗合せて約三千五百七十箇寺、淨土宗これに次ぎ約三千三百箇寺ある。眞言宗は約二千五百六十箇寺、天台宗は約一千百四十箇寺あり、この他は日蓮宗、融通念佛宗、時宗、法相宗、華嚴宗の順位になつて居る。

御　陵

御陵墓の制は、開化天皇の頃から略々定まつたと云ひ、土を積んで墳丘を作り、前を方形に、後を圓く三段に築き、圓い方を高くなし、これに石槨を設けて御棺を安んじ奉つた。卽ち前方後圓の御陵墓制で、その四周に濠池を廻らすのを常とし、何れも宏大で且つ兆域の甚だ廣いものである。この墓制は崇神天皇、垂仁天皇御陵に至つて完備し、應神天皇、仁德天皇御陵はその極盛時代と云ふべく最も大規模である。仁德天皇御陵は規模第一位で墳丘の長さ四七八米、三重の湟及び壘を廻らし、十數箇の陪塚を具へ、應神天皇御陵これ

に次ぎ長さ三八四米あり、湟、壘二重で、陪塚を多く存して居る。履中天皇御陵は長さ三七一米を有し、第三位を占めて居る。反正天皇、允恭天皇、安康天皇御陵並に皇妃、諸皇子の御陵何れもこれ等に準じた樣式規模を有する宏大なものである。前方後圓の墓制は敏達天皇御陵を以て最終とし、用明天皇御陵に至つて方墳の墓型によられた。推古天皇御陵もまたこの墓型である。而して天智天皇御陵に至つて、上圓下方卽ち基底は方形で上部は圓形をなせる墓制によられた。またこの前後の頃から横穴式石槨を造られる樣になり、天武天皇、持統天皇御合葬の御陵の如きは卽ちこれである。大化改新から漸次薄葬の風に改まり規模從前の如く宏大でなく、且つ佛敎思想の上から御火葬が漸次行はれるに至つたが、御火葬は持統天皇に於いて始まり、奈良時代を經て平安時代から專ら御火葬によられ、また前代の御陵墓が大和、和泉、河內等の地に限られたのが、平安奠都と共に殆ど山城國に限られるに至つた。薄葬を主とし、規模小となり、なほ寺院に御骨を葬り奉ること起り、御葬送の事は僧侶の手によりて行はれるに至り、納骨を目的とする建物が御陵墓の上に造られ、また御火葬所と御埋骨所（御陵）との二者を生ずる樣になつた。白河天皇、鳥羽天皇御陵、近衞天皇御陵も二層の寶篋のうちに御骨を納め奉り、近衞天皇御陵も二層の寶塔である。次いで塔婆は單層の法華堂に代はる樣になつた。卽ち後白河天皇の御遺骨はこれを法住寺の法華堂の下に納め奉つたが、法華堂に御火葬の御骨を收め奉ることはこれ以來多く常例となり、六條天皇、高倉天皇、後鳥羽天皇、順德天皇、後嵯峨天皇、後深草天皇等の御陵は何れも法華堂である。また龜山天皇は御骨を天龍寺の淨金剛院の法華堂に收め奉つたが、なほ南禪寺にも分藏し、御分骨の例もこの頃から起つた。而して伏見天皇、後伏見天皇、後小松天皇、稱光天皇、後土御門天皇、後柏原天皇、後奈良天皇、正親町天皇、後陽成天皇並に後光嚴天皇、後圓融天皇何れも京都今熊野の泉涌寺に於いて御火葬して深草法華堂に納め奉つた。かくて江戸時代の初頭に至り後水尾天皇崩ぜられるに及び、泉涌寺に御埋葬の上、九重の御石塔を建て奉つた。爾來御歷代これに倣ひ、皇妃、親王等の御墓に於いても皆御石塔を用ゐられた。明正天皇、後光明天皇から後桃園天皇に至る諸歷代及び光格天皇仁孝天皇御陵何れも九重の御石塔である。然るに慶應二年孝明天皇崩御し給うたが、御陵は王政復古と共に平安朝以來の舊制を廢止せられ、古への山陵の制を復し壯大なる御圓墳を築き奉つた。かくて明治天皇御陵に至り天智天皇御陵に則り、上圓下方の御墳制を採用せられ、昭憲皇太后御陵もまた同制である。近畿地方に於ける御陵を列擧すれば左の通りである。

神武天皇	畝傍山東北御陵	奈良縣高市郡畝傍町
綏靖天皇	桃花鳥田丘上御陵	同上
安寧天皇	畝傍山西南御陰井上御陵	同上
懿德天皇	畝傍山南纖沙溪上御陵	同上
孝昭天皇	掖上博多山上御陵	奈良縣南葛城郡大正村
孝安天皇	玉手丘上御陵	奈良縣南葛城郡掖上村
孝靈天皇	片丘馬坂御陵	奈良縣北葛城郡王寺町
孝元天皇	劒池嶋上御陵	奈良縣高市郡畝傍町
開化天皇	春日率川坂上御陵	奈良市油坂町
崇神天皇	山邊道勾岡上御陵	奈良縣磯城郡柳本町
垂仁天皇	菅原伏見東御陵	奈良市佐紀町
景行天皇	山邊道上御陵	奈良縣磯城郡柳本町
成務天皇	狹城盾列池後御陵	奈良縣生駒郡平城村
仲哀天皇	惠我長野西御陵	大阪府南河內郡藤井寺町
應神天皇	惠我藻伏岡御陵	大阪府南河內郡古市町
仁德天皇	百舌鳥耳原中御陵	堺市舳松町
履中天皇	百舌鳥耳原南御陵	堺市神石町
反正天皇	百舌鳥耳原北御陵	堺市向井町
允恭天皇	惠我長野北御陵	大阪府南河內郡道明寺村
安康天皇	菅原伏見西御陵	奈良縣生駒郡伏見村
雄略天皇	丹比高鷲原御陵	大阪府南河內郡高鷲村
清寧天皇	河內坂門原御陵	大阪府南河內郡西浦村
顯宗天皇	傍丘磐坏丘南御陵	奈良縣北葛城郡下田村
仁賢天皇	埴生坂本御陵	大阪府南河內郡藤井寺町
武烈天皇	傍丘磐坏丘北御陵	奈良縣北葛城郡志都美村
繼體天皇	三島藍野御陵	大阪府三島郡三島村
安閑天皇	古市高屋丘御陵	大阪府南河內郡古市町
宣化天皇	身狹桃花鳥坂上御陵	奈良縣高市郡畝傍町
欽明天皇	檜隈坂合御陵	奈良縣高市郡阪合村

敏達天皇河內磯長中尾御陵	大阪府南河內郡磯長村
用明天皇河內磯長原御陵	同上
崇峻天皇倉梯岡上御陵	奈良縣磯城郡多武峯村
推古天皇磯長山田御陵	大阪府南河內郡山田村
舒明天皇押坂內御陵	奈良縣磯城郡城島村
孝德天皇大坂磯長御陵	大阪府南河內郡山田村
齊明天皇越智岡上御陵	奈良縣高市郡越智岡村
天智天皇山科御陵	京都市東山區山科御陵
弘文天皇長等山前御陵	大津市別所
天武天皇檜隈大內御陵	奈良縣高市郡高市村
持統天皇檜隈大內御陵	同上
文武天皇檜隈安古岡上御陵	奈良縣高市郡阪合村
元明天皇奈保山東御陵	奈良市奈良坂町
元正天皇奈保山西御陵	同上
聖武天皇佐保山南御陵	奈良市法蓮町
淳仁天皇淡路御陵	兵庫縣三原郡賀集村
稱德天皇高野御陵	奈良縣生駒郡平城村
光仁天皇田原東御陵	奈良縣添上郡田原町
桓武天皇柏原御陵	京都市伏見區桃山町
平城天皇楊梅御陵	奈良市佐紀町
嵯峨天皇嵯峨山上御陵	京都市右京區北嵯峨

淳和天皇大原野西嶺上御陵	京都府乙訓郡大原野村
仁明天皇深草御陵	京都市伏見區深草
文德天皇田邑御陵	京都市右京區太秦
清和天皇水尾山御陵	京都市右京區嵯峨水尾
陽成天皇神樂岡東御陵	京都市上京區淨土寺町
光孝天皇後田邑御陵	京都市右京區宇多野
宇多天皇大內山御陵	京都市右京區鳴瀧
醍醐天皇後山科御陵	京都市伏見區醍醐
朱雀天皇醍醐御陵	同上
村上天皇村上御陵	京都市右京區鳴瀧
冷泉天皇櫻本御陵	京都市上京區鹿ヶ谷町
圓融天皇後村上御陵	京都市右京區鳴瀧
花山天皇紙屋上御陵	京都市上京區衣笠
一條天皇圓融寺北御陵	京都市右京區龍安寺
三條天皇北山御陵	京都市上京區衣笠
後一條天皇菩提樹院御陵	京都市上京區吉田町
後朱雀天皇圓乘寺御陵	京都市右京區龍安寺
後冷泉天皇圓教寺御陵	同上
後三條天皇圓宗寺御陵	同上
白河天皇成菩提院御陵	京都市伏見區竹田
堀河天皇後圓教寺御陵	京都市右京區龍安寺

鳥羽天皇安樂壽院御陵	京都市伏見區竹田
近衞天皇安樂壽院南御陵	同上
後白河天皇法住寺御陵	京都市下京區三十三間堂廻
二條天皇香隆寺御陵	京都市上京區平野
六條天皇清閑寺御陵	京都市下京區清閑寺
高倉天皇後清閑寺御陵	同上
後鳥羽天皇大原御陵	京都府愛宕郡大原村
土御門天皇金原御陵	京都府乙訓郡海印寺村
順德天皇大原御陵	京都府愛宕郡大原村
仲恭天皇九條御陵	京都市伏見區深草
後堀河天皇觀音寺御陵	京都市下京區今熊野
四條天皇月輪御陵	同上
後嵯峨天皇嵯峨南御陵	京都市右京區嵯峨天龍寺
後深草天皇深草北御陵	京都市伏見區深草
龜山天皇龜山御陵	京都市右京區嵯峨天龍寺
後宇多天皇蓮華峯寺御陵	京都市右京區北嵯峨
伏見天皇深草北御陵	京都市伏見區深草
後伏見天皇深草北御陵	同上
後二條天皇北白河御陵	京都市上京區北白川
花園天皇十樂院上御陵	京都市上京區粟田口町

後醍醐天皇塔尾御陵	奈良縣吉野郡吉野町
後村上天皇檜尾御陵	大阪府南河內郡川上村
後龜山天皇嵯峨小倉御陵	京都市右京區嵯峨鳥居木
後小松天皇深草北御陵	京都市伏見區深草
稱光天皇深草北御陵	同上
後花園天皇後山國御陵	京都府北桑田郡山國村
後土御門天皇深草北御陵	京都市伏見區深草
後柏原天皇深草北御陵	同上
後奈良天皇深草北御陵	同上
正親町天皇深草北御陵	同上
後陽成天皇深草北御陵	同上
後水尾天皇月輪御陵	京都市東山區今熊野
明正天皇月輪御陵	同上
後光明天皇月輪御陵	同上
後西天皇月輪御陵	同上
靈元天皇月輪御陵	同上
東山天皇月輪御陵	同上
中御門天皇月輪御陵	同上
櫻町天皇月輪御陵	同上
桃園天皇月輪御陵	同上
後櫻町天皇月輪御陵	同上

後桃園天皇月輪御陵	同上
光格天皇後月輪御陵	京都市東山區今熊野
仁孝天皇後月輪御陵	同上
孝明天皇後月輪東山御陵	同上
明治天皇伏見桃山御陵	京都市伏見區桃山町
光嚴天皇山國御陵	京都府北桑田郡山國村
光明天皇大光明寺御陵	京都市伏見區桃山町
崇光天皇大光明寺御陵	同上
後光嚴天皇深草北御陵	京都市伏見區深草
後圓融天皇深草北御陵	同上

美術

近畿は上古より近代に至るまで我が國文化の淵藪であつた。從つてこの地方は我が國文化の發達のあとを徵すべき遺物遺蹟に富み、殊に上古より桃山時代の末葉に至るまでの美術の變遷を徵すべき遺作が多い。卽ちその重要なるものを各時代に分類して見る時は、自から我が美術變遷の大要に通ずることが出來るのである。故に苟も我が美術を語らんとする程の者は是非ともこの地方の美術を見なければならぬ。

よつてこゝには近畿篇上下を通じ、各案內編に說明せる主要なものを取り出し、左の時代に別けて各時代の特徵變遷を述べ、案內編に於いて一々說き難き所を補ふと同時に、我が美術變遷のあとを概觀するの便に供する。

一 上古時代

國初より欽明天皇の朝佛教渡來に至るまでの間。

一 推古時代 紀元一二一二—一三〇五 西紀五五二—六四五 約百年間。

佛教傳來より孝德天皇の大化改新に至る百年間で、一にまた飛鳥時代とも稱する。

一 奈良時代 紀元一三〇六—一四五四 西紀六四六—七九四 約百五十年間。

孝德天皇の大化の改新より桓武天皇の延曆遷都まで約百五十年間であるが、白雉より元正天皇の養老まで約八十年間を白鳳時代と稱し、聖武天皇の神龜より桓武天皇の延曆遷都まで約七十年間を天平時代とも稱する。

一 平安時代 紀元一四五五—一五四八 西紀七九五—八八八 約百年間。

桓武天皇の延曆遷都より宇多天皇の寬平時代まで約百年間を云ふのであるが、この時代はまた弘仁時代或は貞觀時代とも稱される。

一 藤原時代 紀元一五四九—一八四三 西紀八八九—一一八三 約三百年間。

宇多天皇の寬平より安德天皇の壽永まで約三百年間を云ふ。

一 鎌倉時代 紀元一八四四—一九九四 西紀一一八四—一三三四 約百五十年間。

後鳥羽天皇の元曆より後醍醐天皇の建武中興まで約百五十年間を云ふ。

一 室町時代 紀元一九九五—二二二九 西紀一三三五—一五六九 約二百三十年間。

後醍醐天皇の建武より正親町天皇の永祿まで約二百三十年間を云ふのであるが、建武中興より吉野朝廷の末まで五十餘年間を吉野朝時代と稱される。

一 桃山時代 紀元二二三〇—二二七四 西紀一五七〇—一六一四 約四十年間。

正親町天皇の元龜より後水尾天皇の慶長まで約四十年間を云ふのであるが、この時代はまた織田豐臣時代とも稱される。

一 江戸時代 紀元二二七五—二五二六 西紀一六一五—一八六六 約二百五十年間。

後水尾天皇の元和より孝明天皇の慶應まで約二百五十年間を云ふ。

上古時代 この時代の遺物遺蹟を大體に區別すると石器、靑銅器及び古墳となる。石器の遺物には各種の石器、土器、土偶の類が全國各地から發掘され、近畿地方からも往々發見される。その出土品の多くは東京帝國大學人類學教室に蒐集されて居るが、京都帝國大學考古學陳列室に於いても多少は見ることが出來る。

靑銅器の遺物の主なるものは銅劍、銅鉾、銅鐸等の靑銅器で、銅劍、銅鉾は主として九州北部に發見され、銅鐸は殆ど近畿地方四國の一部及び東海に限られ、殊に近江國よりは多數に發見されたのであるが、今東京帝室博物館に保管されて居る。京都帝國大學考古學教室には、和泉國から發掘された銅鐸、また石山寺には同所から發見されたと傳ふる銅鐸が一個保存されて居る。

古墳は原史時代死者を葬るために造られた墳墓である。その墳墓の形式には圓形墳、前方後圓墳、方形墳

及び横穴等の種類があり、墳丘にはその周圍に湟をめぐらし水を湛へて居る。墳丘の表面には石を以て葺き、或は埴輪を樹てめぐらしたものもある。內部の構造は大なるものには石槨を築き石室を設けたものがある。その室內には陶棺或は石棺を納め、棺の內外には器物、裝身具の類が多數副葬された。それ等副葬品中今日古墳墓から發見される遺物の主なるものを分類すると埴輪、武器、甲冑、土器、裝身具、銅鏡等であるがこれ等の遺物は文獻的史料の乏しい原史時代を考察すべき好資料であつて、佛教渡來前に於ける我が藝術を徵すべき最も貴重な遺品である。この形式の墳墓は殆ど我が國の全土に分布して居るが、その築造時代は近畿地方のもの最も古く、遠隔の地は凡そ奈良朝頃までも行はれた事實は考古學者の認む所である。その發掘品の多くは東京帝室博物館に蒐集されて居るが、京都帝國大學考古學陳列室及び奈良帝室博物館にも多少集められて居る。

その發掘品中土器及び陶器は土師部及び陶部と云ふ專門の部民によつて作られたもので、我が國上古の製陶業を徵すべきものである。

また土器陶器等と共に屢々發見される刀劍は鐵製にして、鍛部と云ふ專門の部民の作つたもので、その中には支那から朝鮮を經由して輸入された狛劍と云ふ形式のものもあるが、頭椎太刀と云ふ日本獨得の型式のものもあり、その鞘及び鐔などには、模樣を加へ鍍金を施して金色の燦然たるものがある。

また刀劍などと共に往々發見される青銅鏡は、支那から輸入された漢時代のものが多く發見される。この事實は當時支那との交通が頗る緊密であつたことを語るものであるが、我が國でも鏡作部があつて專門に鑄造したものと思はれる。卽ち近畿地方から可なり多數發見される支那漢鏡の模鑄鏡は、恐らく我が鏡作部の手になつたものであらう。和歌山縣伊都郡隅田八幡神社所藏の古鏡の如きは、その銘文によつて確に我が國で模鑄されたことの明かなものとして名高い。

要するにこの時代の美術は一面に於いて支那漢代の藝術に影響されたものが多く存すると同時に、その間我が國固有の藝術も發達しつゝあつたことが當時の遺物に據つて知られる。

推古時代　欽明天皇の朝佛教が公然我が國に輸入されてから約五十年、推古天皇の御世に聖德太子が攝政として佛教を興隆せしめられた。卽ち佛寺を建て、佛像を彫み、佛具を作るがため、佛教を中心としての建築、彫刻、繪畫、工藝が勃然として起り、我が國文化の黎明期を現出するに至つたのである。

建築　佛教渡來前に於ける我が建築を徵すべきものは、僅かに埴輪の家形或は稀に古鏡の模樣中に家の略圖を見る位のもので、實物は全然殘つて居ないが、神社、宮室、住宅の區別のなかつたことは察するに難くない。而して宮室建築は韓土の影響をうけて追々發達して行つたのに反し、神社建築の方は依然舊時の形式を固守し大社造及び神明造を後世に傳へたが、その樣式構造は極めて素樸なものであつたことは疑ひない。然るに佛教が傳來してから、我が建築界の中心は從來の宮室から佛寺に移つてしまつた。卽ち聖德太子により四天王寺、法興寺、法隆寺など、七堂伽藍の完備せる大寺相次いで建立せられ、我が建築史上に第一頁を飾るべき盛なる時代が生じたのである。それ等大寺の實例は大和の法隆寺である。その樣式は主として當時朝鮮から輸入されたもので、百濟樣式と呼ばれて居る。今日これを法隆寺について見る時、その莊嚴な重層の金堂、五重の塔婆、內外の諸門、步廊、僧房等の整齊せる配置、輪奐の美が完全に具備せられて居る。

彫刻　彫刻も全く佛教を中心として發達したから、遺品も佛像彫刻に限られて居る。この時代の佛像は一般に推古佛の名を以て總稱されて居るが、この遺品は金銅佛と木彫佛が主である。而してこれ等の佛像の多くは大和國の諸寺に遺存し、就中その多くが法隆寺に殘つて居る。從つて推古佛を見るには先づ法隆寺を訪ひ、次いで奈良帝室博物館について諸寺より出品されて居るものを見るべきである。この時代には釋迦、藥師、觀音、及び彌勒の像が多く作られたやうで、その遺

品が最も多い。推古佛の形相の特徵は佛部、菩薩、天部を通じて殆ど總てが左右均勢の正面像で、體軀は比較的扁平であり、特に立像はその側面觀に於いてS字形をなし、顏は面長で、眼は銀杏形に見開き、口にはいはゆる古式微笑を湛へて居り、また垂髮を蕨手形に兩肩に卷き、衣は平行せる直線的の且つ角張つた褶襞を疊んで居る。總じてその形容は形式的、象徵的で、體軀の釣合は均衡を缺いたものが多い。金銅佛と云ふのは青銅製の佛像に鍍金したものである。その大作は法隆寺の金堂に安置されて居る藥師と釋迦の坐像で、藥師像は推古天皇の十五年に鑄造された銘文があり、また釋迦像は同天皇三十一年に鳥佛師の作つたことが光背に明記されて居る。その形式は支那北魏及び六朝の古式に屬するもので、鳥佛師は當代の代表的大家として知られ、仁德天皇の朝に歸化せる司馬達等の孫多須奈の子で、漢人種系統の人である。金銅の小佛像で名高いのは、帝室御物の四十八體佛である。これはもと大和の橘寺にあつたのが後に法隆寺に移され、それを明治初年に帝室へ獻上されたものである。

次に推古時代の木彫佛はその數に於いて金銅佛には劣るが、その作に於いては却つて優れ、何れも一木彫成の作で彩色を施し、或は金箔を置いたものである。法隆寺夢殿の本尊觀世音菩薩立像、また法隆寺の普通百濟觀音と稱する觀世音菩薩像の如きは何れもその推古佛の代表的傑作であるが、更に大和中宮寺及び京都廣隆寺の彌勒菩薩（如意輪觀音とも云ふ）に至つては、樣式は變らないが、技法神に入り硬澁の痕を止めず、崇高にして優美な相貌と風姿とは、木彫佛の極致に達したものとも云ひ得るのである。

繪畫　建築、彫刻等と共に、繪畫も非常な發達を遂げたものと思はれる。崇峻天皇の元年には百濟から僧侶や寺工等と共に畫工白加を獻つたことがあり、推古天皇の十八年には高勾麗より僧曇徵が來て彩色の法を傳へ、紙墨を作つたことがある。またこれより先推古天皇の十二年には始めて黃書畫師や山背畫師などを定められたことが、史上に見えて居るのである。然し當

時の繪畫を徵すべき遺品に至つては現存繪畫の最古の一として法隆寺金堂の玉蟲厨子の扉や臺座四面にある密陀繪の外に擧ぐべきものが殆どないが、我が國の繪畫も建築及び彫刻と同樣に、朝鮮支那の影響を受けて發達の端緒を得たことが知られるのである。

工藝美術　當時の工藝は木工、漆工、金工、染織、刺繡等頗る廣い範圍に亙つて進步したのであるが、これを遺物に徵すると、金工に於いて最も著しい發達のあとが見られる。卽ちもと法隆寺に傳來し今帝室御物になつて居る金銅幡の如き、また法隆寺金堂玉蟲厨子金具など特に注意すべき遺品である。佛像、靈獸、忍冬唐草などの優美な透彫が見られるが、特に忍冬唐草は遠くギリシヤ、ローマ或はペルシヤ等にその源を發するもので、當代の我が國文化の淵源を考へる上にも興味あるものである。織工刺繡に於いては、聖德太子薨去の翌年上宮王家にて作られたる中宮寺の天壽國曼荼羅が唯一の遺物である。

奈良時代　推古時代に發達した藝術は、大化の改新と共に一轉化をなすに至つた。我が飛鳥時代の末葉に於いて、支那は既に隋に代つて唐の世となり、その文化は非常な發達をなしたが、我が國に及ぼせる大陸文化の影響も、始めは朝鮮を經由したので、我が推古時代は支那南北朝の文化を模倣するに過ぎなかつた。それがこの時代になつてからは唐との直接の交通が盛となり、また唐に留學したものも歸朝し、制度文物が唐風に改められると共に、藝術も隋唐の模倣が盛になつた。さて唐の模倣は奈良時代に最も盛となり、所謂天平藝術の盛期を現出したが、大化の改新より奈良奠都に至るまで約八十年の間は、推古時代から天平時代への過渡期で、この間に發達した藝術は要するに天平盛期の先驅をなすものである。

天平時代と云ふのは普通和銅四年から桓武天皇の延曆十三年に都を平安京に遷されるまでを指すのである。さてこの時代は支那唐朝の文化を理想とし、その移植に最も熱中した時代であつた。當時支那はいはゆる盛唐の時代に當り、世界無比の文化國で、その藝術

は支那本國で發達した固有の文化の外に、南は中印グプタ王朝の文化を入れ、西はペルシヤより更に遠く東羅馬のビザンチン藝術まで取り入れたのである。それであるから我が國が唐の文化を憧憬し、その吸收に全力を注いだのは誠に當然のことであつた。かくて移植された唐朝の美術は我が國に於いて優美な花を開き、藝術最高潮が聖武天皇の御宇にあつたから、時の年號に因みて天平時代と名づけられた。而してその藝術の發達と最も重要な關係を持つたものは、云ふまでもなく佛教であつたのである。

建築　奈良時代建築の發達も都城宮室の外佛寺建築が主であつた。即ちこの時代の前期白鳳時代に造立された主要な寺院は、大和に於いては藥師寺、大官大寺、南法華寺、龍蓋寺等で、また地方にあつては下野藥師寺、近江の崇福寺等が造立された。然し當時の建築を今日に傳へて居るものは只僅かに大和藥師寺の東塔あるのみで、その他のものはその寺址に礎石或は古瓦を存して當時を偲ばしむるに過ぎない。

天平の盛期には國毎に國分寺と國分尼寺が創建されたことは、當時佛教建築界の大事業であつた。奈良の都に於いてはその國分寺たる東大寺及び國分尼寺たる法華寺が造營され、その他當時創立せられた主要なものを擧げると西大寺をはじめ新藥師寺、唐招提寺、海龍王寺、興福寺、元興寺、大安寺、當麻寺等の大寺が陸續として造營された。それ等大寺の建築の大部分は今日見ることは出來ないが、左記の建物は今日當時の建築を徵すべき重要な遺構で、何れも奈良及びその附近に存して居る。

一東大寺法華堂（三月堂）本堂（天平五）　奈良市
一唐招提寺金堂（天平寶字三）　奈良縣
一同　講堂　奈良縣
一當麻寺東塔及西塔　奈良縣
一新藥師寺本堂（天平十七）　奈良市
一法隆寺東大門　奈良縣
一同　食堂　奈良縣
一同　經樓　奈良縣
一同　夢殿　奈良縣

一同　傳法堂　奈良市
一正倉院寶庫　奈良市

これ等の遺構の內、天平時代の佛寺建築を最もよく代表せるものは唐招提寺の金堂で、よく當時の佛寺建築の特徵を傳へ、各部の比例最も好く、外部輪廓またよく整ひ、極めて莊重の感を與へて居る。その細部に於いて特に注意すべき點は三手先の枡組で、和樣枡組の代表的形式を示して居る。また裝飾は外部にあつては木部に丹土を塗り、支輪の間には佛菩薩及び寶相華を彩畫した痕を殘し、連子窓には綠青を塗つて居る。內部に於いても柱、天井格緣等に佛像寶相華等の彩畫が施され、天井には今尚一部の彩畫を殘して居る。

當麻寺の東塔及び西塔は推古時代の伽藍配置と異なり塔婆を二基造立して中門外に對立せしめた新しい形式を示せる遺構である。次に唐招提寺の講堂は平城宮の朝集殿を賜つて移建したもので、當時の宮殿建築の一端を徵すべき貴重な建築である。

正倉院寶庫は奈良時代の倉庫建築として行はれた校倉造を見るべきものである。實例としてはこの外東大寺法華堂前の經藏及び東大寺勸學院經庫等がある。

彫刻　奈良時代の彫刻も初めの白鳳期に出來たものは、建築に於けると同樣、推古時代の彫刻から天平の盛時に至る過渡期の樣式を示して居る。その代表的大作は大和藥師寺東院堂の聖觀音立像及び金堂の藥師三尊像である。何れも銅製で推古時代を距る遠からざる時代の作であるが、その形相に一大變化を來し、全體の相好は推古時代のものより、各部の釣合が餘程よくなり、面貌も輪廓が圓く、自然に近くなつて居る。尚小佛ではあるが、この期の作として有名なのは法隆寺金堂に安置されて居る橘夫人念持佛と傳ふる金銅阿彌陀三尊の坐像である。この他に塼製のものに唐招提寺、靈山寺或は壺坂寺等の塼佛がある。

次いで天平時代は我が彫刻史上に於ける黃金時代でその材料には銅、木、乾漆、泥塑等があり、また稀には石佛も造られた。推古時代には銅造と木彫が主で、乾漆と泥塑は奈良時代となつてから非常な發達を遂げ

天平時代の代表的傑作に、塑像と乾漆佛が多く遺存する。また彫刻の種類に於いても推古時代は佛像に限られて居たが、奈良時代には佛像の外背像及び伎樂面などが新に造られた。

天平時代の代表的彫刻を見るのに最も都合の好いのは、東大寺の三月堂である。天平時代に創建された本堂內に本尊不空羂索觀音、梵天、帝釋天等乾漆佛の傑作をはじめ、塑像に於いては日光月光、執金剛神立像の如き傑作が、その他の天平佛と共にずらりと並んで居るのは實に偉觀である。また東大寺の戒壇院には有名な塑像著色の四天王立像がある。その他當時代の代表的傑作はその數に於いても決して乏しくなく、多くは興福寺、法隆寺、唐招提寺その他の諸寺に遺存し、その或ものは奈良帝室博物館に陳列されて居る。要するに天平時代彫刻は大和以外の地方にも多少は遺存して居るが、その大部分は奈良及びその附近の諸寺に保存されて居るのである。

天平時代の彫刻の特徴は雄大にして莊重であつて、肉付がしつかりと豐かであり、表現が極めて明快である。而も寫實的な作風によりながら、氣格の高い、森嚴な表現を有し、この時代の美術が高い理想主義に基くことを示して居るのである。例へば東大寺三月堂の梵天の面貌の如き、誠によくこの特徴を表現したものである。

最後に東大寺の大佛であるが、これは前後比類なき劃期的大鑄造佛であつたが、後世火災の難に遭ひ、原狀を甚しく毀損して居るため、今日に於いてはその巨大な體軀に當時の豪壯が偲ばれ、蓮座の蓮華藏世界を現はせる線彫に當時の技巧を徵するに過ぎない。

繪畫　彫刻にあつては幸に右述ぶるが如く多數の遺品を存して居るが、繪畫に於いてはその遺品が極めて少い。先づ白鳳期の遺物として最も注意すべきものは世界的な大傑作と稱せられ、東洋藝術史上にも極めて重要な遺品である法隆寺金堂の壁畫である。この壁畫は佛の淨土をあらはした四大壁と一體づゝの菩薩を畫いた八小壁がその主なもので、同寺の橘夫人厨子の扉及び腰羽目に描かれた佛菩薩等の圖と共に、この時代の代表的な作であり、唐朝式と云ふよりは寧ろ印度の流風を傳へて居る。

次に天平期の繪畫の遺品としては奈良藥師寺の所藏で常に奈良帝室博物館に出陳されて居る吉祥天の畫像と正倉院御物中の樹下美人圖があり、共に唐朝貴婦人の姿によつて圖したもので、吉祥天はこの細密な技巧の上に、樹下美人圖は簡略ながら自由にして雄大な風趣に、當代繪畫の特色を十分に發揮して居る。

この他當代に作られたものに、過去現在因果經があり、京都報恩院、上品蓮臺寺その他に殘存して居る。その畫風は六朝の古風を傳へたもので、奈良時代の畫風を代表するものではないが、後世の繪卷物の形式を想起せしむるもので、我が繪畫史上また貴重な參考品である。

工藝美術　奈良時代はその工藝美術も非常な發達を遂げた。金工、漆工、染織、木工、陶工、玻璃工、七寶工等凡ゆる方面に發達したのであるが、その遺品は今尙法隆寺、東大寺、その他奈良の諸寺に多少殘存して居る。特に正倉院は聖武天皇の御使用になつた多數の工藝美術品をはじめ、佛具類が三千餘點、當時のまま寶庫に保存されて居る。從つて奈良時代殊に天平の盛期に於ける工藝美術を知るには甚だ都合が好いのである。尤も正倉院は年一回十一月に開かれるのみで、拜觀者の資格も限られて居るが、主要なるものはその圖錄「東瀛珠光」によつて知ることが出來る。昭和十五年十一月紀元二千六百年奉祝式典擧行の前後に亙り、その一部分を東京帝室博物館に陳列して、一般公衆の拜觀を許された。

さて當時の工藝を遺物について見ると金工、漆工、染織、木工などに特に注意するものが多數殘つて居る。金工に於いては銅鏡、刀劍、裝劍具等に見るべきものが多數あり、銅鏡の背面には山水、花鳥その他華麗な文樣を螺鈿、銀板によつて現はしたものを嵌裝し、その作精巧を極めたものがある。刀劍の裝具には金銅透彫の文樣中に、各種の寶玉を嵌裝したものもある。漆

は頗る廣く應用され、銅鏡、刀劍、樂器その他の器物にも使用され、正倉院にある各種の樂器に施された金銀の平文細工など特に優美なものである。染織物は自然に腐蝕し易い物質なるにも拘はらず、正倉院には綾、錦、繧繝錦等各種の貴重な織物が多量に殘り、殊にその染色の今日尙鮮かなるは何人も驚嘆する所である。木工の精巧な技術は正倉院の碁盤その他各種の箱類に施された木畫に徵して知ることが出來る。卽ち染象牙を以て草花、鳥獸、人物の圖を嵌裝したものがあり、或は各種木目の美はしき木材を矧ぎ合せてモザイック樣の模樣を現はしたものもある。要するに圖樣色彩の美は各種工藝の上にも百花爛漫の美觀を呈して居るのである。

平安時代 この時代は帝都が奈良から京都に遷されてから最初の約百年間で、この間は唐との交通が尙行はれ、支那に留學する僧侶も多かつた。最澄空海の兩僧はこの時代のはじめに支那より密教を傳へ、平安朝文化に新らたな方向を與へた重要な人物であつた。最澄は比叡山を開き、空海は高野山に道場を建てた。かくてこれまで平地で布教された佛教が山岳に移り、いはゆる山岳佛教となり、伽藍の配置にも變化を來し、今まで奈良の諸大寺に見たやうな規則正しい配置とは異なり、地勢の關係上自ら不規則な伽藍配置を見るやうになつた。また佛教の圖像に於いても、密教が各種の佛像を必要とした結果、佛菩薩の外に天部の像も盛に作られその種類が多くなつた。

要するにこの時代は、遷都と共に舊佛教の覊絆を脫し、新興の意氣を以て、奈良朝に輸入された唐朝藝術を同化せんとする力が漸く發現し始めた時代であり、また他の一方には入唐の僧侶が支那から佛畫、佛像、佛具等を將來して晚唐の藝術を傳へ、大いに刺戟を與ふるものもあつたから、建築に彫刻にまた繪畫によくその新興の勢を示し、自からこの時代に特有な藝術を生じたのである。

建築 この時代の宮殿建築に於いては平安京經營の大工事があり、佛寺建築にあつては天台眞言二宗勃興のため大伽藍の建てられるあり、また神社建築に於いては、前代に現れた春日造、流造の外に、佛教建築から現れた日吉造(聖帝造)と稱する新樣式の出現もあつて頗る盛であつたが、當代の建築で今日に遺存するものは、佛教建築に大和室生寺の金堂と五重塔婆のみである。宮殿建築では京都御所の紫宸殿及び淸涼殿は江戶時代に古制によつて造營されたものであり、また平安神宮は明治二十八年に大極殿を中心にその一廓を模造して神宮とされたものである。

次に佛寺建築に於いては、京都の敎王護國寺(東寺)、比叡山延曆寺、高野山金剛峯寺等についても多少當時の古制を見ることが出來る。

神社建築の日吉造については近江比叡の山麓、日吉神社の社殿によつてその一般を知ることが出來るのである。

彫刻 この時代の彫刻は天台眞言二宗派の新興につれ、儀軌が輸入されて、佛像の姿態持物に一定の規範が出來た。彫刻は木造が主で、奈良時代に盛であつた乾漆及び泥塑は殆どその影をひそめ、新なる木彫法として檀像彫刻が起り、木彫によつてのみ味ひ得る刀鑿の面白味を現すに至つた。當時の彫刻は一木造で一般に密教的色彩を帶び、甚だ重厚にして、一種豪邁な氣魄を藏して居ることを見逃してはならない。東寺觀智院の五大虛空藏像は惠運が支那から將來したもので、室生寺の彌勒菩薩像もまた將來したものであらう。この種舶來品は當時我が彫刻界を刺戟したことの想像せらるゝ貴重な遺品である。法隆寺の九面觀音像は、同樣式に屬して一層精美を極めたものである。貞觀時代彫刻の大成は京都神護寺の五大虛空藏像、河內觀心寺の如意輪觀音像に於いて見るべく、その他に高野山正智院の不動像、京都松尾神社の男神像等、京都奈良方面に最も多く遺存し、殊に京都廣隆寺の靈寶殿、恩賜京都博物館、奈良帝室博物館、高野山靈寶館等に於いて多くの遺品を見ることが出來る。

繪畫 當代の繪畫も彫刻に於けると同樣密教の影響の著しく現はれたのが特徵である。また入唐の高僧が

将來した佛畫によつて新たな刺戟を受けたことも彫刻と同様であつた。かれ等によつて支那から持歸へられた佛畫の類の少くなかつたことは將來目錄によつて知られるが、今日遺存して居るのは京都の敎王護國寺の眞言祖師像五幅に過ぎない。この五幅の眞言祖師像は空海によつて唐から將來されたもので、唐代の名匠李眞の筆である。空海歸朝後その唐風を模して描かれたのが龍猛龍智の二像で、唐式肖像畫を模した千古の名品である。今七幅共京都博物館に出陳されて居る。當時の繪畫も佛畫が殆どすべてを占めて居る。

當時の繪畫の特徴として注意すべき點は、その描線は力強く肥瘦のないいはゆる鐵線描を以て、輪廓を描きその線に沿うて濃淡のある色彩を施し、肉身の圓味を現して居ることである。この筆法と色彩を徵すべき當時の名畫には高野山明王院の赤不動像及び高野山巡寺八幡講の無量力吼竝に十力吼像が最も名高い。

工藝美術　當代の工藝美術も前代の後を承けて發達し、特に密教の法具類に時代の特色を示して居るのであるが、作品の今日に遺存せるものが割合に少ないので、その實狀を知ることが困難である。京都仁和寺の蒔繪三十帖法文册子筥及び寶相華蒔繪寶珠筥の如き、奈良朝の華麗と雄渾とを傳ふる如くにして、既に藤原時代の典雅優美の趣と併せ存することの如きは、以て當代工藝の特徴とすべきである。東大寺の五獅子如意、興福寺南圓堂の銅燈臺なども名高い。

藤原時代　この時代は唐末亂離の際支那との交通が斷絶して、過去三百年間に輸入した各種の藝術を我が國民性に同化した時代である。この時代の前半は天台、眞言の密教が前代から引き續いて勢力を保ち、朝廷及び貴族と深い因緣を作つたが、その後半に於いては淨土教が新に發達し、當時の貴族社會を風靡するに至つた。その結果は各種の藝術に淨土教的色彩が濃厚に表現された。要するに當代は藤原氏を中心とした貴族的淨土藝術が極度にまで發達した時代で、その藝術は平家の沒落と共に鎌倉時代へ移されたのである。

建築　この時代の建築には佛寺建築の外に寢殿造が新に起り、また神社建築の影響の新に加つたことは注意すべきである。

佛寺建築の大なるものは、藤原道長が榮華の極を盡した法成寺があつた。方四町を劃せるその境内には、阿彌陀堂、五大堂、講堂、釋迦堂、東北院、西北院等數多の堂宇相並び、宏壯華麗なること七大寺十五大寺の美も及ぶ所でなかつたが、惜いかな造立後久しからずして灰燼に歸し、今はその礎石をだにも留めない。次いでその子賴通の建てた宇治の平等院は、その鳳凰堂を今に存して僅かにその豪華の跡を示して居る。白河天皇法勝寺を創建し給ひしより、相次いで尊勝、最勝、成勝、延勝、圓勝等六勝寺の勅建があつたが、悉く劫火に滅んで終つた。

當時の佛寺建築に於いて特に注意すべきはこれ等の諸大寺の何れにも淨土教の影響として阿彌陀堂が建立されたことである。今に遺存するものは京都市日野法界寺本堂、京都市外大原三千院本堂等何れもその好例であるが、殊に鳳凰堂の名で有名な平等院の阿彌陀堂は最も莊嚴を盡したものである。

寢殿造はよく當時の日本趣味を現はした貴顯の住宅建築であつたが、その遺構の今に存するものは不幸にして一もない。

神社建築に於いても佛寺建築の影響を受け、境内に樓門、步廊を加へた。その例は奈良春日神社に見ることが出來る。また二基の塔婆を建てるものゝあるに至つたのも、當代神社建築に起つた變化である。

當代の建築で近畿地方に存する主要なものは左の如くである。

一法界寺本堂　京都市
一醍醐寺五重塔婆、藥師堂　京都市
一廣隆寺講堂　京都市
一三千院本堂　京都府
一淨瑠璃寺本堂　京都府
一平等院鳳凰堂　京都府
一宇治上神社社殿　京都府
一石山寺本堂內陣　滋賀縣
一法隆寺西院大講堂、鐘樓　奈良縣

一春日神社樓門　奈良市
一春日神社攝社若宮神社細殿、御廊、神樂殿　奈良市

彫刻　藤原時代の彫刻も佛像彫刻が主要なものであつたが、淨土教の隆盛であつた結果阿彌陀像が盛に彫刻された。その有名な遺品には三千院本堂の本尊、鳳凰堂の本尊、法界寺の本尊がある。この時代は木造彫刻の技巧が一木造より寄木造に進歩すると共に、その相貌は何れも豐麗にして典雅、優美にして懷かし味に富んで居る。これはやがて當代の彫刻に現はれた一般的特徴であつた。當時佛像彫刻の大家として最も著はれたのは定朝で、今日遺存せるものゝ中で、幾多の傑作を遺したものと思はれるが、彼の作として最も名高いのは鳳凰堂の本尊である。定朝は南都大佛師の祖と仰がれ、門下に名手を出し、その子覺助は京都の七條佛所を開き、弟子長勢は三條佛所を開き盛に作佛をした。寄木造は定朝以來發達し、木割の法が設けられ、首は襟のところで挿し込み、體軀兩足膝等を別々に木を刎ぎ合せる樣になつた。佛體の莊嚴は金色を主としたものであるが、優美な形相の上に色彩の美を盡したものも少くなかつた。京都府淨瑠璃寺の吉祥天像の如きはその代表的遺作として最も名高い。佛像以外には神像及び肖像彫刻にも優秀なものがある。その精巧な作例としては京都府八幡町石清水八幡宮の男神像、大津園城寺智證大師坐像が名高い。彫刻が盛に建築裝飾に應用されたことも注意すべきである。その實例は鳳凰堂内部に施された精巧な寶相華唐草の透彫に徴することが出來る。

次に近畿地方に遺存する代表的彫刻を列擧する。

一鳳凰堂本尊阿彌陀像　京都府
一三千院本堂本尊阿彌陀三尊　京都府
一法界寺本尊阿彌陀像　京都市
一醍醐寺藥師堂本尊及脇侍像　京都市
一東寺毘沙門天像　京都市
一鞍馬寺毘沙門天像　京都府
一廣隆寺十二神將像　京都市
一淨瑠璃寺吉祥天像（東京帝室博物館出陳）　京都府
一新藥師寺十一面觀音像　奈良市

一興福寺板彫十二神將像（奈良博物館出陳）　奈良市
一興福寺北圓堂木尊彌勒像　奈良市
一興福寺東金堂、四天王像　奈良市
一藥師寺十一面觀音像　奈良縣
一法隆寺大講堂、藥師三尊及四天王像　奈良縣
一觀心寺聖觀音像　大阪府

繪畫　繪畫も淨土教の影響によつて彌陀の來迎圖が盛に作られた。來迎圖中最も名高いのは高野山の阿彌陀佛及び二十五菩薩來迎圖である。この圖は古くから惠心僧都の筆と傳へられ、その構圖の雄大、形態の變化、色彩の豐麗かくの如きは、現存佛畫中他に比肩するものなく、藤原文化の最も圓熟した製作である。この圖と併せ見るべきものは、法華寺の阿彌陀三尊來迎圖である、これ等は何れも絹本著色の掛幅であるが、阿彌陀堂内部の壁面にも來迎圖が描かれた。それは鳳凰堂に於いて見ることが出來る。長法寺釋迦如來金棺出現圖は構圖雄大にして傅彩豐麗、その裝飾文に多く截金を使用して、絢爛の光輝を放つて居る。これと共に見るべきは高野山の佛涅槃圖であつて、佛傳繪畫の双璧である。

繪畫は佛畫以外に國文學の流行に伴なつて繪卷物が新に發達し始めた。その最古の遺品として有名な源氏物語繪卷が尾張の徳川侯の所藏に殘つて居る。この外、嚴島神社の平家一門奉納の法華經の表紙見返繪及び大阪四天王寺の扇面古寫經の下繪等が注意せらるべきである。

當代畫家には巨勢金岡の子孫に公忠、弘高などの名手が出て朝廷の繪所に任ぜられ、いはゆる巨勢派が出來たのである。弘高と殆ど同時代に畫家として肩を並べたのは託摩爲成で、專ら佛像畫家として繪所となり平等院鳳凰堂の壁畫は彼の作として有名である。末期には大和繪の流派として、春日派及び土佐派の畫家が出で、その名の著はれたものに藤原隆親、藤原基光及び藤原隆能などがある。

近畿地方に見られる當代の代表的繪畫を左に列記する。

一醍醐寺五重塔褒内部畫　京都市

一醍醐寺普賢延命菩薩像　京都市
一東寺觀智院閻魔天像　京都市
一法界寺阿彌陀堂壁畫　京都市
一鳳凰堂壁書及扉繪　京都府
一長法寺釋迦如來金棺出現圖　京都府
一法華寺彌陀三尊及童子像　奈良市
一高野山彌陀二十五菩薩來迎圖　和歌山縣
一金剛峯寺佛涅槃圖　和歌山縣

工藝美術　工藝美術も諸大寺の造立、藤原氏一門の榮華な生活につれて大いに發達した。卽ち貴族の服裝及び各種の調度品をはじめ、建築等の裝飾として蒔繪金工、染織等の技術が非常な發達をしたのである。それ等は何れも純日本的にして貴族的趣味の豐富な、優美繊巧にして華麗なものである。

漆工は特に非常な發達を遂げ、各種の調度品はもとより、建築に彫刻に服裝品にまで應用されたのであるが、今日殘つて居る最も精巧な蒔繪は高野山金剛峯寺の小唐櫃である。これにも當時廣く行はれた螺鈿の寶相華模樣や蝶鳥模樣もあり、當時の貴族趣味を模樣の上によく現して居る。

當時の金工に於いて最も繊細な技巧を示したものには蒔繪の小箱或は寫經の軸首に嵌裝された金銅の透彫金具などがある。金剛峯寺の蒔繪唐櫃の金具、嚴島神社平家納經軸首の金具など最もよき實例である。また和鏡の背面に現した蝶鳥模樣或は松喰鶴の模樣も好箇の適例である。

當代の建築に應用された工藝美術を徵すべき最も大なる遺物は、平等院の鳳凰堂內部の裝飾で、當代の粹を集めた工藝美術の代表的作品を以て充滿して居る。尙陸中平泉の中尊寺金堂內部の裝飾もまた忘れてはならない。

鎌倉時代　鎌倉時代は我が文化史上最も顯著な時期を劃した一時代で、美術に於いても建築に彫刻に繪畫に何れも特殊の進步を遂げ、武士平民の間にまで普及されたことは最も注意すべき現象である。この結果をもたらした重要な原因は、內には武家の隆興と佛教新宗派の開創あり、外には宋との交通次第に頻繁となり彼我の高僧往來し、爲に國民的自覺の喚起と共に、外來文化の刺戟があつたからである。また新に傳來した禪宗が上流武士の精神生活に大なる影響を及ぼしたことも注意せられる。

かくて鎌倉時代の美術は、一部は京都奈良を中心として、前代の藝術を繼承して新意を出したものであり他の一部は鎌倉を中心として武家の趣味と禪宗の影響によつて生れたものである。

建築　建築に二つの新樣式が輸入された。卽ち天竺樣と唐樣である。天竺樣は東大寺大佛殿再興の時採用された新輸入の樣式で、その遺構には東大寺南大門と醍醐寺經藏がある。天竺樣は間もなく和樣或は和唐樣と混淆された。大和室生寺灌頂堂はその適例である。

次に唐樣建築は京都、鎌倉に於いて盛に建てられた禪宗寺院がそれであつたが、當時の遺構は極めて少く、僅に鎌倉圓覺寺の舍利殿あるのみである。かく二つの新樣式が輸入せられたから、前代から受けついできた樣式をこれ等に對して和樣と云ふのである。その代表的遺構には京都の蓮華王院本堂(三十三間堂)、石山寺の多寶塔、高野山金剛三昧院多寶塔などが名高い。然し和樣も次第に唐樣と結び付いて折衷樣式を生み出し、後になると純粹のものは極めて少なくなつた。

近畿地方に遺存せる主要な建築は次に列擧するものであるが、何れも折衷建築に屬するものが多い。

一蓮華王院(三十三間堂)　京都市
一東寺八脚門、北大門、慶賀門、四脚門　京都市
一桂宮院本堂　京都市
一醍醐寺金堂、經藏　京都市
一高山寺石水院　京都市
一神護寺大師堂　京都市
一建仁寺勅使門　京都市
一東福寺月華門　京都市
一宇治上神社拜殿　京都府
一平等院觀音堂　京都府
一石山寺東大門、鐘樓、多寶塔　滋賀縣
一延暦寺釋迦堂　滋賀縣
一御上神社、本殿、拜殿、樓門　滋賀縣
一西明寺本堂、三重塔、二天門　滋賀縣

一金剛三昧院多寶塔　和歌山縣
一法隆寺西院上御堂（應長元）　奈良縣
一法隆寺西圓堂（建長元）　奈良縣
一法隆寺聖靈院、新堂（弘安七）　奈良縣
一法隆寺三經院及西室、東院禮堂（寛喜三）　奈良縣
一東大寺南大門（正治元）　奈良市
一唐招提寺鼓樓（仁治元）　奈良縣
一唐招提寺禮堂　奈良縣
一海龍王寺講堂（嘉禎年間）　奈良縣
一當麻寺本堂、講堂（嘉元元）　奈良縣
一當麻寺金堂　奈良縣
一室生寺本堂、御影堂　奈良縣
一興福寺北圓堂（仁治元）　奈良市
一興福寺三重塔（寛元元）　奈良市
一極樂院本堂　奈良縣

彫刻　當代初期には東大、興福二大寺の再建を企てられたり、或は鎌倉に新しい寺が造營されたため、佛像の需要が頓に加はり、彫刻界は異常な活氣を呈した。即ち東大、興福の兩大寺には大佛師職が設けられ、運慶、快慶をはじめ、康慶、湛慶、定慶、定覺などの大家が一時に輩出して新時代を劃するに至つた。

この時代の彫刻は特に木彫に於いてその技術を發揮し鎌倉大佛の如き銅造の大作は例外であつた。而してこの時代の彫刻の特徴は、寫實の氣味が多分に現れて來たことゝ、新時代の潑剌たる意氣が活躍せる姿態の表現に得意であつたことである。東大寺南大門の仁王像は運慶、快慶の合作と傳へて名高く、よく鎌倉彫刻の特徴を代表して居る。

佛像以外に於いては肖像彫刻も傑作を出した。その表現は極めて寫實的で、奕々たる精彩、その人に接する如きものが少くない。奈良帝室博物館に出陳されて居る興福寺の運慶作世親無著の像の如きは、當代肖像彫刻の代表的傑作である。快慶は運慶の活躍剛健の作に長ぜるに對し、寧ろ靜止的な形態の表現に長じて居た。その代表的傑作は東大寺の僧形八幡神像で、淸麗溫和な表情に富んで居る。

次に列擧するは近畿地方に遺存する當代の代表的彫刻である。

一南圓堂多聞天像　康慶作　奈良市
一蓮華王院二十八部衆（内二軀京都博物館出陳）　京都市
一鞍馬寺聖觀音像　京都府
一智恩寺文殊像　京都府
一東大寺南大門仁王像　傳運慶快慶作　奈良市
一東大寺僧形八幡神像　快慶作　奈良市
一興福寺世親無著立像　傳運慶作　奈良市
一興福寺維摩居士坐像　定慶作　奈良市
右二點とも奈良帝室博物館出陳
一興福寺西金堂金剛力士像　奈良市

繪畫　繪畫は前代からの舊派が益々その特質を發揮し、優美なるは愈々細密となり、描法の精巧殆ど前後にその比を見ざるに至つた。佛畫の製作は依然として甚だ盛で、特に注意すべきは淨土信仰に關係の深い來迎圖、或は淨土曼荼羅等の流行である。肖像畫はこの時代に獨自の發達をなし、京都神護寺の平重盛、源賴朝像の如き名品を遺した。前代に端を發した繪卷物の流行は當代に入つて未曾有の盛況を呈し、その種類も多く形式描法にも長足の進歩を示すに至つた。

當代に行はれた繪畫の流派には土佐と託摩の二派が最も勢力があり、この外に巨勢派及び春日派も存しては居たが一向振はなかつた。土佐派には前代の末から當代にかけて光長と隆信を出し、隆信の子信實、その子爲繼、慶忍、吉光、光秀などが出て益々隆盛に赴いた。また春日派から出て土佐派に融合した畫家には長章、長隆、隆兼、隆相などが出た。當代の繪卷物の多くはこれ等の畫家によつて描かれたのである。

託摩派の畫家には澄賀、勝賀等の名手ありて佛畫を專門としたのであるが、末期に出た榮賀などは宋元畫を學んで支那風の佛畫を描いた。

近畿地方にある當代の最も代表的な繪畫を次に列擧する。

一東大寺華嚴五十五所繪卷　奈良市
一北野神社北野天神根本緣起　京都市
一廣隆寺能惠法師繪詞　京都市
一東福寺釋迦像　京都市
一三寶院五祕密像　京都市
一光臺院文殊菩薩渡海圖　京都府

一仁和寺聖德太子像　京都市
一歡喜光寺一遍上人繪傳　圓伊筆　京都市
一知恩院法然上人繪像　京都市
一禪林寺山越阿彌陀如來圖　傳惠心僧都筆　京都市
一神護寺源賴朝外三人肖像　傳藤原隆信筆四幅　京都市
一高山寺華嚴緣起　六卷　京都市
一高山寺鳥獸戲畫　傳鳥羽僧正筆四卷　京都市
一金剛峯寺狩場明神及丹生明神像　和歌山縣
一唐招提寺東征繪傳　奈良縣

工藝美術　工藝美術もまた時代の特色を示し、禪宗の興隆によつてその須彌壇や厨子の製作が發達し、武家の需要につれて甲冑、刀劍、馬具などの方面に進歩した。また宋との交通によつて新たに輸入工藝として陶器の業が起つた。近畿地方に遺存せる當代の工藝品で特に注意に値するものは、鞍馬寺の銅燈籠、河內觀心寺の鐵燈籠、大和當麻寺の當麻曼荼羅厨子扉の蓮華蒔繪などがある。

室町時代　この時代のはじめは吉野朝時代で宮方武家方の戰亂が打續いた、その間凡そ五十年。三代將軍義滿の時に至りて、世は一時平和に成り、義滿は室町に花御所を營み、北山に別莊を建てゝ豪奢を極め、佛寺もまた再建され、都の內外一時に面目を改め、室町時代の全盛期を現出した。その後間もなく應仁の亂があり、引續いて戰國時代となつた。然るに將軍は多く戰亂をよそにして豪奢な生活を營み、風流三昧に日を送つた。殊に八代將軍義政は東山に別莊を營み銀閣を造つて隱遁した。彼は茶道を好み屢々茶會を催し、明より書畫珍器を輸入して鑑賞した。かくて藝術の進歩著しく所謂東山時代を現出したが、この時代は前代に輸入された禪家の藝術が、特に建築と繪畫の上に最も著しく影響した時代である。

建築　唐樣建築が和樣と完全に混淆して折衷建築が盛になり、濃彩な裝飾を施した建築はすたれ、簡素な建築が流行した。また住宅には書院造が現れた。茶室建築も、この時代に新しく發達したものである。近畿地方に遺存する當代の建築及び庭園の主要なものは左の如し。

一金閣寺金閣　京都市
一銀閣寺銀閣　京都市
一法觀寺八坂塔　京都市
一知恩院勢至堂　京都市
一大德寺庫裡及侍眞寮　京都市
一東福寺禪堂、東司、浴室、三門　京都市
一西芳寺湘南亭　京都市
一妙心寺玉鳳院開山堂　京都市
一稻荷神社本殿　京都市
一醍醐寺清瀧堂拜殿　京都市
一法界寺藥師堂　京都市
一妙喜庵書院及茶室　京都府
一園城寺三重塔婆、大門　大津市
一新羅善神堂　大津市
一大仙院庭園　京都市
一西芳寺庭園　京都市
一龍安寺庭園　京都市
一天龍寺庭園　京都市
一大通寺本堂　滋賀縣
一大通寺廣間附玄關　滋賀縣

彫刻　鎌倉の初期に潑剌たる勢を以て勃興した彫刻は、鎌倉の中期以後既に墮落に傾き、當代に入りては、何佛像彫刻をあまり必要としない禪宗の興隆と共に、何等發達の機會を得ることなくして次第に衰微を重ぬるのであつた。尤も當代は能樂の流行につれて能面の彫刻に著しい發達を遂げ、增阿彌、福來、春若、寶來、千種、三光坊などの有名な作家を出した。

繪畫　室町時代の繪畫で未曾有の發達をなしたものは水墨畫である。卽ち藤原時代から鎌倉時代へかけて發達した濃厚な彩色畫は廢れ、宋元新興の樣式になる禪趣味の道釋人物及び山水畫の流行を見るに至つた。而も當代の宋元系統の水墨畫が、禪僧の餘技として發展した點注目に値する現象である。水墨畫の大家には明兆、如拙、周文、宗湛、蛇足、能阿彌、藝阿彌、祥啓(啓書記)、相阿彌、雪舟があつた。この外大和繪の手法を折衷して巧みに漢畫を日本化したものに、狩野正信(祐清)、元信父子がある。この兩人によりて狩野派の基礎が定められた。

當代水墨畫の發達は一方には盛に支那から輸入され

た宋元及び南宋の名畫が手本となり、一方にはかの地に渡つて親しくこれを研究して歸朝したものゝ努力にあつた。當時我が國で歡迎された宋元及び南宋の畫家は馬遠、夏珪、牧谿、玉澗、梁楷、徽宗皇帝、顏輝、李龍眠などで、近畿地方の諸寺にもその作と傳ふるものが多少遺つて居る。

我が國水墨畫最初の大家として多くの作品を遺して居るのは明兆である。彼は好んで羅漢、高僧の肖像を描いた。彼は東福寺の役僧であつた關係から、同寺にそれが多く殘つて居る。その大作には五百羅漢圖、聖一國師像、達磨蝦蟇鐵枴像などがある。周文は當代の大家でその門下に宗湛、蛇足、雪舟などの大家を出して居るが、彼の確かな作と認むべきものは一幅も殘つて居ない。雪舟には京都曼殊院の山水圖があるが、毛利公爵家の山水長卷は特に大作である。

元信は山水、花鳥、人物すべてに長じ、狩野派三百年の基礎を作つたのは實に彼である。その遺作には襖繪が多い。京都妙心寺靈雲院の山水花鳥圖四十九幅はもと同院書院の襖繪を掛幅に仕立てたもので、その一部分は京都、奈良、東京の各博物館へも出陳されて居る。大德寺大仙院の花鳥圖八枚ももと襖繪で、今は掛幅に改めて恩賜京都博物館に出て居る。この外奈良帝室博物館に出陳されて居る妙心寺東海院の瀟湘八景も名高いものである。

次に近畿地方に遺存せる當代の代表的繪畫を列擧する。

一妙智院夢窓國師像　京都市
一春浦院福富草紙　京都市
一大德寺後醍醐天皇御影　京都市
一清凉寺融通念佛緣起　京都市
一十念寺佛鬼軍繪卷　京都市
一大德寺大燈國師像　京都市
一東福寺聖一國師像　明兆筆　京都市
一退藏院瓢鮎圖　如拙筆　京都市
一曼殊院夏冬山水圖　雪舟筆　京都市
一眞珠庵苦行釋迦圖　曾我蛇足筆　京都市
一靈雲院山水花鳥圖　傳元信筆　四十九幅　京都市

工藝美術　甲冑、刀劍の製作は前代から引續き盛で、明珍宗安、三條小鍛冶重吉、埋忠などの名人出で多くの作品を遺して居る。茶道の隆盛に伴なひ、茶の湯釜、茶器殊に陶器の製作を促し、祥瑞、信樂、樂燒などが發達した。蒔繪も當代に至つて高蒔繪及び梨子地等の製造が完成され、いはゆる東山蒔繪と稱する。幸阿彌道長、五十嵐信齋など名工である。

桃山時代　その期間は僅かに四十年を出ないが、政治上からも、文化史上からも、興味の深い時代である。信長の活動は殆ど舊物の破壞に終始したのであるが、信長の後を承け繼いだ秀吉の經營は、殆どすべてが建設的であつた。その桃山藝術はかゝる時代相を反映し、新時代の潑剌たる精神から生れた新文化の一顯現であるから、豪華と生氣の表現をその特徵として居る。

建築　建築はその中心が寺院をはなれて城郭建築に移つた。而してその建築は武將が何れも自己の威容を示さんがために起したのであるから獨創に富み、雄大壯麗を競つたものである。信長の建てた安土城、秀吉の建てた大阪城、伏見城などは何れも壯麗を極めたものであつた。西本願寺の飛雲閣は聚樂第中の一部を移したと稱する。また伏見城の遺構と稱するものは京都市内外の諸寺と近江の竹生島などに遺存して、何れも當代の豪華な建築の俤を偲ばしむるものがある。西本願寺唐門、同書院、豐國神社唐門、竹生島の觀音堂、都久夫須麻神社日暮御殿等がそれである。

當代の寢殿造、武家造、神社佛寺茶室等その主なるものは、次に示す如く近畿地方に多く遺存して居る。

一西本願寺飛雲閣　聚樂第遺構　京都市
一西本願寺四脚門、書院（對面所及白書院）、玄關及浪の間、虎の間、太鼓間、以上何れも伏見城遺構　京都市
一西本願寺黑書院　京都市
一豐國神社唐門　伏見城遺構　京都市
一大德寺三門　京都市
一大覺寺客殿　京都市
一北野神社本社、中門、廻廊、透塀、後門　京都市

一南禪寺方丈　皇居遺構　京都市
一高臺寺開山堂、靈屋　京都市
一西芳寺湘南亭　京都市
一正傳寺本堂　伏見城遺構　京都市
一妙喜庵書院、數寄屋　京都府
一醍醐寺五大堂　京都市
一三寶院殿堂、唐門　京都市
一園城寺金堂　大津市
一勸學院客殿　大津市
一圓滿院宸殿　大津市
一石山寺本堂外陣　滋賀縣
一延曆寺橫川中堂　滋賀縣
一西教寺客殿　伏見城遺構　滋賀縣
一日吉神社西殿、東殿、西殿樓門、東殿樓門　滋賀縣
一日吉神社　攝社樹下神社本殿　滋賀縣
一長命寺本堂　滋賀縣
一總見寺樓門　滋賀縣
一寶嚴寺觀音堂　伏見城遺構　滋賀縣
一都久夫須麻神社日暮御殿　同上　滋賀縣
一水無瀨神宮社務所、茶室　大阪府
一專香寺本堂　奈良市
一法華寺本堂　奈良市
一勝鬘院多寶塔　大阪市

彫刻　前代から墮落の道をたどるのみで、佛像彫刻は益々衰へ、肖像彫刻も一向振はなかつた。獨り榮えたのは建築に施された裝飾彫刻のみである。卽ち西本願寺、豐國神社、北野神社、大覺寺等の唐門にその實例を見ることが出來る。

繪畫　繪畫も雄大豪壯の氣風を現した建築に影響されて襖や壁の貼付繪、屏風繪などの裝飾畫が非常な發達を遂げた。當代の流派には狩野、雲谷、長谷川、曾我の四派があつたが、當時の趣味を最もよく表現し得た大家は狩野永德、同山樂、海北友松であつた。殊に永德は雄大華麗の筆を以て古今に鳴り、その門人山樂また彼に劣らざる名匠であつた。智積院、妙心寺天球院、三井寺圓滿院及び勸學院の襖繪など、何れも筆者は明かではないが、金碧燦爛たる豪華な裝飾畫である。

海北友松はその確かな傑作を屏風繪に殘して居る。卽ち妙心寺の三酸及び寒山拾得圖六曲屏風、花卉圖六曲屏風（以上恩賜京都博物館出陳）、嚴子陵及び虎溪三笑圖二曲屏風（奈良帝室博物館出陳）、琴棋書畫圖六曲屏風（靈洞院藏）、呂望及び商山四皓圖六曲屏風（東京帝室博物館出陳）など特に名高い。

次に近畿地方に遺存する繪畫の主なるものを示す。

一西本願寺飛雲閣襖繪柳圖　京都市
一建仁寺竹林七賢圖襖貼付　京都市
一建仁寺花鳥圖（襖及壁貼付）　京都市
一禪居庵松竹梅圖（襖貼付）　友松筆　京都市
一靈洞院琴棋書畫圖（六曲屏風）　友松筆　京都市
一智積院櫻楓圖（襖及壁貼付）　京都市
一智積院松梅圖（襖貼付）　京都市
一妙心寺三酸及寒山拾得圖六曲屏風　友松筆　京都市
一妙心寺呂望及商山四皓圖六曲屏風　友松筆　京都市
一妙心寺琴棋書畫圖六曲屏風　友松筆　京都市
一妙心寺花卉圖六曲屏風　友松筆　京都市
一妙心寺嚴子陵及虎溪三笑圖二曲屏風友松筆　京都市
一天球院竹虎圖（襖貼付）　二十四面　京都市
一天球院梅遊禽圖（襖貼付）　十八面　京都市
一天球院羅草花圖（襖貼付）　十八面　京都市
一醍醐寺調馬圖六曲屏風　傳山樂筆　京都市

工藝美術　工藝美術も時代趣味を表現したものが多く、建築の裝飾としての木工、漆工、金工に於いて大なる發達を遂げた。意匠は山水、人物、花卉、鳥獸等が自由にまた大膽に用ゐられて居る。蒔繪では高臺寺の靈屋に施された蒔繪、恩賜京都博物館に出陳されて居る同寺の蒔繪調度類は何れも豪放な圖樣のもので、高臺寺蒔繪と稱し標本とされて居る。近江竹生島の都久夫須麻神社本殿內部の裝飾も代表的な蒔繪である。

金工は京都醍醐三寶院、豐國神社唐門、三井寺勸學院客殿の金具などに見ることが出來る。

江戸時代　當初京都の文化が江戸に移され、江戸幕府奬勵の下に榮えたので、美術も京都に對立して盛況を見るに至つた。

建築　建築は一言にして云へば墮落時代で、無暗に裝飾を附加して、建築本來の主義と美觀を損じたものが多いが、初期の建築は尙桃山時代の豪華な樣式を傳へたものも少くない。當代に見る獨得の建築は、禪宗

の一派である黃檗宗の傳來に伴ふ黃檗建築の出現である。その形式は明末に於ける禪宗建築の樣式を傳へたもので、京都市外宇治黃檗山萬福寺がそれである。

次に近畿地方に遺存する主なる建築を列擧する。

一西本願寺大師堂、本堂　　京都市
一東寺五重塔（寛永十八）　　京都市
一京都御所（安政）　　京都市
一平野神社本殿（寛永）　　京都市
一大德寺佛殿（寛文）　　京都市
一同　寺法堂（寛永十三）　　京都市
一孤篷庵本堂、書院、忘筌　　京都市
一清水寺本堂（寛永十）　　京都市
一賀茂別雷神社社殿（文久）　　京都市
一眞珠庵通僊院（寛永）　　京都市
一眞珠庵方丈（寛永十五）　　京都市
一八坂神社本殿（承應）　　京都市
一八坂神社末社蛭子社殿（正保三）　　京都市
一八坂神社石鳥居（正保三）　　京都市
一知恩院三門（元和五）　　京都市
一知恩院本堂（御影堂）、大方丈、小方丈、唐門（以上何れも寛永十）　　京都市
一知恩院經藏（元和二）　　京都市
一南禪寺三門（寛永五）　　京都市
一桂　離　宮　　京都市
一修學院離宮　　京都市
一妙心寺佛殿（文政十三）　　京都市
一妙心寺法堂、大方丈、小方丈（明曆三）　　京都市
一天球院本堂（寛永）　　京都市
一大覺寺宸殿　　京都市
一仁和寺仁王門、五重塔（寛永）　　京都市
一勸修寺書院（同上）　　京都市
一萬福寺總門、三門、天王殿、法堂（寛文）　　京都府
一延曆寺根本中堂、大講堂（寛永十九）　　滋賀縣
一大通寺客室　　滋賀縣

彫刻　益々凋落の外なき有樣であつた。唯建築裝飾の彫刻と能面、根付、人形などは大いに發達したが、純正美術としての彫刻には何等見るべきものがない。

繪畫　桃山時代に建築と共に發達をなした繪畫は、當代に入り別に自由の天地を開拓し、大家相次いで起り多くの新流派を生じ、空前の發展を遂ぐるに至つた。

土佐派には光起出でて土佐繪所を再興し、華麗纖細な大和繪を描いた。北野神社の天神緣起がその遺作である。

狩野派には探幽出でて、一世の畫宗としてその作品を多く殘して居る。京都方面では西本願寺書院鴻の間襖繪、南禪寺方丈竹虎圖の襖繪、大德寺及び妙心寺法堂天井の龍などが名高い。

當代裝飾畫の大家には光悅、宗達、光琳がある。建仁寺の風神雷神圖屛風、養源院の襖及び杉戶繪、醍醐三寶院の扇面散屛風等は宗達の代表作である。

水墨淡彩を主とし氣韻を重んじた文人畫は、當代に新しく發展した流派であるが、その大家には池大雅、蕪村、華山などが最もよく知られて居る。大雅の筆として名高い西湖圖、瀑布圖、虎溪三笑圖、五百羅漢圖は京都市外の萬福寺にある。また高野山遍照光院の山水圖屛風も逸品である。蕪村は何れも京都に居た。

當代の末期に出た應擧は和漢名家の筆蹟を究め、鳥獸花卉、自然の寫生に妙技を振ひ圓山派を開いた。彼の遺作は多數にあるが、三井寺圓滿院に七難七福圖繪卷、孔雀圖があり、また兵庫縣香住町の大乘寺は應擧寺と稱し、彼の描いた襖、屛風、軸物等が多數保存されて居る。

次に江戶時代の繪畫で近畿地方の諸寺に遺存する主なるものを示す。

一南禪寺群虎圖（虎間）傳探幽筆　三十九面　　京都市
一建仁寺風神雷神像二曲屛風　傳宗達筆　　京都市
一養源院松圖（襖及戶襖貼付）傳宗達筆十二面　　京都市
一養源院杉戶繪　傳宗達筆　四枚　　京都市
一觀智院雲龍圖六曲屛風　應擧筆　　京都市
一北野神社北野天神緣起　光起筆　三卷　　京都市
一三寶院舞樂圖二曲屛風　傳宗達筆　　京都市
一三寶院扇面散圖二曲屛風　傳宗達筆　　京都市
一萬福寺西湖圖　池大雅筆　八幅　　京都府
一萬福寺虎溪三笑圖　池大雅筆　八幅　　京都府
一萬福寺五百羅漢圖　池大雅筆　八幅　　京都府
一萬福寺瀑布圖　池大雅筆　四幅　　京都府

一萬福寺波濤圖　池大雅筆	京都府
一圓滿院孔雀牡丹畫　應擧筆	大津市
一圓滿院雜稿畫　應擧筆	大津市
一遍照光院山水人物圖（襖貼付）池大雅筆	和歌山縣
一遍照光院商山四皓及虎溪三笑圖六曲屏風　直庵筆	和歌山縣
一金剛三昧院梅花雉子圖（襖貼付）十四面	和歌山縣

平民藝術として浮世繪が勃興して最も盛大を極め、その祖と稱される岩佐又兵衞をはじめ、菱川師宣、鳥居淸信、宮川長春、勝川春章、喜多川歌麿、歌川豐春豐廣、豐國、廣重、北齋その他多くの名家があるが、殆ど皆江戸に出たのである。浮世繪は全く江戸に發達し、江戸の特色を現したもので、京都には振はなかつた。

工藝美術　當代の工藝美術は前代から引續き益々發展し、漆工に金工に陶器に何れも巧な技量を現し、その遺品も多くあるが、社寺について見られるものは少く、個人の手にあるのが多い。

學術上の施設

江戸時代　近畿地方は古代から文化の開けた所で、特に京都は學府としてその中心となつて來た。江戸時代に於いて藩學には和歌山の學習館、彦根の稽古館、津の有告館、上野の崇廣堂、桑名の立教館、龜山の明倫館、姫路の好古堂、篠山の振德堂鳳鳴義塾、郡山の敬明館、大溝の修身堂、出石の弘道館、豐岡の稽古堂、龍野の敬業館を初め七十餘あつた。京都、大阪には有名な學者の私塾があつたが、中に京都の伊藤氏の堀川塾、大阪の中井氏の懷德堂が名高い。

維新以後　明治初年から政府の建てた教育機關は學校、試驗所、研究所等その數が多い。學校は京都、大阪に帝國大學、宇治山田に神宮皇學館大學、神戸に商業大學、奈良に女子高等師範學校、京都に高等蠶絲學校、津に三重高等農林學校、彦根及び和歌山に高等商業學校、京都、大阪、姫路に高等學校、京都に高等工藝學校、堺、神戸に高等工業學校、蘆屋市外本庄村に神戸高等商船學校、大阪に外國語學校がある。

また公立及び私立のものには京都に府立醫科大學、大谷大學、龍谷大學、立命館大學、同志社大學、府立女子專門學校、市立繪畫專門學校、大阪に大阪商科大學、大阪府女子專門學校、吹田に關西大學、豐中に浪速高等學校、西宮市に關西學院大學、神戸市外垂水に縣立神戸高等商業學校があり、また高野に高野山大學がある。

圖書館の著しいものは京都帝國大學附屬圖書館、府立京都圖書館、大阪の府立圖書館、宇治山田の神宮文庫、神戸市立圖書館、和歌山縣立圖書館、奈良の縣立圖書館等がある。

博物館の著しいものは京都の恩賜博物館、奈良の帝室博物館、府立大阪博物場、宇治山田の徵古館、高野山の靈寶館、兵庫縣三田の三田博物館、京都府久美濱集古館等がある。奈良正倉院の寶物は一定の資格者に限り一定の時期に拜觀を許されるのみである。

名勝と溫泉

近畿地方に於いて名勝または名勝・史蹟、史蹟・名勝、名勝・天然記念物に指定せられたものは左記の通りである。

京都府

名勝

圓山公園	京都市東山區
大澤池附名古曾瀧址	京都市右京區
御室（櫻）	同　市同　區仁和寺内
涉成園	同　市下京區東本願寺附屬別園
琉璃溪	船井郡西本梅村
天橋立	與謝郡吉津村

名勝・史蹟

本願寺大書院庭園	京都市下京區西本願寺内
妙心寺庭園	京都市右京區
玉鳳院庭園	同　上
東海庵書院庭園	同　上
靈雲院庭園	同　上
退藏院庭園	同　上

桂春院庭園　同　上
二條城二之丸庭園　同　市中京區
史蹟・名勝
南禪院庭園　京都市上京區
大德寺方丈庭園　同　市上京區紫野
眞珠庵庭園　同　上
大仙院書院庭園　同　上
孤篷庵庭園　同　上
金閣寺（鹿苑寺）庭園　同　市上京區
銀閣寺庭園　同　市左京區
高臺寺庭園　同　市東山區
西芳寺庭園　同　市右京區
天龍寺庭園　同　上
龍安寺方丈庭園　同　上
嵐山　同　上
醍醐寺三寶院庭園　同　市伏見區
平等院庭園　久世郡宇治町
笠置山　相樂郡笠置町

兵庫縣

名勝
慶野松原　三原郡松帆村
香住海岸　城崎郡香住町
名勝・天然記念物
但馬御火浦　美方郡濱坂町　城崎郡餘部村

奈良縣

名勝
奈良公園　奈良市
月瀬梅林　添上郡月瀬村
名勝・史蹟
慈光院庭園　生駒郡片桐村
史蹟・名勝
當麻寺中之坊庭園　北葛城郡當麻村
吉野山　吉野郡吉野町

和歌山縣

名勝
瀞八丁　東牟婁郡玉置口村外三重縣入鹿村、奈良縣十津川村
天德院庭園　伊都郡高野町
普門院庭園　同　上
名勝・天然記念物
橋杭岩　西牟婁郡串本町　東牟婁郡西向町

三重縣

名勝
赤目の峽谷　名賀郡瀧川村
名勝・史蹟
北畠氏館址庭園　一志郡多氣村
天然記念物・名勝
熊野浦の獅子巖　南牟婁郡有井村
木本の鬼ケ城　同　郡木本町

滋賀縣

名勝
海津大崎　高島郡海津村
雄松崎湖岸　滋賀郡小松村
胡宮神社社務所庭園　犬上郡多賀村
多賀神社奧書院庭園　同　上
大通寺含山軒及蘭亭庭園　坂田郡長濱町
青岸寺庭園　同　郡米原町
淨信寺庭園　伊香郡木之本町
舊秀隣寺庭園　高島郡朽木村
名勝・史蹟
竹生島　東淺井郡竹生村
圓滿院庭園　大津市別所
光淨院庭園　同　上
善法院庭園　同　上

琵琶湖は日本第一の大湖で、古來富士山と並稱して日本の二大名勝に推され、その出現に就いても富士と聯關する趣味ある傳說を有し、その周圍には磯、松原、伊庭の內湖及び余吾湖など衞星の如く附屬して、太湖と共に具に風景美を現して居る。湖の風景は近衞政家の近江八景の選によつて世に喧傳せられて居るが、その範圍は南部の狹小なる地帶に限られ、その風景も多くは女性的である。名勝・史蹟に指定せられたる竹生島は湖の北部、太湖最大の水深中に靑螺の如く浮んで居る島で、全島花崗岩から成り、鬱蒼たる樹林に蔽はれ、堂塔伽藍參差して、その影を湖上に映ずるの狀は、眞に綠樹影沈んで魚木に上るの趣がある。海津大崎は竹生島と斜に相對して湖中に突出し、懸崖急斜して深淵に臨み、翠松綠樹岩頭を蔽つて影を碧水に投し、太湖に稀な男性的の風景美を現はして居る。

京都は古來山紫水明の地として知られ、一千百有餘年の長きに亙りて帝都たりし尊き歴史を有し、史蹟名勝の多き海内無比である。東西北の三面は翠巒を以て圍繞せられ、賀茂、桂の清流はその懷を流れて居る。しかしてその東山、北山及び西山嵐山一帶の地には、著名なる神社佛閣各景勝の地を占めて堂塔伽藍の美を現し、觀光都市たる京都の價値を高めて居る。史蹟・名勝に指定せられた嵐山は大堰川に臨める春花秋葉の勝地、足を京都に入れた人でこゝに遊ばぬ人はあるまい。御室の櫻は里櫻に屬し、その形灌木狀に作られ、根元から多數の枝を生じ、躑躅の如き趣をなすのが珍らしい。圓山公園は東山の翠微を背景として林泉の美があり、名高い枝垂櫻の紅燈篝火に映ゆる春の夜の美觀はまたなきものである。

各寺院の庭園中その結構意匠等に於いて各その時代の造園典型を見るべき貴重なものとして名勝及び名勝史蹟に指定せられて居るは前記の如く京都府に多く、滋賀縣これに次ぎ、奈良縣、和歌山縣にもあり、或は茶庭、或は苔庭、或は山水園、或は假想型、或は畫描型、或は意匠型などの典型として尊ぶべきものである。

天の橋立は内海と外海との水の働きによつて成つた砂洲で、青松ながくこれを蔽うて絶景をなし、文珠、成相山を包括して、日本三景の一たる景觀を現して居る。この種の松原の美觀を有して名勝に指定せられたものは天の橋立の外に淡路の慶野松原、琵琶湖畔の雄松崎があり、また久美濱湖畔の小天橋、播磨の舞子の濱、和歌の浦の片男波、湯淺浦南東沙濱の廣の松原等も知られて居る。

溪谷の勝地として名勝に指定せられたのは赤目の峽谷、琉璃溪、瀞八丁である。赤目は伊賀名張の奥にあり、高見山に發源する瀧川が瀧長坂の懸崖峭秀に會して懸水激流となり、いはゆる赤目四十八瀑の奇景を現出するものである。名張の近くには別に香落溪の勝がある。これは曾爾から發する青蓮寺川の穿つ峽谷で、谷相迫つて絶壁をなすところ柱狀節理の良好なる發達を現して特異な景致をなし、屏風岩、兜岩、鎧岩が天然記念物に指定せられて居る。溪谷の風景中近畿地方の第一に推すべきは熊野川の一支北山川の幽峽瀞八丁で、中生層を深刻して天下の絶景を作し、兩岸の絶壁屹立してその上に原始林を戴き、その影を玲瓏玉の如き碧水に映ずる光景は、名狀すべからざるものがある。この他近江耶馬溪の稱ある朽木溪谷も近年やゝ知られて來た。

熊野川はその吐口の新宮から本宮、瀞八丁へプロペラ船が上下し、熊野地方の一交通機關となつて居るがまたその兩岸の風光が旅行者に喜ばれて居る。川下りの興味は山陰線龜岡から嵐山山下に至る保津川下り、關西線島ケ原から笠置に至る木津川下りがあり、宇治川ライン、由良川、朝來川などの舟遊も喜ばれて居る。

名勝・天然記念物橋杭岩は南紀串本の近くにあり、第三紀層の頁岩砂岩の互層中の弱線に沿うて噴出した石英粗面岩の岩脈が、海水のため差分侵蝕によつて殘つたもので、大小三十餘の岩列をなし、橋杭岩の名に反かぬ奇景を現して居る。串本の東南には潮の岬の突出がありそれより熊野川口に至る間の海岸は屈曲に富み、リヤス型をなして居る。中に勝浦灣は袋狀をなして深く陸地に彎入し、灣内には隆起、陷沒、海水の浸蝕等によれる幾多の島嶼碁布星羅して翠松を戴き、いはゆる紀の松島の景勝を作つて居る。日本海沿岸にも舞鶴灣、宮津灣の彎入ありて好風景をなして居るが、香住以西濱坂に至る間の西但馬の海岸は山陰第一の雄大なる嶮岸をなし、その香住海岸及び濱坂附近の但馬御火浦が名勝に指定せられ、海蝕作用による奇島、洞門、洞窟等造化の妙技を現して居る。それに引かへて瀬戸内海に瀕せる播磨の海濱特に須磨、舞子、明石の海濱は古來風光明媚の勝境と歌はれ、後に低い洪積層の丘陵を負うて、明石海峽の一葦帶水を隔てゝ淡路島に對するところ、白沙の上に婆娑たる影を落す松の木の間から、疊の如く浪靜なる海上に動くともなき眞帆片帆を數へる風情などまたなき景致である。

春花秋葉の勝地もまた少なくはない。春の魁をなす梅の名所としては、まづ名勝に指定せられた月瀬の梅

林、名張川畔一帶の溪山の勝に加ふるに梅樹點綴して花時の美觀天下に冠絶すと稱せられ、芳香大和、伊賀山城の三國に漂ふと形容せられて居る。が月瀬にも勝りて梅樹多く、日本一の梅林と云ふべきは南紀南部の梅林で、南部川の沿岸平野を繞る丘陵と云ふ丘陵は殆ど梅樹を以て蔽はれ、樹數約十二萬本、香雲丘の如きは一目三萬五千本臺の稱がある。奈良線長池附近の青谷梅林は樹數五萬本、山城月瀬の名に呼ばれ、和歌山線五條から行く賀名生の梅林は吉野朝の史蹟を伴うて、その香世に知られて居る。この外南海鐵道樽井附近の金熊寺梅林、住吉附近の岡本梅林、姫路附近の白國梅林、京都の北野神社、長岡天滿宮なども梅の名所に數へられる。盆梅は近江多賀の壽館、同大津膳所の梅仙窟、京都山科の奴茶屋、伊賀上野の大勢櫻などが知られて居る。

櫻の名所は云ふまでもなく大和の吉野山、無論史蹟・名勝に指定せられて居る。一目千本、中の千本、上の千本、奥の千本、山谷悉く櫻樹に埋められ、花時は「吉野山霞の奥は知らねども見ゆるかぎりは櫻なりけり」の光景を現ずる。こゝの櫻は役の行者が藏王權現の尊像を櫻の木に刻んだことから櫻を神聖視し、參詣者は必ず獻木する習はしとなつて、遂に櫻の名所となるに至つたものだと云ふ。加ふるに一帶の地は源義經の吉野落や、吉野朝の哀史を留むるもの多く、吉野皇居址、如意輪寺、後醍醐天皇塔尾御陵など、懷古の情を催させる。

この外前に記した京都の嵐山、御室、大澤の池、圓山公園の指定名勝をはじめ、醍醐寺、勝持寺(花の寺)、岡崎公園、奈良附近では名勝指定の奈良公園の外、郡山城址、信貴山、多武峯、長谷寺、和歌山附近に紀三井寺、根來寺、近江には宇曾川堤、老蘇の森、石山寺、長等公園、日吉神社、大阪附近に四條畷神社、神戸附近に有馬、須磨寺、明石の人丸神社、姫路の姫山公園、舞鶴の舞鶴公園なども櫻の名所である。

紅葉の勝地としてはまづ京都の高尾、槇尾、栂尾、清瀧川の流に沿うて三尾相並んで古來紅葉の名所とし

て歌はれて居るが、中にも高尾は最も名高く、深く浸蝕せられた懸崖に臨んで密生せる老楓血よりも赤く染めて、紅雲谷を埋むる美觀は形容の詞がない。この他嵐山、清瀧、東福寺、清水寺、永觀堂があり、近江には永源寺、石山寺、日吉神社、奈良附近には名勝奈良公園、昔から名高き龍田川、伊賀の赤目、香落溪、紀州の瀞八丁、大阪近くの箕面の瀧のあたりなど、いづれも秋は綾羅の錦を織るのである。

近畿地方一帶は溫泉には惠まれて居ない、紀伊、但馬を除いては殆ど鑛泉のみである。滋賀縣では草津線の宮乃、鹽野、江若鐵道沿線の雄琴、三重縣では四日市近くの湯の山、奈良縣では吉野地方の吉野、入之波、大阪府では南海鐵道高野線三日市の錦溪、京都府では京都の嵐山、關西本線の笠置、兵庫縣では神戸の諏訪山、昔から名高い有馬、武田尾、寶塚、いづれも鑛泉で加熱して浴用に供して居る。京都府の丹後には木津溫泉があり、兵庫縣の但馬には城崎、湯村の二溫泉がある。城崎は關西地方に於ける代表的溫泉の一であり、湯村はその荒湯の溫泉噴騰で有名となつた。

紀州には溫泉が多い、半島南端の勝境勝浦港を繞つて、浦島、外の湯、渚湯、貴志の湯、越の湯の諸湯があり、やゝ離れて湯川溫泉がある。熊野川の上流本宮附近には湯の峯、川湯の二泉があり、湯の峯は古來熊野詣の人達が湯垢離をとつた靈場として知られた溫泉である。

半島の西南岸田邊灣附近には白濱、湯崎、椿の海岸溫泉があり、安珍清姫の傳說で名高い日高川上流の山郷には龍神溫泉がある。湯崎は昔から聞えた溫泉で、齊明天皇、天智天皇、持統天皇、天武天皇の行幸を辱うした光榮を有する古き溫泉、白濱は湯崎から約一粁を距てた細沙雪の如き白濱に近年新に開けた溫泉場で、附近の古賀、內白濱、東白濱の開湯と相俟つて大溫泉郷を形成し、溫泉の豐富と風光の優秀とを以て知られ、急激に發展の道を歩んで居る。附近の海岸は學術的にも名高く、海蝕臺地の千疊敷、權現岬に於ける泥火山跡、砂岩脈、海蝕洞として知られた圓月島、畠島の漣

痕などがあり、地層面の漣痕と、泥岩々脈は天然記念物に指定されて居る。

交　通

概觀　近畿地方の平野は古來文化發達し、北部高原地帶も河谷に聚落發達し、何れも鐵道交通が進んで居るが、南部山地のみは土地峻嶮で鐵道が少い。

鐵道　近畿地方の鐵道網は大阪を中心とし、京都を副心として居る。鐵道の幹線は東海道本線、山陽本線、關西本線、山陰本線及び北陸本線等である。

東海道本線は東京から神戸に達するもので、近畿地方では伊吹山脈の狹隘部から滋賀縣に入り、琵琶湖畔を經て京都府に進み、大阪を經て神戸で山陽本線に接續する。

山陽本線は神戸から下關に通じ、下關で連絡船によつて門司及び朝鮮釜山と連絡せられる。京都、大阪、神戸、明石間には電車が往來して居る。

關西本線は名古屋から桑名、四日市、奈良を經て大阪湊町に通じ、近畿地方の中央部を横斷し、途中龜山から參宮線を分岐して津、宇治山田、鳥羽に通じ、伊勢神宮參拜者に便し、東京からも大阪からも鳥羽行の直通列車が出て居る。

山陰本線は京都から綾部、福知山、鳥取、松江を經て幡生に至て山陽本線に接し、沿線には溫泉多く、また出雲大社に參詣するに便である。途中石見益田から小郡に出づる山陽本線の支線山口線がある。

北陸本線は米原で東海道本線から分岐し、日本海岸の平野を走り、直江津に達し、信越線に連絡する。この線は信越本線、羽越本線、奥羽本線と結び、阪神地方から裏日本を通つて青森に達する捷路の一部をなして居る。

尙中部南部には草津線、奈良線、櫻井線、和歌山線、紀勢西線(和歌山紀伊木本間)、紀勢東線(相可口尾鷲間)等があり、西北部の鐵道には福知山線、舞鶴線、播但線、宮津線等がある。

地方鐵道は大阪を大中心として各方面に走り、主要都市、名勝地に通ずる。また登山用の鋼索鐵道も諸所に設けられ比叡山、愛宕山、男山、成相山、生駒山、信貴山、朝熊山、吉野山、高野山、妙見山等に於いてこれを利用することが出來る。

近畿地方には都市郊外電車線の發達著しく、京阪神一帶に最も著しい。大阪(天神橋)京都、大津の三市を連ねる京阪電氣鐵道、大阪(天神橋)から桂を經て京都に至り、嵐山へ支線を有する京阪電氣鐵道新京阪線、大阪神戸間の阪神電氣鐵道、阪神急行電鐵、京都奈良間の奈良電氣鐵道、大阪(難波)和歌山間及び大阪(汐見橋)高野下間の南海鐵道、大阪(上本町)名古屋間、大阪宇治山田間、大阪奈良間、西大寺、橿原神宮驛、吉野間等の關西急行鐵道等はその主要なるものである。關西急行鐵道はもとの大阪電氣軌道の改稱である。

主要諸鐵道線の線路名稱、鐵道名、區間及びその連絡關係を示せば左の通りである。但近畿篇下大阪市及び神戸市の條に讓れるものある故その條を參照。(數字は粁程)

東海道本線(米原、神戸間)

近江鐵道	米原、彥根、高宮、貴生川	四七、七
同	高宮、多賀	二、五
八日市鐵道	近江八幡、御園	一一、五
京阪電氣鐵道	石山寺、濱大津、坂本	一四、一
同	濱大津、三條大橋	一一、〇
同	三條、中書島、天滿橋	四七、七
同	中書島、宇治	七、八
同新京阪線	京阪京都、天神橋	四二、〇
同　同	桂、嵐山	四、一
江若鐵道	濱大津、近江今津	五一、〇
奈良電氣鐵道	京都、大軌西大寺	三四、五
西成線	大阪、櫻島	八、一
福知山線	尼ケ崎、神崎、福知山	一一〇、四
有馬線	三田、有馬	一二、二
篠山鐵道	篠山、篠山町	四、九

山陽本線(神戸、下關)　五〇三、五

山陽電氣鐵道線	兵庫、姬路	五七、一
播丹鐵道	高砂浦、加古川、谷川	五六、四
同支線	厄神、三木竝粟生、北條町竝野村、鍛冶屋	

播但線	飾磨港、姫路、和田山	七一、三
姫新線	姫路、新見	一五八、一
赤穗鐵道	有年、播州赤穗	一二、七
山陰本線（京都、幡生）		六七五、四
舞鶴線	綾部、東舞鶴、中舞鶴	二九、八
宮津線	舞鶴、豐岡	八四、〇
加悦鐵道	丹後山田、加悦	五、七
北丹鐵道	福知山、河守	一二、四
出石鐵道	江原、出石	一一、二
關西本線（名古屋、湊町）		一八六、八
參宮線	龜山、鳥羽	七一、六
名松線	松阪、伊勢奧津	四三、五
紀勢東線	相可口、尾鷲	八〇、九
草津線	柘植、草津	三六、四
信樂線	貴生川、信樂	一四、八
奈良線	木津、京都	三四、七
片町線	木津、片町	四五、四
櫻井線	奈良、高田	二九、四
關西急行鐵道	上本町、江戸橋、關急名古屋	一八九、一
同	上本町、宇治山田	一三七、一

關西急行鐵道	江戸橋、大神宮前	三九、三
同	上本町、西大寺、關急奈良	三〇、八
同	西大寺、橿原神宮驛	二三、七
同	橿原神宮驛、吉野	二五、二
同	桑名、大垣	四三、一
同	伊賀上野、西名張	二六、三
北勢電氣鐵道	桑名町、阿下喜	二一、二
三重鐵道	諏訪、湯ノ山	一五、六
松阪電氣鐵道	松阪、大石	二〇、二
志摩電氣鐵道	鳥羽、賢島	二五、一
大和鐵道	櫻井、新王寺	一七、六
和歌山線	王寺、和歌山市	八九、三
南海鐵道	汐見橋、橋本、高野下	五四、八
同	難波、和歌山市	六四、四
高野山電氣鐵道	高野下、極樂橋	一一、一
東邦電力和歌山電車	和歌山市、海南驛前	一三、四
阪堺電鐵	蘆原橋、濱寺	一三、九
淡路鐵道	洲本、福良	二三、四
紀勢西線	和歌山、紀伊木本	二二六、一
阪和電氣鐵道	東和歌山、天王寺	六一、二
和歌山鐵道	東和歌山、貴志	一四、三

野上電氣鐵道	生石口、日方	一一、四

道路　近畿地方の平野は古來道路發達し、江戸幕府時代には東海道、中山道、北國街道、山陽街道、山陰街道があつて道路の幹線を成して居た。東海道方面では江戸から熱田に通じ、鈴鹿峠、草津を經て京都に達し、中山道方面では江戸、高崎、鹽尻、岐阜、關ケ原を經て草津で東海道と會し、京都に入ることになつて居た。江戸京都間東海道普通所要日數は十三四日であつた。北國街道は鳥居本で中山道に分れ、椽木峠を越えて北國に、山陽街道は京都から伏見、八幡、大阪、神戸を過ぎて岡山方面に、山陰街道は京都から龜岡、福知山を經て鳥取に向つた。また參宮街道及び熊野街道あり、道路がよく發達して居た。大正八年道路法が發せられてから國道は概ね東海道、中山道、山陽道、山陰街道、北國街道の古い道筋によつて定められた。

自動車　自動車は平野及び主要溪谷の道路に通じ交通至便である。左に省營自動車線の名稱、區別、粁程を揭げる。

若江線		
若江本線	近江今津、小濱	三四、〇
琵琶湖線	弘川口、木ノ木	三〇、〇
	蛭口、北牧野	四、〇
龜草線		
龜草本線	龜山、草津	五九、〇
	近江山内、黑川	一、〇
八幡線	三雲、元八幡	一八、〇
近城線	加茂、清水橋	一八、〇
紀南線		
	尾鷲、紀伊木本	四五、〇
京鶴線		
京鶴本線	京都、鶴ケ岡	六九、〇
山國線	周山、井戸	八、〇
園篠線		
園篠本線	園部、丹波日置、篠山	三六、〇
城北線	福住清水、村雲、本篠山	一一、〇
園福線		
	園部、福知山	五一、〇

河湖　近畿地方の河川は舟運の便大なるもの少く、吉野川、新宮川、古座川、日高川、宮川、櫛田川、音無川等は木材の流下に利用せらる。淀川は長さが短いが、その水運は侮るべからざるものがある。淀川の水源琵琶湖は定期航路が開けて、湖上往來が便利である。

海港　海上交通を見るに、瀨戸内海方面は風波穩かで、內外航路の要樞に當り、船舶の往來繁く、神戸大阪の二大港がある。兩港は一年の入港船舶噸數三千萬噸內外で、我が國屈指の港津である。伊勢海の四日市及び瀨戸內海の飾磨も近畿地方の主要港であるが、入港船舶は百五十萬噸內外である。

航空　大阪は航空の中心をなし、東は東京、西は九州の福岡等へ迅速に旅行することが出來る。

春水や四條五條の橋の下　蕪村
子を抱いて葵祭の道の端　子規
谷々の看經寒し比叡の山　許六
大津繪の筆のはじめや何佛　芭蕉
名月や唐崎の松瀨田の橋　几董

案內編

京都市及近郊

京都驛　京都市下京區東鹽小路町

東京から　五一三粁六　急行八時間　普通十三時間
鳥取から　二三一粁九　六時間
下關から　五八三粁五　急行十一時間　普通十四時間

▽山陰本線　京都、幡生間　六七五粁四
▽奈良線　京都、木津間　三四粁七
▽奈良電氣鐵道　京都、大軌西大寺間　三四粁五
▽省營自動車京鶴線　京都、二條、周山、鶴岡間　六八粁九　周山、井戸間　八粁四

【京都市】市は、山城國の北部、山城盆地、卽ち京都盆地の北部大半を占めて居る。東西二七粁餘、南北二六粁餘、周圍二三八粁餘、面積二八九方粁餘、人口約百二十萬を數ふ。

昭和六年四月隣接二十七市町村を市に編入し、廣大なる市域を有するに至つたが、その約三分の二の一八五方粁餘は山林、二三方粁餘は神社佛閣、殘りの六九方粁餘が普通平地で、政治都市たる東京、經濟都市たる大阪、名古屋に對立して、觀光都市たる京都の特異性を明かにして居る。海拔八三八米の比叡山も、九二四米の愛宕山も、市域に包含され、嵯峨と醍醐の幽地には猪や鹿さへも出る深山がある。

市の要部は沖積層の低地に位し、その東北西の三面を圍む高所は主に古生層より成り、洪積層、第三紀層及び花崗岩を見る所もある。東方に連る東山は一般に高度低く、起伏圓味を帶びて居るから、蒲團着て寢たる姿と形容され、如意ヶ岳から稻荷山まで三十六峯ありと云ふ。その東山の北端に、比叡山が高く聳えて居る。北山には鞍馬山、衣笠山等があるが、鞍馬山は市界の外に屬する。西山の北部には愛宕山、嵐山等が屹立し、その愛宕山が市の最高點となつて居る。眞の西山は嵐山の南方、主として乙訓郡に屬する諸山を指す

のである。

主なる河川は南部を西流する宇治川で、その水系に屬する桂川は西部から西南境を流れて、清瀧川、賀茂川を合せ、上流に保津川、大堰川の名がある。南境には山城第一の大池巨椋池があつたが、最近干拓工事の爲、著しく縮少された。

市は桓武天皇の奠都以來一千餘年に及び、久しく我が國の首府であつた所で、一歩にして名所があり、二歩にして古蹟があり、名所古蹟に富むこと全國無比である。奠都以來の歷史は姑くこれを措き、明治維新後に於ける市域の變遷を略記すれば、明治十二年三月上京、下京の二區を設け、同二十一年六月愛宕郡岡崎、聖護院、吉田、淨土寺、南禪寺、鹿ケ谷、粟田口、今熊野、清閑寺の各村を編入し、翌二十二年四月京都市と稱し市制を施行した。同三十五年三月葛野郡大内村字東鹽小路、西九條を編入し、大正七年四月愛宕郡田中、白川、下鴨、鞍馬口、野口、上賀茂の一部、大宮の一部、葛野郡衣笠、朱雀、大内、七條、紀伊、柳原、東九條、上鳥羽の一部及び深草の一部の各町村を編入し、市域が頗る擴まつた。昭和四年四月上京、下京の二區を分割して、新に中京、左京、東山の三區を增設した。また同六年四月、二十七市町村を合併して、右京、伏見の二區を增設し、面積は六〇方粁餘から二八九粁方餘となつた。編入市町村の中、愛宕郡上賀茂、大宮、鷹峰の三村は上京區に、同郡修學院、松ケ崎の二村は左京區に、宇治郡山科町は東山區に、紀伊郡吉祥院、上鳥羽の二村は下京區に合併し、葛野郡嵯峨町及び花園、太秦、西院、梅ケ畑、梅津、京極、松尾、桂、川岡の九村は右京區とし、伏見市、紀伊郡深草町及び竹田、堀内、下鳥羽、横大路、納所、向島、宇治郡醍醐の七村は伏見區とした。

市の人口は昭和五年の國勢調査に據ると約七十七萬であるが、二十七市町村の編入によつて約九十五萬となり、現在約百二十萬を數ふ。人口の多きこと我が國の都市中第四に位し、大正十四年の約六十八萬に比して、約倍加して居る。しかし人口の密度は小さい。

市は上京、下京、左京、右京、中京、東山、伏見の七區に分かれ、中京區は中部に、上京區はその北に、下京區は南に、左京區、東山區は南北に連りてこれ等の東に、右京區は西にある。また伏見區は下京、東山二區の南にあつて、市の最南部を占める。

市は天皇御卽位の大禮及び大嘗會を行はせられる特別な古都である。この地は佛教諸宗派の本山が多くあるので、宗教上の大中心となり、名勝舊蹟の觀光を兼ねて、入洛する旅客いはゆる「お上りさん」が夥しい。また大學その他數多の學校があるので、學藝の一中心ともなつて居る。産業は古來美術工藝に秀で、概して小規模であるが、機械を應用する大工場も近年次第に增加する。市の生産額は昭和十一年に約二億一千萬圓で、六大都市中末位にある。

市は古來工藝地として知られ、西陣織、京染、刺繡、陶磁器、漆器、扇子、團扇等が重要産物である。伏見は酒の釀造を以て名高く、洛西嵯峨方面には數箇所に映畫製作所があり、また市域内に約二〇〇アールの農耕地がある。

市の中央部、往古の平安京にあたる部分は、道路概ね南北或は東西に走つて、碁盤の目の如く正しく、その幅一般に狹いが、近年大いに擴張されて居る。南北に通ずる縱通と東西に通ずる横通の交叉點を基準として地物の所在點を現し、縱通にて北行するを上ル、南行するを下ルと云ひ、東西に通ずる横通には東入ル、西入ルと云ふ。繁華な街路を擧げると、縱通に河原町通、寺町通、烏丸通等、横通に三條通、四條通等がある。これ等の中四條通、河原町通は首位を占め、新式の大建築少からず、四條寺町通から河原町通に至る間卽ち御旅町と呼ばれる部分は歡樂境新京極に連つて熱鬧京都第一である。三條通は四條通の北に竝行し、嘗て上京、下京の境であつたこともある。市の里程元標は三條烏丸にある。以上の外、今出川通、堀川通、大宮通、千本通、五條通、七條通等にも殷賑な所がある。

京都の町名には通稱と公稱と兩樣あるものがある。例へば通稱の今出川通烏丸東入上ルは公稱新北小路町

であり、大宮通寺之內上ル西入は東千本町を公稱とするの類である。

▽御所及離宮　京都御所、修學院離宮、桂離宮

▽觀光案內所その他　京都市觀光課（京都市役所內）、市設京都觀光案內所（京都驛降車口前）、市設二條觀光案內所（二條驛構內）、日本旅行協會（京都驛、大丸、都ホテル、京都ホテル內）、京都觀光協會（京都商工會議所）、市立商品陳列館（岡崎公園）、西陣織物館（上京區今出川大宮東入）

▽會　館　京都市公會堂（岡崎公園內）、伏見公會堂（伏見區御駕籠町）、朝日會館（中京區河原町通三條上ル）、大每會館（同區三條御幸町）、日出會館（同區烏丸夷川上ル）、京日講堂（同區烏丸丸太町下ル）、華頂會館（東山區知恩院山內）、樂友會館（左京區吉田近衞町）、昭和會館（同區下鴨植物園內）、六角會館（中京區六角烏丸東入）、京都基督教青年會館（同區三條柳馬場角）、京都府教育會館（左京區川端丸太町上ル）、華族會館京都分館（上京區今出川烏丸東入）

▽倶　樂　部　學士會京都倶樂部（上京區三本木荒神口下ル）、京友倶樂部（京都ホテル內）、京都商工倶樂部（京都商工會議所內）、京都社交倶樂部（京都ステーションホテル內）、都倶樂部（都ホテル內）、京都倶樂部（同）、金曜會（四條寺町西入萬養軒內）

▽公園、動植物園、博物館　圓山公園（東山區）、岡崎公園（左京區）、船岡山公園（上京區）、嵐山公園（右京區嵯峨）、京都植物園（左京區）、市立記念動物園（岡崎公園內）、恩賜元離宮二條城（中京區）、恩賜京都博物館（東山區）、大禮記念京都美術館（岡崎公園內）

▽競　馬　場　淀競馬場（淀町）

▽ゴ　ル　フ　場　京都カンツリー倶樂部ゴルフ場（山科）

▽劇場、寄席　南座（東山區四條大橋東詰）、松竹劇場（新京極）、花月劇場（同）、富貴（同）、福眞亭（同）

▽映　畫　館　松竹座（新京極）、京都座（同）、京都寶塚劇場（河原町六角）、帝國館（新京極）、キネマ倶樂部（同）、京極映畫劇場（同）、國際映畫倶樂部（同）、京洛映畫劇場（同）、花月ニュース映畫劇場（同）、彌榮會館（祇園）、スケート場ニュース映畫館（河原町三條）

▽能　舞　臺　觀世能舞臺（上京區丸太町橋西詰）、大江能樂堂（中京區柳小路柳馬場東入ル）、金剛能樂堂（同區室町四條上ル）

▽百　貨　店　大丸（下京區四條高倉）、高島屋（下京區烏丸松原上ル）、丸物（同區烏丸七條下ル）、藤井大丸（同區四條寺町角）

▽ホ　テ　ル　都ホテル「米式（食事附）十三圓乃至二十一圓、歐式（室料のみ）五圓乃至十三圓、朝食一圓、中食二圓五十錢、夕食五圓、クーポン十圓、十二圓（バス付）」（東山區蹴上）、京都ホテル「米式十二圓乃至十七圓、歐式五圓乃至十圓、朝食一圓、中食二圓五十錢、夕食三圓、四圓、クーポン十二圓」（中京區河原町御池上ル）、京都ステーションホテル「米式六圓乃至十圓、歐式三圓乃至七圓、朝食九十錢、中食一圓二十錢、夕食一圓五十錢」（京都驛前）、叡山ホテル「比叡山上、都ホテル經營、歐式のみ、七圓乃至十八圓、食事代都ホテルと同じ冬期休業」

▽旅　館

「中京區」　俵屋「九圓」（麩屋町姉小路上ル）　松吉「九圓」（御幸町三條上ル）　柊屋「十圓」（麩屋町押小路下ル）　千切家「七圓」（蛸藥師富小路西）　千切家本館「五圓」（蛸藥師）　吉岡家「六圓」（三條小橋西詰）　萬家「五圓」（三條河原町東）　大野屋支店「七圓五十錢」（木屋町二條下ル）　大津家「四圓五十錢」（三條小橋西詰）　日貫家（三條大橋西詰）　秋田屋（三條河原町東）　布袋館（三條小橋東詰）　松家「六圓」（木屋町三條上ル）　龜屋（三條河原町東）　大文字屋「八圓」（三條寺町東）　炭屋旅館「七圓」（麩屋町三條下ル）　布袋館「四圓」（三條小橋）　立美家「四圓」（三條小橋西入ル）　松井「四圓」（柳馬場六角下ル）

「下京區」　晴鴨樓「八圓」（問屋町五條下ル）　近大「七圓」（柳馬場四條下ル）　松華樓（西石垣四條下ル）　津四樓（東木屋町四條下ル）　ますや「五圓」（東洞院七條上ル）　壽館「四圓」（鹽小路烏丸西）　鳥居樓「五圓」（烏丸鹽小路角）　菊岡家「五圓」（三哲烏丸東）　河六（中珠數屋町間の町西）　金岩樓別館「七圓」（木屋町上ル）　辨慶樓「五圓」（五條大橋西入）　はせ川「四圓」（油小路正面下ル）

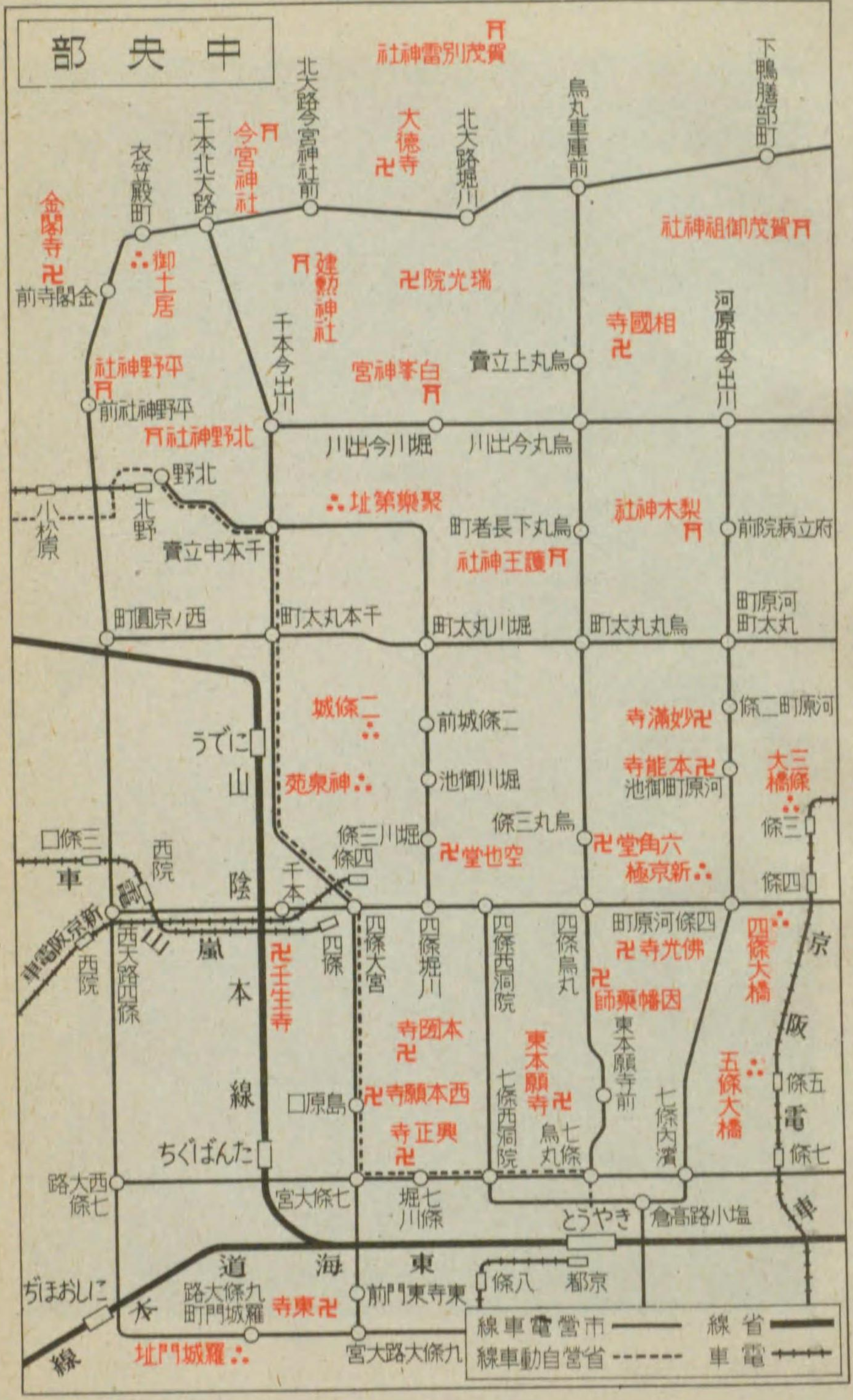
「左京區」　名古屋館（帝大病院前）　平野家（同）

「東山區」　いろは館（三條大橋東詰）　伏見屋（同）　金岩樓本店「五圓」（五條大橋東）

「右京區」　長谷川樓（嵯峨町）　三友樓（嵯峨天龍寺）　桝屋（同淸瀧）　鍵屋（同）　嵐峽館（松尾上山田）　ちどり（嵐山公園內）

「伏見區」　澤文（豐後橋町）

▽日本料理店　萬龜（猪熊出水上ル）　相模屋（下鴨泉川町）　大市（下長者町千本西）　常盤（鋤燒）（千本今出川下ル）　丹榮（錦小路油小路東）　川新（先斗町四條上ル）　湖月亭（錦小路柳馬場東）　共樂館（先斗町四條上ル）　八新亭（柳馬場御池角）　松村家（先斗町四條上ル）　松清（御池富小路角）　魚清（木屋町御池上ル）　竹村家（先斗町四條上ル）　かき春（蠣料理）（三條大橋西詰）　美濃庄（鰌料理）（丸太町堺町御門前）　三島亭（同）（寺町三條下ル）　翁亭（同）（蛸藥師新京極東）　村瀨（同）（寺町錦小路上ル）　嬉し野（同）（先斗町四條上ル）　鳥新（鷄



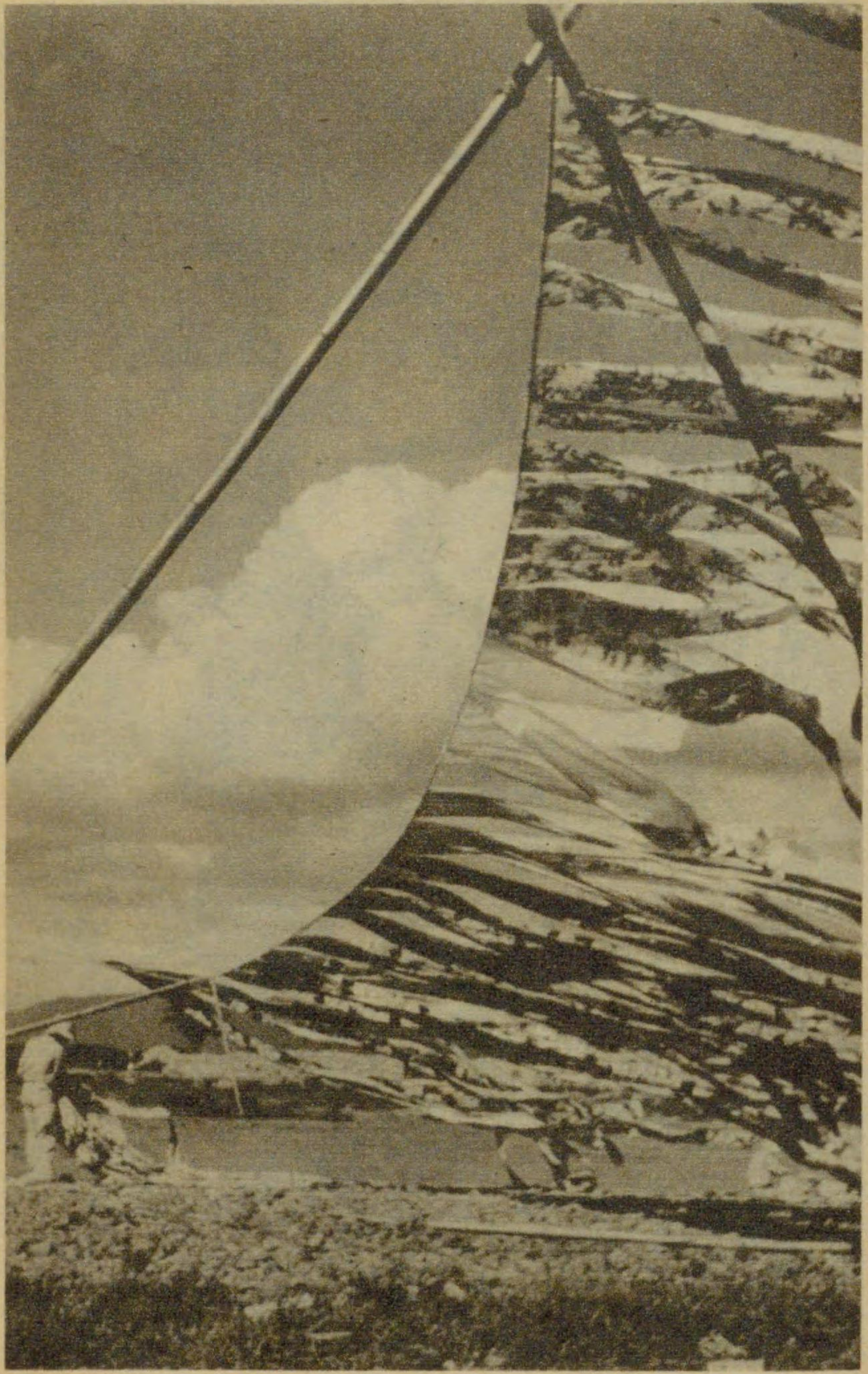
料理）（四條木屋町角） 鳥長（同）（河原町蛸藥師下ル） 菊水（同）（先斗町四條上ル） 蛇の目（天ぷら、壽司）（新京極） ちもと（西石垣四條下ル） 鮒鶴（東木屋町松原上ル） 鶴清（東木屋町五條上ル） 神田川（鰻料理）（西石垣四條下ル） 喜久屋（天ぷら）（東木屋町四條下ル） 三橋樓（鋤燒）（同） 鳥彌三（鷄料理）（東木屋町團栗下ル） 鳥初（同）（西木屋町四條下ル） 中村樓（八坂鳥居前） 鳥居本（八坂鳥居前） 左阿彌（圓山公園内） 美濃吉（繩手三條下ル） 百華園（山科） 奴茶屋（山科） 瓢樹（圓山公園内） 丹榮（高臺寺畔） 平野家（芋ぼう料理）（圓山公園内） 一休庵（精進料理）（高臺寺門前） 丸家（八坂鳥居前） かき春（鰻料理）（川端四條上ル） かき岩（同）（川端松原上ル） 天寅（天ぷら）（四條繩手東） 二かく（小鉢物、壽司）（川端四條上ル） 鳥岩（鷄料理）（圓山公園内） きんなべ（同）（大和大路團栗下ル） つる家（岡崎東天王寺町） 瓢亭（南禪寺草川町） 平八（修學院山端） 白水園（銀閣寺畔） 白糸の瀧（北白川地藏谷） 柊屋支店（八瀬遊園地内） 新三浦（水たき）（二條川端東） 三軒屋（嵯峨渡月橋畔） ほとゝぎす（嵐山公園内） 千鳥（同） 嵐峽館（嵐山） 溜文（伏見觀月橋北詰） 寺田屋（伏見南濱） 喜多家（伏見東濱） 依水園（伏見中書島）

▽**西洋料理店** 萬養軒（下京區四條麩屋町東）、矢尾政（同區四條大橋西詰） 菊水館（東山區四條大橋東詰） 東洋亭（中京區河原町三條下ル） アラスカ（同朝日ビル内）

▽**支那料理店** ハマムラ（中京區繩手四條上ル） 桃園亭（下京區寺町佛光寺上ル） 仙樂園（圓山公園内） 桃花園（中京區木屋町御池下ル）

▽**土産物** 〔菓子〕八ツ橋、唐板、味噌松風、蕎麥ぼうる、饅頭、福は内、益壽糖、宇治の里、喜撰糖、洲濱、求肥昆布、ちまき、蕨餅、今宮あぶり餅、柚餅、花より團子、紅葉團子、茶團子。〔豆、納豆類〕太白鹽豌豆、養老豆、眞盛豆、五色豆、豆平糖、於多福、天龍寺納豆、一休寺納豆。〔味噌、漬物、佃煮類〕京の白味噌、茶吹味噌、柚味噌、甘香梅、櫻花漬、柴漬、千枚漬、酢莖、木芽煮、鷺知らず。〔その他〕栗羊羹、峯月、外良、御園石、長五郎餅、二葉餅、栗納豆、鯉味噌、鬼味噌、湯婆、豆腐羹、桑酒、香煎、七味唐がらし、織物、半襟、打敷、京紅、京白粉、鬢付油、紅葉鐔、扇子、團扇、珠數、筆、墨、繪具、京人形、伏見人形、嵯峨人形、宇治人形、清水燒、鞍馬燒、漆器、竹細工、象眼、薫香、みすや針。

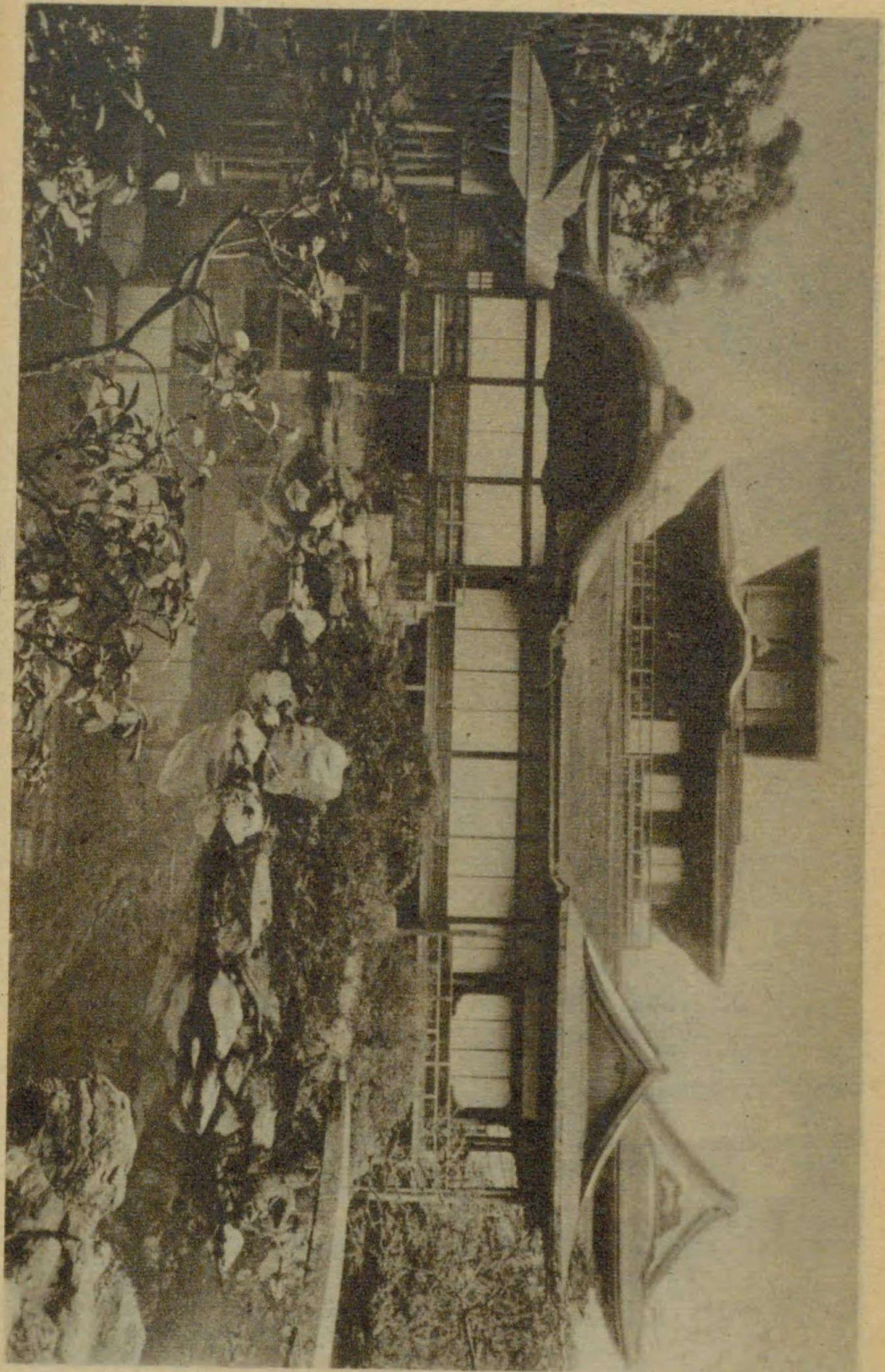
〔八ツ橋〕 米粉、豆粉、砂糖、桂皮等を混合して燒いたものである。聖護院八ツ橋と云ふのは聖護院町で製造されるからである。種々の名を以て八ツ橋を製造するものが市内に多數ある。



一京の友禪

三　東本願寺

二　京人形

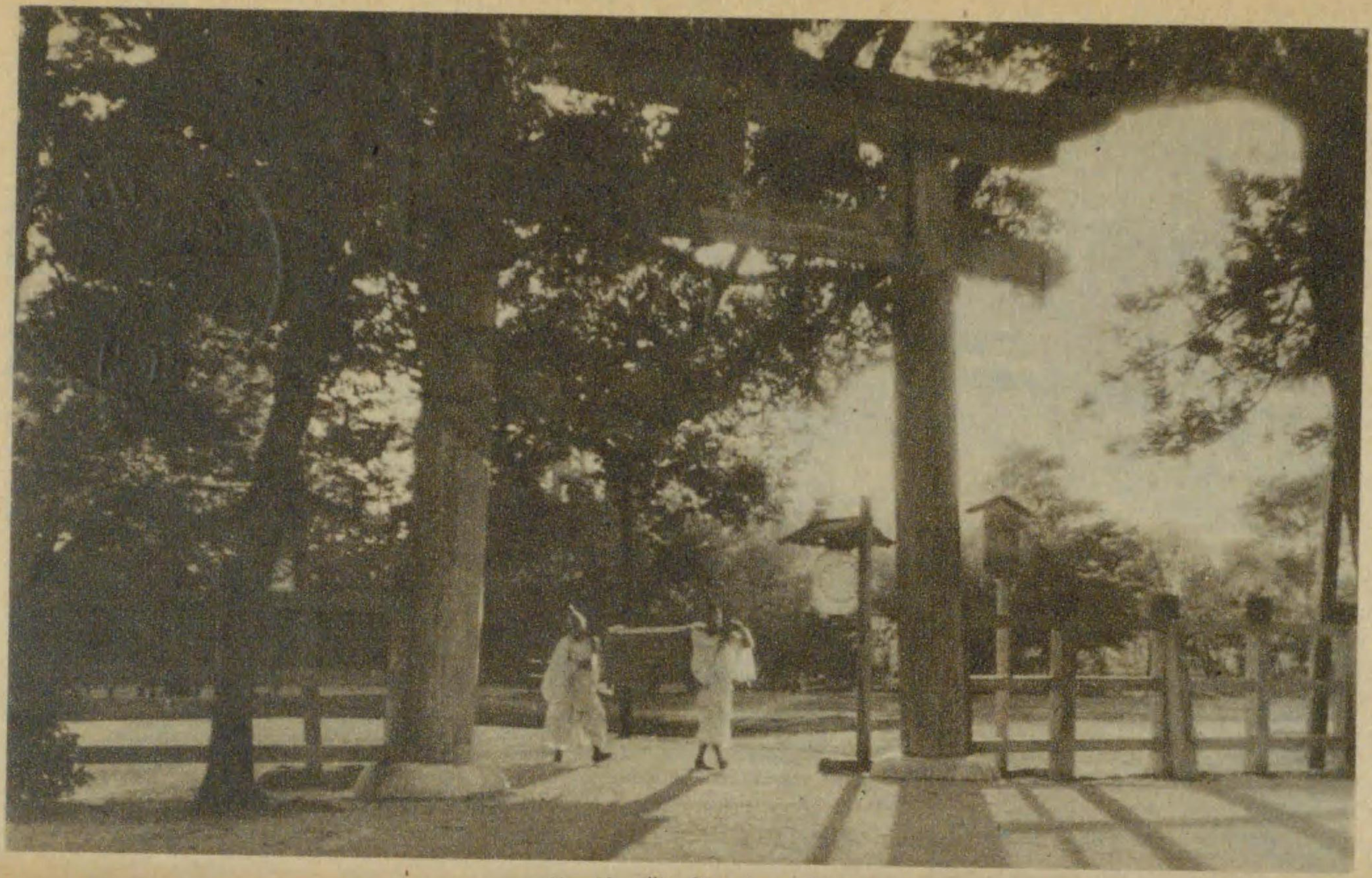


四　西本願寺飛雲閣

五　東寺觀智院虛空藏像

六　恩賜元離宮二條城

七　下賀茂神社



八　上賀茂神社

九　葵祭

一〇 北野神社

一一 金閣

〔味噌松風〕小麦粉に味噌、香料、砂糖等を混合して焼いたもので、紫野大徳寺の特用菓子であつたから、紫野味噌松風の名がある。

〔蕎麦ぼうる〕蕎麦粉、小麦粉、鷄卵を適度に調合して焼いたものである。

〔駿河屋煉羊羹〕備中白小豆、白砂糖、丹波産細寒天等を混合し、煮詰めて適度に煉り上げ、漆器の箱に流し込んだものである。

〔益壽糖〕寒梅粉、飴、砂糖、肉桂を混じ、火にかけて煉つたもの。

〔洲濱〕煎つた丹波産笹山白大豆粉に、和三盆砂糖と宇治産挽茶を加へて攪拌し、京都市産粟飴と和三盆白砂糖を煮た汁で煉り、洲濱形にしたものである。

〔求肥昆布〕北海道渡島産の眞昆布（元揃昆布）を酢にて柔にし、これを煮て砂糖漬としたものである。

〔ちまき〕米粉、餅粉、砂糖、小豆、葛等の原料を笹葉または萠柄にて包み、蒸したもので、概ね端午の節句の頃に賣捌れる。

〔柚餅〕糯米、粟、米粉にて餅を造り、未熟の柚から造つたもので、青色を付け、成熟した柚から採取せる香味と國産の砂糖を混じて搗いて製したものである。

〔眞盛豆〕丹波産黑豆を煎り、大和白大豆を煎つて粉末とせるものと砂糖とを交互に掛け、一定の大いさになつた時、青海苔粉をまぶしたものである。

〔五色豆〕白豌豆を煎り、紅、黄、白、青（青海苔）、褐（肉桂）等五色の砂糖衣を掛けたるもので、船橋五色豆、粟川五色豆、平安五色豆等がある。

〔豆平糖〕飴と煎つた豌豆で棒狀にしたものである。

〔一休寺納豆〕綴喜郡田邊町字薪の一休寺の製造に係り、薪納豆とも云ふ。夏の土用中に大豆を煮き、小麥の粉末を混和して麹とし、これを煮沸して冷却せる鹽水と混合し、日々日光に曝して、十二月下旬に行つて完成する。

（柚味噌）柚實、白砂糖、鷄卵、粟飴、白味噌を以て煉製したものである。

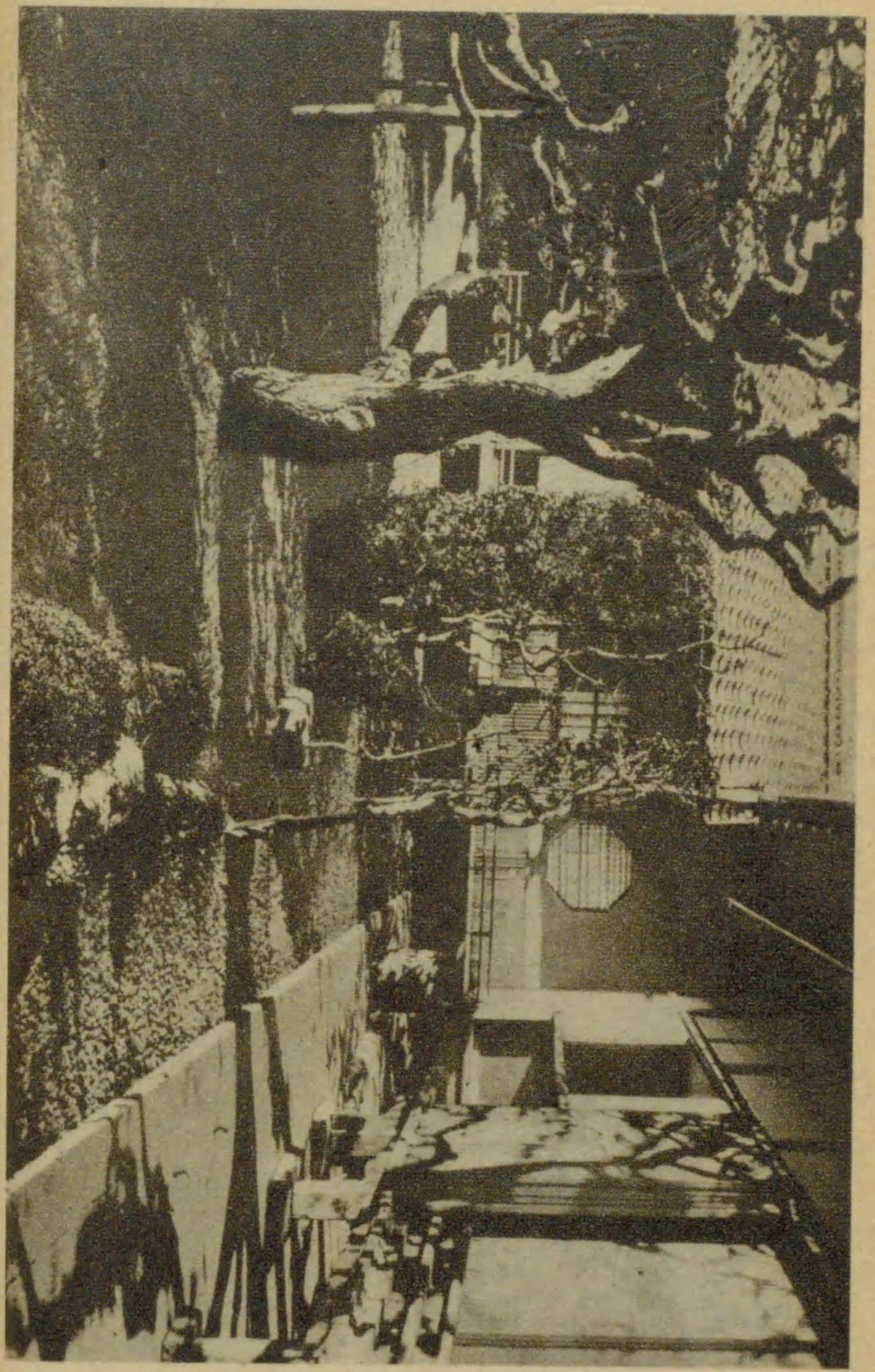
〔千枚漬〕聖護院蕪菁を薄く輪切とし、昆布、鹽を以て鹽梅した漬物で、期間は五月までである。

〔酢莖〕酢莖菜を酒（または味淋、甘酒）と昆布と鹽を以て漬けたもので、これも五月までである。

〔木芽煮〕山椒、蕗、昆布、椎茸を混じ、醬油にて煮しめたもので、主に鞍馬村に生産する。

〔鷺知らず〕賀茂川に産するゴリと云ふ小魚を醬油及び砂糖を以て煮付けたものである。名稱は鷺の如き小魚を漁るものもその形が小さいから見逃すと云ふ意から名付けたものであると云ふ。一名鬼佐。

〔香煎〕穀粉（玄米、糯米）及び各種の香料（茴香、陳皮、山椒、青紫蘇、紫蘇）より製した粉末に鹽を加へたもので、祇園香煎（祇園古賀志）紫蘇香煎、あられ香煎、味付香煎、青紫蘇香煎等がある。



【西陣織物】　京都の織物業は古今消長がある。應仁の亂後織工が四方から復歸し、豐臣秀吉及び江戸幕府が大いに保護奬勵を加へたから斯業隆盛に赴き、應仁の亂に於ける西軍の陣地即ち西陣は機業の最大中心として繁榮した。明治維新後車駕東幸のため、西陣は著しく衰頽したので、京都府は機業家に資金を貸與し、また學生をフランスに送つて西洋の技術を傳習させ、明治七年には織殿を設けて歐風の織法を弘めた。爲に西陣の機業は再び進展の端緒を啓き、明治十八九年の交に至つて洋式機械を使用するもの漸く增加し、製品も益々精巧となり、產額もいよ〳〵加はり、西陣織の名は海の內外に高くなつた。現今主要な製品は紋織物で、御召縮緬、博多、繻子、緞子、綿ネル、傘地等これに次ぎ、紋織の精華は帶地で、他地方の企及すべからざるもので、一年の產額約六千萬圓に及ぶ。

西陣の機業家は原料を生絲仲買人に仰ぐ。該仲買人は百戶內外あつて機業地に於いて一區をなし、糸屋町と稱される。

【友禪染】　一に幽禪染と記され、妙心寺の僧幽禪の創意とも、宮崎友禪の創案とも云はれ、鴨川染の稱もある。昔時の友禪染は染地に花鳥山水等の模樣を白く現した粗末なものであつたが、その後彩色を施すことが始まりて次第に進步し、明治十三四年の頃型紙を利用して色糊を用ゐて染上げる方法が發明されたため友禪染に一大變化を來した。この色糊法によつて友禪をモスリンまたは縮緬に施す樣になつてから產額急に增加し、技術意匠共に著しく進步し、天鵞絨友禪も創出され、京都特有の技術として賞嘆される。

【刺繡】　江戸時代天下の太平久しく續き、風俗華美になり、上下競うて刺繡を需要するに至り、斯業は進步した。明治維新後一時不況に陷つたが、明治六年頃墺國萬國博覽會に出陳されてから輸出の途漸く開け、製品は內地向よりは外國向のものが多く、前者は帛紗半襟等を、後者は屛風、額面、着物、窓掛、衝立、ハンケチ、寢臺掛、枕掛、皿敷等を主とする。

技術は近年大いに進み、各種の圖案模樣等を隨意に繡出し、その寫生的製品は殆ど繪畫の領域に侵入して、刺繡畫と稱されるに至つた。

【清水燒】　清水坂及び五條坂で製造される陶磁器を云ふ。清水坂は清水寺から市電東山通松原停留場に至る途中にあり、五條坂は建仁寺通から東山通に至る間の五條通を云ふ。何れも道路の兩側に陶磁器の賣店が多い。清水坂は陶製人形、玩具、酒壺等多く、金を塗つた安價なものを主とし、五條坂は高雅莊重なものを產する。

清水燒の起源は明確でないが、室町時代の中葉かと云はれて居る。寬永年間野々村仁清が清水坂に移住してから大いに進步し、寬政以後名工五條坂附近に滿ち有田燒の感化を受けたことが多い樣である。現今有名な陶工は清水六兵衞、清風與平、眞清水藏六、高橋道八、三浦竹泉等で陶器、磁器を兼ねるが、磁器を主とし、質が堅緻で色彩の鮮麗な點に於いては粟田燒を凌駕する。

【粟田燒】　寬永元年の頃、尾張の瀨戸から粟田口に來住した三文字屋九右衞門が茶器を製造したのが嚆矢である。慶應三年の頃に至り錦光山宗兵衞は形態著色歐米人の嗜好に投ずることに努め、金彩燦爛として畫樣纖細を極め、他の陶工もこれに傚つて海外への輸出が增加した。近時更に研究を積んで、斬新にして淡雅な品を製出するに至つた。現今粟田燒の陶工は錦光山宗兵衞、伊東陶山、雲林院寶山、宮永東山、河村蜻山等が有名である。尙また粟田燒は毒藥敗乳の類を盛ると、裂紋が黑色または黃色を呈すると云ふ。

【漆器】　京都の漆器は古來美術的精巧品に屬するものが多く、實用向普通品でないから、產額は著しく增加しない。

【年中行事】

一月　一日　四方拜、惠方詣、八坂神社白朮詣　佛教諸宗派本山修正會
　　　二日　北野神社筆初、初荷
　　　三日　元三大師忌
　　　四日　華族會館京都分館蹴鞠始め
　　　五日　稻荷大山祭

六日　高臺寺北政所忌、消防出初式
七日　七草、清水寺修正會滿願（牛王寶印授與）、北野神社若菜祭
八日　東寺御修法開始（一週間）
九日　本派本願寺報恩講開始
十日　惠比須神社祭（十日蛭子）
十一日　空也堂鉢敲（はちたゝき）出初
十四日　日野藥師修正會（裸踊）
十五日　石淸水八幡宮疫除詣
十九日　八坂神社茅（ち）の輪神事
二十一日　初弘法詣（以下毎月）（東寺）
二十五日　初天神詣（以下毎月）（北野神社）
初甲子日　松ケ崎大黑天詣
初巳日　各辨財天詣
初寅日　鞍馬寺、山科毘沙門堂
雪見　圓山公園、淸水寺、金閣寺、嵐山、宇治平等院

二月
節分　吉田厄除祭詣、廬山寺鬼の法樂、壬申厄除祭詣、諸社寺寳船授與（寳船出處―五條天神、平野神社、下御靈神社、熊野神社、吉田神社、今宮神社、外十數箇所）
初午日　稻荷神社初午祭
二十五日　北野神社梅花祭
不定　淀競馬
梅見　北野神社、長岡天滿宮、靑谷梅林

三月
三日　雛祭
十五日　釋迦堂御松明、東福寺涅槃會
十八日　諸寺彼岸會開始
二十日　祇園一力大石忌
二十一日　彼岸詣
二十七八日　千利休忌（表千家、裏千家）

四月
一日　都踊開始（祇園歌舞練場本月中）
七日　奉納蹴鞠
八日　灌佛會
十日　今宮神社鎭花祭（やすらひ祭）、平野神社櫻祭
第一または第二日曜　染織祭
十三日　十三詣（嵯峨虚空藏）、嵯峨天皇奉獻挿花（大覺寺）
十五日　護王神社神幸祭
十六日　花供養（鞍馬寺）
十九日　御忌（知恩院、黑谷、百萬遍等一週間）
二十一日　壬生狂言開始（十日間）東寺御影供、島原太夫道中
二十三日　神泉苑大念佛狂言（十二日間）
下卯日　松尾神社神幸祭
二午日　稻荷神社神幸祭
櫻見　祇園夜櫻、平安神宮、御室仁和寺、醍醐三寶院、御苑内、嵐山、平野神社、動物園

五月
一日　御靈神社神幸祭、京都市美術展（中旬頃迄）鴨川踊開始（先斗町歌舞練場二十四日迄）賀茂競馬足汰（そろへ）式
五日　上賀茂神社競馬、下賀茂神社武射神事、今宮神社神幸祭、端午節句
十二日　御蔭祭（下賀茂神社）
十四日　舟遊祭（車折神社）
十五日　葵祭、今宮神社還幸祭
十六日　熊野神社、惠比須神社神幸祭
十八日　御靈神社還幸祭
二十三日　愛宕神社祭
第一または第二日曜　小楠公鎧着初式（寳篋院）
上卯日　稻荷神社還幸祭
上酉日　松尾神社還幸祭
躑躅　靑蓮院、長岡天滿宮、嵐峽

六月
一日　貴船神社祭、閻魔堂大念佛（約一週間）
五日　宇治縣祭、藤森神社祭
二十日　鞍馬竹伐會（鞍馬寺）
二十日頃　稻荷神社御田植祭
杜鵑　八瀨、大原、鞍馬、比叡山
螢狩　宇治、嵐山
河鹿　八瀨、大原、貴船、淸瀧、嵐山

七月
七日　華族會館京都分館七夕蹴鞠
十日　祇園御輿洗、聖護院大峯入行列
十一日　祇園稚兒社參
十四日　盂蘭盆會法要（各寺院、十六日迄）
十六日　祇園會山鉾宵飾（前ノ宵山）
十七日　前ノ祇園會（山鉾巡行、八坂神社神幸祭）
二十一日　下賀茂神社御手洗會
二十三日　松尾神社御田植神事
二十四日　後ノ祇園會（山鉾巡行、八坂神社還幸祭）
三十日　明治天皇祭、桃山御陵奉拜
三十一日　愛宕神社千日詣

八月
立秋前夜　下賀茂神社夏越神事
十日　淸水寺千日詣
十五六日　松ケ崎涌泉寺題目踊
十六日　精靈送り、大文字、六齋廻り、盆踊
二十二日　空也堂六齋念佛始る
二十三日　地藏盆、壬生寺六齋、六地藏廻り

二十四日　清水星下り
二十五六日　吉祥院六齋並大踊
二十八日　大日詣（大日盆各町）

花　火　賀茂川原、嵐山、八瀬

九　月

九　日　重陽節句
十三日　乃木神社祭
十五日　石清水八幡宮放生會、各八幡宮例祭、鞍馬寺義經祭
二十一日　安井神社祭
二十三日　彼岸詣

月　見　嵯峨野、清水寺、比叡山、宇治、石山寺、三井寺
萩　高臺寺、平安神宮、大佛、南禪寺、岡崎公園

十　月

一　日　北野神社渡御祭
四　日　北野神社神幸祭（瑞饋祭）
九　日　御香宮祭
十　日　誓願寺十夜念佛、稻荷神社秋季大祭
十一日　六孫王神社祭
十二日　太秦廣隆寺牛祭、三栖祭
十四日　靈山護國神社大祭
十五日　粟田神社祭、誓文拂賣出し
中　旬　二十五菩薩練供養（卽成院）

十六日　岡崎神社祭
十七日　七卿西竄記念法要（妙法院）
十八日　豐國神社祭
十九日　建勳神社秋祭（船岡祭）
二十日　惠比須神社祭（二十日蛭子）、商家誓文拂、眞幡寸神社祭
二十二日　平安神宮時代祭、鞍馬火祭

茸　狩　賀茂、稻荷山、鳴瀧、嵯峨、山科、衣笠山
菊　見　植物園、動物園、圓山公園、嵐山（何れも十一月迄）
競　馬　淀競馬場

十一月

一　日　八坂神社火焚祭
八　日　稻荷神社火焚祭、鞴祭（鍛冶職）火焚祭（諸工業家）、彦九郎祭（三條磧）
十五日　眞如堂十夜念佛、白峯神宮奉射神事
十八日　御靈神社火焚祭
二十一日　大谷派本願寺、佛光寺、興正寺報恩講開始（一週間）

紅　葉　清水寺、永觀堂、東福寺、高尾、槇尾、栂尾、大原、八瀬
競　馬　淀競馬場

十二月

一　日　北野大茶湯、清水寺佛名會開始（三日間）、南座顔見世興行（十八日迄）
四　日　妙心寺達磨忌
六　日　知恩院佛名會開始（三日間）
九、十日　鳴瀧大根焚（了德寺）
十三日　事始め、年の市
十四日　義士會（瑞光院、岩屋寺、大石神社、本妙寺、丹女會、大興德院）
十七日　華族會館京都分館蹴鞠納式
二十一日　終ひ弘法（東寺）
二十五日　終ひ天神（北野神社）
二十八日　鉢敲結願（空也堂）
三十一日　除夜、八坂神社白朮祭

【京都附近の交通機關】　主要幹線は市を東西に貫く東海道本線とこれと京都驛にて交叉し略々南北に走る山陰本線と奈良線である。卽ち山陰本線は京都から北上して愛宕山と嵐山との間を保津川に沿うて西し市の境域外に出で、福知山を經て鳥取、松江方面への幹線をなして居る。また奈良線は奈良電氣鐵道と共に京都奈良兩市間を連ぬるもので、京都から南下して宇治を經木津川を渡つて木津に至りて關西本線に接續するが、列車は凡て奈良まで直通して居る。

市內の交通機關には市營電車があり、叡山、鞍馬山嵐山、愛宕山への遊覽に便する諸電車と、大阪及び大津との連絡に便利な京阪電車などが主なものである。

今これ等の諸鐵道軌道の起點終點を左に示す。

▽叡山電氣鐵道	出町柳、山端、八瀬間	五粁六
	西塔橋、四明嶽間（鋼索線）	一粁三
	高祖谷、延暦寺間（空中ケーブル線）	〇粁六
▽鞍馬電氣鐵道	山端、鞍馬間	八粁八
▽嵐山電氣鐵道	四條大宮、帷子辻、嵐山間	七粁一
	帷子辻、北野間	四粁二
▽愛宕山鐵道	嵐山、清瀧間	三粁四
	清瀧川、愛宕間（鋼索線）	二粁〇
▽京阪電氣鐵道	嵐山、桂間	四粁一
	京阪京都、桂、天神橋（大阪）間	四二粁一
	三條大橋、濱大津間	一一粁一
	坂本、濱大津、石山間	一四粁〇
	三條大橋、中書島、八幡口、天滿橋（大阪）間	四七粁九
	中書島、宇治間	七粁八

▽男山鐵道　八幡口、男山間（鋼索線）　〇粁四

▽奈良電氣鐵道　京都、大軌西大寺間　三四粁五

▽市營電車　現在營業路線は約七〇粁、乘車賃金は均一料金で片道六錢、伏見線の一部のみが區間制で一區三錢となつて居る。運轉系統左の如し。

ち（白板）京都驛前—烏丸四條—烏丸丸太町—烏丸今出川—烏丸車庫前（往復）

つ（白板）京都驛前—烏丸四條—烏丸丸太町—烏丸今出川—上總町—高野終點（往復）

ね（白板）京都驛前—烏丸丸太町—烏丸今出川—千本今出川—千本北大路—烏丸車庫（循環）

う（赤板）京都驛前—烏丸丸太町—烏丸今出川—千本今出川—二條驛前—壬生車庫（往復）

き（白板）京都驛前—七條烏丸—東山七條—祇園熊野神社前—百万遍—銀閣寺（往復）

ゑ（赤板）京都驛前—七條烏丸—七條大宮—四條大宮—壬生車庫（往復）

も（青板）烏丸鹽小路（京都驛前）—鹽小路高倉—大石橋—勸進橋—稻荷（往復）

や（青板）烏丸鹽小路（京都驛前）—鹽小路高倉—勸進橋—丹波橋—大手筋—中書島（往復）

く（白板）烏丸鹽小路（京都驛前）—河原町鹽小路—四條河原町—河原町今出川—百万遍—銀閣寺（往復）

を（赤板）烏丸鹽小路（京都驛前）—河原町鹽小路—四條河原町—河原町今出川—千本今出川—千本丸太町—二條驛前—壬生車庫（往復）

た（白板）烏丸鹽小路（京都驛前）—河原町鹽小路—四條河原町—河原町今出川—烏丸今出川—烏丸車庫前（往復）

と（白板）烏丸鹽小路（京都驛前）—河原町鹽小路—四條河原町—河原町今出川—烏丸今出川—烏丸車庫前—高野終點（往復）

ろ（白板赤字）烏丸鹽小路（京都驛前）—七條西洞院—四條西洞院—四條堀川—堀川丸太町—堀川中立賣—千本中立賣—北野（往復）

市內主要の乘合自動車線は市營のもので、現在營業路線約七〇粁、乘合料金均一區十錢、特定區五錢となつて居る。尙市電、市バス相互間の乘繼も出來る。系統は左の通りである。

1　京都驛前—河原町鹽小路—河原町今出川—出町柳—農林學校前—植物園

2　京都驛前—烏丸今出川—今出川大宮—大宮鞍馬口—大德寺前—待鳳校前

3　京都驛前—河原町鹽小路—七條內濱—七條木町—稻荷

4　千本四ツ塚—大宮四ツ塚—四條大宮—祇園石段下

5　四條西大路—河原町四條—河原町二條—動物園前—永觀堂前

6　千本十條—大宮四ツ塚—四條大宮—四條河原町—河原町二條—永觀堂

7　上賀茂—北大路大德寺—大宮今出川—烏丸今出川—烏丸四條—河原町四條—河原町內濱—七條木町—稻荷

8　出町柳—高野泉町

11　出町柳叡電前—川端三條—河原町三條—河原町四條—四條烏丸—四條大宮—西大路四條

10　京都驛—烏丸四條—上總町—北大路堀川—上賀茂

16　京都驛—河原町鹽小路—河原町四條—河原町今出川—葵橋—下賀茂神社前—北大路農林學校前—府立一中前—上賀茂野々神町

22　京都驛—河原町鹽小路—河原町四條—河原町今出川—葵橋—下賀茂神社前—北大路農林學校前—上總町

13　京都驛—烏丸七條—東山七條—祇園石段下—熊野神社前—百万遍—出町柳叡電前

名所舊蹟の觀光には市電の名所廻遊乘車券があり（一圓券＝通用五日間、五十錢券＝通用三日間）、この外に遊覽乘合自動車があつて、これを利用すれば一日で概略の見物を濟ませられる。その發車する場所は京都驛前で賃金は大人三圓三十錢、小人二圓、一巡に約八時間を要す。その主なる巡路は左の通りである。

京都驛—伏見稻荷—桃山御陵—乃木神社—豐國神社—大佛殿—血天井—淸水寺—音羽瀧—八坂神社—圓山公園—知恩院—南禪寺—平安神宮—銀閣寺—梨木神社—御所—北野神社—金閣寺—西本願寺—京都驛

尙小型遊覽自動車（四人乘、一時間二圓五十錢程度）の便もあるが、最近は時局の爲當分休業して居る。

市營乘合自動車及び市內名所遊覽自動車の外、省營乘合自動車（京都驛、高雄、周山、丹波鶴ヶ岡間）があり、別に左の如き定期乘合自動車の便もある。

▽大原八瀨間〔四十二錢〕、植物園鞍馬間〔三十五錢〕、七條大宮龜岡間〔二十五錢〕、山科六地藏間〔二十八錢〕、七條大宮淀間〔二十一錢〕、三條大橋濱大津間〔二十錢〕

一、中央部

【市設京都觀光案內所】京都驛降車口前にある。近世式の木造平家建で一部に塔を附し、建築面積一二一方米九、昭和五年十月下旬起工、六年一月竣工。本

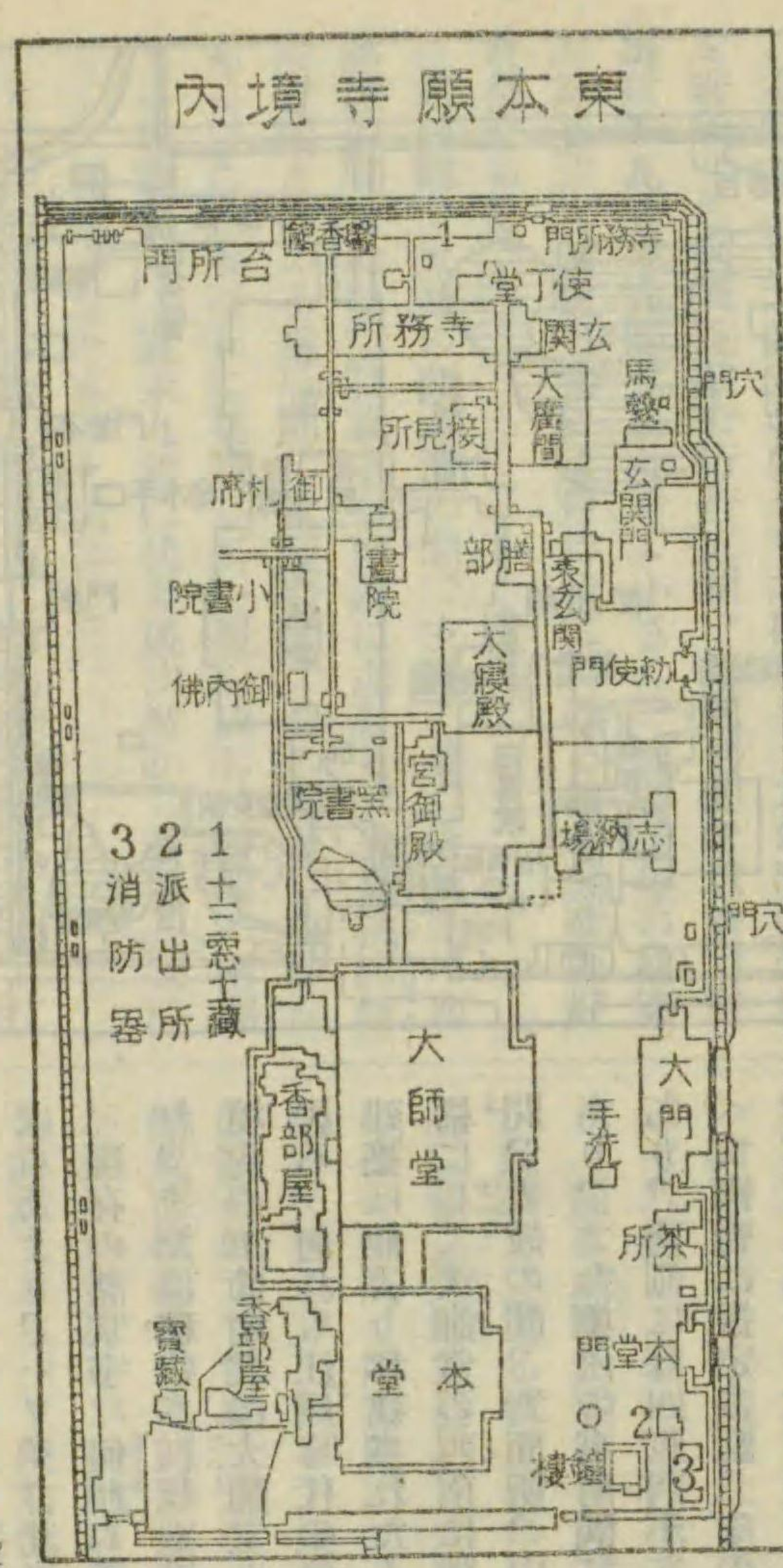
所は觀光遊覽のため入京する內外人に對して、總べて無料で觀光に關する諸事の斡旋を行ひ、京都の觀光に就いて各地からの照會に對し、適切な回答並に勸誘を爲す處で、神社、寺院、古蹟等の說明、交通、旅館等の案內、市內外案內地圖の頒布、觀光團體に對する特別の斡旋、その他入洛者の用達に就いて便宜を供與すること等が主な任務で、出務時間は每日午前七時から午後十時までゝある。尙二條驛前にも市設二條觀光案內所があり、每日午前八時から午後八時まで前記京都驛前案內所と同樣の事務を執つてゐる。

★【東本願寺】〔眞宗大谷派本山〕 市電東本願寺前下車、烏丸七條にある。當寺の宗門は西本願寺と同じく、親鸞上人によつて開かれたものであるが、その創建は慶長七年德川家康が敎如上人をして本願寺を東西に分派せしめた時にある。慶長八年本堂先づ成り、萬治元年祖師堂が落成したが、後屢々火災に罹り、現在の諸堂はすべて明治年間の再建である。そのうち最も大なるは本堂と大師堂（祖師堂）で、明治十三年に工を起し同二十八年に落成したものである。その間信仰厚き多くの婦女が頭髮を斷ちて强靱な毛髮の大綱を製作して獻納し、以て巨材牽引の用に當てゝ大工事を助けたと云ふ美談を物語る毛綱が今尙保存され、その一部分が廊下に陳列されて居る。

當時は本派本願寺と共に我が國の宗敎界に重きをなし、內地の布敎はもとより滿洲國をはじめ、支那、北米にまで布敎を伸ばして居る。

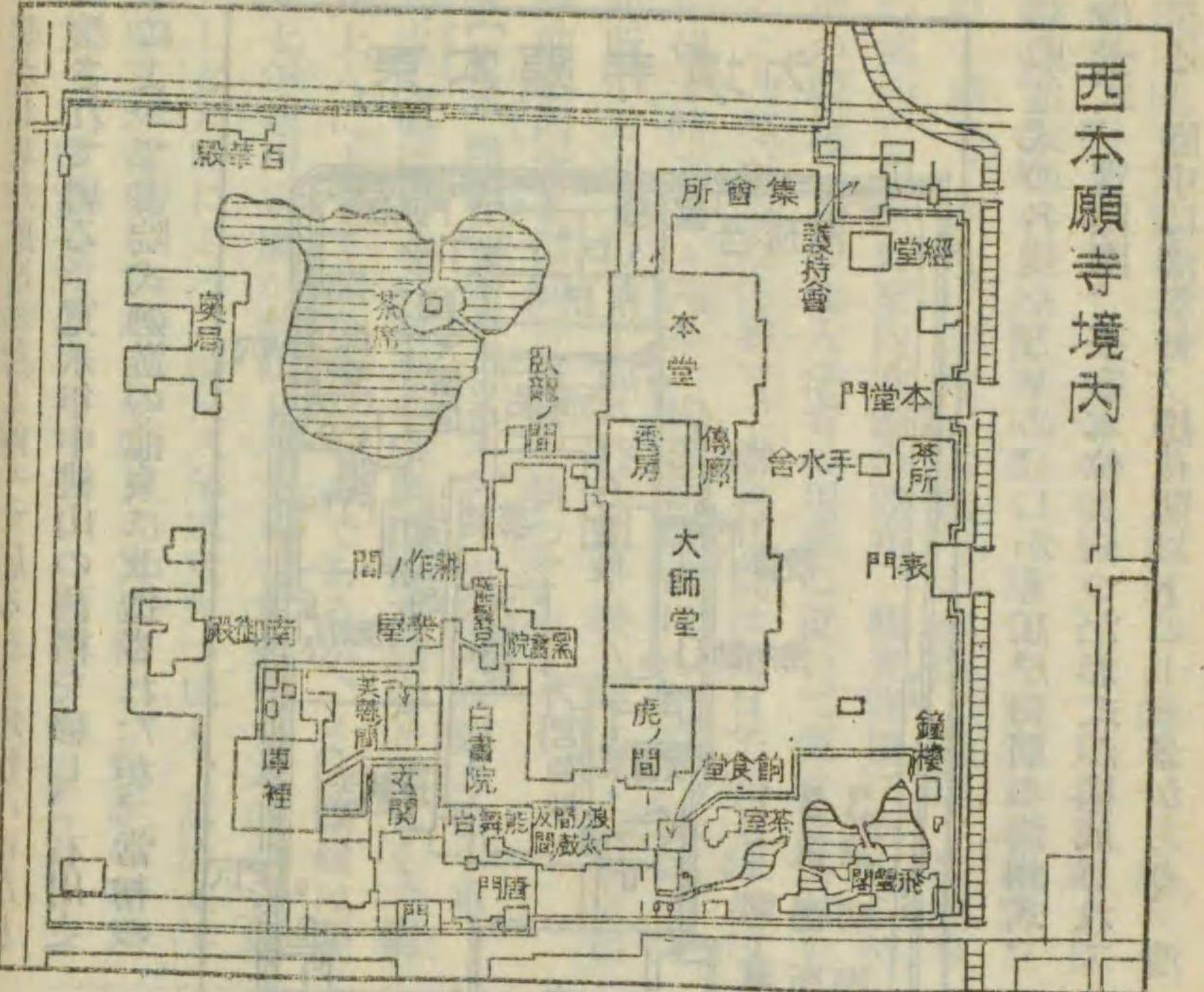
本堂は間口二十六間、奧行二十一間の單層入母屋造の大建築で、本尊阿彌陀如來の像が安置されて居る。祖師堂は本堂の北に續き、間口三十五間、奧行三十二間、重層入母屋造本瓦葺の宏壯な大建築で、親鸞上人の木像が安置されて居る。

【涉成園】〔指定名勝〕 東本願寺の東方枳殼馬場東玉水町にあり、當寺の別莊でもと周圍に枳殼を植ゑ、生垣として居たので俗に枳殼邸と云つて居る。往昔河原左大臣源融が貞觀十四年に築造した河原院に屬し、陸奧鹽竈の風光に倣ひ、攝津難波の津より潮水を汲み來つて焚かしめた風流の跡と傳へて居るが、現狀は可なり破壞されて居る。寛永年中桃山の舊構を移し、石川丈山によつて書院式廻遊の池泉に改造されたが、當初の寢殿造式の名残をとゞめ、しかも江戸初期の遠州式、借景式、實際園、茶室本位と云つた形式が構成されて居る。園中に滴翠軒、傍花閣以下の十三景があり、池中の一島には鎌倉時代の塔を存し、外に頼山陽の涉成園記その他の名品を有して居る。



【藪の內氏茶亭】 市電西六條下車、西洞院北小路上ルにある。亭室古雅、庭園清幽、千利休嫡傳の正流で、小川千家の上流に對して下流と云ふ。

★【西本願寺】〔眞宗本派本山〕市電七條堀川下車、堀川通七條上ルにある。當寺は文永九年親鸞上人の女、覺信尼が東山大谷に廟宇を創建して、眞宗の開祖親鸞の影像を安置せし御影堂に起り、その後屢々戰亂に會し、本山を山城の山科、大阪の石山その他に移したが、天正年間豐臣秀吉から今の處に寺地十餘萬歩の寄附を得たので本山の基礎が始めて定まつた



のである。爾來三百餘年間當寺は淨土眞宗本願寺派の本山として眞宗の宣敷布教に力め、現今別院三十五、末寺約一萬、檀徒及び信徒約七百二十六萬を算し、内地はもとより、ハワイ、北米等へも布教に努めて居る。

現存の諸堂宇は何れも元和三年の大火災後に新築され、または移建されたもので、先づ總門を入ると廣い境內の正面南北に大師堂と本堂(阿彌陀堂)とが竝んで居る。何れも江戸時代の建築であるが、他の重要な諸建築は他より移建されたもので、何れも桃山時代の遺構にして大師堂の西南に隣接して虎の間、玄關、浪の間、太鼓の間、對面所、白書院、黑書院、能舞臺等があり、また境內の東南隅には飛雲閣、浴室、鐘樓等があり、南側には四脚門がある。これ等の古建築は、すべて國寶に指定され、その室內には華麗な襖繪、欄間の彫刻等桃山時代の美術を代表せる傑作が少くない。

大師堂〔國寶〕總門を入ると正面向つて左にある大堂宇で、祖師堂または御影堂とも稱し、宗祖親鸞聖人の像を安置して居る。桁行七間、梁間九間、單層、屋根は入母屋造、本瓦葺で寛永十三年の建築である。正面の柱はすべて扉を立てゝ出入を自由ならしめ、外陣を內陣よりも廣く取り、眞宗佛寺の模範的建築である。

本堂〔國寶〕大師堂の向つて右にあり、本尊阿彌陀像を安置せる阿彌陀堂で桁行五間、梁間七間、單層、屋根は本瓦葺で大師堂よりやゝ小さく、寶暦十年の建築である。大師堂と共に江戸時代に於ける眞宗伽藍の好典型である。

虎の間、太鼓の間、浪の間、玄關〔國寶〕大師堂の南新虎の間をぬけて長廊下を南西に進むと、伏見桃山城の遺構と傳ふる虎の間、太鼓の間、浪の間及び玄關がある。これ等は互に接續して一屋を成し、書院に附屬する建造物で、寛永九年に伏見桃山城から書院と共にこゝへ移建されたものと云ふ。

大書院〔國寶〕太鼓の間の西にある能舞臺に正面して建つて居る。桁行十八間、梁間十四間、屋根は入母屋、妻入造、本瓦葺の大建築である。桃山城の遺構で寛永九年に移建、內部は對面所、白書院、菊の間、雁の間、雀の間等に別かれ、その樣式は桃山時代に於ける最も雄大な書院造で、その室內裝飾は桃山城豪華の餘影を髣髴せしめて居る。その中で最も觀るべきものは對面所である。

對面所は最も廣濶な室で上下二段に別かれ、上段は三十八疊、下段は百六十二疊を敷き、左に緣座敷があり、前に廣緣を設け、天井を支へるため縱に二列の柱が竝列して居る。上段の中央には床の間があり、その右に帳臺飾を設け、左に違棚、袋棚を作り、更に左には一段高く附書院がある。その前面には圓形の窓を開いて居る。上段と下段との間にある欄間の透彫は意匠頗る雄大で雲鶴を現して居る。上段竝に附書院の壁及び帳臺飾には狩野探幽の筆になる支那史上の事蹟が描かれて居る。金地に極彩色を施した極めて華麗な裝飾畫である。下段右側の壁貼には金地の巨松と鶴を描き、左側及び正面の腰高障子の腰板には花鳥の採畫がある。これ等は總て狩野了慶の筆と稱されて居る。天井は上段の間及び附書院の間は折上格天井となし、

下段の間は單に格天井となつて居る。格天井の格緣はすべて黑塗に錺金具を用ゐ、格間には錦花鳥、丸龍その他の文樣を描き、彩色を施して居るため、下から見上げると實に豪華な感じを與へて居る。要するにこの室は壯大華麗な桃山時代大廣間の好標本である。

白書院は對面所上段の間の後方に隣接して居るが、この書院もまた上中下の三段に別かれ、緣座敷がある。規模は小さいが華麗な貼附繪があり、その筆者を狩野興意と傳へて居る。欄間に施された藤花の透彫は、雄麗を極めた傑作である。

大書院庭園〔指定名勝・史蹟〕大書院の東にある。本園は古來虎溪庭または對面所の庭と呼ばれて、大書院の中庭として造られた枯山水で、二個の小島を築き、その東南から北方に亘る背山の重心に瀑布を象る二個の巨石を並立し、これより飛流下り注ぐが如き石組をなし、平地一面に白川砂を敷いて水面に擬して居る。而して兩島竝に池畔との間に架せられた二大石橋は、何れも輕快な反を有し、加工巧妙にして、全庭の骨格をなせる岩石竝にその間に配植せられたる蘇鐵と共に、よく桃山時代書院式林泉の特色を發揮したものである。作者は朝霧志摩之助と傳へられて居る。

明治十年二月十六日　明治天皇本願寺に行幸、この庭を御覽遊ばされた。これが史蹟に指定せられた所以であらう。

四脚門〔國寶〕境內の南側通用門の東隣、通路に面して建つて居る。これも桃山城の遺構で寬永九年に書院と共に移し建てられたのである。高さと豪放な氣分に於いては豐國神社の唐門に及ばない感じはあるが、その彫刻の精巧華麗な點に於いては、遙かに前者を凌ぐものがある。屋根は前後に思ひ切つて大きな唐破風を附け、左右を入母屋となし檜皮で葺いて居る。唐破風下、左右側壁、唐戶等は皆獅子、麒麟、龍虎、牡丹等の透彫を以て充たし、拳鼻にも獅子及び牡丹の丸彫がある。特に冠木上には巨大な蟇股を置き、その內部に思ふ存分翼尾を張つた孔雀を透彫にし、その左右に松竹を配して居るのは何れも雄大な風がある。內外各部盡く黑塗地に華美なる金具を盛に使用し、彩色を施した彫刻にも多くの金箔を使用したあとがあり、形狀整齊意匠豐富で最もよく桃山時代の特質たる豪華雄麗の氣象を現し、しかも掬すべき古色を持つて居る。

飛雲閣〔國寶〕境內の東南隅にある。聚樂第の遺構と傳へ、寬永年間に移建されたと云ふ。聚樂第は天正十五年豐臣秀吉が京都に建てた邸宅であるが、竣成後間もなく破壞せられ、今日遺存して居るものは僅かに飛雲閣、黃鶴臺及び大德寺の唐門の三棟に過ぎない。飛雲閣は滴翠園中にあつて、滄浪池に臨んで建てられた三層閣である。その樣式は書院とは全く異なり、輕快な別墅建築に屬して居る。初層には主室が二つある。一を招賢殿と呼び、上段中段に分かれ、上段には附書院があり、襖及び壁には永德の筆と傳ふる雪中の柳が描かれて居る。淡く金粉を散らした紙本に水墨を以て描寫したもので、恬淡優雅な趣致に富み、建築の樣式とよく調和して居る。この間は柳の繪があるので一に柳の間とも稱する。次の間の襖繪には瀟湘八景が描かれ、室の前方、池に面して船入の間があり、その上に唐破風を作つて玄關となし、下に石階があつて滄浪池に浮べた船を乘りつける樣になつて居る。

第二層にも上段及び下段の間があり、四方に雨緣を附け、勾欄をめぐらして居る。上段の間の天井の貼紙には山樂の筆と稱する葡萄に栗鼠、壁には三十六歌仙の繪があるので、また歌仙の間とも云ふ。第三層は滴星樓と呼び、床には元信の筆と傳ふる富士山が霞の中に微かに描き出されて居る。四方に壁を塗り、窓を開いて居る。この建築は平面頗る複雜なるため、その結果は立面にも影響し、外部から見ると四面各々その觀を異にし、屋根の形にも入母屋あり、唐破風あり、四注あり、且つその流れも樣々な形狀を成し、變化に富める輪廓を有し、庭園とよく調和して諧調の美を呈して居る。全體として瀟洒たる茶室建築の模範とすべきもので、桃山時代に於ける茶趣味の一面を現した稀代の傑作である。

浴室〔國寶〕廻廊を以て飛雲閣の西に連つて居る。黃

鶴臺と稱し、十一間四面、單層四注造、柿葺、飛雲閣と同時の建築である。建築の內部は床の高さの各異なつた三室から成り、最高の室は脫衣室で、正面は池に面し、大きな明障子となつて居るから浴後涼をとるにも適して居る。後方の低い木階を下りた所は控室で、その奧に浴室がある。浴室は南北二間半、東西三間、床は中央に傾斜せる板張で排水の便を計つて居る。室の正面左寄に唐破風造家形の蒸風呂が据ゑてある。底は簀張となり、下から蒸氣を通ずる樣になつて居る。

鐘樓〔國寶〕飛雲閣の北方、滴翠園の東北隅の小高い處にある。桁行梁間各一間、單層、切妻造、本瓦葺の建築で、その手法の奇拔にして裝飾の豪華なるは、明かに桃山時代の特質を示したものである。その中には、もと廣隆寺にあつた銅鐘〔國寶〕が懸つて居る。銘文に久安六年正月云々とあり、平安末期のものである。

寶物には左記のものがある。

一慕歸繪詞〔國寶〕　十　巻

紙本著色、本願寺第三世覺如の繪傳である。繪の筆者は巻の第二、五、六、八の四巻が藤原隆章（如心）、第三、四、九、及び十の四巻が隆昌で、第一及び第七の二巻は中古紛失したのを、文明十四年に掃部助久信に書かせたものである。室町時代の繪巻として頗る傑作である。

一雪中柳鷺圖〔國寶〕　一　幅

絹本著色、中央水濱に近く雪を帶びた老柳と一群の白鷺が描かれて居る。白鷺は翼を張つて水に入らんとするもの、或は空より飛び來るもの、坡上に俯仰するものありてその態一ならず、雪の凍りついた柳枝を中心として、寒中に於ける白鷺の活躍せる天地を描寫したもので、寺傳には宋の趙仲穆の筆と傳へて居るが、明初の名作として賞すべきものである。

一伏見天皇御歌集〔國寶〕　一　巻

紙本墨書、奧書は後水尾天皇御宸筆である。

一熊野懷紙〔國寶〕　一　巻

紙本墨書、後鳥羽天皇宸翰以下十一通外添狀二。

【本圀寺】〔日蓮宗〕　市電島原口下車、堀川通松原下ル西本願寺の北に隣つてある。後村上天皇の正平六年勅によつて相模鎌倉の松葉谷にあつた日蓮聖人の草庵法華堂を京洛六條堀川に移したのが始まりで、その後屢兵火の厄に遭うたが、文化年間本堂その他の再建が成つた。境內西南隅の經藏〔國寶〕は桁行三間、梁間四間、屋根寶形造本瓦葺單層である。慶長十二年の再建のもので、內部の輪藏は完全に保存され、內外の彩色裝飾及び壁面の羅漢天人の畫も當初のまゝ殘つて居る。寺寶に日蓮眞筆と傳ふる立正安國論その他がある。

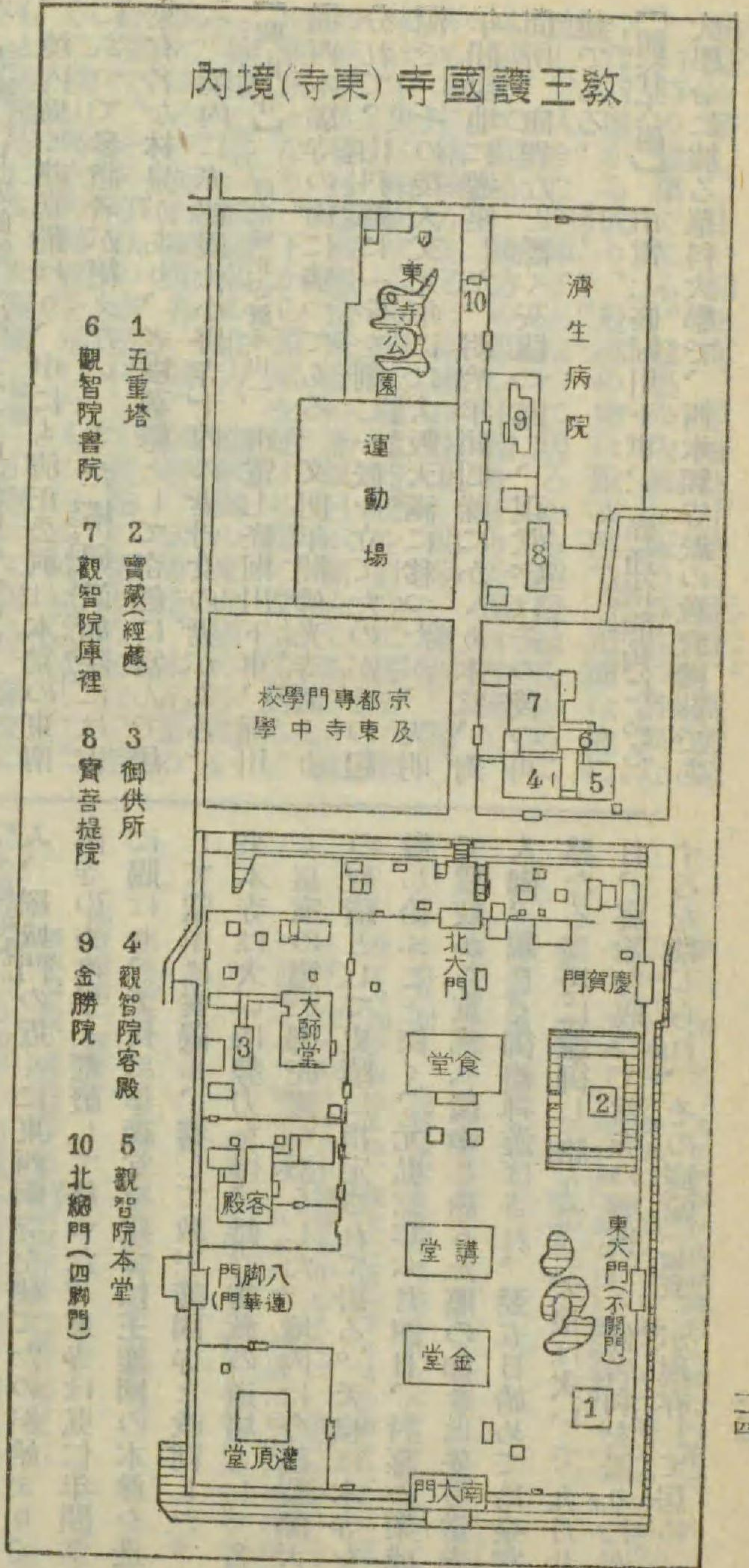
境內廣く諸堂備はり、中にも淸正公祠は本堂の東南にあつて參詣者が絕えない。また塔頭眞如院には古來有名な林泉があり、老樹蓊鬱として奇趣に富んで居る。境內に赤穗義士小野寺十內の妻丹女の妻がある。

【興正寺】〔眞宗興正寺派本山〕　市電七條堀川下車、堀川通西本願寺の南に隣つてある。文明年間佛光寺派より分れて、山科鄕に一宇を創し一派を立てたのがその起源で、その後天文元年には大阪天滿に移つたが、天明年間現地に遷座した。明治年間回祿にかゝり本堂、對面所、庫裡など悉く灰燼に歸し、現堂宇はその後の再建である。

【龍谷大學】　市電七條堀川下車、七條通豬熊角にある。大學令に據る單科大學で、西本願寺派の教育機關である。舊名を佛教大學と云ひ、寛永年間本願寺第十三世良如上人の學寮創建に由來すると云ふ。

★【東寺（教王護國寺）】〔眞言宗東寺派總本山〕〔指定史蹟〕　市電東寺東門前下車、下京區九條町にある。

平安京造營の際左右兩京鎭護のために朱雀大路を挾み、羅城門の近くに東西兩寺を建てたのが始まりで、西寺の方は早く荒廢して終つた。東寺は弘仁年間空海に賜はり、天長二年講堂を建て仁王護國の本尊を造立して堂中に安置し、奏して教王護國寺と改稱した。爾來本寺は大いに勢力を得、眞言密教の道場として名高く皇室の篤い御庇護を忝うした。境內は今後醍醐天皇の聖蹟として史蹟に指定されて居る。天皇は本寺を崇敬し給ふこと深く、元弘三年六月四日、討幕の業成つて隱岐から京都へ還幸し給うた際の如きは先づ當寺に入御、親しく御禮拜遊ばされ、翌五日始めて冷泉富小路なる皇居に還御し給うた。天皇は次いで九月廿二日、宸翰を賜つて當寺の靈寶たる佛舍利を濫りに奉請するを禁じられ、その宸翰〔國寶〕が現存して居る。本



寺は後、戰亂の巷となつて燒失し、現在では行幸當時の遺構の存するもの極めて尠く、主要なる伽藍は皆豐臣、德川兩氏の建立するところにかゝる。

[illegible]伽藍は南面、金光明寺式配置法によつて居り、金堂の東南に塔があり、南大門、中門、金堂、講堂、食堂が南北の一直線上にある。現存建築の主なるものには金堂、五重塔婆、講堂、食堂、大師堂、八脚門、北大門、慶賀門、四脚門、東大門、南大門、寶藏等がある。

金堂（國寶）慶長十年豐臣秀頼が勅を奉じて建築したもので、藥師三尊を本尊として安置して居る。七間五面、重層入母屋造本瓦葺、床を瓦敷とし、下層正面軒の中央を一段高くしてあるのは、東大寺大佛殿の古制から來て居るのではあるまいかと云はれて居る。意匠として特に注目すべきは、初重に天竺様の挿肘木を用ゐ、上層に和様四手先を組んで居ることである。しかしその間少しも不自然な感を起さしめず、折衷建築としてよく成功を收めて居る。

五重塔婆（國寶）寛永十八年の建立である。方三間石壇上に立ち高さ約五六米、我が國現存塔婆中では高塔の一である。古制に則り造られたもので、餘り江戸の手法を見せず、當代に稀な傑作である。

講堂　金堂の後にある。慶長年間の再建、九間四面、入母屋造本瓦葺の建築である。內部は瓦敷で、諸佛の配置は密教の儀軌により、中央に金剛界大日如來、東に阿閦、西に彌陀、南に寶生、北に釋迦を安置して居る。この他にも多くの弘仁佛を安置し、その中には國寶に指定されて居るものが多い。講堂の後にある食堂は先年火災のため燒失し、近年再建された。

大師堂（國寶）境內の西北隅にあり、佛師康勝の作と傳ふる大師の像を安置して居る。康暦二年の建築で、桁行七間、梁間八間、單層、後堂、中堂、前堂、各棟違入母屋造、檜皮葺の建築にして平面は頗る複雜して居る。柱上には舟肘木を用ゐ、建物の外面に蔀戸を嵌め、間々妻唐戸を用ゐ、古き寢殿造を思はせる建築である。

八脚門（國寶）境內の西部にあり、蓮華門とも稱し、三間一戸、切妻造本瓦葺の建築である。延暦十五年創建のものを建久二年文覺が改築したと傳へて居る。總丹塗で壁白く、天井は組入格天井を張り、軒の出深く奥行あり、姿態頗る古調を帶び、恰も鎌倉時代になれる繪卷物中の八脚門を見る如き感がある。

北大門（國寶）三間一戸の八脚門、屋根は切妻造、本瓦葺で永德二年の建築と稱するが、その形式手法は蓮華門、慶賀門と同一にして明かに鎌倉初期の風を存し

て居る。

慶賀門〔國寶〕三間一戸の八脚門、屋根切妻本瓦葺で、建久年中文覺上人の修造する所と傳へ、形式手法に鎌倉初期の風がある。

四脚門〔國寶〕北總門と稱し、屋根は切妻造本瓦葺で、鎌倉末期の特色がある。

東大門〔國寶〕八脚門、屋根切妻本瓦葺で、不開門とも稱し、蓮華門と同式の建築に屬し、手法頗る雄健である。

南大門〔國寶〕八脚門、屋根切妻造本瓦葺、桃山風の特質を有する建築で、豪華の風がある。

寶藏（經藏）〔國寶〕方三間、屋根四注造、本瓦葺、校倉造にして屋根の唐草瓦は藤原時代の特色を有するもの半近く存し、建築の構造なども鎌倉時代前の古調を帶びて居る。

寶物には左記のものがある。

一五　大　尊　像〔國寶〕　五　幅

絹本著色、藤原時代の作で、古き五大尊の完備したものとして有名である。

一十　二　天　像〔國寶〕　十二幅

絹本著色、藤原時代の作で、金銀箔を盛に用ゐ、色彩は目覺むるばかり美しい。

一弘法大師行狀繪詞〔國寶〕　十二卷

紙本著色、傳土佐光信筆、內六卷は奈良帝室博物館出陳

一蒔　繪　筥〔國寶〕　一　合

弘法大師が靑龍寺の慧果から附與されたと云ふ有名な犍陀穀絲の袈裟を納めた筥で、藤原時代の作である。

一牛　皮　華　鬘〔國寶〕　十三枚

牛皮を透して著彩したもので、佛殿內部の莊嚴具である。現存最古の華鬘で、或ものは草花を透彫にし、或ものはその間に伽陵頻伽を配し、或ものは透彫を用ゐず全面に金箔を張り彩畫を加へて居る。これを繪畫として見ても優に藤原時代の一佳作である。內二枚は東京帝室博物館に出陳。

一毘沙門天立像〔國寶〕　木造　一　軀

一四　天　王　立　像〔國寶〕　木造　四　軀

一五　大　尊　像〔國寶〕　木造　傳弘法大師作　五　軀

一弘法大師遺告文〔國寶〕　紙本墨書　一　卷

一弘法大師畫像〔國寶〕後宇多天皇宸筆御贊絹本著色　一　幅

一後宇多天皇宸筆庄園敷地御施入狀〔國寶〕　紙本墨書　二　卷

一後宇多天皇宸筆東寺興隆條々御事書〔國寶〕　紙本墨書　一　卷

一後宇多天皇宸筆御日記〔國寶〕　紙本墨書　一　卷

一後宇多天皇宸筆御消息〔國寶〕　紙本墨書　一　卷

一後醍醐天皇宸筆御消息〔國寶〕

紙本墨書元弘三年九月廿二日　一　卷

一後醍醐天皇宸筆舍利奉請誡文〔國寶〕　紙本墨書　一　卷

一後光嚴天皇宸筆舍利奉請文〔國寶〕　紙本墨書　一　卷

一慈覺大師入唐求法巡禮行記〔國寶〕　紙本墨書　四　卷

一東寶記十五卷〔國寶〕　附目錄二枚　一　册

一三　寶　繪　詞〔國寶〕　紙本墨書　文永十年奧書　三　册

一悉　曇　藏　卷三、卷八〔國寶〕　二　卷

紙本墨書　卷八に天慶五年四月書寫の奧書あり

一山　水　圖〔國寶〕　六曲屛風　一　雙

絹本著色、傳弘法大師將來、東京帝室博物館出陳

一七　祖　像〔國寶〕　絹本著色　七　幅

弘法大師贊、唐李紳筆、但龍猛龍智二像傳弘法大師筆

左記寶物は恩賜京都博物館出陳

一十二天像〔國寶〕　六曲屛風　絹本著色　詫摩勝賀筆　一　雙

一聖僧文珠坐像〔國寶〕　木造　一　軀

一十　二　天　面〔國寶〕　木造　七　面

梵天、帝釋天、多聞天、風天、日天、火天、自在天の七面で、その內二面は東京帝室博物館出陳。

一天　蓋〔國寶〕　木造　一　箇

一弘法大師筆消息〔國寶〕　風信帖　紙本墨書　一　卷

一請　來　目　錄〔國寶〕　紙本墨書　傳弘法大師筆　一　卷

一後醍醐天皇東寺塔供養御願文〔國寶〕　一　卷

紙本墨書、建武元年九月二十三日

【觀智院客殿】〔國寶〕觀智院は東寺の塔頭で北大門の北に隣接して居る。客殿は桁行七間、梁間東側五間、西側四間、單層、屋根入母屋造の建築で、慶長十一年に建立された桃山時代の書院造であるが、平面やゝ古制を帶び軒唐破風を作り、車寄を有して居る。壁襖の貼附繪は宮本武藏二天の筆と稱して名高い。

本堂には有名な國寶の五大虛空藏が五軀安置されて居る。この佛像は入唐八家の一人惠運が承和十四年支那から歸朝の際持ち歸つたものである。唐朝の木彫でその年代の明確なものゝ殆ど遺存しない今日、この像が確な由緖を以て遺存して居ることは、我が佛敎藝術史上特に注意すべきものである。

尙この院には七大寺日記、三寶繪詞、唐大和上東征

傳等夥しく古書を藏し、高山寺、醍醐寺、尾張の眞福寺と共に有名である。

【西寺址】〔指定史蹟〕 市電七條大宮下車、市バス千本四塚の北西方、下京區唐橋門脇町、同川久保町の地域にある。西寺は一に右大寺と云ひ、桓武天皇の平安京造營の當初に羅城門の東西に造營せられた二大官寺の一で、左大寺たる東寺とは朱雀大路を距てゝ相對し、勤操、守敏等の高僧多くこゝに住して朝野の尊信篤く、宏壯東寺に異ならず、帝都の美觀であつたが、早く衰微して鎌倉時代には既に最後の塔をさへ失つた。今その遺址は唐橋町の東南、七條第二小學校の一帶に亘つて居り、講堂址の朝日森と呼ばれる土壇があり、平安朝初期の遺瓦の破片を多く出す。軒瓦、鬼瓦等を出し、また角礫花崗岩の敷石を出土し、火にあへる布目瓦が多く散亂し、土壇を中心として廣大であつた寺域を推測せしめ、且つ寺塔の配置東寺と相反するものがあつたやうである。譲達稻荷神社の北唐橋門脇町では地下に埋存した三段の繰出しのある創建當時の精巧な礎石が發見せられた。寺域から發見される遺瓦のうちには「西寺」の文字あるものあり、また大内裏造營に用ゐられたと同一碧瓦の出づるものありて、往古西寺の偉觀を推察するに足るものがある。

【羅城門址】 西寺址から東南半粁にあり、標石が建てられて居る。羅城門は平安京の中央を南北に貫通する幹線道路の朱雀大路の南端に建てられた門である。

【壬生寺】〔律宗〕 市電大宮佛光寺下車、佛光寺通坊城西にあり、壬生地藏または小三井寺と稱して有名である。現今の本堂大門等は文化四年の再建で、幕末には新選組の宿舍であつた。本堂は俗に地藏堂と稱し、本尊地藏菩薩坐像〔國寶〕、脇士四天王立像〔國寶〕の外四天王立像〔國寶〕四軀、金鼓一口及び錫杖一枝がある。本寺の年中行事中壬生狂言は世に名高い。

【壬生狂言】 一に融通大念佛會と稱し、四月二十一日から末日まで。壬生寺本堂北の舞臺で行はれる。この寺の中興圓覺上人が兒女流俗を佛道に導く方便として創めたもので、總べて手振り動作だけで語を用ゐず、囃は鉦と太鼓を用ゐ、俳趣味に滿ちた一種奇古の演戲である。

【新撰組壬生屯所址】 市電四條坊城下車、坊城通綾小路北にある。明治維新の頃近藤勇、芹澤鴨等が起居し、建築宏大であつたが、今は頗る荒れて居る。

【六角牢屋址】 市電壬生車庫前下車、六角神泉苑南にあり、京都感化保護院の敷地になつて居る。勤王の志士平野國臣等が所刑された所である。

【長講堂】〔淨土宗西山光明寺派〕 市電河原町五條下車、下寺町五條下ルにある。後白河法皇の創建し給うた所でもと六條の内裡にあつて壯麗を極めた。本堂には阿彌陀如來坐像及び觀音勢至兩脇侍坐像〔國寶〕を安置してある。本堂の前の御影堂には圓頂法衣の御姿の後白河法皇像〔國寶〕がある。

【御影堂（新善光寺）】〔時宗〕 市電河原町五條下車、五條通寺町西方にあり、天長元年檀林皇后の創立と傳へ、現堂宇は明治二十七年の再建である。

寶物には左記のものがある。

一一遍上人繪卷 〔國寶〕 紙本著色 恩賜京都博物館出陳 四卷
一地藏菩薩坐像 〔國寶〕 木造 鎌倉時代 一軀

【平等寺（因幡藥師）】〔眞言宗智山派〕 市電烏丸松原下車松原通烏丸東因幡堂町にある。長德三年因幡國司橘行平藥師佛を感得し、これを京都に齎し、その孫光朝禪師邸を捨てゝ寺としたのが本寺の草創だと傳へて居る。屢々回祿にかゝり、現堂宇は明治十九年の再建である。

寶物には左記のものがある。

一藥師如來立像 〔國寶〕 木造 藤原初期 一軀
一如意輪觀音坐像 〔國寶〕 木造 鎌倉時代 一軀
一釋迦如來立像 〔國寶〕 木造 鎌倉時代 一軀
高さ二尺五寸五分、朱衣に丸紋を置いてある。嵯峨清涼寺釋迦像の模造である。足納に建保元年十二月十五日の銘がある。

【佛光寺】〔眞宗佛光寺派本山〕 市電烏丸佛光寺下車、高倉通佛光寺下ルにある。建曆二年山科に親鸞上人が創立して興正寺と稱し、その後東山に移り、嘉曆年間今の寺號に改めた。文明元年住僧經豪が門徒數萬を率ゐて、

本願寺の蓮如の下に走つてから昔日の隆運を失うた。現堂宇は總べて明治年間の再建で大師堂、阿彌陀堂、寢殿、書院等整備して居る。

寺寶に左記のものがある。

一聖德太子立像〔國寶〕　木造　一軀

湛幸作、像内に元應二年正月廿八日の造立文書及び了海上人遺骨包紙がある。

【光薗院】〔眞宗佛光寺派〕佛光寺境内にある。寺寶の阿彌陀如來立像〔國寶〕は高さ二尺五寸五分、寄木造、玉眼嵌入、大行寺像とその形相製作共に相似し、鎌倉期の作風顯著である。

【大行寺】〔眞宗佛光寺派〕佛光寺境内にある。寺寶の阿彌陀如來立像〔國寶〕は高さ二尺七寸一分、寄木造、玉眼嵌入、漆箔、左側枘外側に「巧匠法眼快慶」の墨書銘がある。

【賀茂川】鴨川とも記し、淀川の支流たる桂川の支流である。山城、丹波の境に聳える棧敷ケ岳の南麓に發源し、東南方に流れて、鞍馬川、貴船川を入れ、下賀茂社の南糺河原に至りて高野川を合せ、京都市の東部を南流し、更に西南に轉じ、下鳥羽に於いて桂川に會する。長さ約一二粁、河床は砂礫の磧多く、水量に乏しいが、水質染物に適し、友禪染に利用される。架設してある橋には北大路、葵、賀茂、丸太町、二條、三條、四條、五條、七條等の諸大橋がある。賀茂川の西に竝走する運河即ち高瀨川には小橋が架設してある。

【高瀨川】賀茂川の水を引いた運河で、二條通木屋町樋の口から分岐して西に入り、直に南折し賀茂川を横斷して伏見の京橋で宇治川に合する。この運河は角倉了以が幕府の許可を得て開鑿したもので、慶長十六年起工、同十九年竣工、爲めに京伏見間及び京阪間の運輸交通が便利となつた。明治二十七年琵琶湖疏水運河が開通してから、高瀨川の曳舟は跡を絶ち、河畔の楊柳も殘存するものが稀になつた。高瀨川に架設してある橋は賀茂川の大橋に對して小橋と云ひ、三條小橋以南の川沿ひに薪炭を賣る一街が出來て木樵町と云つたが、いつしか木屋町と變じ、今は旅館、貸席、旗亭等が櫛比して居る。

【高瀨川一之船入】〔指定史蹟〕市電、市バス河原町二條下車、中京區河原町二條下ル東入一之船入町にある。往昔、高瀨川を上下する舟楫の船溜に充てるため、川の右岸より西方に向つて深く入込んだ東西幅四十四間五尺、南北幅九間の水面と、三方からこれを圍む貨物の積卸場から成り、高瀨川の開鑿者角倉了以の施工竣成にかゝる。江戸時代京阪間の貨物運輸は專ら高瀨川を利用したもので、船入には船の出入すること繁く、二條から五條に至る間には七箇所の船入があり、川筋には問屋が櫛比して商況殷盛を極めて居た。

【五條大橋】市電河原町五條下車、賀茂川大橋の一つである。嵯峨天皇の勅諚によつて創設され、平安京の五條通即ち今の松原通にあつたが、天正年間豐臣秀吉が下流に當る舊時の六條坊門通に移築し、舊名によつて五條橋と云つたから、六條坊門通と云ふ街路名も五條通と改まつた。この橋は牛若丸と辨慶に關する傳說によつて夙に人口に膾炙して居る。現存のものは明治四十四年十一月の改造にかゝり、形狀は舊により、橋面は近代式とし、擬寶珠の中には正保二年の文字を有するものもある。亘長六九米、幅員約八米。

【四條大橋】市電四條大橋下車。賀茂川に架設してある大橋の一で、近衞天皇の康治元年に創設されたと云ふ。明治四十四年市內道路擴築電車線路敷設工事に際して改造に著手し、大正二年三月近代式鐵筋コンクリートの橋が架せられたが、昭和九年大水害によつて甚しき損傷を受け、近く改築の上瀟洒な新大橋が出現することになつて居る。橋の兩岸には鐵筋コンクリートの洋風建築が聳え、明治の末期に比して面目が一新された。昔この橋の附近は河原者の演技に名を得た所であるが、今は毎年夏期になると、橋の上流、下流一帶の河原に床棧敷を架し、涼棚を構へて遊客の納涼に供する。橋下に涼床を造り、屋形船を浮べたことは昔話となつた。

【大雲院】〔淨土宗鎭西派〕市電四條寺町下車、寺町通四條南にある。龍池山と號し、織田信長が歸依した僧貞

安の創立にかゝる。境内墓地に織田信忠塔があり、碑面に大雲院殿二品羽林仙巖大居士と題してある。寺寶に前田玄以像〔國寶〕一幅、正親町天皇宸筆御消息〔國寶〕一幅がある。

【新京極】市電新京極下車。四條大橋の西三〇〇米、三條から四條まで南北に通ずる街路で、京都市中最も繁盛熱鬧の地である。映畫、演劇、淨瑠璃、落語等の興行場を始め、料亭、酒場、喫茶店、洋食店、球戯場、雜貨店、化粧品店等軒を連ね、往來の人踵を接し、夜は特に賑はしい。京極は京の果の意で豐臣秀吉が洛中に存した寺院を洛外に移した時、東京極以東に移されたものは南北に連つて一區域をなしたから京極が寺町と改稱された。新京極は寺町の東にあるから云ふのである。概ねもと誓願寺の境内に屬した所で、明治五年南北に通ずる道路を設けられ、爾來兩側に商店が建設されたのである。明治の末年頃附近に第二新京極が出現した。然し一般には單に京極と通稱されて居る。

【染殿地藏】新京極四條北にある。十住心院〔時宗〕と號し、本尊地藏菩薩は空海の作と稱され、清和天皇の御母染殿皇后の御尊崇が深かつたと傳へられる。當寺から授與する安產腹帶は靈驗が著しいと云ふ。

【坂本龍馬遭難地】市電河原町蛸藥師下車、中京區河原町通蛸藥師南にあり、建物は殆ど當時の面影を存しない。龍馬は土佐藩の志士で、慶應三年十月刺客に遭うて落命した。

【誓願寺】〔淨土宗西山深草派總本山〕市電河原町三條下車、新京極六角南にある。はじめ天智天皇の勅願で奈良に創建され、延暦年間には山城深草に、建暦年間には京都西陣に移されたが、天正年間には再度現地に移された。現堂宇は元治兵亂の後の再建で、本堂は八條大宮大通寺本堂の移築、本尊阿彌陀如來立像は綴喜郡八幡町阿彌陀堂のものを遷したものである。墓地には有名な六角石幢がある。

寶物には左記のものがある。

一誓願寺縁起〔國寶〕絹本著色恩賜京都博物館出陳　一幅
一毘沙門天立像〔國寶〕木造　藤原時代　三軀

【和泉式部寺】〔眞言宗泉涌寺派〕市電河原町三條下車、誓願寺の南にあり、本名を華岳山誠心院と云ふ。本堂の北に和泉式部石塔婆があり、高さ一丈一尺六寸の寶篋印塔である。

【三條大橋】市電河原町三條下車、四條大橋、五條大橋と合せて、賀茂川の三大橋とされたものである。創設の年代は不明であるが、室町時代には既にあつた。天正十七年豐臣秀吉その臣增田長盛をして改造せしめたことがある。長さ一〇一米、幅約七米、欄干の擬寶珠は紫銅で造られ、當時の諸大名が寄附した。明治維新後には十四年に改造し、同二十七年に修理し、更に四十五年三月市區改正道路擴築の大方針に基づいて新に築造に着手し、大正元年十月竣工した。形式は舊に依つてあるが、幅員が著しく擴大したから天正の石柱は撤去して、新橋柱を用ゐ、舊石柱は市中の神社、公園等に配布し、西詰にも記念物として保存してある、擬寶珠は天正の分と大正改造の旨を銘せる新造の分とを混用してある。この橋は古來京都から起る東海、東山、北陸等諸街道の起點となり、里程元標も西詰に建てられた程であるから、行客絡繹として晝夜絶えず、隨つて橋の東西に旅館旗亭が軒を竝べて居る。近年京阪電車が橋東に停留場を設けてから、交通は益々頻繁となつた。

橋の東詰南側、前記停留場に接し、跪座して遙に西北を拜する高山彥九郎の銅像がある。高さ一米八、基壇三米半、高さ七米の臺石上に立ち、正面に東鄉元帥の揮毫にかゝる高山彥九郎正之の文字が彫刻されて居る。

【鴨川踊（鴨涯歌舞練場）】市電河原町三條下車、先斗町鴨涯歌舞練場に於いて、毎年五月一日から同二十四日まで催される舞踊で、祇園の都踊と竝稱せられて居る。起原は都踊と同じく明治五年であるが、その後一旦中止したのを、明治二十八年平安奠都一千年記念祭擧行を期として再興した。今の建物は昭和二年の竣工、鐵骨造併用鐵筋コンクリート造四階建で別に地階を有し、舞臺、觀覽席、待合室、休憩室、點茶室等總建坪

四〇〇アールである。

舞臺は正面幅二二米、奥行一一米、中央に迫り上りを設けてある。背景は都踊と同じく年々新作せらるゝ歌曲に因んで作られる。登場人員は地方二十人、囃方十人、踊子二十八人を一隊とし、四隊二百三十二人、毎夜交代して四日毎に一周することゝなつて居る。いづれも先斗町の若い歌妓中から選拔するので、その妙技美觀は都踊に劣らないのである。特等觀覧者は點茶席に案内して薄茶を侑めて居る。

【矢田寺（矢田地藏堂）】〔淨土宗西山派〕市電河原町三條下車、寺町通三條上ル天性寺門前町にある。開祖は滿米上人、その開創の顚末と地藏尊の靈驗を畫いた矢田地藏緣起二卷〔國寶〕は恩賜京都博物館へ出陳中である。京洛六地藏の一に數へられ參詣者が多い。

【池田屋騷動舊址】市電河原町三條下車、三條小橋西詰にある。池田屋旅館は今佐々木旅館と改名新築されて居る。元治元年六月長州藩その他の志士が新撰組に襲はれて修羅場を現出した所である。

【本能寺】〔本門法華宗〕市電河原町御池下車、寺町通御池下ル本能寺前町にある。應永二十二年創立當時は本應寺と號し五條坊門にあつたが、その後轉々し、天文十四年には現時の本能小學校（中京區六角油小路）の位置を占め、塔頭子院四十七を數へ甚だ盛であつた。然るに天正十年六月二日こゝに陣して居た織田信長を弑するため、明智光秀の亂入あり、堂宇また烏有に歸した。天正十五年市區整理に際し現地に移り、その後幾度か火災にあひ、今は僅かに本堂、山門、その他を再建したのみである。境內の大公孫樹下に織田信長影塔がある。

寶物には左記のものがある。

一　梅樹雉雀文樣銅鏡　〔國寶〕　一面
一　傳行成筆古詩殘簡　〔國寶〕　一卷

【佐久間象山遭難碑】市電河原町御池下車、木屋町通御池北、高瀨川の沿岸にある。象山は松代藩の志士で、元治元年七月十一日午後四時刺客のため、こゝで橫死した。

【大村益次郎殉難碑】市電河原町御池下車、木屋町通御池北、高瀨川の沿岸にある。益次郎は明治二年七月兵部大輔に任ぜられ、軍政の大革新に努力し、翌月京都の長州藩控屋敷に入つた。九月四日守舊派の刺客に襲はれて深手を蒙り、十一月大阪の病院で歿した。長州藩の控屋敷は玉乃家、文福兩旅館のある所に當る。

【妙滿寺】〔顯本法華宗總本山〕市電河原町二條下車、寺町通二條下ルにあり、弘和三年日什上人の開基、元治元年の兵燹に遇うた後に再建したのが現宇で、佛堂、方丈等整備して居る。境內にある中川の井は足利義政の時、茶人能阿彌の選んだ洛陽七名井の一である。

【下御靈神社】〔府社〕市電河原町丸太町下車、寺町通丸太町下ル下御靈前町にある。祭神は桓武天皇の皇太子早良親王（崇道天皇）伊豫親王、藤原吉子、橘逸勢、文屋宮田麿、吉備眞備、藤原廣嗣及び菅原道眞の八柱で上御靈神社に同じである。現時の社殿は天明の回祿に罹つた後、御所、內侍所を賜はつたもので、末社垂加社には山崎闇齋を祀つて居る。

寶物には左記のものがある。

一　靈元天皇宸筆祈願文　〔國寶〕　紙本墨書　一卷

【六角堂（頂法寺）】〔天台宗〕市電烏丸三條下車、六角通烏丸東にあり、西國三十三所觀音第十八番の札所である。平安時代後期の瓦を出土するが、鎌倉時代には既に聖德太子建立四十六院の一に數へられて居た。その佛堂の構造が六稜形をなして居るので六角堂と通稱するのである。現今の堂宇は明治十年の再建で本尊如意輪觀音を安置して居る。本堂の後方に池の坊がある。永正年間當坊の十二世專慶は幼より立花を好み、常に空山幽溪を跋涉して自然趣向を探求し大いに體得し、後花を折り瓶に插んで姿態入神の趣を發明した。その後二十六世尊順は更にその奧底を啓いて代々その家に傳へた。文化十四年仙洞御所に立花を獻じ、爾來御卽位立后の大禮ある每に獻花するの例となり、今尙依然として池ノ坊流の家元として花技を傳へて居る。

【神泉苑】〔指定史蹟〕市バス神泉苑前、市電堀川御池下車、京都市中京區元二十六組門前町にある。眞言宗東

寺派に屬し、苑内に存する池の南の中島には善如龍王を祀る堂がある。

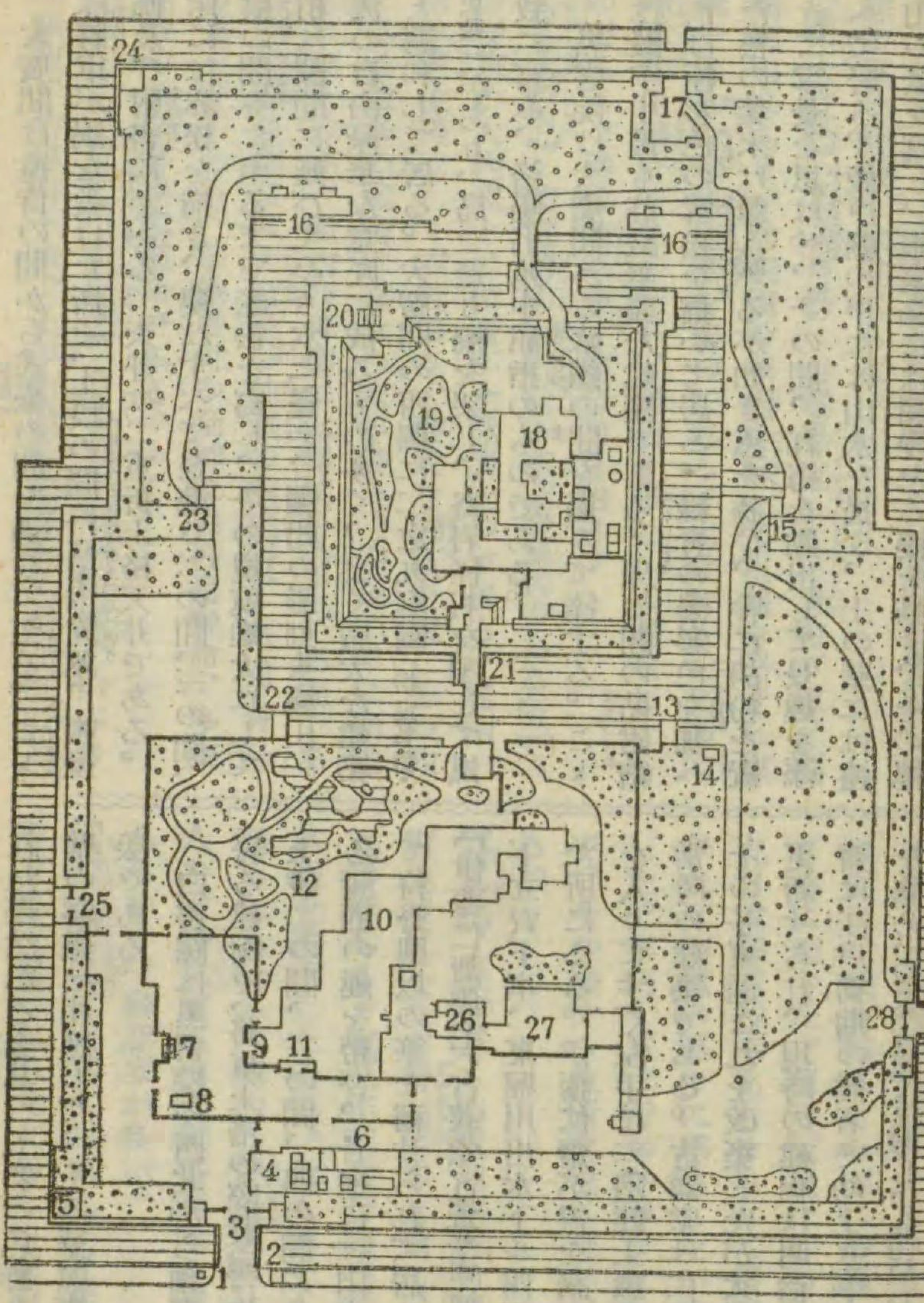
神泉苑は平安京の造營に際し宮城の南に接して營まれた禁苑で、築造の當初にあつては東西二町、南北四町に亘り、石垣を繞らし、苑の中央に大池あり、傍の涌泉から清水流入して碧水滿々、高臺樓閣その影を寫し、樹林欝蒼として古來觀花、納涼、祭星、菊酒の節屢行幸あり、群臣と詩賦宴遊の清興の行はれた勝地であつた。現在は方一町にせばめられ、中央に池あつて往古の俤を止めて居るに過ぎないが、當時は苑池水多く炎旱にも涸れたことがなかつたため、旱魃にあたつて農民の水に苦む時には、勅して水閘を開いて田畠を潤ほしめたことは中古に於いて極めて屢々あつた。また苑内で祈雨の祕法が修せられ、請雨の道場となつた。弘法大師がこの苑池で守敏と祈雨の法驗を競つたと傳へられる。

★【恩賜元離宮二條城】〔指定史蹟・國寶〕 市電二條城前下車。舊二條城で慶長八年德川家康の築造にかゝり、その後二百餘年間、江戸幕府の京都鎭壓の本據であつたが、慶應三年に德川慶喜が大政奉還の策を決行したのもこゝであつた。その後明治十七年宮内省に移管して離宮となし、大いに内外を補修せられた。昭和十四年十一月京都市に賜はり、二條城と復稱した。

現存二條城の主要な建物は二之丸御殿で遠侍、大廣間、黑書院、白書院の四棟より成り、それが順次連り、その平面圖は恰も階段の如き形を成して居る。

東大手門を入ると先づ第一に壯大な唐門がある。四脚門で左右は切妻、前後に唐破風を有し、隨所に精巧な彫刻の擬裝された極めて豪華な建築で、桃山城の遺構と傳へられて居る。この門を入ると宏大な御車寄がある。こゝを上ると遠侍入口の間で、三の間、二の間、若松の間、芙蓉の間及び一の間がある。最も大なるは一の間で七十六疊を敷き、金地の襖全部に竹に群虎の圖を描いて居る。名筆とは稱し難いが、構圖雄大豪壯の感があり、狩野派畫家の描く所と云ふ。尙北側には勅使の間がある。

恩賜元離宮二條城



1 史蹟標識
2 拜觀券賣捌所
3 東大手門—國寶
4 事務所
5 東南隅櫓—國寶
6 東休憩所 下足預所
7 唐門—國寶
8 携帯品下足預所
9 表玄關
10 二之丸御殿—國寶
11 脇玄關
12 二之丸庭園—史蹟名勝
13 北鳴子門—國寶
14 北休憩所
15 北中切門—國寶
16 米藏—國寶
17 西門—國寶
18 本丸御殿
19 本丸庭園
20 天守閣址
21 本丸櫓門—國寶
22 桃山門—國寶
23 南中切門—國寶
24 西南隅櫓—國寶
25 南大手門
26 御清所
27 御臺所
28 北大手門—國寶

大廣間は遠侍の間から式臺の間を過ぎて至る。こゝは將軍が謁を受けた所で、上段の間には床、違棚、帳臺飾及び附書院がある。天井は二重折上格天井である。床には赤松を描き、襖はすべて金地で二の間、三の間、槍の間等に至るまで老松を寫し、その規模雄大にして梢は欄間に延びて亭々空に聳え、欄間の彫刻も桃山一流の自由豪華な意匠に成るもの多く、よく廣大な建築と調和して居る。大廣間の西側に二之丸庭園〔指定名勝・史蹟〕があり、島を造り橋を架し、奇岩怪石を配して風致に富み、洛陽名苑中屈指のものである。

黒書院は大廣間から蘇鐵の間を過ぎて達する。こゝは殿宇中最も莊嚴華麗な建築である。床の間の貼附繪には極彩色の雪松を描いて居る。緑青の濃彩色を加へた松の葉末は翠滴るが如き感を誘ひ、幹に胡粉を置きて雪景を思はせ、その間、紅梅を點出して景趣を添へて居る。袋戸棚の戸には山水を描き、上の壁には遠山の景を寫し、帳臺飾には爛漫たる櫻を描き、その櫻樹の繪は連續して二の間に及んで居る。各所に使用された燦然たる金具、五彩の色鮮かな天井の文様は、四壁の彩畫と相應じて、その華麗實に云はんかたなき有様である。

白書院は黒書院の西北から細廊によつて連ねられて居る建物で、將軍上洛の際寢室に充てられた所である。上段二の間、三の間、四の間に分かれ、その裝飾は頗る瀟洒の趣を帶び、各室には山水若しくは花鳥畫ありて狩野興以の筆と稱せられて居る。

【伊藤仁齋舊宅(古義堂)址竝書庫】〔指定史蹟〕市電堀川下立賣下車、東堀川出水下ル四丁目、堀川河岸に面した所にある。伊藤仁齋が書を講じた古義堂の址で、門を入りてすぐ左手に二階建土藏造の書庫があり、仁齋當時の建築である。古義堂は仁齋の歿後、享保十八年その子東涯これを改築したが火災に罹り、その後屢々更新せられ、現時の建物は明治年間の建築である。仁齋は江戸初期の儒者で幼より學を好み、初め程朱の學を修め、のち古學に歸し、門戸を開きて教授し、堀川塾として世に傳唱せらる。寳永二年三月歿す歳七十九、維新後正四位を贈られた。その子東涯またこゝにあつて書を講じ、また從四位を贈られた。尚、仁齋及び東涯の墓は嵯峨二尊院にある。

【護王神社】〔別格官幣社〕市電烏丸下長者町下車、櫻鶴圓町にあり、僧道鏡の無道を除いて皇基を堅くし皇統を輝した和氣清麿を祀つてある。本社はもと高雄山神護寺の鎭守であつたが、明治十年こゝに遷座したものである。神紋對四藤。例祭四月四日。

【京都御所】市電堺町御門前下車。舊皇居のある所で、平安京の大内裏とは位置が全然異なつて居る。周圍一帶は芝生美はしく樹枝繁り、廣大な御苑を成しその内にある數多の殿舍は嘉永の末年炎上、安政二年に新造されたと云ふ。殿内の拜觀には特別の許可が必要である。尚御苑内には大宮及び仙洞の兩御所、宗像神社〔府社〕等がある。宗像神社の祭神は市杵島姫命、多岐里姫命及び多祁都姫命である。

【明治天皇行幸所木戸邸】〔指定史蹟〕京都市電、市バス河原町、竹屋町下車、土手町通竹屋町上ル末丸町にある。明治維新の功臣、木戸孝允の京都の邸宅で、明治十年二月西南の役起るや木戸孝允聖駕に供奉して京都にあり、病を得てこの邸に療養したが、不幸起つ能はざるに至つた。明治天皇はこの由を聞召され、五月十九日本邸に行幸あらせられて優渥なる勅語を賜うた。孝允は聖恩の厚きに感泣したが、五月廿六日遂に薨去した。年四十五。行幸を辱うした建物は二階建の一棟で、その後やゝ位置を變じたが、能く舊態を存して居る。

【革堂】〔天台宗〕市電河原町竹屋町下車、寺町通竹屋町上ルにある。行願寺と號し、西國巡禮札所の第十九番である。寛弘年間僧行圓の創立にかゝり、行圓が革服を着用したので、世人革上人と呼び、寺を革堂と稱したと云ふ。境内の愛染堂には洛陽七福神の一壽老人を、妙見堂には火難盜難除の鎭宅靈符神を合祀してあるので、參詣者が多い。

【賴山陽書齋(山紫水明處)】〔指定史蹟〕市電河原町丸太町下車、東三本木丸太町上ル南町にある。賀茂川の河

岸に建てられた簡素な小亭で、人家櫛比の間に挾まれ、丸太橋から望見し得られる。賴山陽が晩年居を卜した水西莊の書齋で、文政十一年の建築であるが、略々舊態を存して居る。入母屋造藁葺、主室は四疊半で、外に北側に二疊の侍室と板の間が附屬して居る。室は天井阿字形、床の間、違棚あり、前面賀茂川に臨んで低い欄干あり、三面皆開放して眺望をほしいまゝにすべく、後方內庭に向つて小蔀窓を開く。亭は賀茂川の清流を隔てゝ東山三十六峰を一眸のうちに收められ、いはゆる山紫水明の境にある。山陽は安永九年大阪に生れ、幼にして父春水の淺野侯に聘せらるるに從つて廣島に赴き藩學に入り、また家學をうけたが、のち江戶に出でて尾藤二洲に學ぶ。文化八年京都に居を定めて子弟を敎授し、忠孝の義を明かにし、君臣の分を正しうし、士道の砥礪に努め、專ら力を著述に致し、著書十餘種あり、殊に日本外史、日本政記、日本樂府等最も世に行はれた。日本政記は專らこの書齋で稿成つたものであると云ふ。天保三年九月歿した。歲五十三。

維新後正四位を贈られた。墓は東山圓山公園長樂寺內墓地にある。

【橫井小楠殉節地】　市電寺町丸太町下車、寺町丸太町南にある。小楠は明治政府の參與で、明治二年正月御所から退下し、こゝで刺客に殺害された。

【京都府立醫科大學】　市電府立病院前下車、河原町廣小路にある。大正十年十月京都府立醫學專門學校の昇格して單科大學となつたものである。同專門學校は明治五年に京都府が開設した假療病院に起源する。

【立命館大學】　市電府立病院前下車、廣小路寺町東入にある。明治三十三年に設立された京都法政學校の後身で、大正二年十二月改稱、大正十一年六月から大學令に據る大學となつた。

【梨木神社】〔別格官幣社〕　市電府立病院前下車、寺町通廣小路上ルにあり、祭神は三條實萬で明治十八年の創祀である。現社地はもと三條家の舊宅址で梨木町と稱したところである。實萬は實美の父で光格天皇、仁孝天皇、孝明天皇に歷仕して、幕末多端の際皇事に參與

した功臣である。神紋窠に唐花。例祭十月十日。

【淸淨華院】〔淨土宗〕　市電府立病院前下車、寺町通廣小路上ル北邊町にある。通俗淨華院と稱し、貞觀二年の開創と傳へ、承安四年後白河法皇受戒の時、當院を法然上人の宿所に賜ひ、以後今の宗旨に改つた。明治二十二年炎上し、四十四年再建されたのが現時の堂宇である。本堂には法然上人像を安置し、阿彌陀堂の傍にある不動堂には泣不動畫像を安置して居る。一に身代不動と稱して名高い。境內に勤王家立入宗繼の墓がある。

寶物に紙本著色、泣不動緣起〔國寶〕一卷がある。

【大久保利通舊邸】　市電河原町白梅圖子下車、石藥師通寺町東入にあり、舊時の儘遺存して居る。利通は明治維新元勳の一人である。

【遣迎院】〔天台宗〕　市電今出川寺町下車、寺町廣小路上ルにある。寺寶に左記のものを有する。

一阿彌陀如來摺佛　〔國寶〕　紙本墨書　七十五枚

阿彌陀如來の小像で、一紙に百九十躰ほどを捺し、紙背に摺佛一體に一人の名を墨書してある。恐らくそれ等の人々への供養のためと思はれる。その中一枚には端に「建久五年六月廿九日始之」とある。

一釋迦如來立像　〔國寶〕　一軀

一阿彌陀如來立像　〔國寶〕　一軀

兩像は何れも寄木造で、玉眼嵌入、粉溜塗で、衣には精細な截金文樣がある。面相、彫法は極めて練達せる技巧であり、共に快慶の作と思はれ、鎌倉初期の製作であらう。

【同志社大學】　市電今出川御門前下車、京都御所の北、新北小路町にある。明治初年新島襄が設立した同志社に始まり、大正九年四月から大學令に據る大學となつた。

【相國寺】〔臨濟宗相國寺派大本山〕　市電今出川御門前下車、御所の正北今出川烏丸相國寺門前町にある。

永德三年足利義滿の創建にして夢窓國師を開祖とし京都五山の一としてその名を知られて居る。往時は堂塔盛觀を極めたが、應仁の亂に佛堂悉く兵火にかゝり燒失した。後豐臣德川兩氏の世大いに再興されたが、それも天明八年の大火の時法堂を餘して伽藍盡く燒失し、その後漸次再建して今日に及び、境內所々に舊礎

右の殘れるものがある。

本堂（法堂）〔國寶〕慶長十年豐臣秀頼の再建したものである。桁行七間、梁間六間、重層、屋根入母屋造本瓦葺の唐様建築で純然たる禪宗建築より成り、我が國現存最古の法堂である。權衡よく整ひ、手法また雄健、特に側面に玄關廊を有するは最も珍らしい。內部は瓦敷で中央に須彌壇があり、天井は鏡天井で雲龍を描き、入側天井は化粧屋根裏になつて居る。

寶物には左記のものがある。

一猿猴竹林圖六曲屛風〔國寶〕等伯筆　紙本墨書　一雙
一十六羅漢像〔國寶〕陸信忠筆　絹本著色　十六幅
一唱鶴圖〔國寶〕文正筆　絹本著色　二幅
一山水圖〔國寶〕絕海贊　紙本墨書　一幅
一十牛頌〔國寶〕傳絕海筆　紙本墨書　十幅
一無學祖元偈語〔國寶〕弘安二年十一月一日紙本墨書四幅

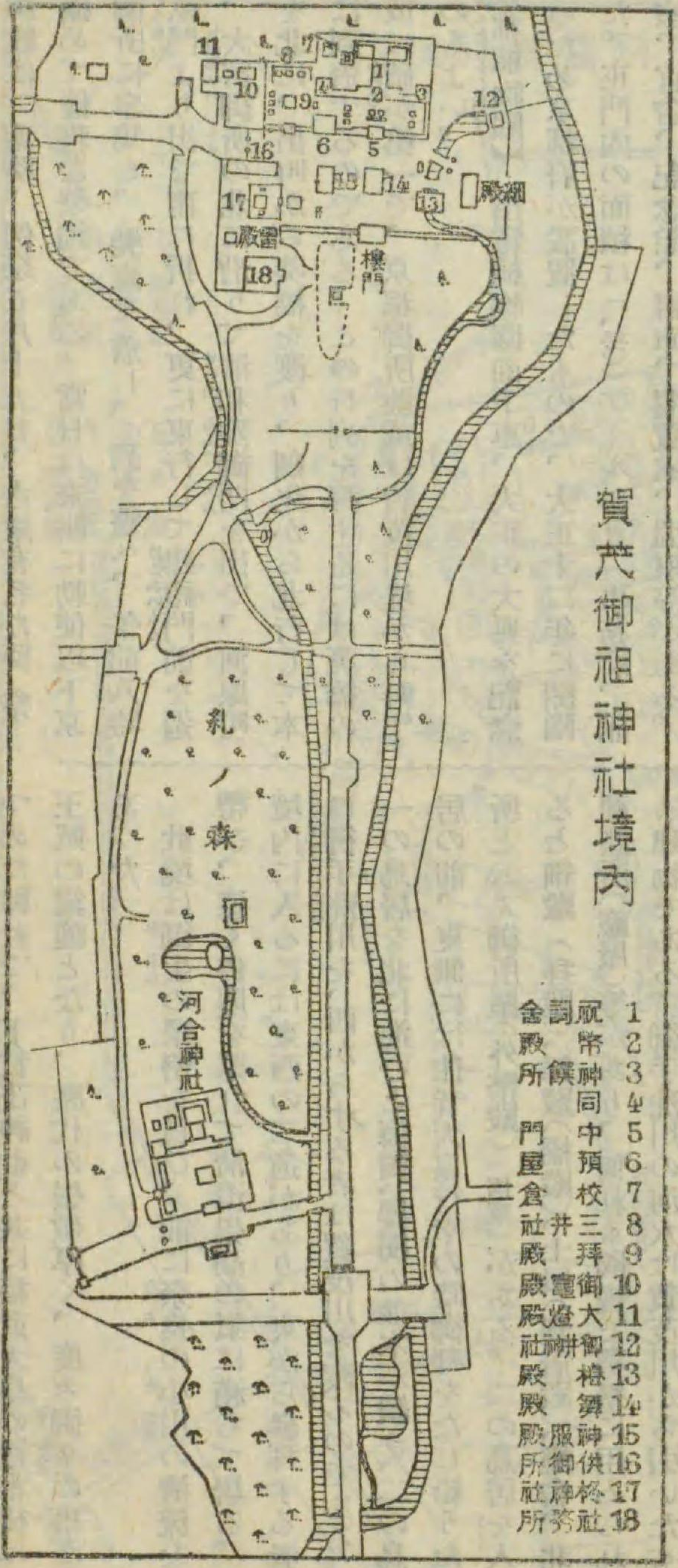
相國寺慈照院に足利義政の墓、林光院には藤原惺窩の墓がある。

【上御靈神社】〔府社〕市電上御靈神社前下車、上御靈前町にあり、祭神は下御靈神社と同じく、共に中古以來朝家の崇信が篤かつた。社殿、繪馬堂、神輿庫等備はり、攝社末社が多い。

【大光明寺】〔相國寺塔頭〕市電烏丸上立賣下車、寺寶に羅漢像〔國寶〕一幅あり、絹本著色、鎌倉末期の作風を存して居る。

★【賀茂御祖神社】〔官幣大社〕市電河原町今出川下車、下鴨宮河町にある。俗に下賀茂神社と稱し、玉依姫命と賀茂健角身命を祀つて居る。山城の一宮で延喜の制に於いては名神大社に列し、その起源極めて古く、平安奠都の際には王城の鎭護とせられ、以來朝廷の崇敬殊に厚く、公私寄進の神領は古より數十箇所あり、江戸時代には五百四十石餘に及んで居た。

境內極めて廣く高野川、賀茂川の合流する三角洲の處に位置を占め、賀茂川出町に架せられた葵橋を東に渡り北に折れて進むと程なく一の鳥居に達する。これを過ぎて社地に入ると、右に泉川、左に瀬見の小川が流れ、老松多く、風致に富む、室町時代の古戰場糺の森は即ちこれである。更に參道を北に進み、二の鳥居及び三の鳥居を過ぎると正面の樓門に達する。檜皮葺の丹塗で左右より廻廊をめぐらして居る。門を入ると舞殿があり、その左には神服殿右に細殿、橋殿がある。更に進むと中門（四脚門）があり、その左には預屋がある、中門を入ると幣殿、祝詞屋、更にその奥に本殿がある。本殿は素木造で三間社流造、文久三年の改築、その他の社殿は寛永五年の再建であるが、よく古式を傳へ、多くは檜皮葺丹塗の建築で、本殿以下各殿、樓門、廻廊等皆國寶に指定されて居る。

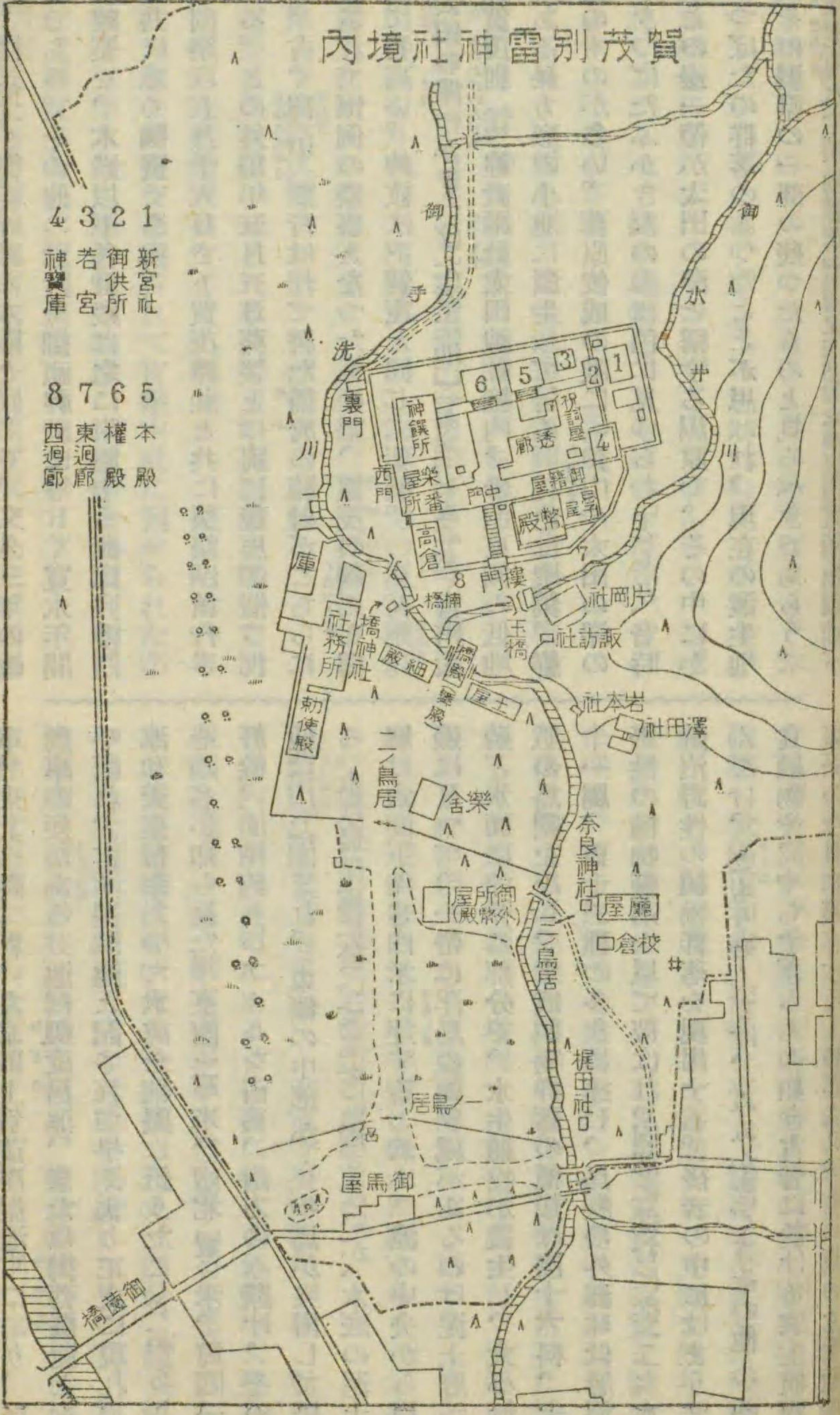


神紋は二葉葵。例祭五月十五日、古來有名な葵祭で極めて優雅な祭禮である。當日は未明に勅使以下京都御所に參集し、裝束を着し、列を整へ、午前八時宜秋門より出で南に折れ、更に東行して建禮門前を過ぎ、大宮御所の北に沿うて清和院御門を出で、河原町通を北に、出町から葵橋を渡り、劍先から北行して本社に到着するのである。この行列を拜するには葵橋の袂或は磧が第一で、京都御所前或は賀茂川堤から拜するのもよい。

【京都植物園】 市電植物園前下車、大正の大典を記念するため京都府が設置したもので、大正十二年に開園した。正門內の面積は二、三〇〇アールあり、事務所、硝子室、官舍、記念館、書庫、閱覽室、溫室等がある。正門外に坪數三三アールの運動場がある。

★【賀茂別雷神社】〔官幣大社〕 市電植物園前、市バス上賀茂御薗橋下車、上京區上賀茂にある。下賀茂神社に對して上賀茂神社と稱せられ、賀茂別雷神を祀る。延喜の制に於いて名神大社に列し、古來朝野の崇敬をあつめた神社で、下賀茂神社と共に桓武天皇の遷都後は王城の鎭護となり、歷代の崇敬厚く、度々御幸の事があつた。

社境は御生の翠巒を負ひ、前に奈良の小川の清流を帶び、遠く俗塵を離れて清澄崇高の氣に滿ちて居る。境內に入るには東西の二道があり、東から參拜する者は御手洗川を、西からする者は賀茂川を渡るのである。一の鳥居を北に進むと梅樹、櫻樹の並木が續き、二の鳥居の前、東側には往昔天皇行幸の時御拜をなし給うた所と云ふ御所屋(外幣殿)〔國寶〕がある。二の鳥居を入ると細殿(拜殿)、舞殿(橋殿)、土屋(到着殿)、樂舍、北神饌所(廳屋)等があり、何れも國寶で葵祭に用ゐられる建物である。御手洗川の河水は賀茂川から引いたもので、飛湍淙々聲を放つて奔流し、酒殿橋及び玉橋が架つて居る。この川を渡つて北進すると右に老松小祠を見て樓門の前に出る。門を入ると右に幣殿、忌子殿、左に高倉殿がある。本殿は中門から透廊を隔てゝ拜することが出來る。本殿は權殿と竝び建ち共に三間社流



造、樣式全く御祖神社の本殿と同じで、文久三年の改築である。その他の社殿も御祖神社に等しく寛永年間の建築で、本殿以下各社殿は之に附屬する廻廊、樓門と共に悉く國寶である。

例祭は五月十五日で下賀茂神社と共に葵祭が執行される。この外毎年五月五日葵祭とは別に競馬が催される。古く宮中で行はれて居た衞府の騎射がこちらに移されて恒例の祭事となつたもので、賀茂の競馬と稱して名高い。神紋は下賀茂と同じ二葉葵。

【太田の澤のかきつばた發生地】〔指定天然記念物〕官幣大社賀茂別雷神社攝社太田神社境内、參道東側の低地にある長方形の小池に發生して居る。花色は濃紫、鮮紫のものが多い。藤原俊成の歌に「神山や太田の澤のかきつばたふかきたのみは色に見ゆらむ」とあり、昔時はこの邊一帶が太田の澤と稱する濕原で、その中にかきつばたの群落のあつたことが思はれ、現在の發生地はその濕原の一部の殘つたものと見るべきであらう。

【深泥池水生植物群落】〔指定天然記念物〕市電植物園前下車、東北へ約二粁、左京區上賀茂深泥池町にあり、自動車の便がある。池は美度呂池、または御菩薩池とも呼ばれ、古く泥濘池と記されて早くより正史に現れ、淳和天皇行幸あつて水禽を羅獵し給うたことがありその名が知られた。東西二一〇米、南北四四〇米、周囘一粁餘、面積約八〇〇アールを占め、南方のみ開け、その他は山で圍まれ、東側の中部から半島が突出して居る。水は最深處に於いて二米に過ぎないが、水底の泥土層は水面下深さ四米に達すると云ふ。池の中央から周邊に亙つて、一帶に浮島の如き處があるのは泥土層が殆ど水面に達せる部分で、水生植物が發生し、大小無數の島嶼をなし、水成植物群落の種類は四十六科、七十一屬、百十三種の多きに達し、島嶼の外部は低層沼野性の植物群落を以て被はれ、内部に進むに從つて、水蘚沼野性の植物群落を現出する。後者の中にはまうせんごけ、こもうせんごけ、みみかきぐさその他の肉食植物や、やちすぎらんの如き古昔に於ける寒生植物區系の今日に殘存するものがある。この池の水生植物群落は指定の天然記念物で、主な水生植物を擧げると、ふらすも、きんぎよも、ふざも、みかはたぬきもがあり、沈水植物にたぬきも、のたぬきも、ひめたぬきも、浮水植物にがゞぶた、ひつじぐさ、じゆんさい、むずをれぐさがあり、挺水植物に、まるばおもだか、さはぎきやう、さぎさう、ときさう、あぎなし、いぼくさ、かくゐ外十四種ある。なほ池邊の西岡には北白川廢寺の瓦を燒いた奈良朝以前の瓦窯址がある。

【白峰神宮】〔官幣大社〕市電堀川今出川下車、今出川通堀川東にあり、もと白峰宮と稱した。保元の亂後讃岐に遷され給うた崇德天皇と、僧道鏡、惠美押勝の爭ひに座して淡路に遷され給うた淳仁天皇を祀る。

明治天皇登極の初めに孝明天皇の御遺志を繼いで明治元年八月崇德天皇をこゝに奉祀され、更に明治六年淳仁天皇の神靈を合祀されて官幣中社に列せられたが昭和十五年八月白峰神宮と改稱の上官幣大社に列せられた。神紋は菊花、巴。例祭九月二十一日。

【瑞光院】〔臨濟宗〕市電堀川今出川下車、上京區堀川頭瑞光院前町にある。淺野長政の邸址に當り、義士塚を以て名高い。長政の後裔淺野長矩の夫人瑤泉院は當院第二世陽甫和尙と俗緣を有し、淺野家の武運長久祈願のため、毎年若干の供米を寄進した。元祿十四年三月長矩死を賜ふに及び、大石良雄等長矩の衣冠を院内に埋め、標石を建てゝ供養を行つた。翌年義擧があつた後、院主宗湫禪師良雄等の遺骨及び髻髮を當院に埋葬し、長矩の塔側に小塔四十六基を建設した。附近に淺野長祚の撰文にかゝる遺躅碑がある。毎年十二月十四日義士忌が修される。寺寶に義士に關するものが多い。境内に小野寺幸右衞門の墓がある。

【興聖寺】〔臨濟宗相國寺派〕市電今出川堀川下車、堀川通寺内上ル天神町にある。寺寶に絹本著色兜率天曼荼羅圖〔國寶〕一幅、紙本墨畫寒山拾得像〔齋白筆國寶〕がある。曼荼羅圖は竪六尺一分、横六尺九寸四分、絹五幅一鋪の大畫面に兜率天宮の有樣を圖繪したもので、描寫細密、截金の技巧精緻を極め、鎌倉時代の彌勒信仰に伴つて出來たものである。

【三時知恩寺】〔淨土宗〕市電今出川新町下車、新町通上立賣上にあり、古は入江御所と呼ばれ、攝家の息女が落飾して住持となつた。寺寶中の近衞豫樂院家凞像〔國寶〕には百拙の贊があり、またこれに附屬する家凞自筆の阿彌陀經一巻を藏して居る。

【地藏立像板碑】知恩寺の塔頭了蓮寺にある。高さ六尺八寸、幅二尺四寸五分、厚さ四寸の綠泥片岩で、中央の面取中に來迎の阿彌陀如來像を陰刻してある。本市に三基より存しない珍しい板碑の一つで、室町時代の作である。

【妙覺寺】〔日蓮宗〕市電今出川新町下車、新町通鞍馬口にある。具足山と號し、永和四年日實創立、今の祖師堂、客殿以下は享和以後建築されたものが多い。境內に狩野元信以下數代の墳塋が並んで居る。

【妙顯寺】〔日蓮宗〕市電今出川新町下車、小川頭、妙顯寺前町にある。日像の創建で日蓮聖人の持佛黄金釋迦佛を本尊として居る。同宗重要の巨刹で諸堂宇備はり、またその境內に尾形光琳の墓がある。

【本法寺】〔日蓮宗〕妙顯寺の西隣にあり、永享八年日親の創立である。現堂宇は寛政九年の再建であるが、方丈の林泉は本阿彌光悦の作で世に三巴の庭と稱へ、築山泉石共に巴形をなし、園中に八橋の池がある。

寶物には左記のものがある。

一 蓮花圖〔國寶〕　二幅
　絹本著色　傳錢舜擧筆　東京帝室博物館出陳

一 群介圖〔國寶〕　一幅
　絹本著色　恩賜京都博物館出陳

一 中文珠左右寒山拾得像〔國寶〕　三幅
　紙本墨書　中は啓牧左右は啓孫の筆

【千家茶亭】本法寺の前にある。茶亭は二箇あつて、一は不審庵（千家表流）、一は今日庵（千家裏流）と云ひ、何れも千利休の系統から出て、茶道を以て聞え、茶亭は風流古雅であるから、茶家者流の範を取る所となつた。藪內內氏の下流に對してこれ等を上流と云ふのは、居所の上京、下京にあるに因るのである。

【寶慈院】〔臨濟宗相國寺派〕市電千本寺內下車、衣棚通寺ノ內上ル下木下町にある。寺寶の阿彌陀如來坐像〔國寶〕は寄木造、高さ九尺四寸の漆箔巨像で、鎌倉時代の製作であるが、形相、作風等に藤原時代の特色を遺して居る。

【堀川】北は一條戾橋から、南は上鳥羽に至り、賀茂川の支流天神川に合流する小川で、古來染物に利用される。上流は若狹川或は有栖川と云ひ、大宮一の井の尺八堀に發し、戾橋に至つて支流小川を容れる。堀川通はこの堀川に沿うて居る。この川は山城國の愛宕郡と葛野郡を界するものである。

【名和長年碑】市電大宮中立賣下車、大宮通一條下ルにあり、元弘忠臣戰歿の遺跡を表はし、碑面の書は三條實美の筆である。

【戾橋】市電堀川中立賣下車、一條通堀川に架してある。三善淸行が死んでその葬輿がこの橋を過ぎる時、その子の淨藏貴所が熊野から歸り來つてこゝで遭遇し、佛天に祈つて蘇生させたからこの名があると云ふ。渡邊綱がこの橋を渡る時鬼女に逢つた傳說はよく世に知られて居る。

【西陣織物館】市電今出川大宮下車、今出川通大宮東にある。御卽位大禮の記念事業として、西陣機業家が設立したもので、流行の新製品を陳列して西陣織物の紹介宣傳を行ひ、廣く內外の參考品を蒐集して、當業者竝に一般の參考に供し、西陣機業家と需要者との間に立つて仲介斡旋の勞を取つて居る。

【妙蓮寺】〔本門法華宗〕市電今出川大宮下車、寺ノ內大宮東入ルにある。日像上人の開基で本宗五大本山の一に數へられる。寺寶に紙本墨書伏見天皇宸翰法華經〔國寶〕八巻があり、紙背に後深草天皇宸翰御消息百七十一枚がある。

【般舟院（般舟三昧院）】〔天台宗〕市電千本今出川下車、今出川通千本東にあり、境內には嘉樂門院御陵、蒼玉院御陵その他內親王の御墓が多い。寶物に不動明王坐像〔國寶〕、阿彌陀如來坐像〔國寶〕があり、何れも木造である。

【大報恩寺（千本釋迦堂）】〔新義眞言宗〕市電乾隆校前下車、五辻六軒町西入溝前町にある。後堀河天皇の貞應

二年、義空上人の開基で、現存の本堂卽ち釋迦堂はその當時のものである。

本堂〔國寶〕貞應二年の建築で桁行五間、梁間六間、向拜一間、單層、屋根入母屋造、本瓦葺、周圍に廻緣を續らし、前面一間を開放し、內部は入側一間を化粧屋根裏とし、その他は格天井で、內陣柱には極彩色の裝飾がある。堂內には本尊釋迦如來立像〔國寶〕が安置されて居る。

この他にも鎌倉時代の誕生釋迦佛立像及び千手觀音立像〔國寶〕がある。

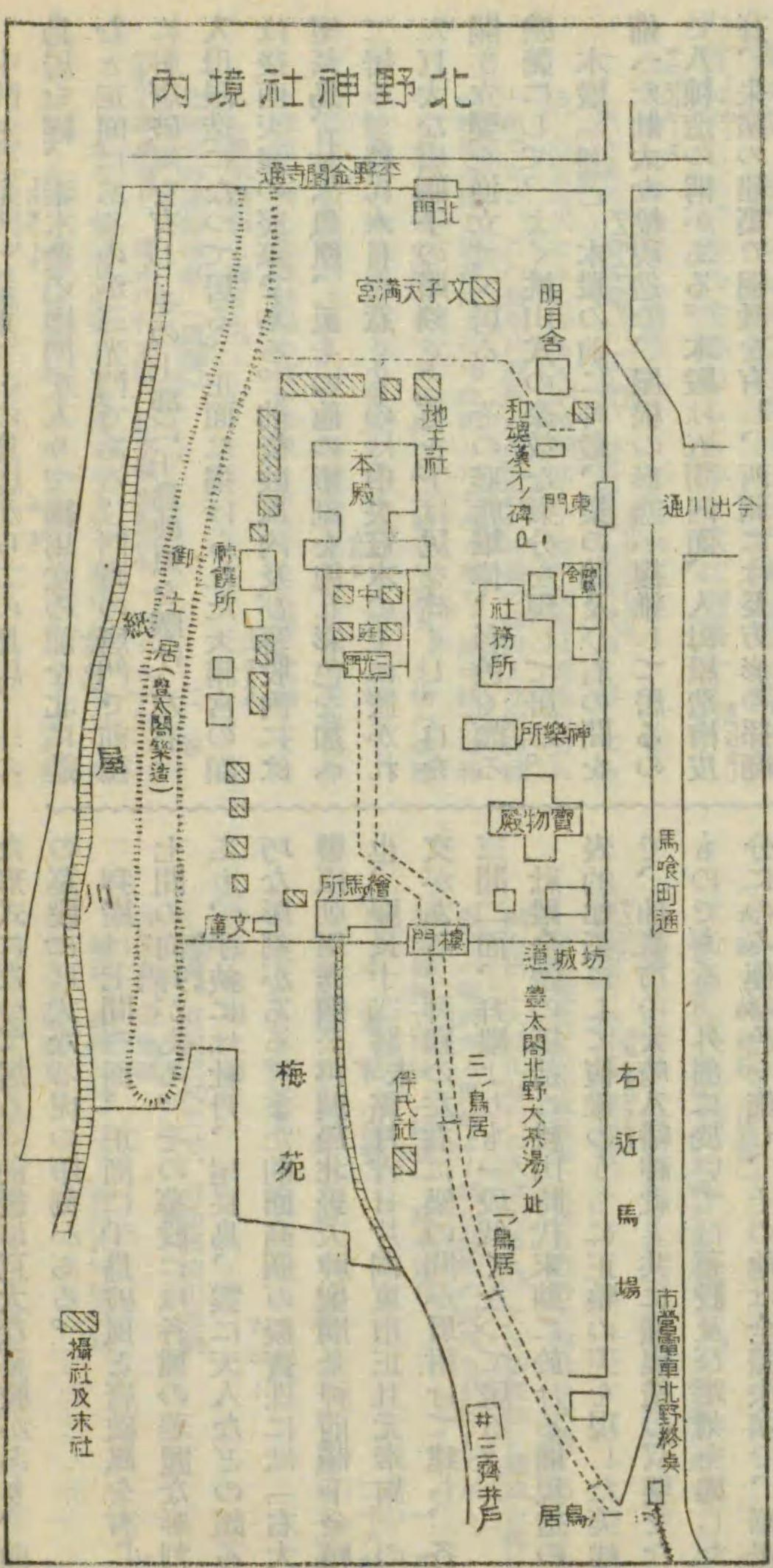
【石像寺】〔淨土宗〕 市電千本上立賣の北一〇〇米、千本通上立賣上ルにあり、俗に釘拔地藏と稱し、藤原定家や藤原家隆の居住した處と傳へる。當寺に阿彌陀三尊石佛、彌勒石佛あり、本市に存する石造美術中第一位に推される傑作である。中央の阿彌陀は佛身四尺、雄健な二重蓮華座の上に定印を結んで結跏趺坐し、尊容溫雅、衣紋また流麗である。右脇侍は觀音菩薩、左脇士は勢至菩薩、佛身各々四尺許り、觀音像の右に彌勒像があり、彌陀の背後に「元仁二年十二月云々」の銘がある。もと三尊院にあつたと傳へる。

【西方寺】〔天台宗眞盛派〕 市電北野神社前下車、今出川通七本松西入ル眞盛町にある。永正年中、盛久、盛春の兩尼中興して以來尼院となつてゐる。

寶物に絹本著色 觀經曼荼羅圖〔國寶〕一幅がある。

★【北野神社】〔官幣中社〕 市電北野神社前下車、菅原道眞を祀り、古くは天滿天神、天滿大自在威德天神、火雷天神の稱がある。道眞は學德識見一世に高く、宇多天皇の殊遇を得、右大臣に進みて天下の大事に當つたが、權臣の讒言奸策によつて太宰權帥に貶せられた。延喜三年二月道眞配所に客死して後、京師に雷火、地震等の災厄頻々として起つたため朝廷これを懼れて道眞の祟となし、道眞の本官を復して正二位を贈られた。村上天皇の天曆元年今の處に祠を營み、天德三年に至り右大臣藤原師輔更に神殿を修築し、寬弘元年に當社に行幸ありて後、歷朝行幸絕えず、永く文學の神として崇敬され、今尙我が國に於ける最も著名な神社の一に數へられて居る。神紋は梅鉢、三階松。例祭は八月四日。十月一日には渡御祭があり、同月四日の還御祭は俗に瑞饋祭と稱して大いに賑ふ。

現在の社殿は慶長十二年豐臣秀頼が片桐且元を普請奉行として新たに造營したもので、本殿、拜殿の外に中門、東門、廻廊、透塀、後門等を具備して居る。



中門（三光門）〔國寶〕　一の鳥居から二の鳥居、三の鳥居を經、素木造の樓門を入りて繪馬堂の前を北に進むと正面にあるのが三光門である。四脚の唐門で前後に軒唐破風を有し、その上部に千鳥破風を懸け、左右は入母屋造になつて居る。正面に掲げられた天滿宮の額は後西天皇の宸筆である。前後破風内及び蟇股内には尾長鳥、孔雀、鳳凰、兎その他の彫刻を施し彩色を加へて居る。特に人目を惹くものは中央冠木の上に置かれた巨大な唐獅子の彫刻で、首を下げ尻を高くし、口を開き立髮を逆立てゝ居る。その形態雄偉、彩色も頗る濃艷にして、よく桃山式の豪放な氣分を現して居る。

本殿〔國寶〕　本殿の前に拜殿、樂の間及び石の間を備へた壯大な權現造で、屋根の形態が複雜して居るので八棟造の稱がある。本殿は五間四面、入母屋造檜皮葺、朱塗の建築で廻緣を有し、西側には長方形の孫廂即ち脇殿がある。

石の間は五間一面、即ち幣殿で、本殿の拜殿より一段低く、本殿と拜殿を接續するもので、權現造の重要な形式になつて居る。前後に巨大な蟇股があり、前方の蟇股には大なる虎の彫刻がある。

拜殿は七間三面、正面に千鳥破風と唐破風を有し、七間の向拜がある。その蟇股には各種の華麗な彫刻があり、手挾には牡丹、尾長鳥、雲に天人などの頗る精巧な彫刻がある。また前面高欄の擬寶珠には「右大臣豐臣朝臣秀頼公再興於北野天神聖廟是神前欄干金帽子也、慶長十二暦丁未霜月吉日片桐東市正且元奉旃」の銘文がある。拜殿の左右に樂の間が取附けて建ち、各々三間二面、拜殿よりも一段低くなつて居る。

社殿全體の構造は桃山時代末期に於ける權現造の代表的建築にして複雜のうちに正整の美を現した美建築で、仙臺市の大崎八幡神社と共に權現造の双璧をなすものである。外部に於いては蟇股及び彫刻を施した部分にのみ極彩色を施し、その他は全體朱塗で、華麗な點では大崎八幡のそれに劣つて居るが、雄大な點では却つて勝つて居るのである。

廻廊、透塀、後門〔國寶〕　廻廊は切妻造檜皮葺で中門の左右に、透塀は本殿の周圍にある。また後門は本殿の後方中央透塀の中間にあり、何れも本殿と同時の建築である。

寶物殿　樓門を入つて右手にある。陳列品は時々陳列替をするが、その主要なるものを次に列擧する。

一北野天神緣起〔國寶〕　九　卷

紙本著色、繪は藤原信實、詞書は藤原良經筆と傳へてある。信實時代のものであるが確證なく、殊に詞書は數筆に分れ一筆でない。この繪卷は道眞の生涯並に死後の傳說と北野神社の起源を繪と詞書によつて說明したものである。繪は純大和繪のもので暢達の筆を以て自在に四國の情景を寫し、人物の姿態千變萬化の妙を盡し、その畫趣の豐富なことは殆ど比類なく、繪卷中有數の名品である。この繪卷が出來てからのち天神信仰の流布と共に天神緣起の作が多數となり、それ等と區別してこれを根本緣起と稱する。

一北野天神緣起繪卷〔國寶〕　二　卷

紙本著色、傳土佐行光筆、根本緣起に依つて作られた類本の一である。畫詞共に甚しい脫簡があるが、優雅な細筆を以て畫かれてある。鎌倉時代繪卷の中位に置かるべきもので、室町時代の行光の筆ではなからう。

一北野天神緣起〔國寶〕　三　卷

紙本著色、畫は土佐光信、詞書は三條西實隆の筆で本卷奧書に北野根本緣起が紛失したので文龜三年新に作つたとあるから、光信の確かな眞蹟として推賞せられる。

一北野天神緣起〔國寶〕　三　卷

紙本著色、畫は土佐光起の筆である。土佐派三筆の一人で、江戶時代の著名な畫家であつた。恩賜京都博物館へ出陳。

一雲龍圖六曲屛風〔國寶〕　一　雙

紙本墨書、海北友松筆、友松は狩野元信及び永德に學んで新機軸を出した桃山時代の大家である。この圖縱橫に墨線を揮ひ、雲龍の颯爽たる風趣よく桃山藝術の長所を發揮して居る。

一舞樂圖衝立障子〔國寶〕　絹本著色　一　基

一日本書紀〔國寶〕　二十八帖

紙本墨書、世に北野本と稱して名高く、また卜部兼永の所持したるにより兼永本とも云ふ。

一日本地圖大鏡　一　枚

銅製、直徑三尺二寸、傳加藤淸正奉納

一日本北邊地圖　一　枚

銅製、直徑三尺二寸、松浦武四郞奉納

一北野大茶湯高札　一　枚

木製、天正十五年十月豐臣秀吉が當社の境內右近馬場に於い

京都市及近郊

て大茶湯を催した時掲げたものである。

【御土居】〔指定史蹟〕 御土居は天正十九年豐臣秀吉が京都市衢整美に力を用ゐ、先づ前田玄以、細川幽齋に命じて周邊に土墻を築き、外側に濠を穿たしめ、以て皇城市區の守とし、兼て洛の內外を別つたもので、東は賀茂川に沿ひ、北は南賀茂紫竹大門町から紙屋川の東岸を南に下り、四ッ塚、東寺の邊から九條を經て賀茂川畔に出でて都城を圍繞したが、今多くは破壞せられ、主として北邊から西邊の部分が遺存して居る。西邊部の土壘は宏大で幅三〇米に及ぶ箇所あり、外側に往々濠池を伴ひ、その幅二〇米に及ぶものもある。御土居の最も舊態を見得べきものは、近衞天皇御火葬場から三條天皇御陵に至る途中の開の邊と南鷹峯の人家のある邊で、北野神社の西側にもその一部が見られる。

【椿寺】〔淨土宗〕 市電北野下車、上京區大將軍西町にあり、昆陽山地藏院と號する。本堂安置の阿彌陀如來は俊乘坊重源の將來と傳へられ、地藏堂安置の鍬形地藏尊は安產守護を以て名高い。境內の老木散椿は豐臣秀吉の愛樹であつたと云ふ。樹名は花瓣が一片づゝ散るから起つたと稱され、この椿を守護する椿大明神は痔疾患者の祈願するものが多い。當寺に赤穗義士のために盡力した天野屋利兵衞の墓がある。

【紙屋川】 中河谷に發し、南流して下鳥羽に至り、桂川に會する。往昔河畔に紙屋院があつて、紙を製して朝廷の用に供された。

【野寺址】 市電北野神社前下車、北野白梅町にある。延曆年中桓武天皇の創立せられた寺で常住寺と云ひ、京都七大寺の一であつた。遺址から奈良時代前期の瓦を出土するから、もと秦氏の寺址があり、それを利用されたものと考へられる。

【平野神社】〔官幣大社〕 市電平野神社前下車、平野宮本町北野神社の西北隣にある。延曆年間大和國から今の地に遷座されて以來、朝廷の崇敬厚く、屢々行幸あり、延喜の制に於いては名神大社に列せられ、古來著名な神社で、今木神、久度神、古開神及び比咩神が祀られて居る。

本殿〔國寶〕寬永年間の建築で、比翼春日造または平野造とも稱し、神社建築史上特殊の地位を有するものとして名高い。卽ち第一殿と第二殿とは一間社、春日造の兩宇相竝べて連結し、屋根は檜皮葺にして、左右兩棟の中間に橫棟を入れてH字形をなさしめて居る。第三殿と第四殿もまたこれと同一の形式である。

境內には櫻樹多く珍種に富み、古來平野の夜櫻と稱して名高く、每年四月十日に櫻祭が催され、東遊の奉奏がある。神紋は櫻花。例祭は四月二日。

★【金閣寺（鹿苑寺）】〔臨濟宗〕 市電金閣寺道下車、北へ約一粁半、金閣寺町にある。この地は鎌倉時代には西園寺公經の別莊のあつた所であるが、足利義滿がこれを讓り受け、應永年間大規模な山莊を經營して後小松天皇の臨幸を請うた。その當時は豪華な殿堂が十三棟あつたが義滿の死後遺命によつて寺としたのである。金閣は卽ちその唯一の遺構である。

金閣〔國寶〕 園內の池に臨んで建てられた樓閣である。元來は住宅と佛寺の折衷で、樓閣建築としては東山の銀閣と共に全く新意匠に成つたものである。閣は三層樓で、初層と第二層の間には屋根なく、腰に勾欄のみをめぐらして居る。その平面は長方形であるが、第三層は方形で、寶形造の屋根に露盤を置き、これに金銅の鳳凰を上げて居る。初層と第二層は和樣で寢殿造の式を取り入れ、蔀戸板唐戸を用ゐ、極く僅かに唐樣天竺樣を混じて居るに反し、第三層は粽附の柱、火頭窓を始め殆どすべて唐樣の手法を用ゐ、純然たる佛寺的色彩を帶びて居るのは頗る注意に値する。また初層と第二層は黑漆塗の上に極彩色を施し、上層は內外至る所漆地金箔を貼つて居る。

下層には足利義滿法體の坐像〔國寶〕がある。木造玉眼入、もと彩色のあつた室町時代の優秀な作である。

金閣をめぐる周圍の庭園は當時名手の意匠に成つたものらしく、衣笠山の山容を遠景に取り入れて泉石を配置した林泉美は海內の一名苑たるを失はず、今指定の名勝・史蹟になつて居る。

【船岡山】 紫野の西南にある。形狀が舟に類するので

この名がある。子の日の遊の行はれたこともあり、戰場となつたこともある。松樹蒼欝として茂り、山頂には建勳神社が建つて居る。

【建勳神社】〔別格官幣社〕 市電北大路船岡東道下車、紫野北船岡町にあり、織田信長を祀る。明治十三年船岡山腹に創建され、その後同四十三年に山頂に再建したのが現時の社殿である。境内高爽清澄の氣に滿ち、眺望がよい。神紋は窠。例祭七月一日。

【今宮神社】〔府社〕 市電北大路今宮神社前下車、紫野大宮頭にあり、大己貴神、事代主神、稻田姫神を祀つてある。例祭は十月九日。五月十五日今宮祭を行ひ、四月十日に夜須禮祭を行ふ、この祭は都の著名な祭禮として太秦の牛祭と共に世に知られて居る。なほ境内に天治二年の銘ある四面石佛があり、社寶に本邦最古の油繪とも云ふべき更紗の上にフランス船を描いた珍らしい軍艦圖がある。

【西向寺】〔淨土宗〕 市電今宮神社前の西北三〇〇米、上京區紫野蓮臺野町にあり、當寺の地藏菩薩板碑は京都市内に遺る最古のものである。石質は綠泥片岩で高さ五尺一寸、幅一尺九寸、厚さ二寸、やゝ形式的で生氣に乏しい。地藏菩薩像の上に火焰のついた寶珠ある天蓋を刻し、下方に「右意趣者爲一結衆三十五人之、一結集三十五人各敬白、明德二年三月廿八日、逆修善根現世安穩後世善所也」の刻銘がある。もと上賀茂の市バス終點なる窪寺跡に存したと云ふ。

【紫野】 大宮の北方、船岡山の東北に接する平地で、古來和歌の名所である。今は住宅地となつて家屋が多く建築されて居る。

★【大德寺】〔臨濟宗大德寺派大本山〕 市電大德寺前下車、紫野大德寺町にある。後醍醐天皇の御世、元應元年の創建と傳へ開山は大燈國師である。後次第に大を致し、室町時代には五山の上位に居り、屢々火災のために燒失したがその都度再建され、現今の諸堂は文明年間に一休和尚によつて復興され、寛文年間に完備したものである。禪宗建築の最もよく具備した洛北第一の大伽藍で、境内の中軸を南北に勅使門、三門、佛殿、法堂、庫裡の主要建築が竪一列に竝び、方丈は庫裡の東に接續して建つて居る。

勅使門〔國寶〕 天正十八年造營の皇居の南門を寛永十七年に賜つたもので、桃山時代の建築である。屋根は切妻造、檜皮葺で、前後に唐破風を附け、大なる割合に輕く見える。虹梁、肘木、懸魚等に當代一流の繪樣彫刻を施し、欄間に嵌めた松竹梅の丸彫、笈形の牡丹の彫刻などに自由奔放な刀法を用ゐて居る。この門の西に一石に多寶塔と地藏菩薩立像を刻した二面石が立つて居る。

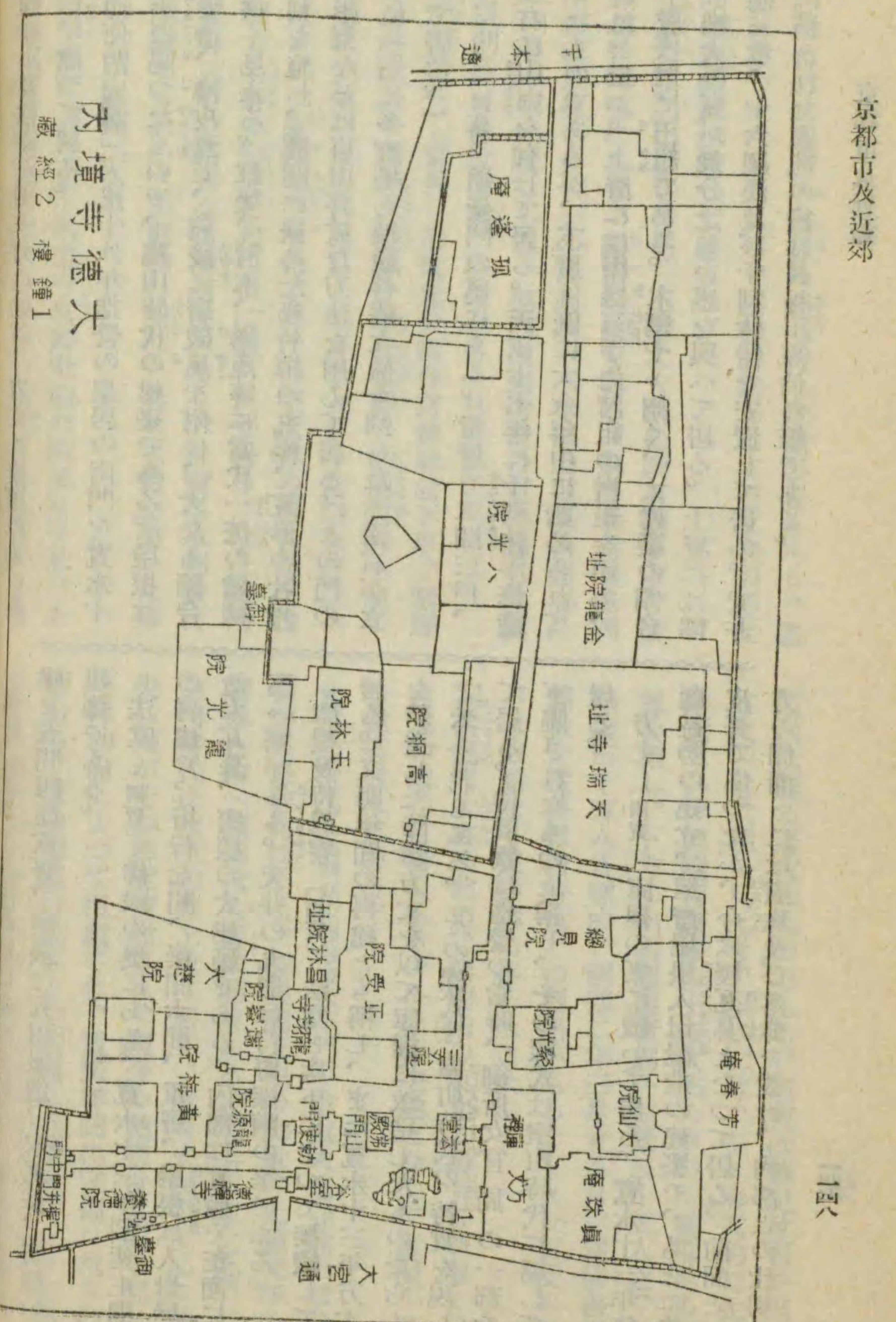
三門〔國寶〕 勅使門の奧にある。重層で五間三戶、左右に山廊を有して居る。天正十七年に千利休が修造したものであるが、下層は既に大永年中に始められて居たと云ふ。上層には唐樣三手先詰組の桝組を用ゐ、下層は單に出組である。木割やゝ細く、大建築の割合に雄大の氣が幾分乏しい感を與へて居る。上層には釋迦三尊、十六羅漢及び千利休像を安置して居ゐ。天井に描かれた雲龍の繪は長谷川等伯の筆である。

佛殿〔國寶〕 三門の奧に建つて居る。寛文五年の再建で五間四面重層、屋根は入母屋造、本瓦葺、唐樣の建築である。

法堂〔國寶〕 佛殿の奧にある。寛永十三年稻葉正則の再建で、桁行七間、梁間六間、重層、屋根は入母屋造本瓦葺、唐樣の大建築である。內部は瓦敷で正面に高い壇がある。天井の丸龍は狩野探幽の筆である。

庫裡及侍眞寮〔國寶〕 法堂と廊下によつて接續して居る。文明年間の再建とも稱し、また寛永十三年方丈を新造した時舊方丈を以て庫裡に改造したものならんと云ふ說もある。その樣式は室町時代の特質を現して居る。侍眞寮は造營の當時、御所女官局の一部を下賜されたものと稱し、その樣式は室町時代に屬して居る。

方丈〔國寶〕 庫裡の東に續いて居る。寛永十三年後藤益勝の建立、單層屋根入母屋造の建築で、もとは檜皮葺であつたが、今は棧瓦葺となつて居る。前面と一方の側面とには廣緣及び落緣を設け、內部との仕切に



は棧唐戸、舞良戸、明障子を立て、天井は竿緣天井、間仕切の襖には狩野探幽筆の四季山水の水墨畫が描かれて居る。前庭は小堀遠州の築造にかゝる名園〔指定史蹟・名勝〕で、遥に東山三十六峯の景を取り入れた所にこの庭の生命がある。

唐門〔國寶〕　聚樂第の遺構と傳ふる桃山時代の建築である。當山諸建築中特に注意を値するもので、勅使門と同様四脚切妻造であるが、前後の唐破風がずつと小さく、形もよく整ひ、妻と軒の反に力があり、當時の唐門中その形から云つて恐らくこれに及ぶものはあるまい。裝飾は甚だ自由であり、また豐富である。頭貫以上は隨所に彫刻を充たし、丸彫の獅子、松に孔雀、瀧に鯉魚などは、特に華麗な桃山式裝飾美を發揮して居る。

この外國寶に指定された建造物に浴室と經藏がある。浴室は元和八年の建築で、三門の東にあり、經藏は慶長十四年益田元祥の建立で、浴室の北にある。

寶物には左記のものがある。

一大燈國師像〔國寶〕　一幅

絹本著色、建武元年の自賛がある。大燈國師は大德寺の開山で鎌倉の末に當り、花園天皇、後醍醐天皇の御歸依厚かつた巨匠である。この肖像畫はその壽像で、大和繪風の筆致を以て頗る寫實的に描寫された本邦肖像畫の一名品である。

一大燈國師像〔國寶〕　一幅

絹本著色、これも同じく大和繪の手法を以て描いたもので國師在世中の壽像であらう。

一後醍醐天皇御像〔國寶〕　一幅

絹本著色、御在世中の眞影と思はれる。

一十王圖〔國寶〕　十幅

絹本著色、南宋十王圖の標本で、頗る濃厚な色彩が施されて居る。

一楊柳觀音像〔國寶〕　二幅

絹本著色、支那畫で、元末、明初頃の作品である。

一五百羅漢像〔國寶〕　八十二幅

絹本著色、林庭珪周季常等筆。この畫は畫中の記文によつて南宋の淳煕五年に明州惠安院の僧義紹の勸緣によつて同院に寄進されたものであることが知られる。かく製作の時と處の明かな羅漢畫の大作として最も珍重されて居る。八十二幅中二十幅づつ京都奈良兩博物館へ出陳。

一龍　虎　圖〔國寶〕絹本墨書　傳牧溪筆　一幅
一楊柳觀音像〔國寶〕絹本著色　一幅
一運庵和尙像〔國寶〕絹本著色、嘉定十一年自贊　一幅
一虛堂和尙像〔國寶〕絹本著色、咸淳改元自贊　一幅
一大應國師像〔國寶〕絹本著色、正應改元自贊　一幅
一養叟和尙像〔國寶〕　一幅
　紙本淡彩　文淸筆　享德元年九月養叟自贊
一楊岐和尙像〔國寶〕紙本淡彩　文淸筆　養叟贊　一幅
一後醍醐天皇宸翰〔國寶〕紙本墨書　元弘三年八月廿四日　一幅
一後醍醐天皇大燈國師御問答〔國寶〕紙本墨書　二幅
　左記寶物は恩賜京都博物館出陳
一中觀音左右猿鶴圖〔國寶〕絹本墨書　牧溪筆　三幅
一龍　虎　圖〔國寶〕絹本水墨　牧溪筆　二幅
一楊柳觀音像〔國寶〕絹本著色　一幅
一柏鷹蘆鷺圖〔國寶〕紙本墨畫　二直庵筆　六曲屛風　一雙

【黃梅院本堂】〔國寶〕　大德寺の塔頭で、天正十六年小早川隆景の造立にかゝり、その構造は普通の方丈造であるが、柱太く舟肘木の形も美はしく、莊重の趣を呈し、桃山初期を代表すべきこの種建築の佳作である。內部に於いて特に注意に値するものは、襖の貼付繪と彫刻である。卽ち正面の棧唐戶の底部格挾間內に入れた獅子、牡丹、桐等の彫刻は頗る優秀な作である。また襖の貼付繪は雲谷等顏の傑作で、山水圖、蘆雁圖及び竹林七賢の圖が襖三十四面に水墨を以て描かれて居る。等顏は雪舟第三世と稱し、いはゆる雲谷派を興した名家で、これ等の圖は何れも國寶に指定されて居る。本院に小早川隆景の墓がある。

【眞珠庵】　大德寺の塔頭で、大德寺方丈の北に隣接して居る。初め一休禪師の庵室であつたが、現存の通僊院及び方丈は寬永年間の建築である。また通僊院及び方丈の各庭園は史蹟・名勝に指定されて居る。庵中に珠光の墓がある。

通僊院〔國寶〕　書院造で、屋根は入母屋造杮葺、寬永十五年の建築である。その襖には水墨畫の山水圖があり、附設の茶室は淸楚な茶人趣味に富んで居る。

方丈〔國寶〕　桁行七間、梁間六間、單層、屋根は入母屋造杮葺で延德三年一休のために建てられたものを、寬永十五年後藤益勝によつて改築されたものである。

その襖には曾我蛇足の筆と傳ふる眞山水圖、花鳥圖、草山水圖が描かれ、また長谷川等伯の筆と傳ふる商山四皓圖、蜆子猪頭圖を描いたものがある。何れも水墨畫で一種氣高い品格を持ち、國寶に指定されて居る。寶物には左記のものがある。

一苦行釋迦像〔國寶〕　一幅
　紙本淡彩、康正二年に書いた一休和尙の贊があり、曾我蛇足の筆と稱する名畫である。
一白衣觀音像〔國寶〕　一幅
　紙本墨畫、室町時代禪林の好畫題であつた樹下岩上の白衣觀音を描いたもので、これに雲中湧出の韋駄天を書き添へて居る。尙この韋駄天を咏んだ春浦の贊に『出世何曾隔世間、美哉霧鬢與風鬟、應以韋駄身得度、三千刹界白花山』とあるのも面白い。
一百鬼夜行圖〔國寶〕紙本著色、傳土佐光信筆　一卷
一達　磨　像〔國寶〕　一幅
　紙本墨畫　牧溪筆　一休和尙贊
一臨濟和尙像〔國寶〕　一幅
　紙本淡彩　傳蛇足筆　一休和尙贊
一六祖大鑑禪師像〔國寶〕　一幅
　絹本著色　東頭供奉官陳就の落款がある。

一觀　音　像〔國寶〕　一幅
　絹本墨畫　正平七年二月十八日義亨贊
一山　水　圖〔國寶〕紙本墨畫　墨齋自贊　一幅
一竹石白鶴圖〔國寶〕紙本墨畫　傳狩野正信筆　一雙
　恩賜京都博物館出陳

【聚光院】　大德寺の塔頭で大德寺庫裡の西隣にある。方丈の襖繪〔國寶〕は狩野永德の筆と傳へて名高く、紙本に水墨を以て江山雪景、遊猿、竹虎、琴棋書畫圖などを描いて居る。その筆致濶達自在にして生氣に滿ちて居る。果して永德の眞筆であるかは疑問に屬するが、よく狩野家の純正な傳統を發揮せる傑作である。また庭上には千利休の墓と傳ふる優秀な石造多寶塔を存して居る。この寺の茶室は利休が自双した所と傳へる。

【總見院】　大德寺の塔頭で聚光院の西に接して居る。豐臣秀吉が織田信長のために造營したもので、境內には信長とその嫡子信忠及び次子信雄の墓があり、また北政所の墓もある。寺寶には牧溪筆と傳ふる紙本墨畫

芙蓉圖〔國寶〕がある。

【大仙院本堂】〔國寶〕大仙院は大德寺の塔頭で、眞珠庵の西北にある。寺傳によると永正六年六角近江守政頼の創立であると云ふ。室町時代に於ける方丈造の稀なる實例で、また當時の書院造の遺制を徵すべきものである。內部の壁と襖の貼付繪は元信と相阿彌の筆と傳へ、國寶に指定されて居るが、今は盡く幅に仕立て恩賜京都傳物館に出陳されて居る。

【大仙院書院庭園】〔指定史蹟・名勝〕相阿彌の作と傳へ、乾山水に屬し、その構築は專ら石を以てし、東圍の土塀によつて山容流水の趣致を現し、箱庭式狹細なるうちに大自然を彷彿せしめんとする工夫に特長を存する。

【龍光院】大德寺の塔頭で境內の西部にあり、慶長十一年黑田長政がその父如水の爲に建てたものである。本堂は國寶に指定せられ、構造手法共に優秀な建築で、書院造と廟堂建築とを混用せる如き形式を存して居る。所々征韓役の戰利品を應用して居るのが珍しい。本尊釋迦三尊像の外に黑田如水と同長政の木像が安置される居る。この外、書院、盤桓廊及び兜門も同時の建築で、何れも國寶である。境內に如水及び長政の墓がある。

寶物には左記のものがある。

一山　水　圖〔國寶〕絹本淡彩　傳馬遠筆　一幅
一十六羅漢像〔國寶〕絹本著色　十六幅
一栗、柿　圖〔國寶〕絹本墨畫　傳牧溪筆　二幅
一曜變天目茶碗〔國寶〕　一個
一油滴天目茶碗〔國寶〕津田宗及寄附　一個

【孤篷庵】大德寺の塔頭で境內の西端にある。當庵は慶長十七年小堀遠州が龍光院內に建てたのを、後にこの地に移して菩提寺としたのであるが、後寬政年間燒失し、間もなく松平不昧が再建したものである。本堂、忘筌、書院は何れも國寶でその平面頗る複雜である。所々後世の修補はあるが、床棚、書院などに施された意匠は、高逸にして數寄の妙味を發揮して居る。殊に忘筌と題する茶室の如きは獨特の形式を有し、斯道の

典型とされて居る。

【孤篷庵庭園】〔指定史蹟・名勝〕遠州苦心の計畫に成り、樹石の配置變化の妙を極め、その間に統一を保ち、よく閑寂の趣を藏して居る。庵の東南に小堀遠州の墓がある。

【大德寺の墓碑】大德寺には既揭の外、尙墓碑が多く、舊昌林院墓域に蒲生氏鄉墓、大光院に豐臣秀長墓、高桐院に細川忠興墓、玉林院に片桐勝元塔、三玄院に石田三成墓がある。

【大谷大學】市電下總町下車、小山上總町にある。本大學は東本願寺の經營に屬し、寬文五年筑紫觀世音寺の大學寮を京都枳殼邸に移し、初め單に學寮と稱し、東本願寺の常如法主の時こゝに建設した。

【神光院】〔眞言宗醍醐派〕市バス神光院前下車、または市電植物園前下車西北へ一粁、西賀茂にある。境內瀟洒幽邃であり世俗厄除大師と稱して空海自刻の肖像を本尊とする。京都三弘法の一で、三月二十一日の開帳には參詣者極めて多い。附近に西賀茂の瓦窯址があり、寺にその遺瓦を藏して居る。西賀茂の瓦窯は平安朝に於ける官窯の一で、平安宮址と同じ瓦を出土して居る。

寶物には左記のものがある。

一白描畫料紙金光明經卷第三〔國寶〕　一巻
建久三年四月書寫の跋あり。恩賜京都博物館出陳
一佛眼曼荼羅圖〔國寶〕　一幅
絹本著色、恩賜京都博物館出陳
一金剛般若波羅密經開題斷本〔國寶〕　一卷
紙本墨書、空海筆で著書の稿本である。尙この金剛經開題の一部は高松宮家その他に分藏されて居る。恩賜京都博物館出陳。

【正傳寺】〔臨濟宗南禪寺派〕市バス西賀茂鎭守庵前下車または市電植物園前下車西北へ一粁、西賀茂にある。當寺は、はじめ文永年間宋の兀庵普寧禪師が勅を奉じ今出川の邊に創建したものと傳へ、後弘安年中東巖宏覺禪師によつて今の地に移された。禪師がこゝで元寇を祈攘したことは國史上著名な事蹟である。その後文明年間兵燹にかゝり、今の本堂は桃山時代に出來たものである。

本堂〔國寶〕伏見桃山城の遺構で桁行三間、梁間四

間、單層入母屋柿葺の建築で、桃山時代書院造の形式を備へて居る。內部は中央左右の三區に別かれ、中央には佛間があり。各室仕切の襖には淡い金地に水墨を以て支那の風景を描いて居る。筆致構圖ともに雄大にして筆者を狩野山樂と傳へて居る。庭園を獅子の兒渡しと云ひ、白砂の上に巨岩を七五三に配置してある。

寶物には左記のものがある。

一兀庵和尚像　〔國寶〕　二幅
　絹本著色、內一幅は恩賜京都博物館出陳

一慧安東巖蒙古降伏祈禱文　〔國寶〕　一幅
　紙本墨書、文永七年五月二十六日。恩賜京都博物館出陳

一慧安東巖謚號勅書　〔國寶〕　一幅
　紙本墨書、應永二十年三月二十三日。恩賜京都博物館出陳

【鐘打山（船山）】　市電大德寺前下車、西北へ約五粁、西賀茂、正傳寺後方西北の山である。往時この山に妙見堂があつて、毎年七月十六日精靈會の送り火として、船の形に點火し、同時に鐘を敲いて念佛を修唱したものである。點火は現今如意の大字、松崎の妙法と同じく、八月十六日に行ひ、艫から舳まで八十丈、船底から檣梢まで四十三丈あつて、世に舟の火と稱される。

【光悅寺】〔日蓮宗〕　市バス鷹ヶ峯下車または市電千本北大路下車北へ二粁、鷹ヶ峯光悅町にある。元和元年に本阿彌光悅が幕府からこゝに池を賜つて大虚庵と稱する草庵を結び、寬永年間に法華題目堂を建てゝ本法寺の日慈を開山とした。後光悅會によつて維持擴張された。境內に林道春の書いた鷹ヶ峯記碑、深草元政の撰した太虛庵記碑及び光悅の墓がある。

二、東山方面（賀茂川以東）

【三十三間堂（蓮華王院）】〔國寶〕　市電七條大和大路下車、東山區建仁寺通七條南にあり、妙法院に屬して居る。この地はもと後白河法皇の御所であつたと傳へられるが、法皇は佛敎に歸依し給ひ、長寬三年平重盛に勅して佛堂を建て、觀音像一千一軀及び二十八部衆を安置せしめられたのが本院の起原である。その後建長元年火災に罹り、今の三十三間堂は文永二年に再建されたものである。柱間は三十五あるが、三十三間と云ふのは內陣の柱間から來て居るのである。奧行は五面、單層入母屋造、本瓦葺、屋根低く、軒深く、入母屋が比較的奧へ引つ込み、正面頗る長大で、側面から見た恰好は中々美事である。手法はよく和樣の傳統を承け繼ぎ、內陳天井虹梁枡組などに殘る極彩色のあとには、鎌倉時代を偲ばしむるものが多い。

堂內は中央を佛壇とし、南北に千體觀音像を安置して居る。本尊千手千眼觀音坐像及び二十八部衆の立像は、建長三年後深草天皇の勅を奉じて、大佛師湛慶、少佛師康圓、康清等が作つたもので、國寶に指定されて居る。本尊千手千眼觀音像は高さ十一尺餘の巨像で、十重の臺座に趺坐し、肢體の配置均衡よき佳作である。二十八部衆は鎌倉中期の代表作であるが、今その中の優れたものを選んで恩賜京都博物館に出陳されて居る。

三十三間堂の後に行はれた大矢數と云ふ射式は昔から有名であつた。慶長四年に吉田五左衞門が千射をしたのが大矢數の始めで、それ以來武術の一典となつた。これは六十六間に達した通矢を檢べてその拔群者に檢證を出すのである。

蓮華王院の南大門も國寶で、創建は鎌倉時代にあるが、今のは豐臣秀吉が改築したもので、八脚門、切妻造本瓦葺の雄大な桃山時代の建築である。またその土塀は一種の油壁で、姬路城、法隆寺南大門の土塀、熱田神宮の信長塀と共に有名であり、古くから太閤塀と呼んで居る。

【養源院】〔天台宗〕　市電七條大和大路下車、三十三間堂の前にある。當院はもと豐臣秀吉の側室、淀君がその父淺井長政（法名養源院）の追福のために建てたが、後火災に罹り、元和七年淀君の妹にあたる德川秀忠の夫人崇源院が伏見桃山城の舊材を用ゐて再建したものと傳へ、その天井を血天井と稱して名高い。庭園もまた見るべく、ことにその一文字の手洗鉢は有名である。

襖及杉戶繪〔國寶〕　この繪は夙に野村宗達の筆と稱して著名である。今傳ふる所は襖八枚、杉戶四枚であるが、襖の松に岩を添へた構圖にも彼一流の特色があ

り、杉戸の獅子、象、犀の圖樣も奇拔で、彩色は何れも豐潤にして一見宗達の筆と頷かるゝものである。今その獅子の構圖を見るに、一は首を下げ口を閉ぢて逆立ち、他は首をもたげて口を開き、互に阿吽の約束を守つて居る。色彩に於いては一を金色、他を黑色となし、構圖彩色の對稱に獨特の妙技を振つて居る。體軀四肢を描くには彼得意の筆法を用ゐて極度に軟化し、これに極度の跳躍を與へ、且つこれを全幅に放大して更に餘白を遺さず、飽くまで奮迅の勢を逞くせしめた如きに至つては、誠に比類を絶する作である。宗達は慶長より寛永にかけて盛に技を揮ひ、漸く衰へんとする障屛裝飾畫の方面に新境土を開拓した大家で、この畫の如き卽ちよくその面目を窺ふべきものである。

【大興德院】〔天台宗〕市電七條大和大路下車、大和大路東入ルにあり、親鸞上人蕎麥喰木像を本尊とする。境內の義士堂に赤穗四十七義士の木像が安置されて居る。

【新熊野神社の樟】〔指定天然記念物〕市電今熊野下車、東山區今熊野椥の森町にある新熊野神社社務所の前庭玉垣の際にある。神社は永曆元年十月後白河天皇の御願によつて建立せられ、熊野から御神體を勸請して奉安したところで、天皇の御崇敬深く御參籠も百五十回を超えさせられたと云ふ。樟は當社創建の際に熊野より移植せるものと傳へ、樹高六十二尺、樹圍二十尺に達する老樹である。

【今熊野觀音】市電今熊野下車、東山區今熊野町にある。眞言宗に屬し、西國三十三番札所第十五番で、本尊は十一面觀音、脇士は不動明王、毘沙門天である。

★【恩賜京都博物館】〔一月五日より十二月二十五日迄每日開館〕市電七條大和大路下車、三十三間堂の北隣にある。この博物館は社寺その他の什寶にして歷史、美術、美術工藝の參考となるべきものを受託して一般に觀覽せしむるため我が帝室に於いて設立されたもので、明治三十年五月開館京都帝室博物館と稱して居たが、大正十三年一月二十六日、皇太子殿下御成婚に際し、宮內省より京都市に下賜され、同年二月より恩賜京都博物館と改稱せられた。陳列館の總坪數は九百餘坪を有し、十七室に別れて居る。その陳列品は左記の三部に分れ、各部の陳列は更に種類によつて次の如く分類されて居る。

歷史部　圖書、古代遺品、祭祀宗教に關する物品、武器、禮式風俗に關する物品、貨幣、度量衡、信印

美術部　繪畫、書蹟、彫刻、建築

美術工藝部　金屬品、窯製品、抹漆品、織繡品、玉石甲角竹木品、紙革品、寫眞並圖繪

陳列法は大體この分類に從つて陳列されて居る。

第八室　入口が裏にあるのでこの室が最初の室になつて居る。この室には甲冑、刀劍類が陳列され、その陳列品中嚴島神社出陳の大鎧一領〔國寶〕、八坂神社出陳の山形造太刀三口〔國寶〕、盛光作大薙刀〔國寶〕など特に注目すべきものがある。

第六室　第八室から右手に向つて進むと特別觀覽室となつて居る第七室を經て達する。この室には各時代の歷史的遺物、茶器、樂器その他禮式風俗に關するものが陳列されて居るが、その中特に注意すべきものを左に列記する。

一小野毛人朝臣墓誌〔國寶〕　京都市　崇道神社出陳　一枚

金銅製、慶長十八年京都市上高野の小野毛人墓より發掘、丁丑年の銘文がある。丁丑は白鳳六年に當り昭和十六年を距ると千二百六十五年前で毛人は小野妹子の男である。

一吉備眞備母骨壺　一口

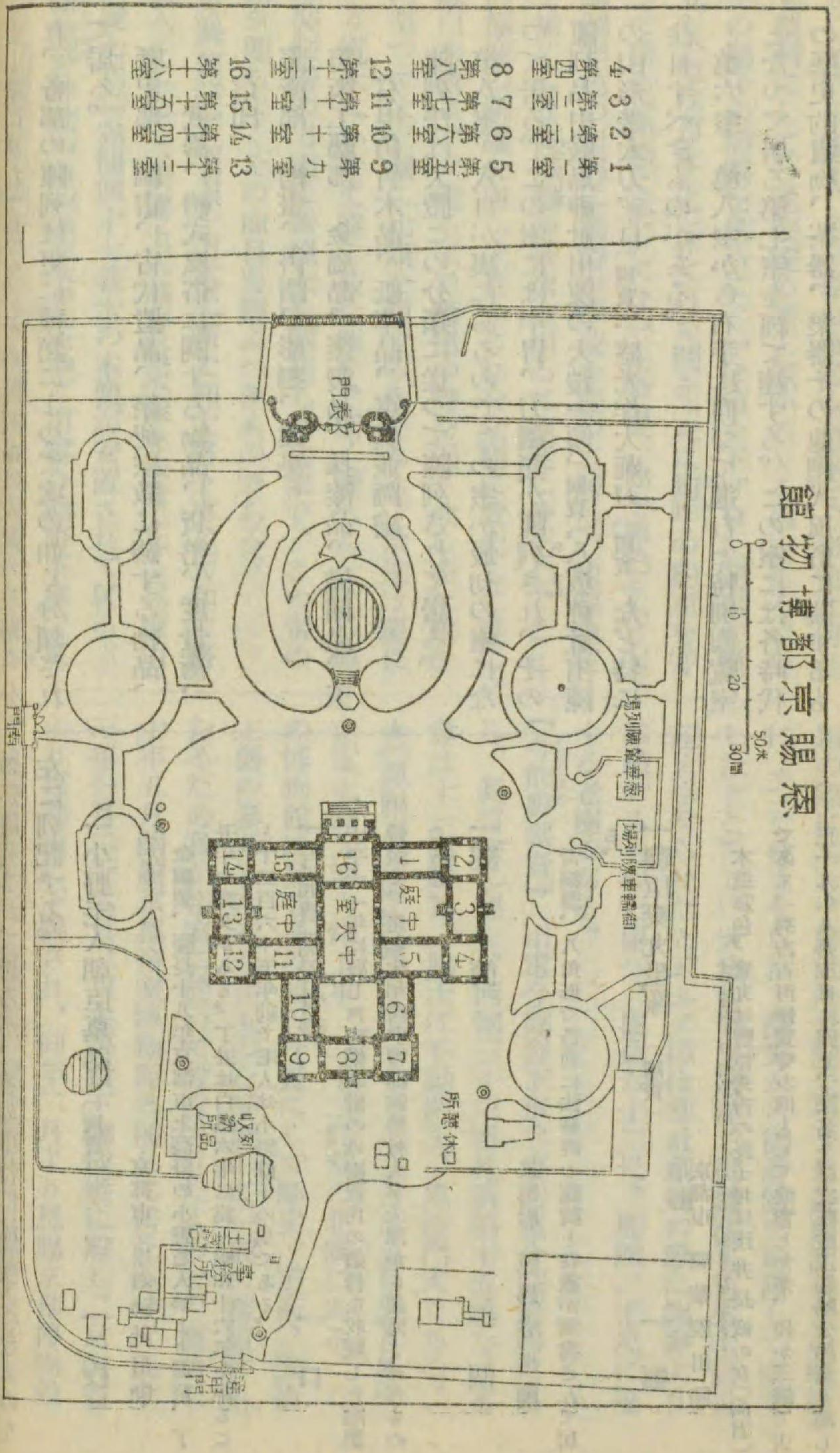
天平十一年に歿した吉備眞備の母楊貴氏の遺骨を收藏した陶製骨壺で、先年大和國宇智郡牧野村大字大澤から發見されたものである。

一經　筒　京都府　鞍馬寺出陳　一個

靑銅製、八角形で各面に法華經の題號と卷數が刻書されて居る。

一豐臣棄丸坐像〔國寶〕　京都市　隣華院出陳　一軀

木造彩色。棄丸は豐臣秀吉の長子母は淺井長政の女（淀君）である。秀吉石河伊賀守を傅として愛育したが、僅か三歲で天正十九年八月五日に歿し、法名を祥雲院殿玉巖麟公神童と稱し



た。

一玩　具　船　〔國寶〕　京都市　玉鳳院出陳　一　個

木造彩色、棄丸所用と傳へ、殿中傅育の具に用ゐしものと云ふ。この他、棄丸所用と傳へる小形の武具と倶利迦羅守刀があり、これ等も國寶になつて居る。

第五室　この室には裝束、舞樂に關する遺物神像類が陳列されて居る。神像中松尾神社出陳の男神坐像二軀〔國寶〕、女神坐像一軀〔國寶〕は何れも木造、平安時代の代表的神像である。

第四室　この室には優秀な蒔繪漆器類が陳列されて居る。

一唐草蒔繪經箱　〔國寶〕　平安時代　滋賀縣　延曆寺出陳　一　合

一一切經唐櫃中蓋及小箱　〔國寶〕　名古屋市　七寺出陳　二　個

一說　相　箱　〔國寶〕　京都市　誓願寺出陳　一　個

中蓋に釋迦十六善神の漆繪あり。藤原時代。

螺鈿模樣及び金銅製龍の居文がある。鎌倉時代。

一蒔繪調度類　〔國寶〕　京都市　高臺寺出陳　十四種

秀吉の夫人淺野氏（高臺院）が慶長十年高臺寺を建立した時に新調されたもので、その種類には椅子、歌書簞笥、手文庫、藥味壺、刀掛、掛盤、飯器椀、銚子、湯桶、天目臺、手拭掛、枕提灯などがある。その蒔繪は所謂高臺寺蒔繪の代表的なもので平蒔繪に屬して居る。特に臈部の如きは全體が厚金梨子地で湖畔の景を圖し桐の紋所を散らした豪華なものである。

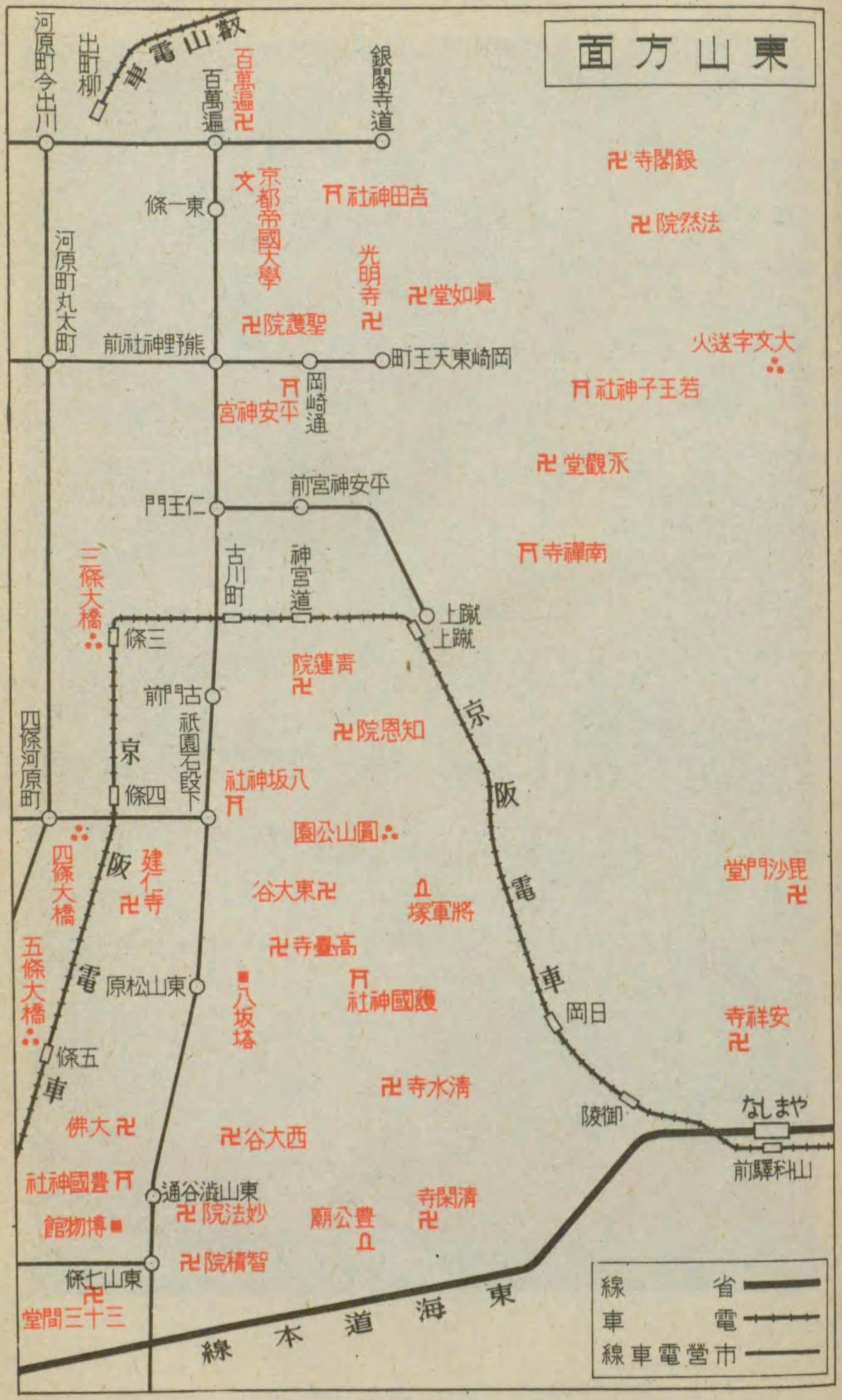
一堆　朱　盆　〔國寶〕　京都市　龍翔寺出陳　一　枚

背面に「張成造」の彫銘がある。模樣は椿と二羽の尾長鳥を巧みに圓形中に收めたもので遒勁な刀法と相俟つて、高雅な趣致に富み江州來迎寺の同銘の香盆と共に我が國に存する堆朱器の尤物である。

一堆　朱　盆　〔國寶〕　京都市　大仙院出陳　一　枚

表面に牡丹、木芙蓉に雌雄の孔雀を配した圖を彫り、これにも底に「張成造」の針書がある。

第三室　この室には各地の陶磁器が陳列されて居



る。その主なる種類には樂燒、仁清、永樂、木米、道八、九谷燒等があり、左の諸品は特に注目すべきものである。

一青磁鳳凰耳花瓶〔國寶〕　　一個
京都市　毘沙門堂出陳

銘、萬聲、この花瓶は我が國では昔からいはゆる天下一品として許されてきたもので、實に砧手青磁の代表的名器である。

一色繪蓮華式香爐〔國寶〕　　一個
京都市　法金剛院出陳

香爐全體の形は荷葉蓮華に基いて作られて居る。蓋の荷葉は青く、身の蓮華は赤地に金條を入れ青い緣がとつてあり、逆蓮形の臺は青地に赤い緣をとつて金線で輪寶と唐草を描いて居る。全體の形態色調精妙絢爛にしてよく陶器の本質を發揮せる日本趣味の豐かな作品である。

一油滴及曜變天目茶碗〔國寶〕　　二個
京都市　龍光院出陳

第二室　この室には金屬品染織物が陳列されて居るが、左の諸品は特に注目すべきものである。

一獅子唐草毛彫鉢〔國寶〕　　一個
岐阜縣　護國之寺出陳

金銅製、圓鐵鉢形で外面には魚子地に花を挾んで飛び狂ふ獅子の模樣が流麗な毛彫で現はされて居る。支那の唐朝或は我が奈良朝の製作と見るべき傑作である。

一金銅琵琶〔國寶〕　　一面
和歌山縣　丹生都比賣神社出陳

金銅槽に銅線の弦を張り、桿撥に竹に虎の圖を高彫した極小形のもので實用品ではない。神社へ奉納するために作られたもので平政子奉納と傳へて居るが、それよりも後のもので鎌倉末期に屬する。

一鸞獸蒲萄鑑〔國寶〕　　一面
愛媛縣　大山祇神社出陳

青銅製、徑八寸八分、模樣頗る精緻にして唐時代の作である。

一金　鼓〔國寶〕　　一口
京都市　知恩寺出陳

至治二年十月十六日造成の銘がある。

第一室　この室には國寶の佛像彫刻類が三十餘軀陳列されて居る。

一二十八部衆立像〔國寶〕　　八軀